

令和7年度  
佐久市男女共同参画社会に関する  
市民意識調査報告書

令和8年3月  
佐久市



# 目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査対象	1
3 調査期間	1
4 調査方法	1
5 回収状況	1
6 調査結果の表示方法	1
7 回答者の属性	2
8 その他	5
II 調査結果	6
1 用語や制度などについて	6
2 世の中の男女平等感について	25
3 性別役割分担意識について	41
4 地域社会における活動について	48
5 政策・方針決定について	55
6 防災・災害復興について	58
7 ワーク・ライフ・バランスについて	66
8 ハラスメント・様々な暴力への対策について	75
9 困難な問題を抱える女性への支援について	81
10 男女共同参画社会の実現について	89
その他記述回答	94
III 調査様式	106



# I 調査の概要

## 1 調査の目的

男女共同参画社会に関する意識や現状を把握し、「第5次佐久市男女共同参画プラン」を策定する基礎資料にするとともに、今後の男女共同参画施策の推進に活かしていくため、市民意識調査を実施するものである。

## 2 調査対象

佐久市居住の18歳以上の男女1,000人を層化無作為抽出

## 3 調査期間

令和7年11月1日から令和7年11月30日

## 4 調査方法

郵送による配布、郵送・インターネットによる回収

## 5 回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
1,000 通	565 通	56.5%

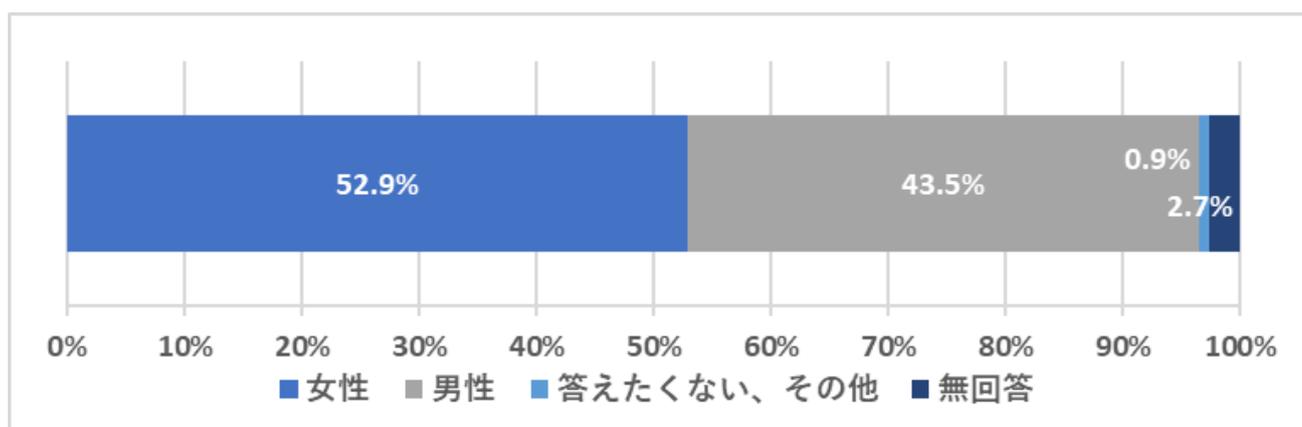
## 6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示す。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・複数回答の設問の場合、選択項目が回答対象者数に対してどのくらいの比率かを示すため、比率の合計が100.0%を超える場合がある。

## 7 回答者の属性

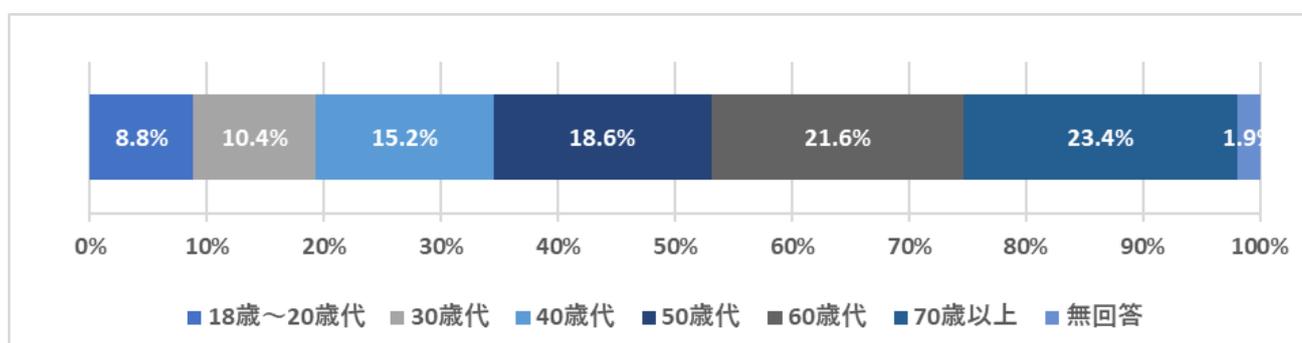
### 【性別】

	女性	男性	答えたくない、 その他	無回答	全体
回答者数(人)	299	246	5	15	565
割合	52.9%	43.5%	0.9%	2.7%	100.0%



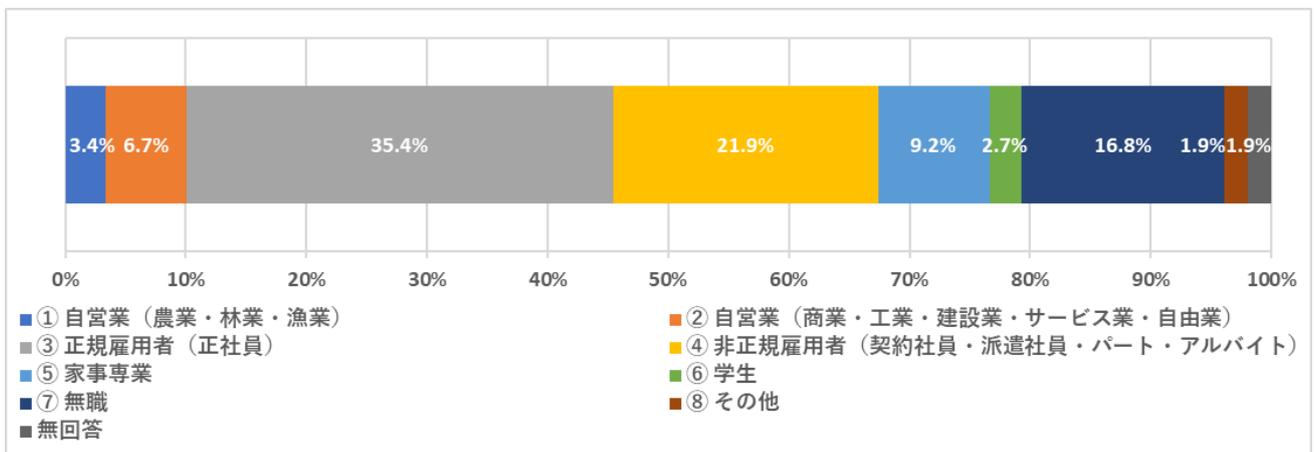
### 【年代】

	18歳～20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	全体
回答者数(人)	50	59	86	105	122	132	11	565
割合	8.8%	10.4%	15.2%	18.6%	21.6%	23.4%	1.9%	100.0%



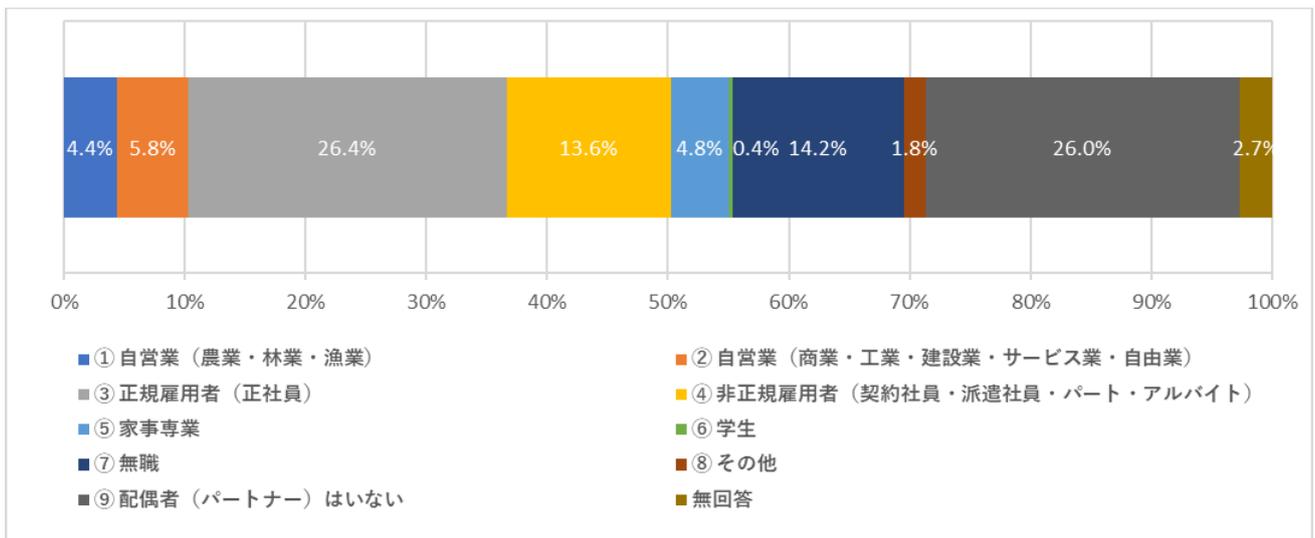
【回答者の職業】

	回答者数	割合
① 自営業(農業・林業・漁業)	19	3.4%
② 自営業(商業・工業・建設業・サービス業・自由業)	38	6.7%
③ 正規雇用者(正社員)	200	35.4%
④ 非正規雇用者(契約社員・派遣社員・パート・アルバイト)	124	21.9%
⑤ 家事専業	52	9.2%
⑥ 学生	15	2.7%
⑦ 無職	95	16.8%
⑧ その他	11	1.9%
無回答	11	1.9%
<b>総計</b>	<b>565</b>	<b>100.0%</b>



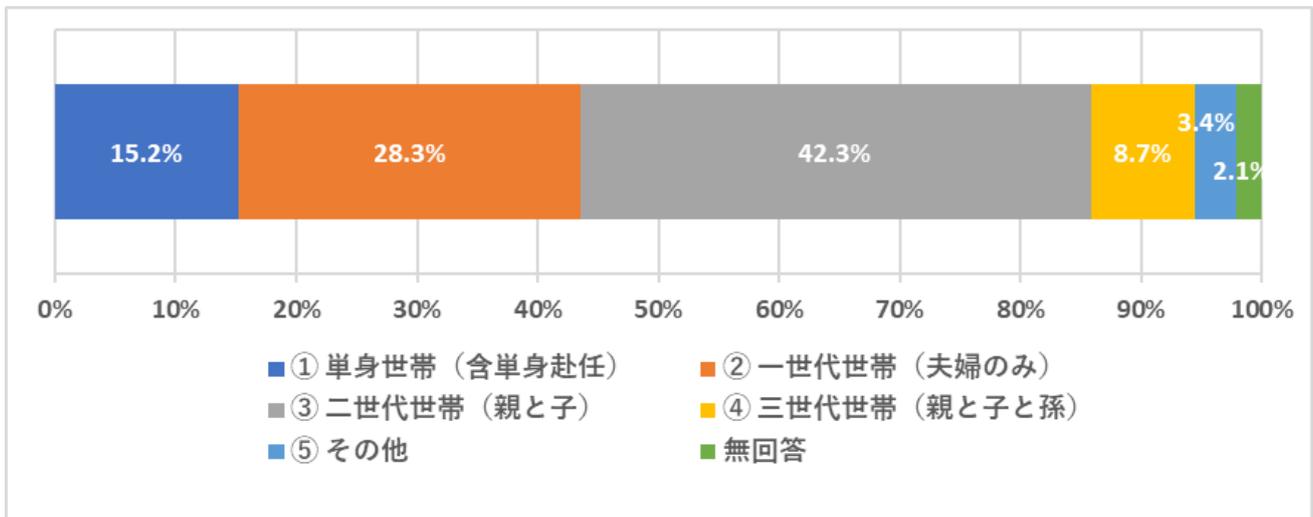
【配偶者の職業】

	回答者数	割合
① 自営業(農業・林業・漁業)	25	4.4%
② 自営業(商業・工業・建設業・サービス業・自由業)	33	5.8%
③ 正規雇用者(正社員)	149	26.4%
④ 非正規雇用者(契約社員・派遣社員・パート・アルバイト)	77	13.6%
⑤ 家事専業	27	4.8%
⑥ 学生	2	0.4%
⑦ 無職	80	14.2%
⑧ その他	10	1.8%
⑨ 配偶者(パートナー)はいない	147	26.0%
無回答	15	2.7%
<b>総計</b>	<b>565</b>	<b>100.0%</b>



## 【回答者の家族構成】

	回答者数	割合
① 単身世帯(含単身赴任)	86	15.2%
② 一世代世帯(夫婦のみ)	160	28.3%
③ 二世帯世帯(親と子)	239	42.3%
④ 三世帯世帯(親と子と孫)	49	8.7%
⑤ その他	19	3.4%
無回答	12	2.1%
<b>総計</b>	<b>565</b>	<b>100.0%</b>



## 8 その他

[本報告書で結果を引用した調査]

<佐久市調査>

令和2年度調査 (令和2年11月実施 対象18歳以上1,000人 有効回収61.9%)

平成27年度調査 (平成27年11月実施 対象18歳以上1,000人 有効回収64.0%)

平成22年度調査 (平成22年6・7月実施 対象20歳以上1,000人 有効回収40.0%)

<長野県調査>

「男女共同参画に関する県民意識調査」(以下「県調査」と略)

(令和6年8・9月実施 対象2,000人 有効回収47.1%)

<内閣府調査>

「男女共同参画社会に関する世論調査」(以下「内閣府調査」と略)

(令和6年9～11月実施 対象5,000人 有効回収53.5%)

(注)質問文言や選択肢が異なる場合があるので単純な比較は適当でない。

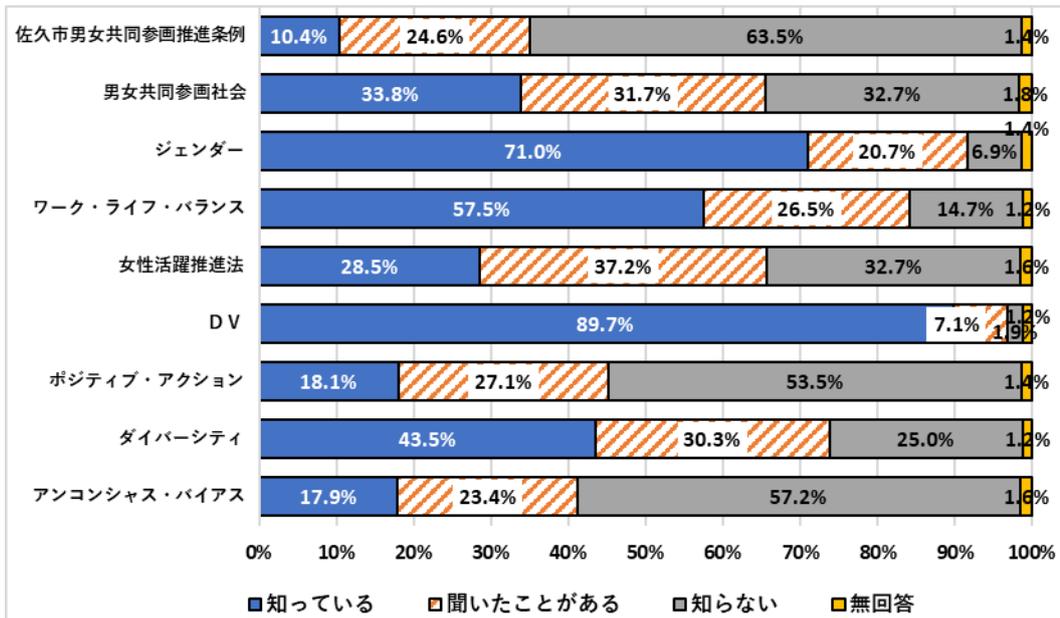
## Ⅱ 調査結果

### 1 用語や制度などについて

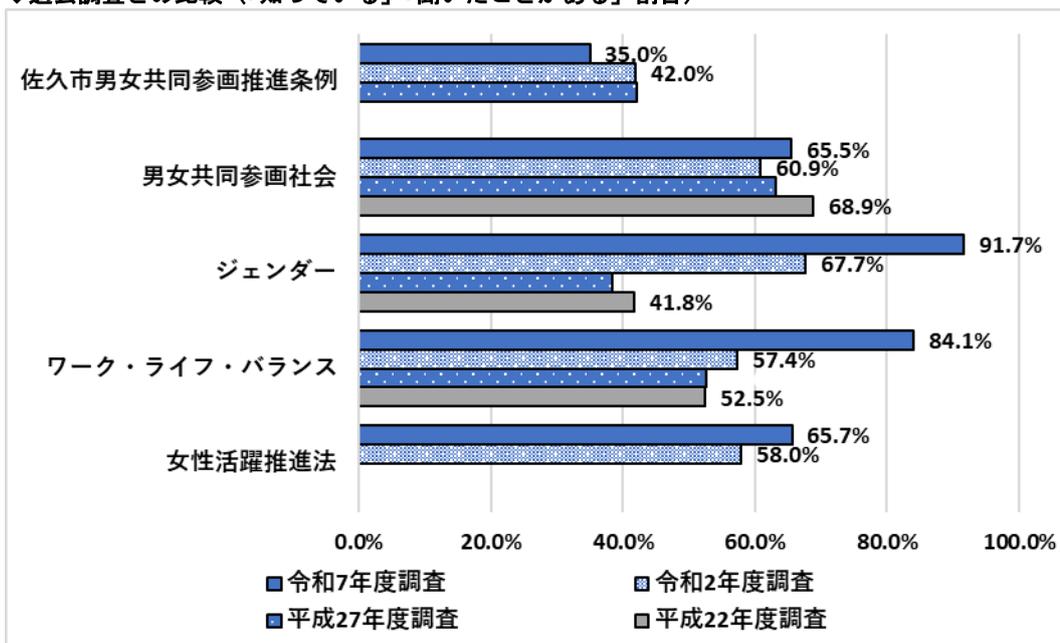
**男女共同参画に關することがらや言葉** 条例の制定、施行 「知っている」「聞いたことがある」35.0%

問1 次にあげる男女共同参画に關することがらや言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～Iそれぞれについて、お答えください。

●「知っている」または「聞いたことがある」割合は「DV」で96.8%、「ジェンダー」で91.7%、「ワーク・ライフ・バランス」で84.0%、「ダイバーシティ」は73.8%の順に続いている。



#### ◆過去調査との比較（「知っている」「聞いたことがある」割合）



問1 次にあげる男女共同参画に関することがらや言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～Iそれぞれについて、お答えください。

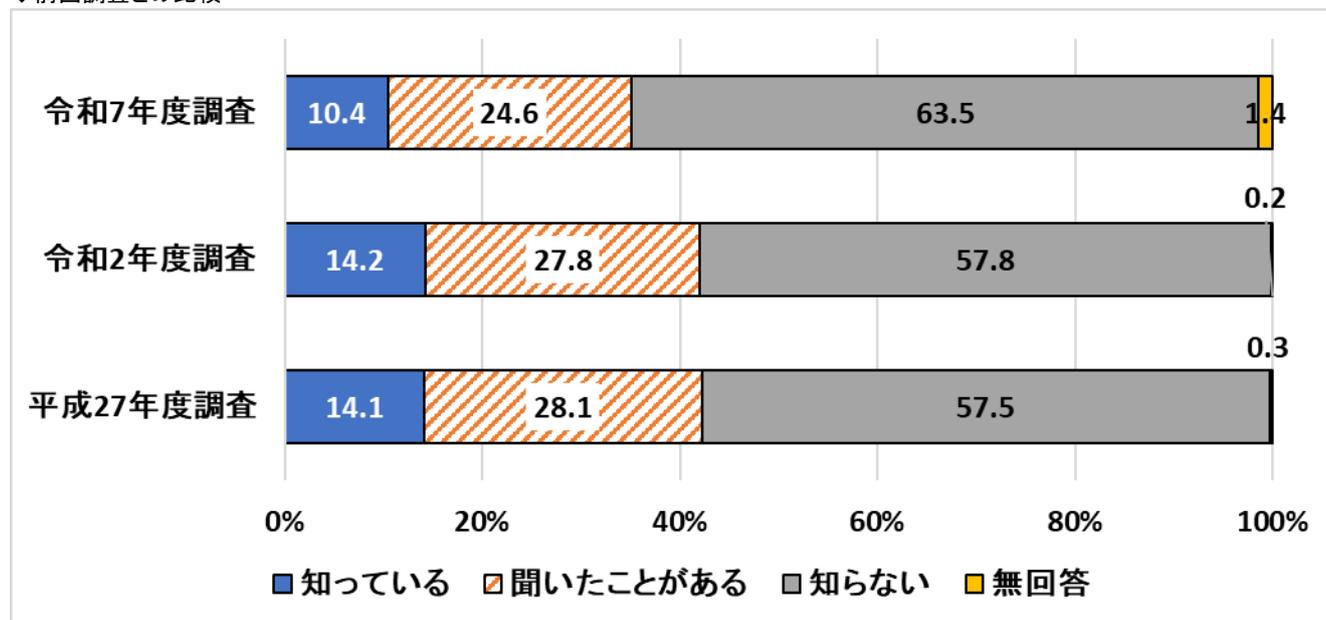
**A 佐久市では「佐久市男女共同参画推進条例」を制定し施行していることをご存知ですか。**

●「知っている」または「聞いたことがある」割合は 35.0%で、「知らない」が 63.5%と半数を超えた。前回調査より認知度は減少している。

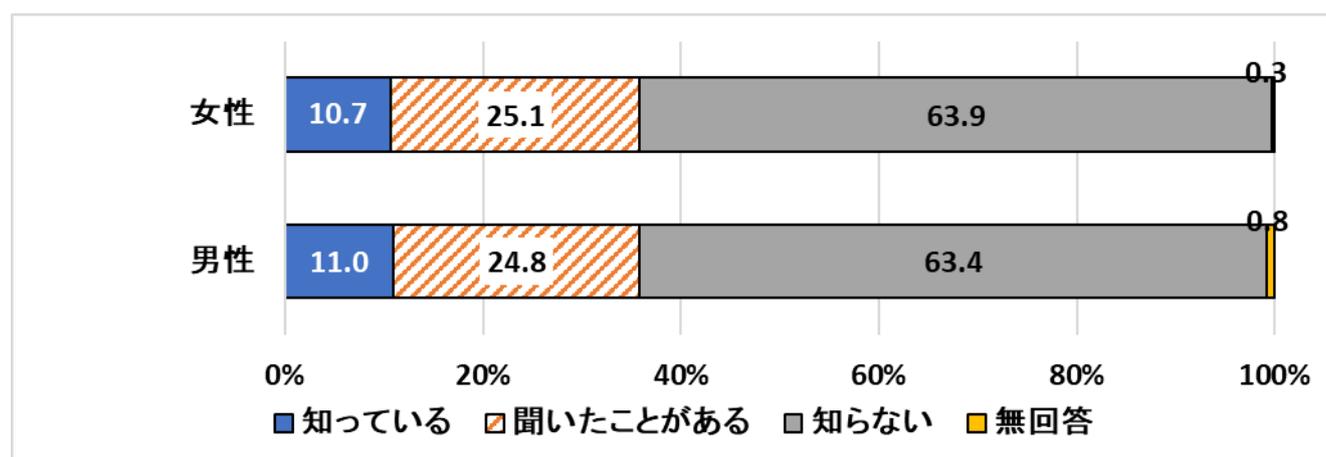
●性別では、男女とも「知らない」と回答した割合は 6 割を超えている。

●年代別では、30 歳代、40 歳代で「知らない」が 70%以上と高い一方、70 歳以上で「知っている」「聞いたことがある」と回答した割合は 51.5%と高めになっている。

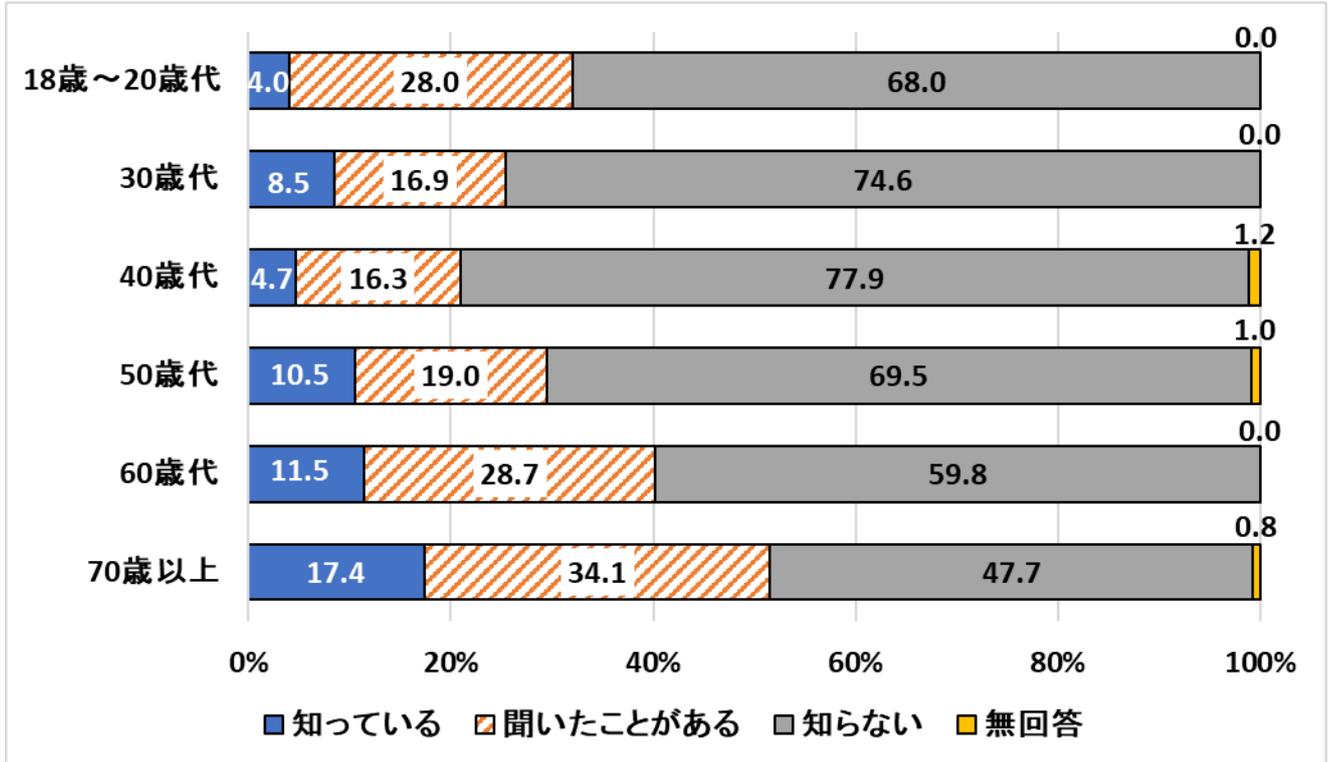
◆前回調査との比較



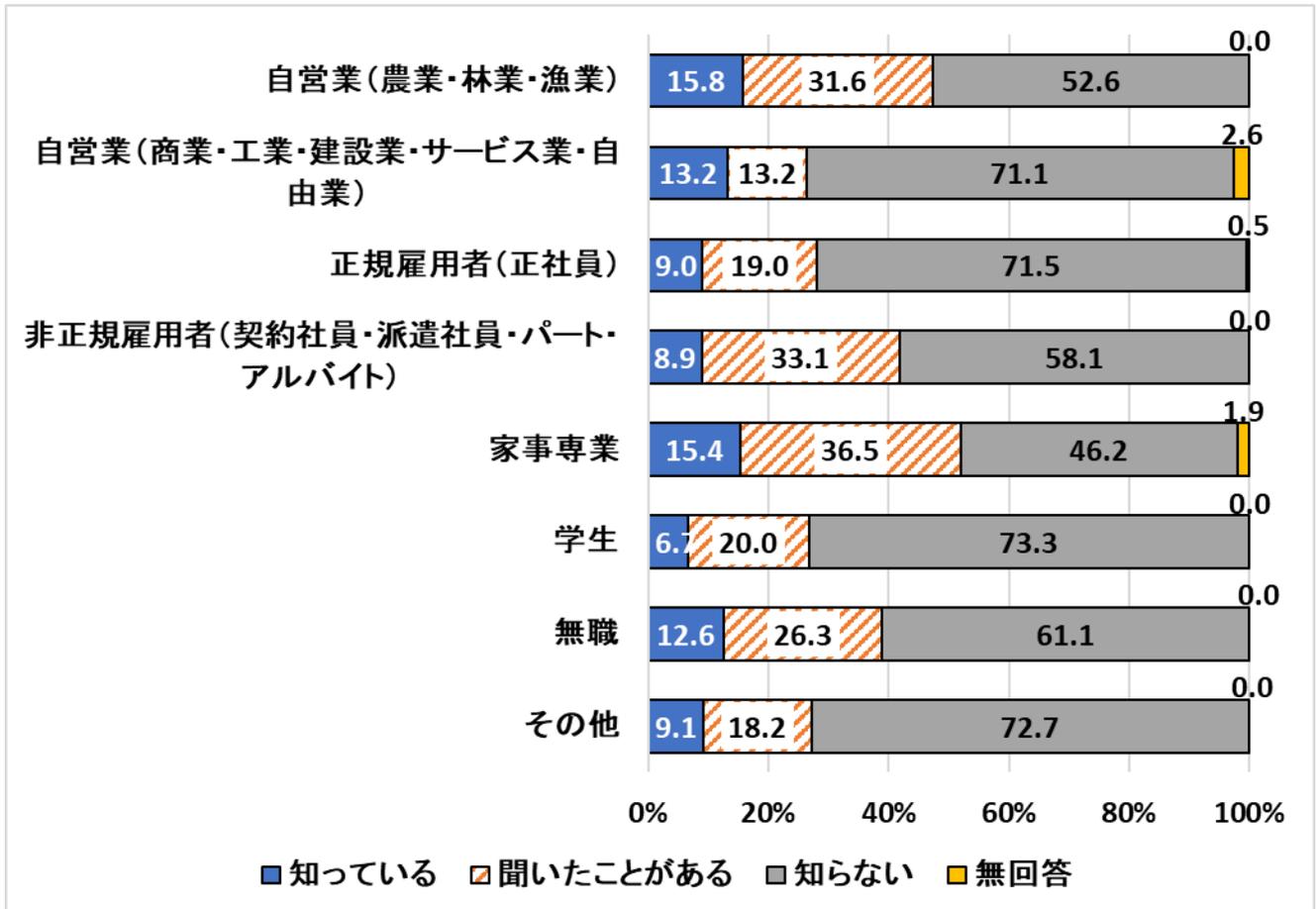
◆性別



◆年代別



◆職業別



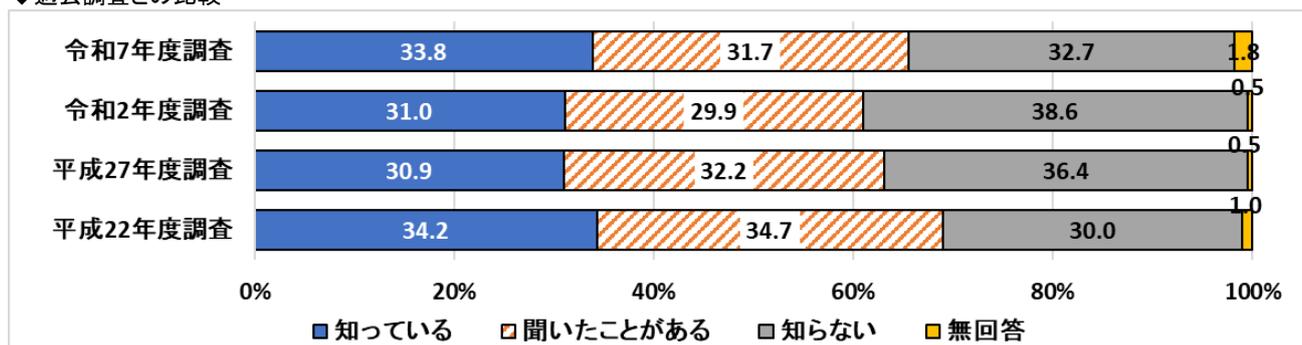
問1 次にあげる男女共同参画に関することがらや言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～Iそれぞれについて、お答えください。

## B 男女共同参画社会

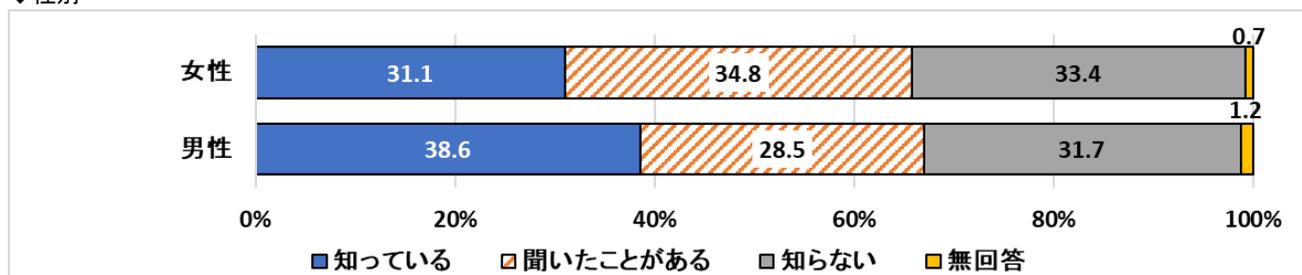
●「知っている」または「聞いたことがある」割合は 65.5%となっている。前回調査から 4.6 ポイント増加した。

●年代別では、18 歳～20 歳代で「知っている」または「聞いたことがある」割合が他の年代より高くなっている。

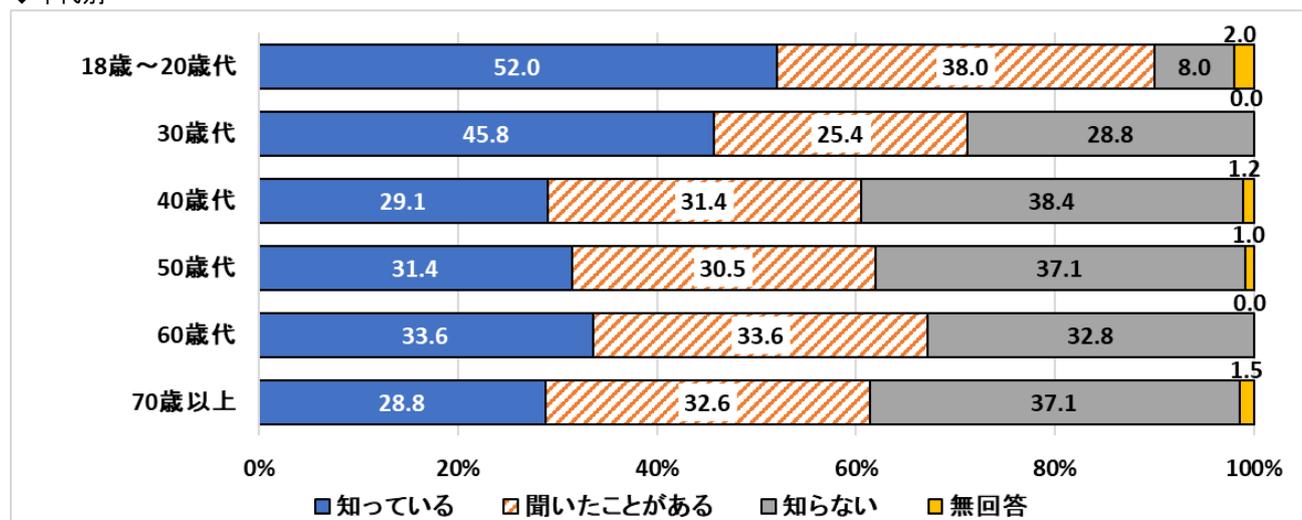
### ◆過去調査との比較



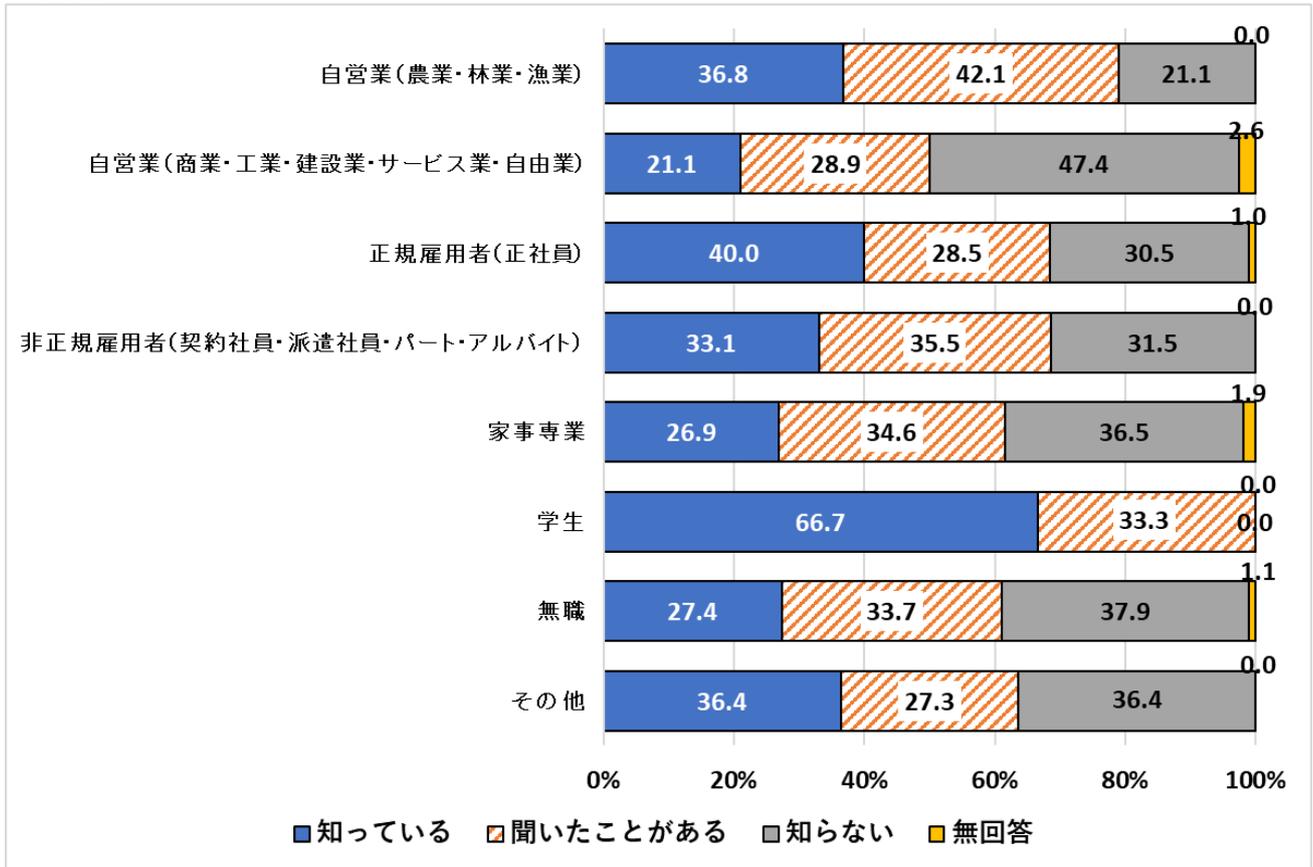
### ◆性別



### ◆年代別



◆職業別

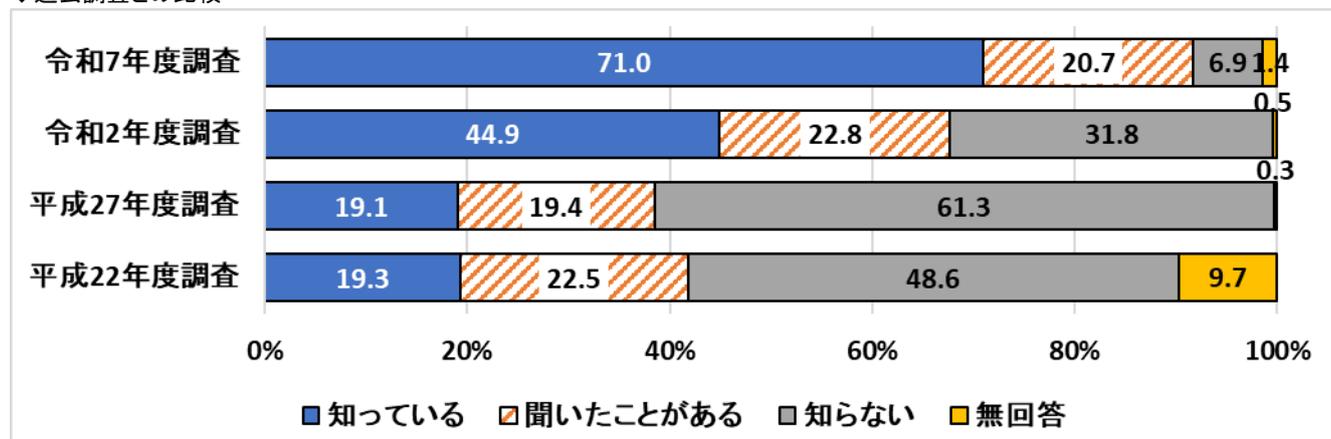


問1 次にあげる男女共同参画に関することがらや言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～Iそれぞれについて、お答えください。

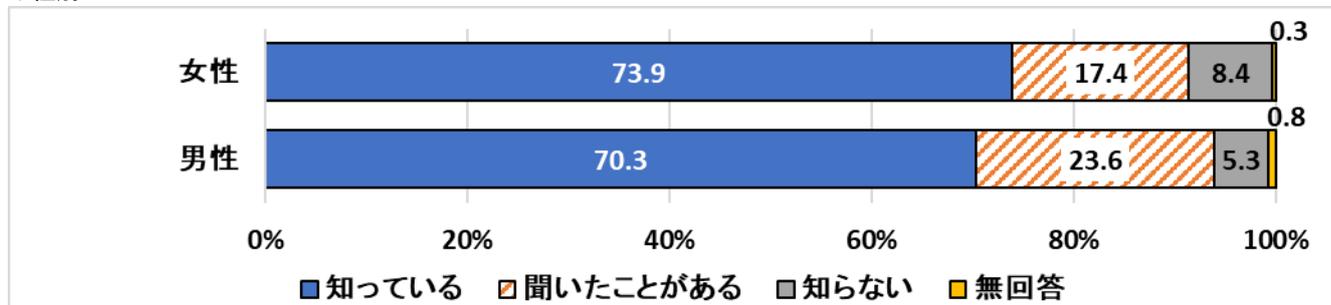
### C ジェンダー

- 「知っている」または「聞いたことがある」割合は91.7%となっている。
- 前回調査と比べると「知っている」割合が26.1ポイント増加した。
- 性別では、「知っている」または「聞いたことがある」割合がほぼ同等であり、年代別では、70歳代以上で8割以上、それ以外の年代では9割を超えている。
- 職業別では、学生の「知っている」または「聞いたことがある」割合は100%となった。

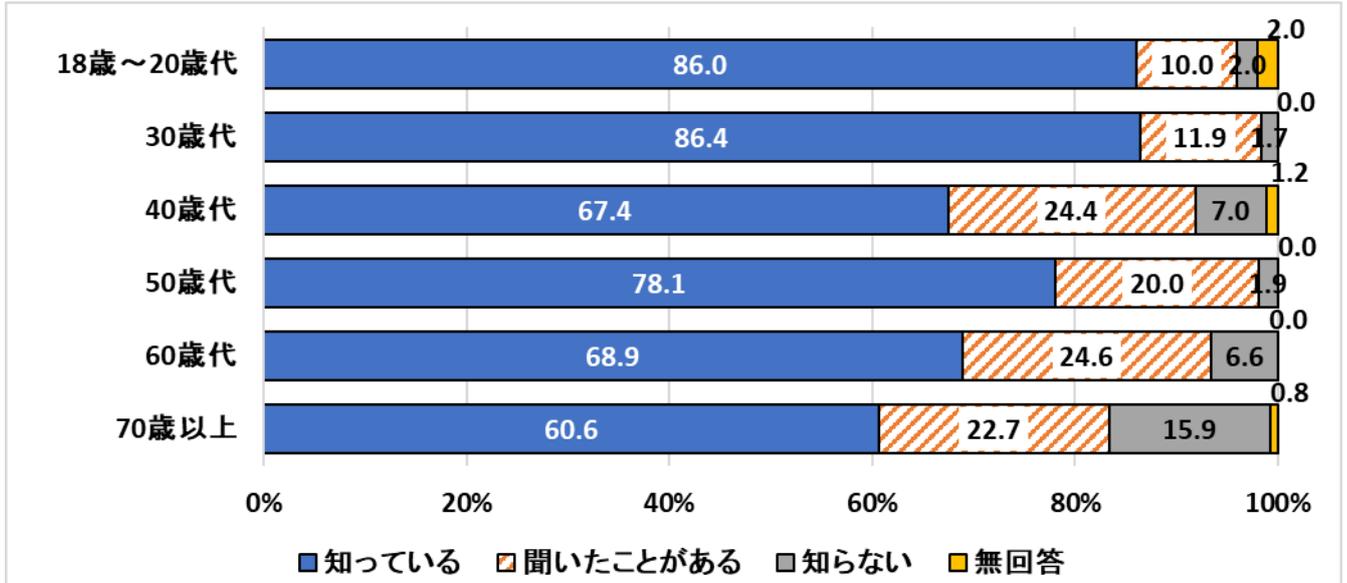
#### ◆過去調査との比較



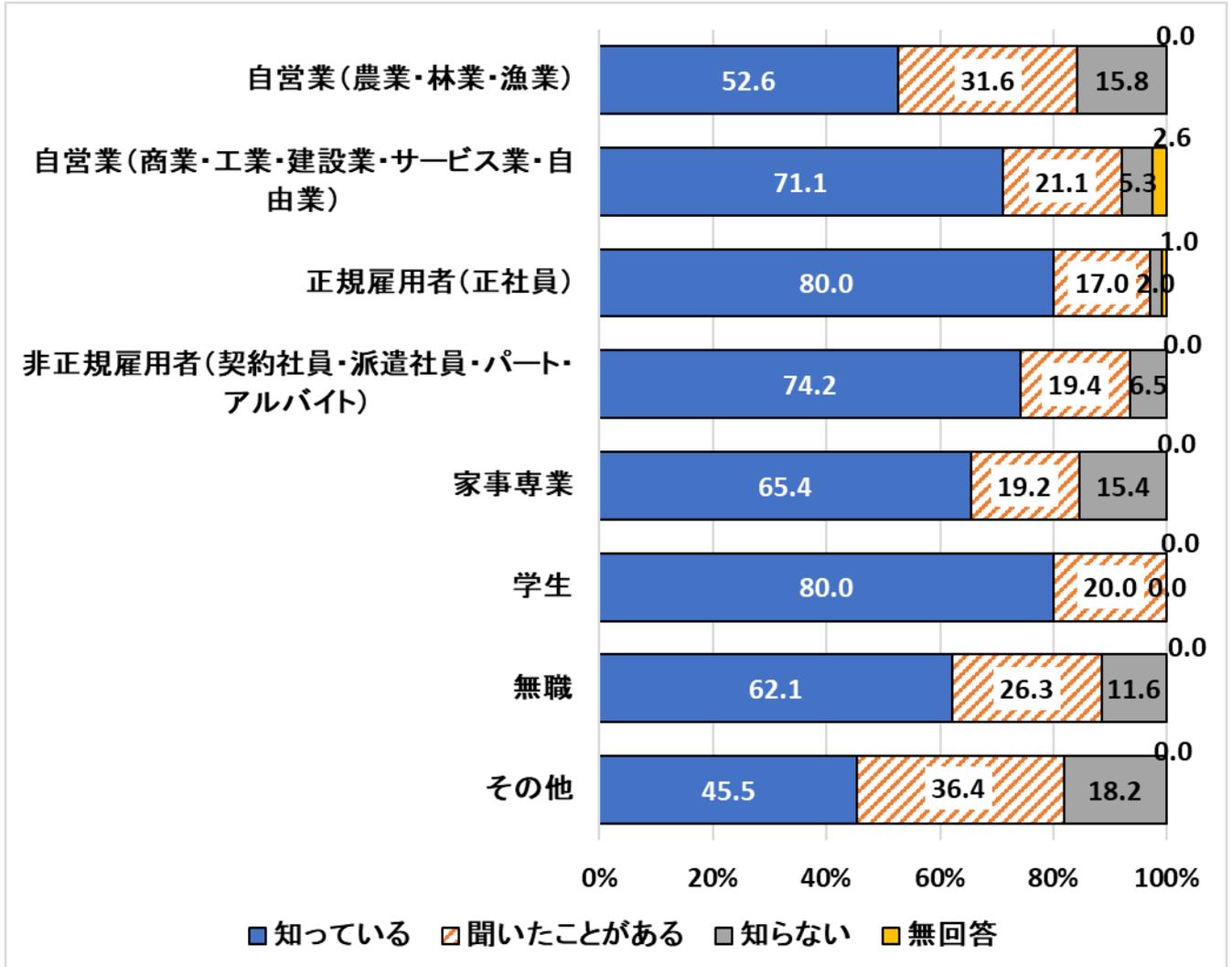
#### ◆性別



◆年代別



◆職業別



問1 次にあげる男女共同参画に関することや言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～I それぞれについて、お答えください。

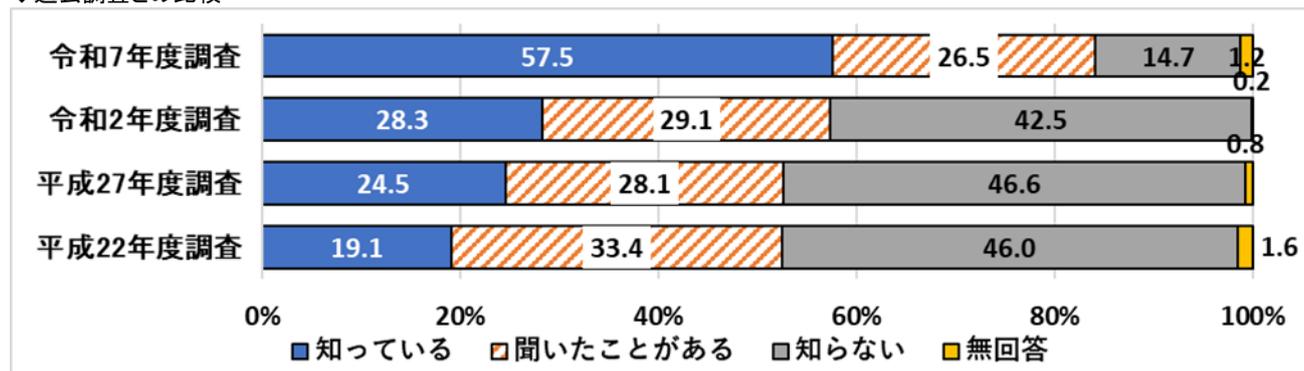
## D ワーク・ライフ・バランス

●「知っている」または「聞いたことがある」割合は 84.0%となっており、前回調査から 26.6 ポイント増加した。

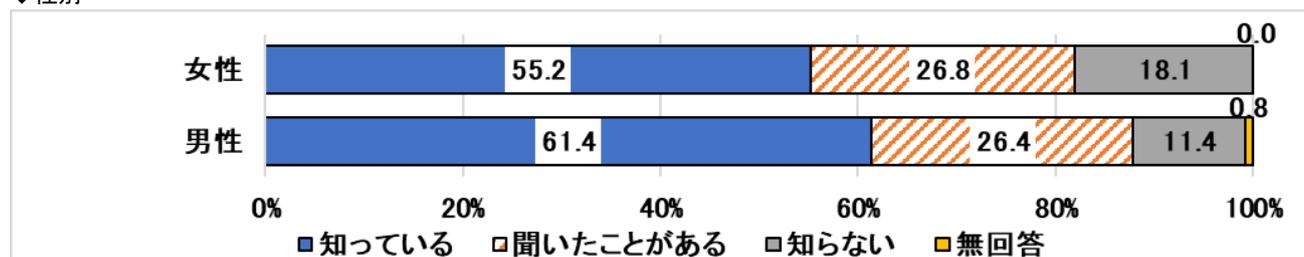
●年代別では、50 歳代以下で「知っている」が過半数を超えている。

●職業別では、学生の「知っている」または「聞いたことがある」割合は 100%となった。

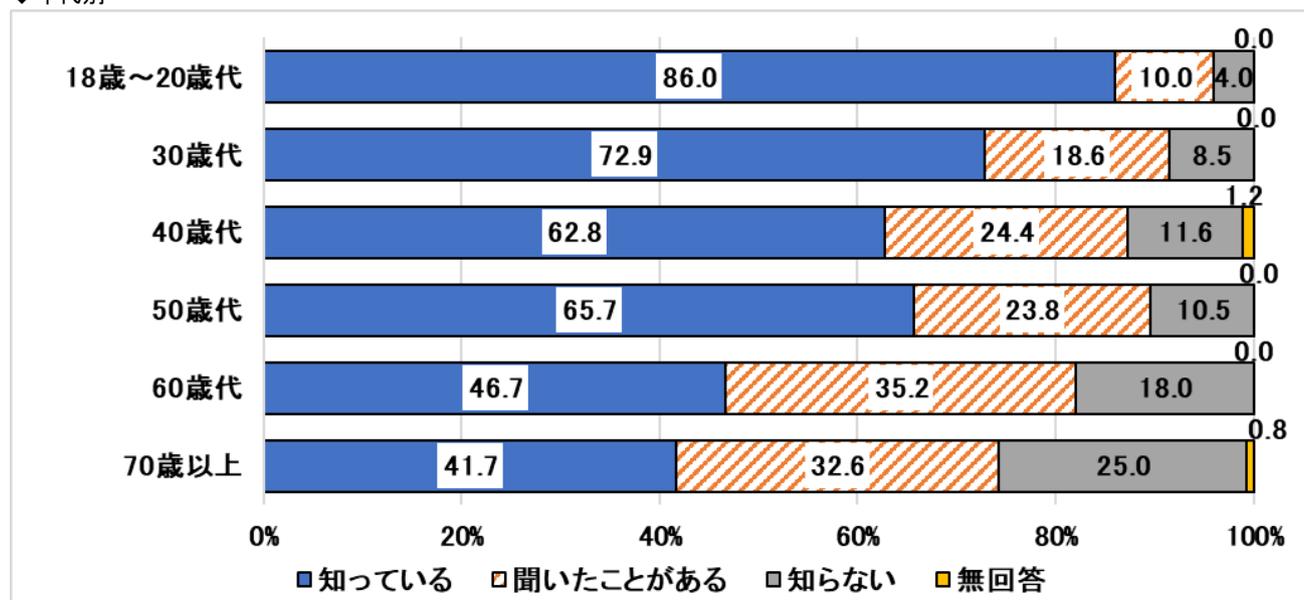
### ◆過去調査との比較



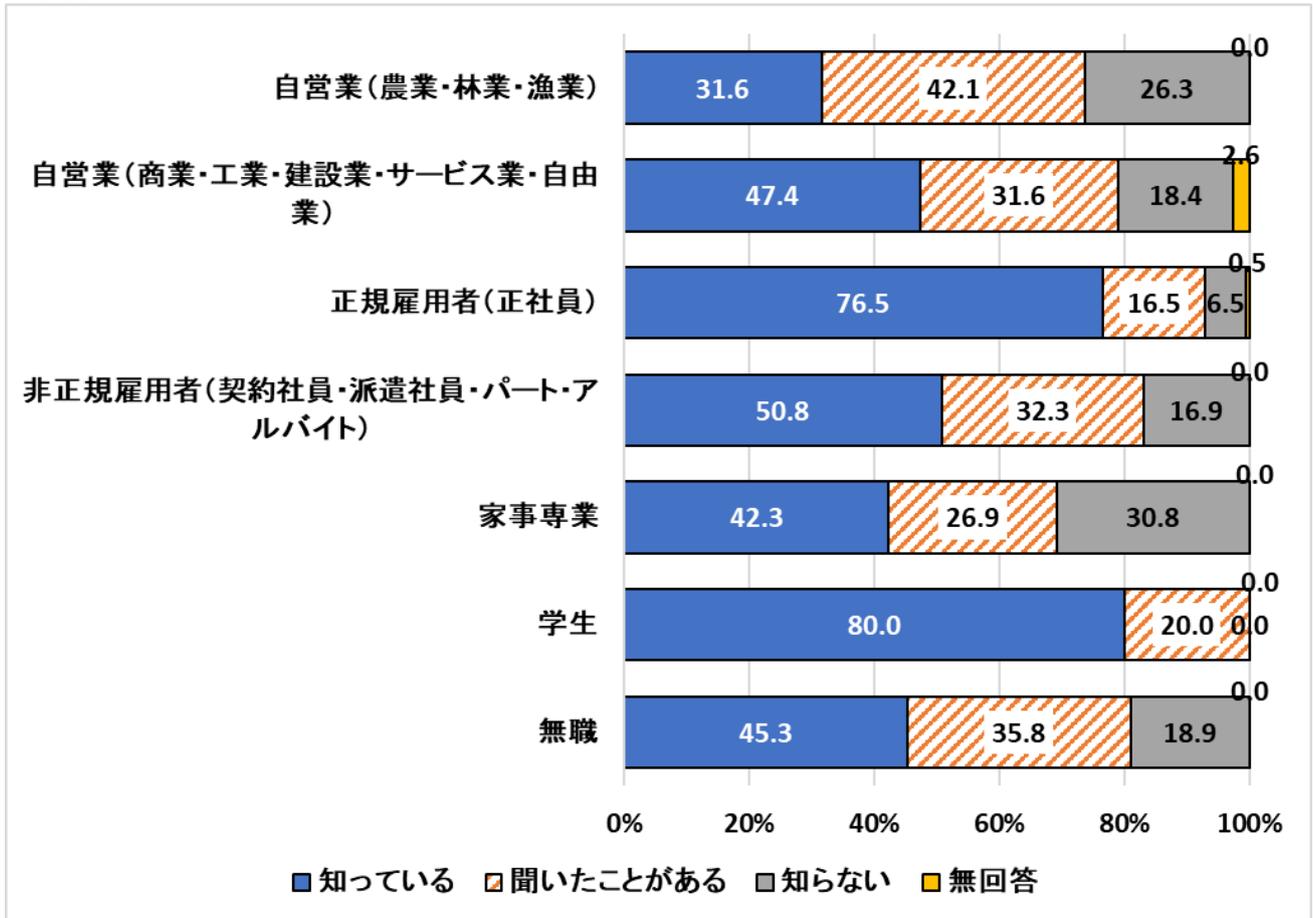
### ◆性別



### ◆年代別



◆職業別

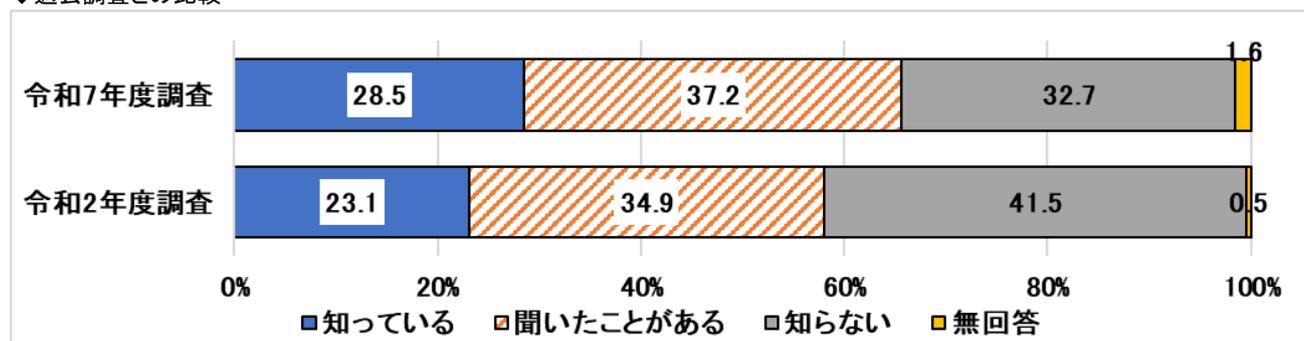


問1 次にあげる男女共同参画に関することがらや言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～Iそれぞれについて、お答えください。

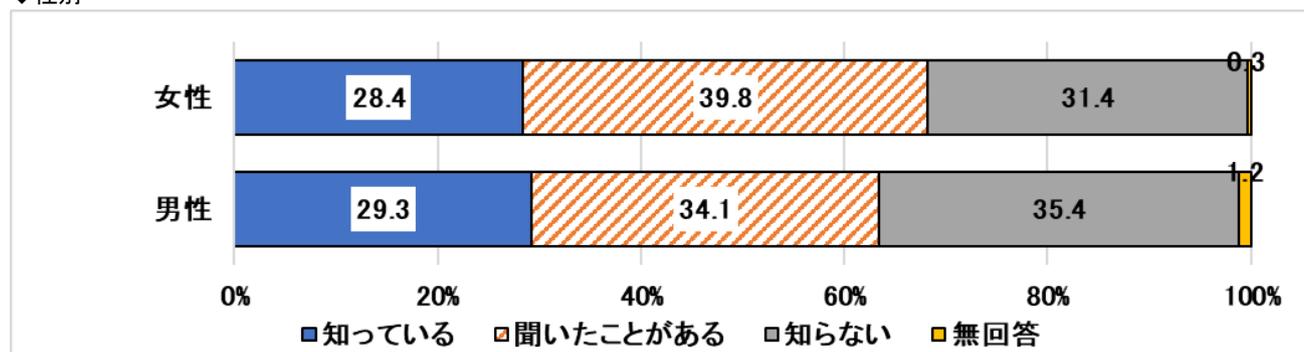
## E 女性活躍推進法

- 「知っている」または「聞いたことがある」割合は65.7%で前回調査から7.7ポイント増加している。
- 年代別では、年代が低いほど「知っている」割合が高い傾向が見てとれる。

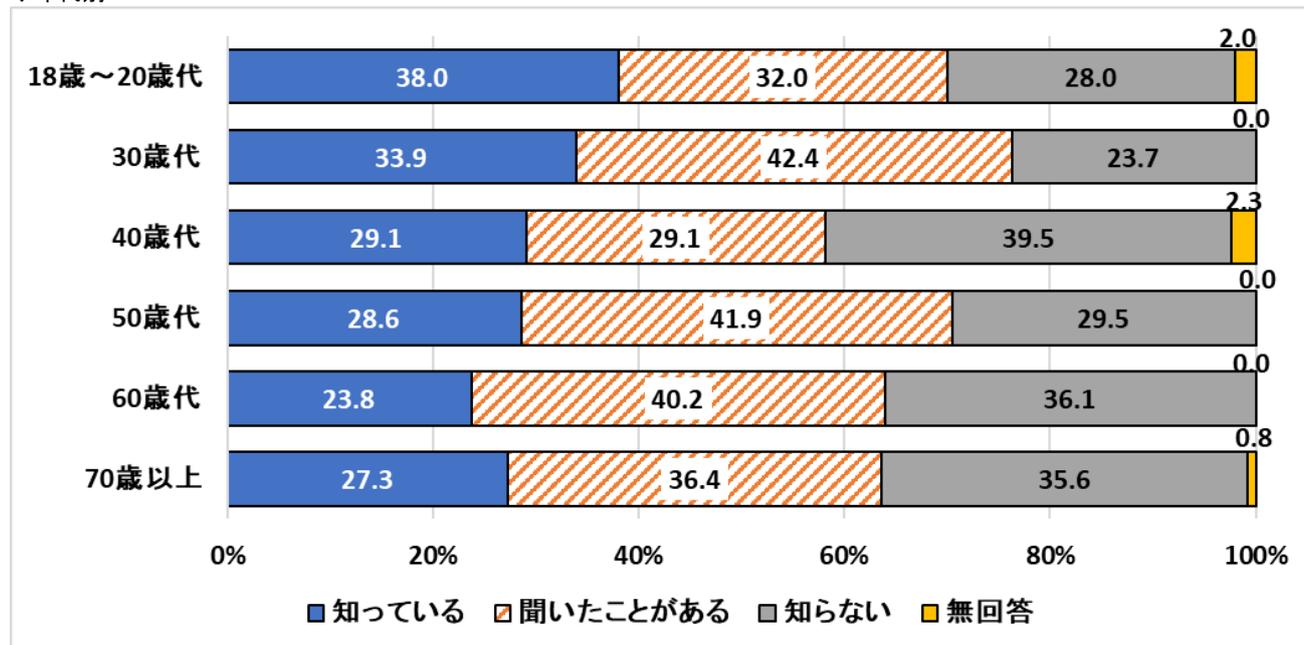
### ◆過去調査との比較



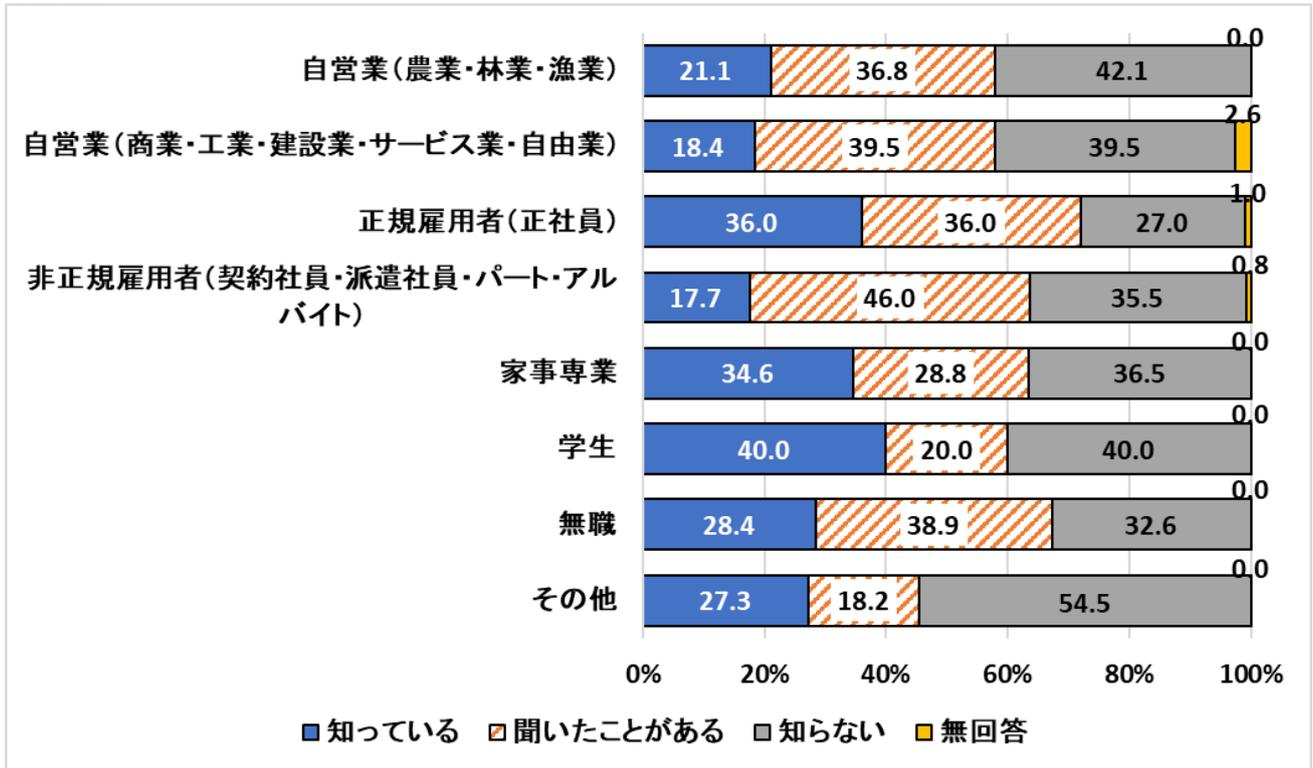
### ◆性別



### ◆年代別



◆職業別

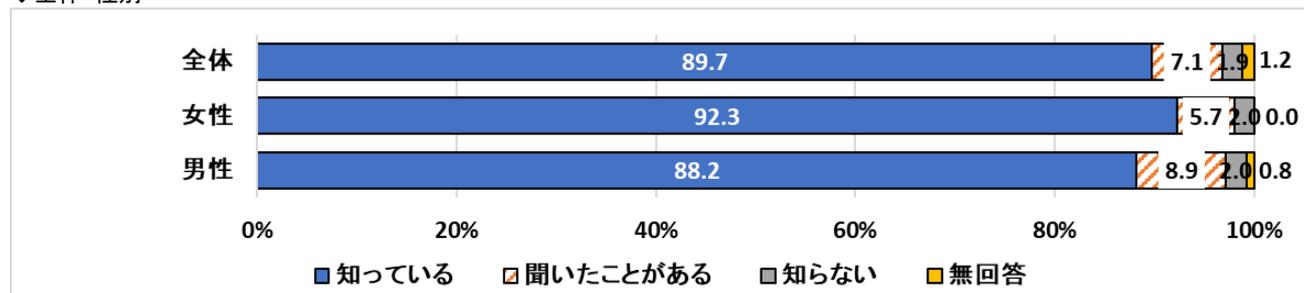


問1 次にあげる男女共同参画に関することがらや言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～E それぞれについて、お答えください。

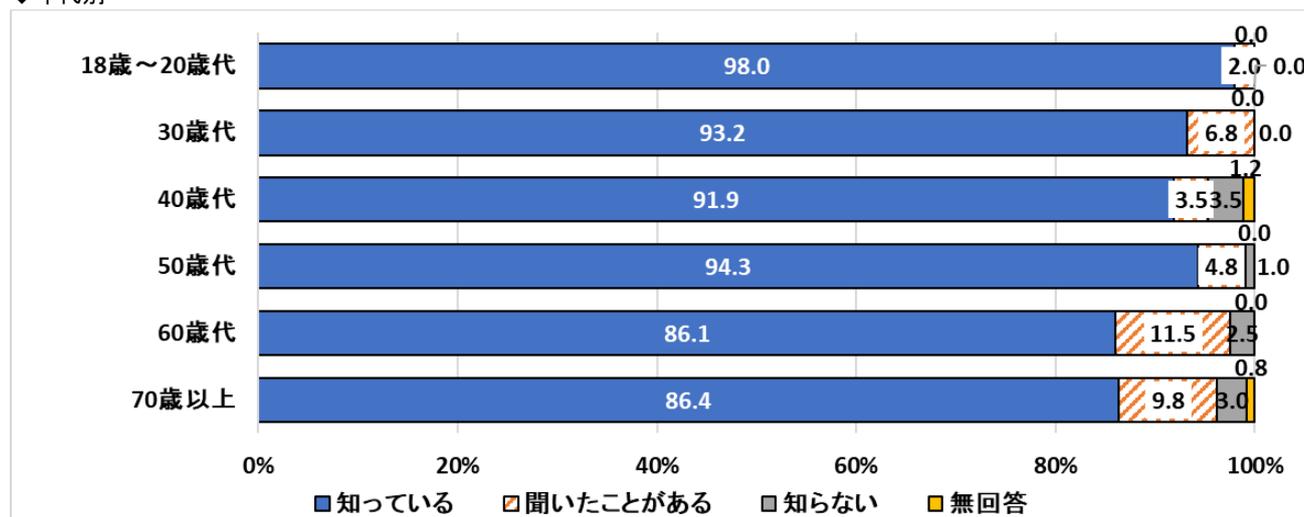
## F DV(配偶者(パートナー)への暴力)

- 「知っている」または「聞いたことがある」割合は96.8%となっている。
- 性別、年代別ともに「知っている」割合は高く、「聞いたことがある」まで含めるとすべて9割以上の割合となっている。

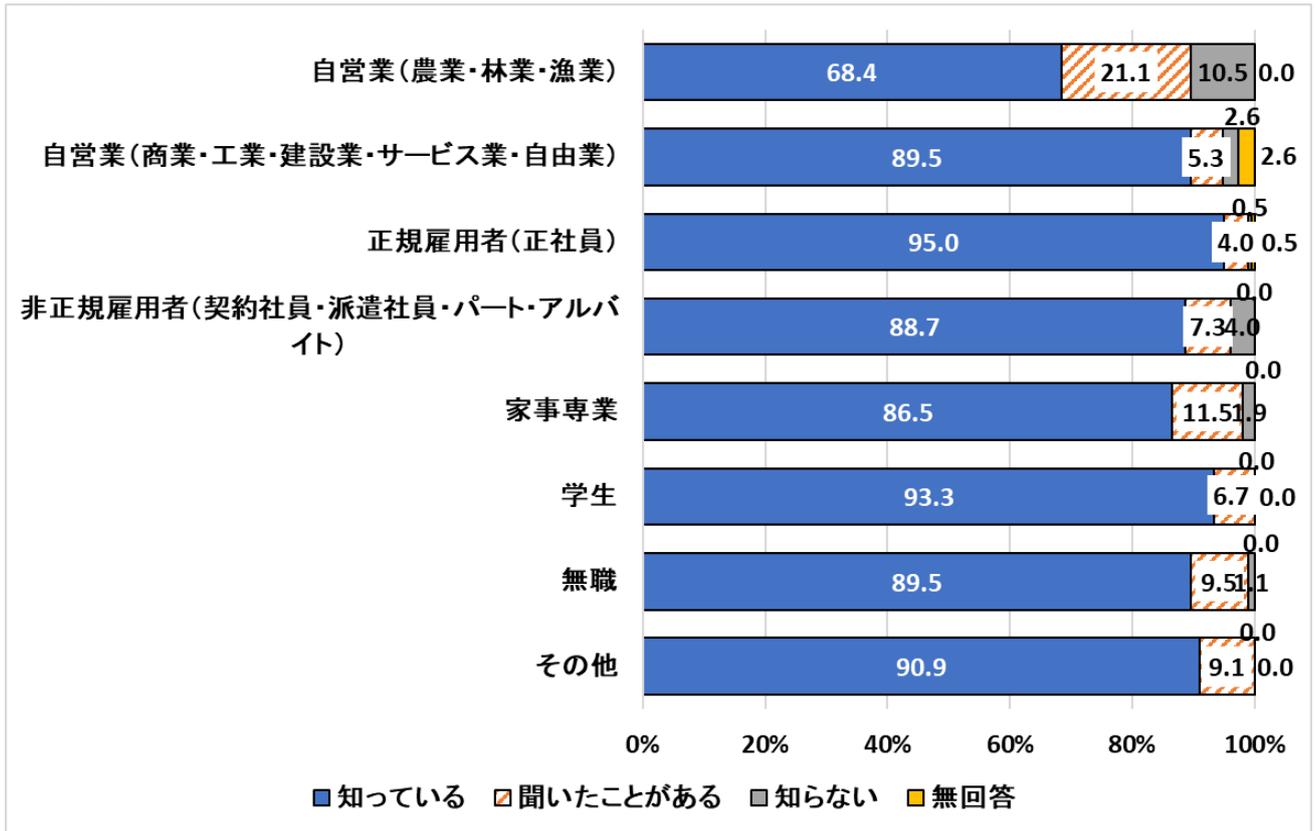
### ◆全体・性別



### ◆年代別



◆職業別

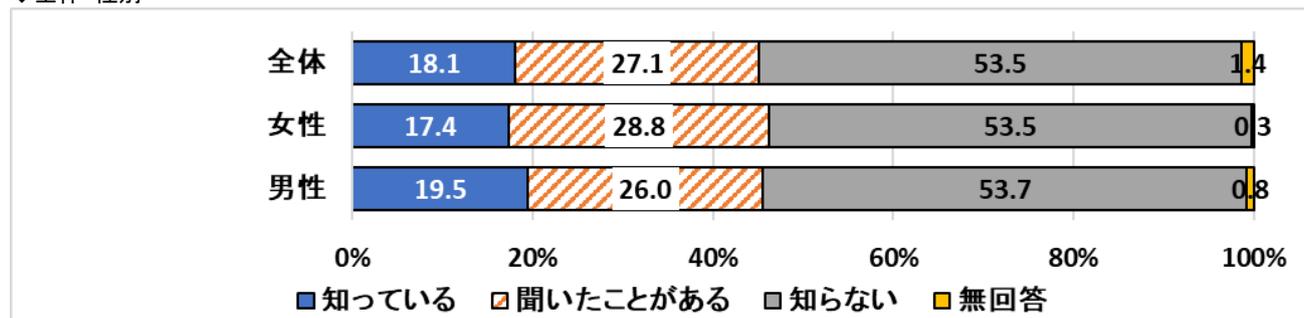


問1 次にあげる男女共同参画に関することや言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～Iそれぞれについて、お答えください。

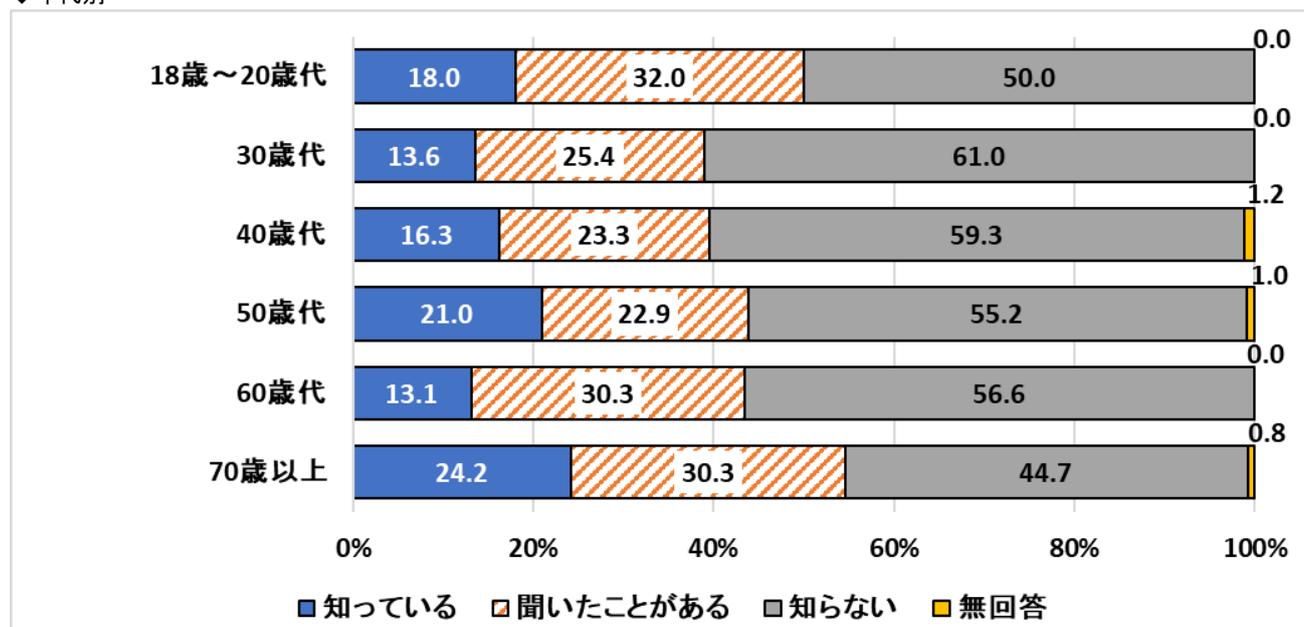
### G ポジティブ・アクション(積極的改善措置)

- 「知っている」または「聞いたことがある」割合は45.2%となっている。
- 年代別では、18歳～20歳代と70歳代以上で「知っている」または「聞いたことがある」割合が過半数を超えている。

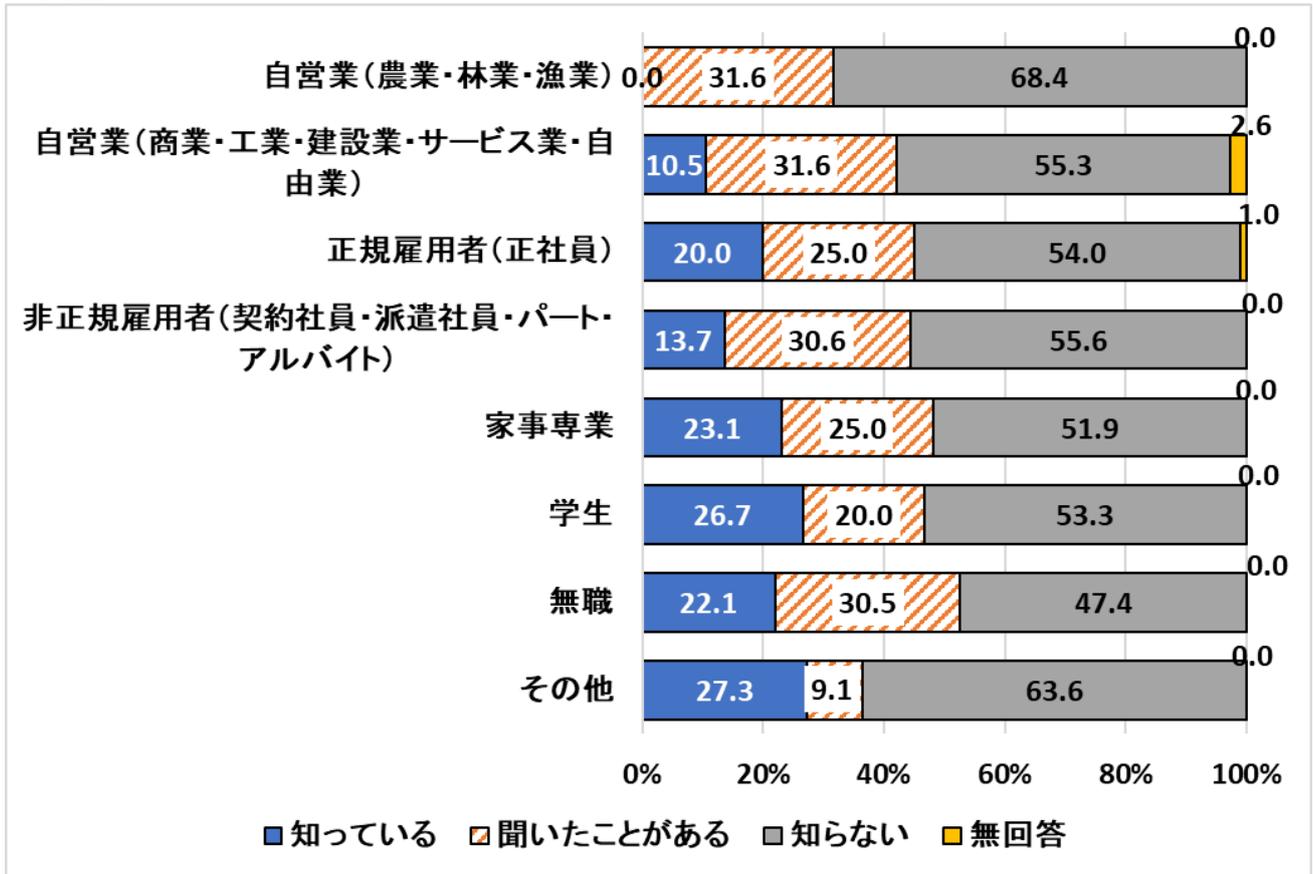
#### ◆全体・性別



#### ◆年代別



◆職業別

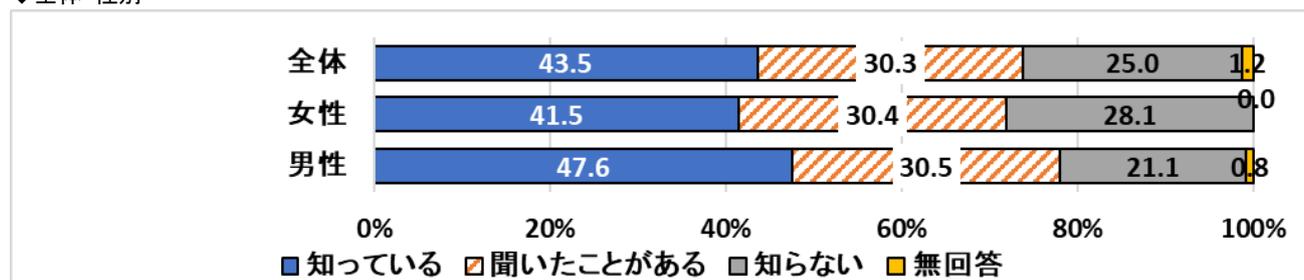


問1 次にあげる男女共同参画に関することや言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～Iそれぞれについて、お答えください。

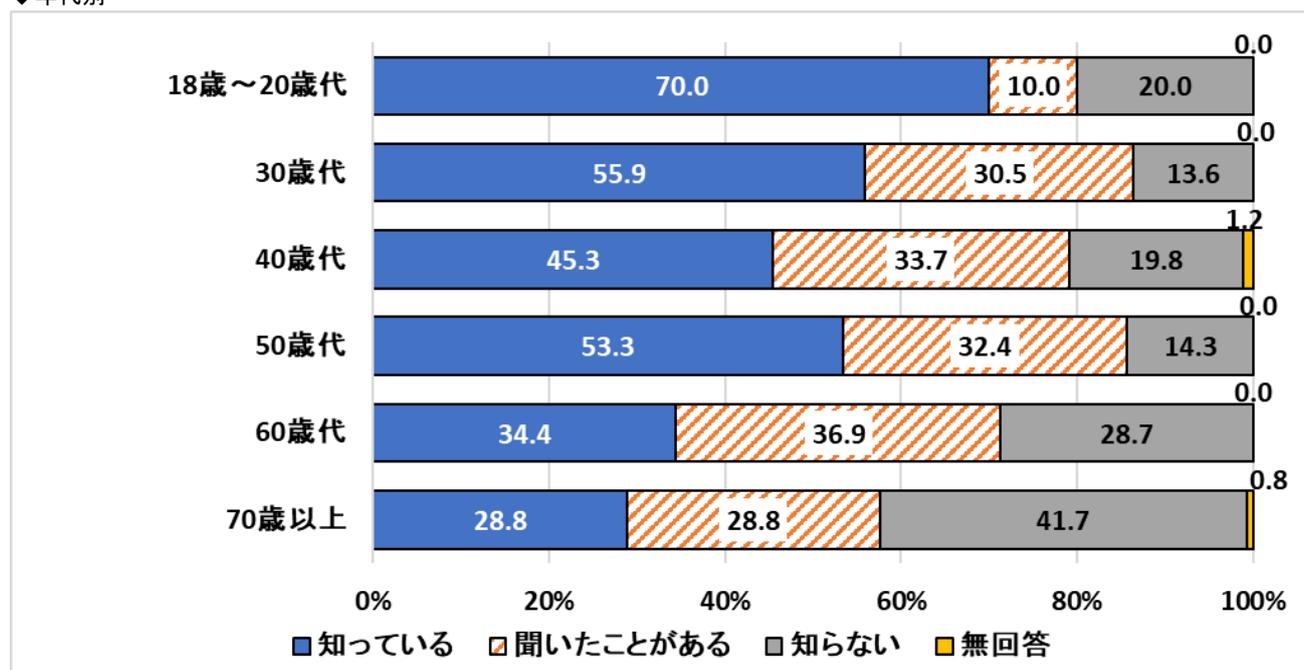
## H ダイバーシティ(多様性)

- 「知っている」または「聞いたことがある」割合は73.8%となっている。
- 性別では、「知っている」割合は男性が女性を6.2ポイント上回っている。
- 年代別では、「知っている」割合は年代が低いほど高く、年代が上がるにつれ低くなる傾向が見てとれる。

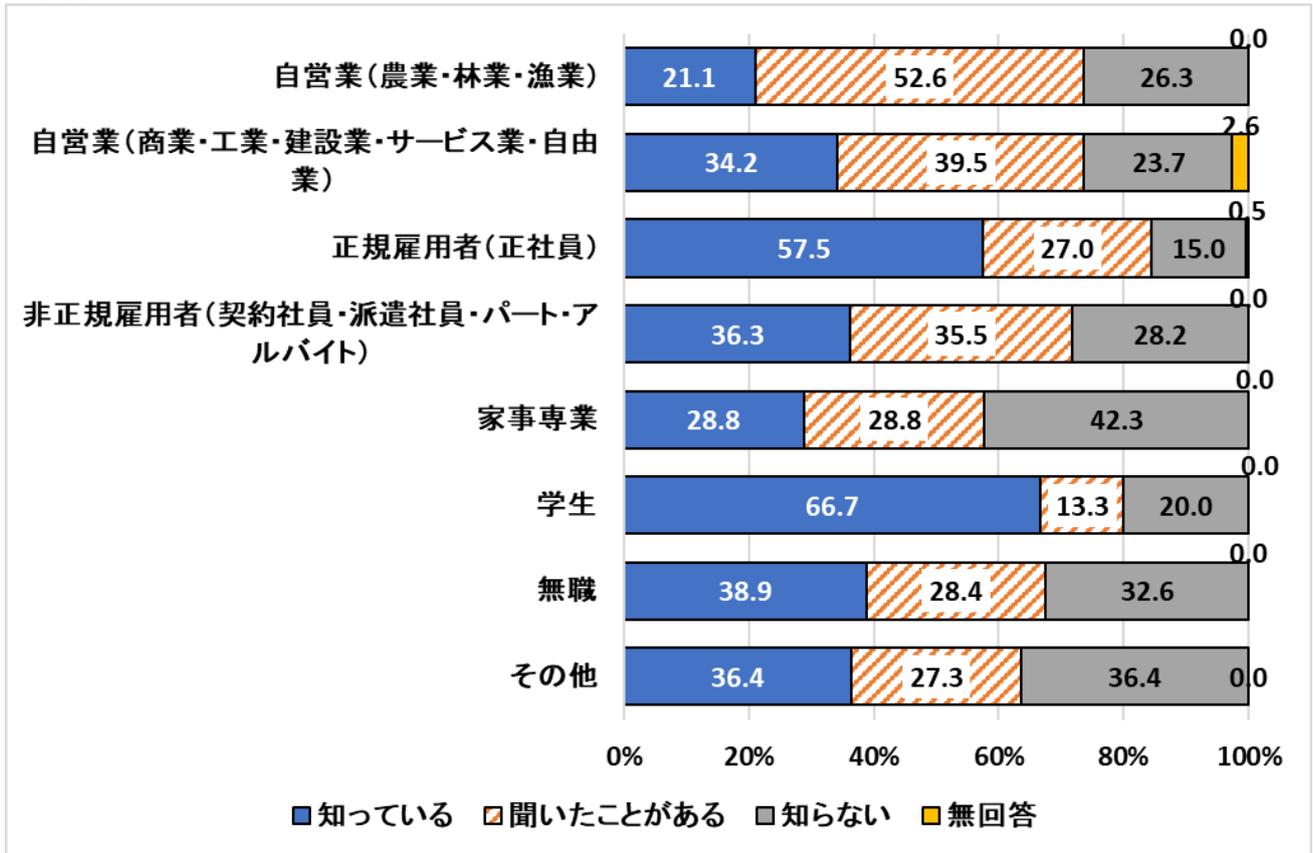
### ◆全体・性別



### ◆年代別



◆職業別

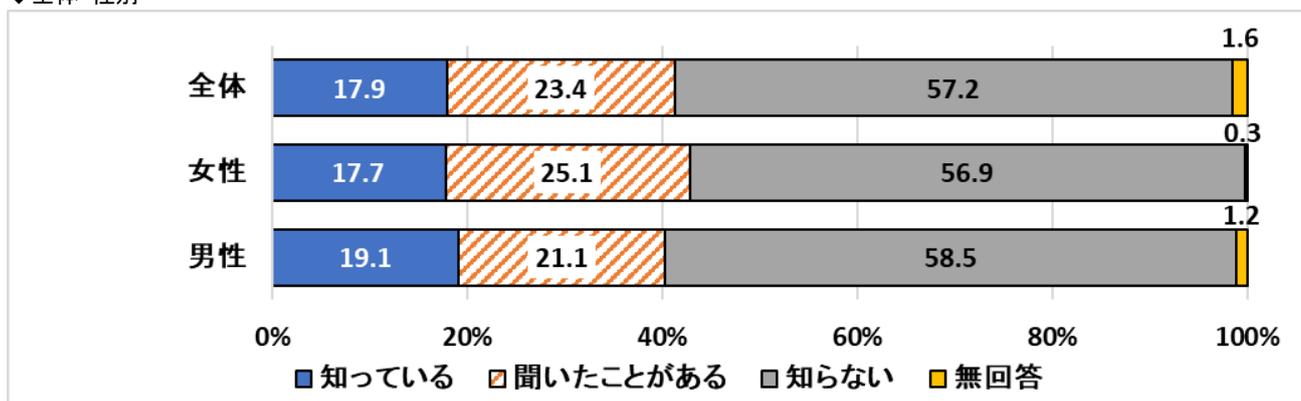


問1 次にあげる男女共同参画に関することや言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～Iそれぞれについて、お答えください。

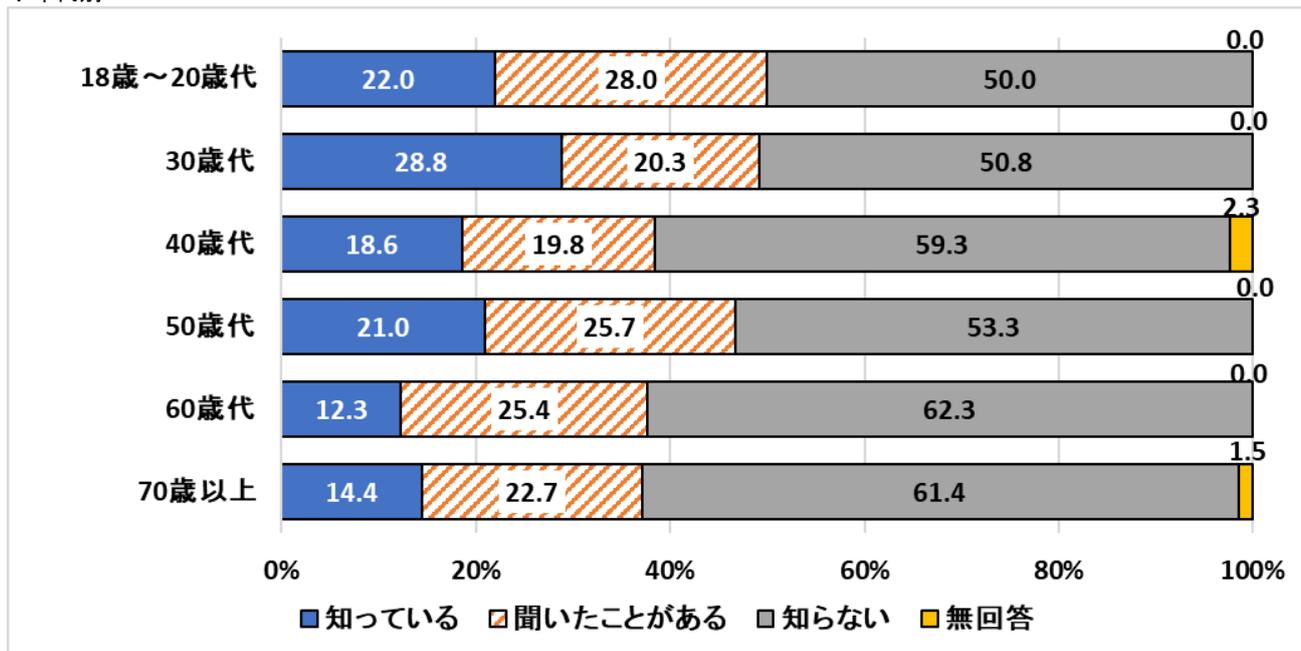
### I アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)

- 「知っている」または「聞いたことがある」割合は41.3%となっている。
- 性別、年代別、職業別ともに「知らない」割合が過半数を占めている。

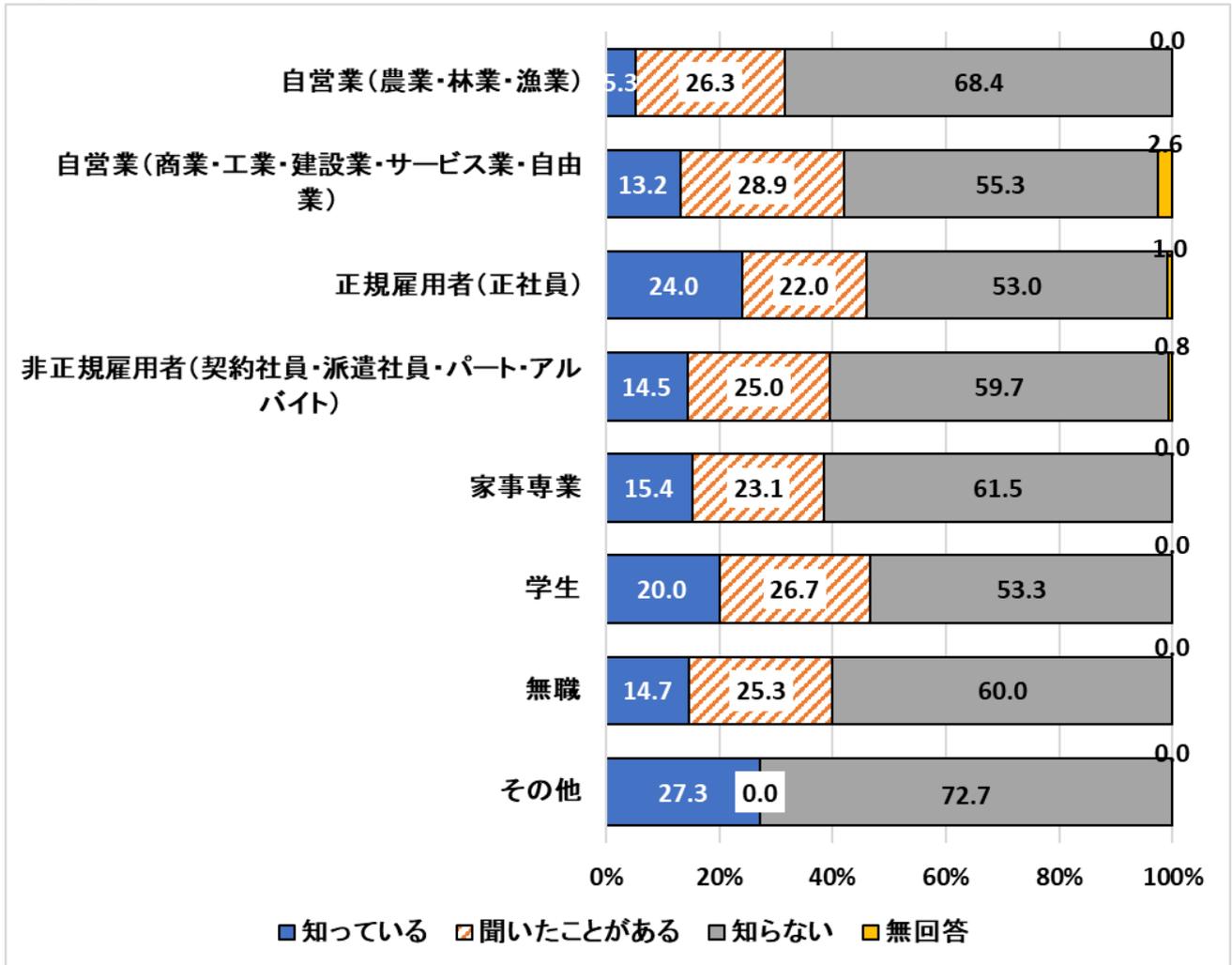
#### ◆全体・性別



#### ◆年代別



◆職業別

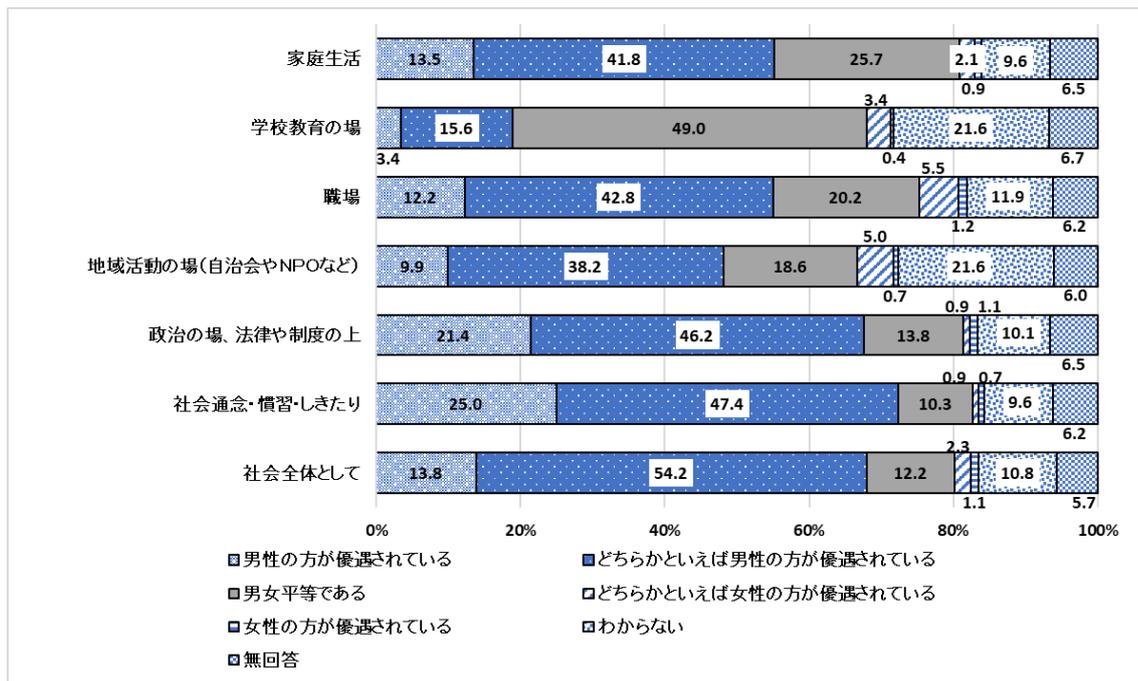


## 2 世の中の男女平等感について

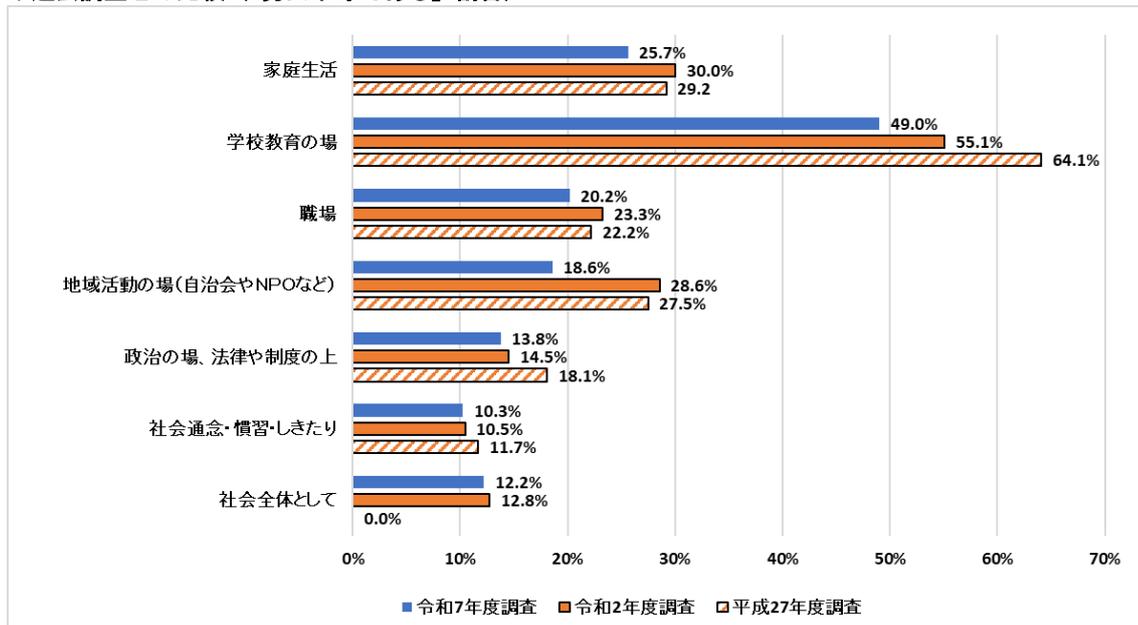
### 男女平等感 「社会全体が男女平等である」12.2%

問2 男女は平等になっていると思いますか。次のA～Gそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

●「男女平等」と回答した割合は、「学校教育の場」で 49.0%、「家庭生活」で 25.7%、「職場」で 20.2%、「地域活動の場」で 18.6%、「政治の場、法律や制度の上」で 13.8%、「社会全体として」で 12.2%、「社会通念・慣習・しきたり」で 10.3%となっている。



### ◆過去調査との比較（「男女平等である」割合）



問2 男女は平等になっていると思いますか。次のA～Gそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

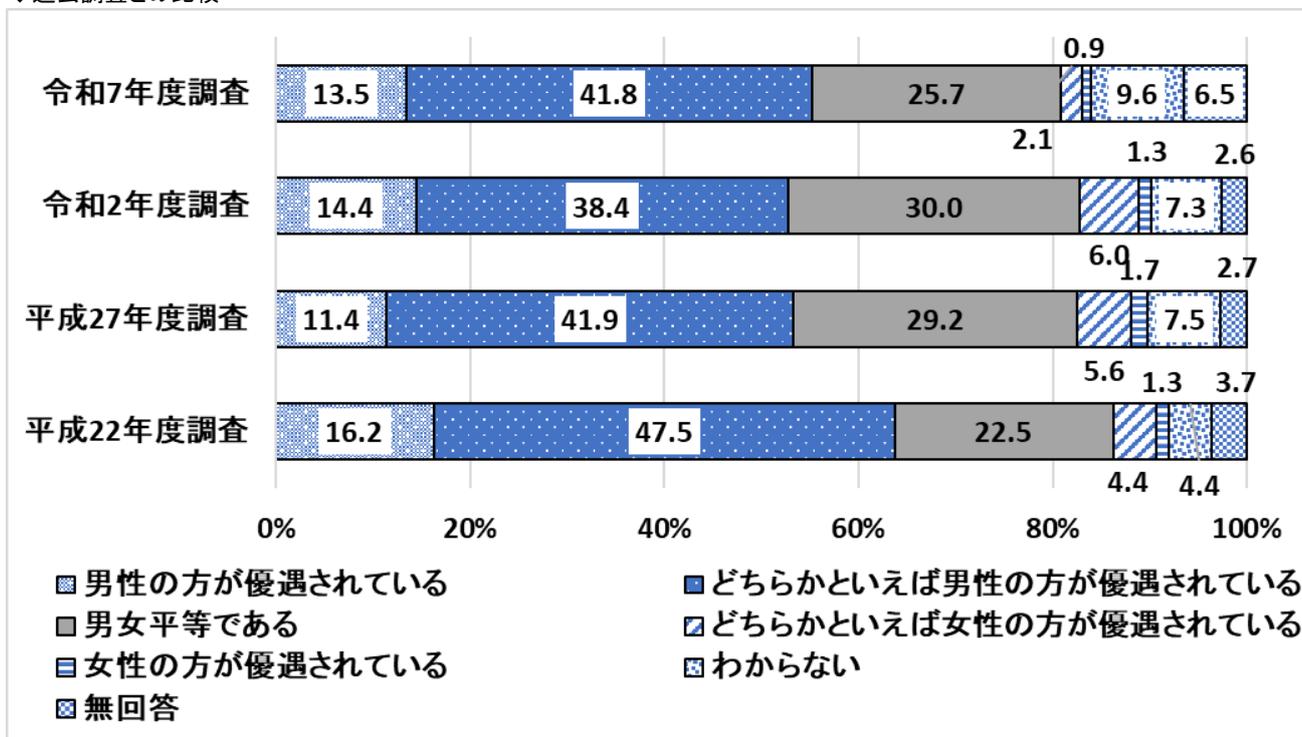
### A 家庭生活

●「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は55.3%となっている。

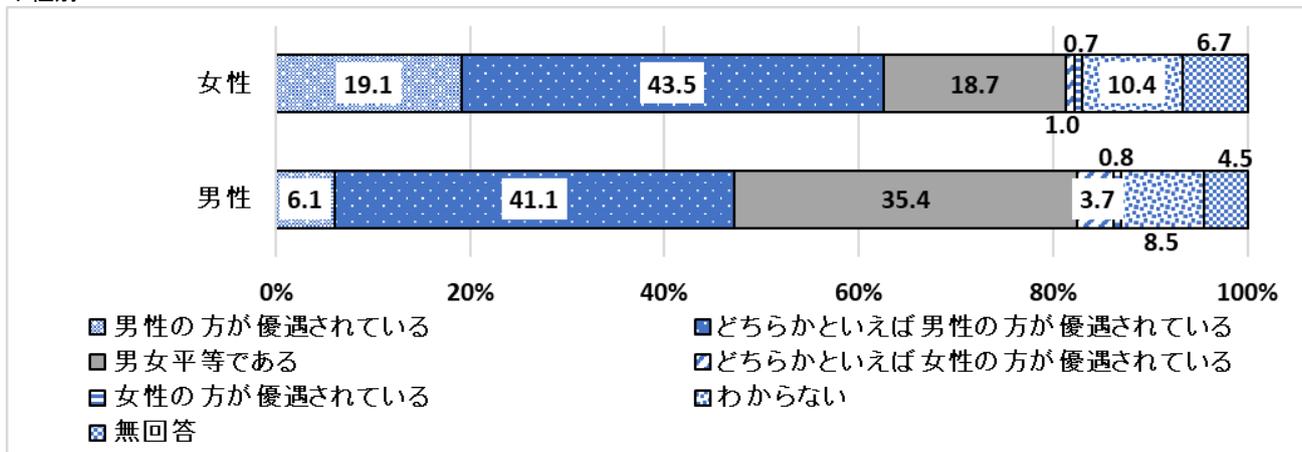
●性別では、「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は女性62.6%、男性47.2%で15.4ポイントの差となっており、男女差が大きい。

●内閣府調査では、「男性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は60.7%となっている。

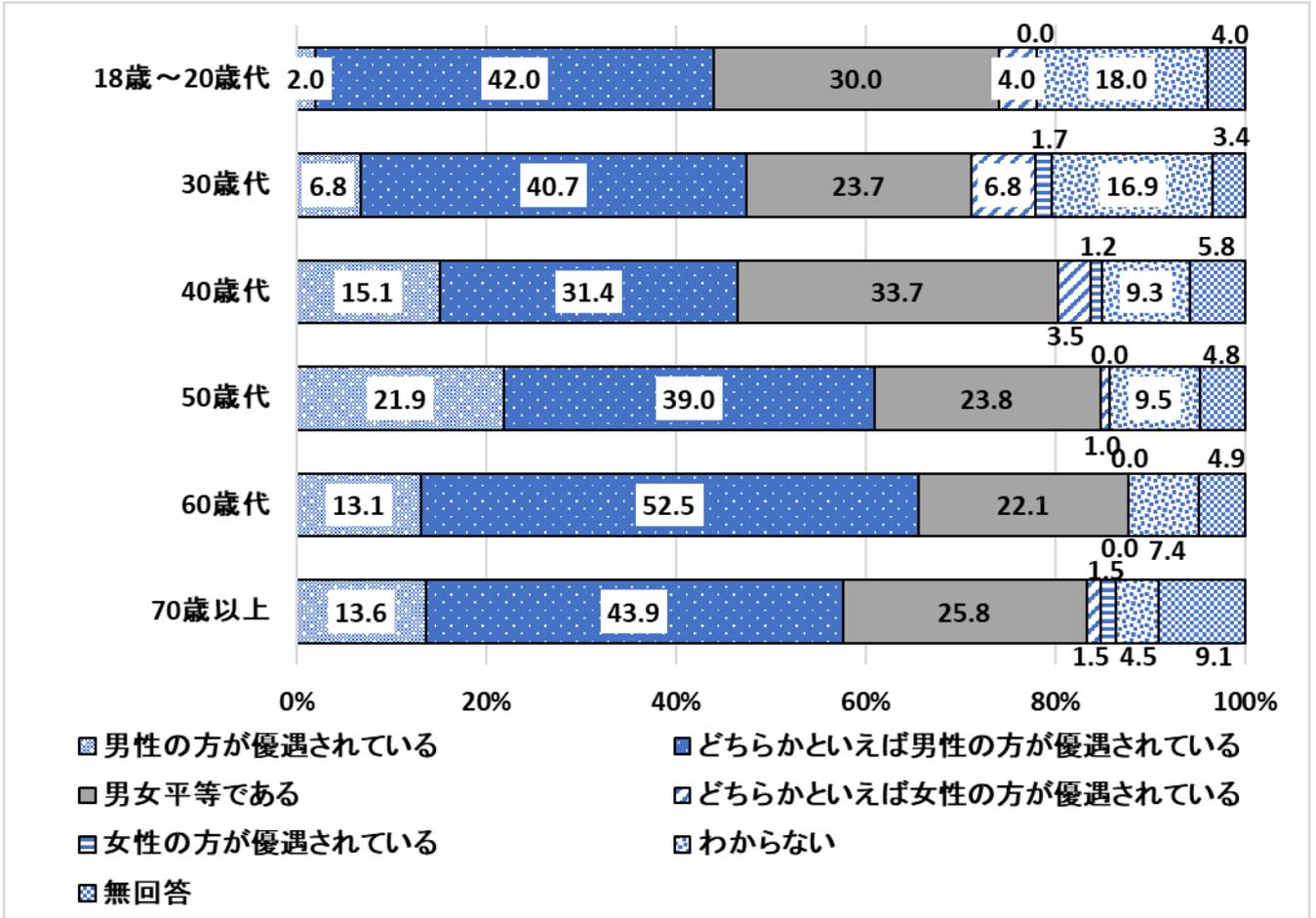
#### ◆過去調査との比較



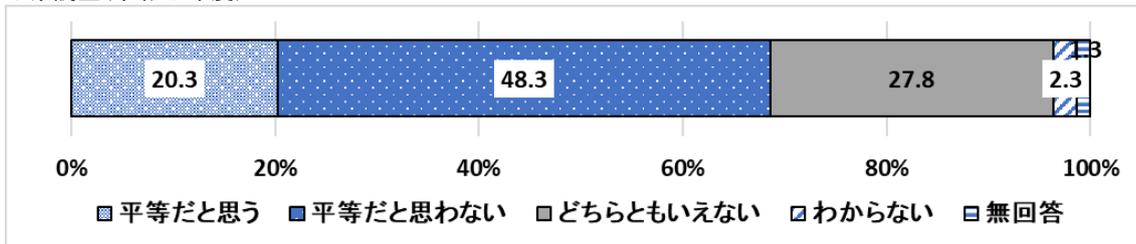
#### ◆性別



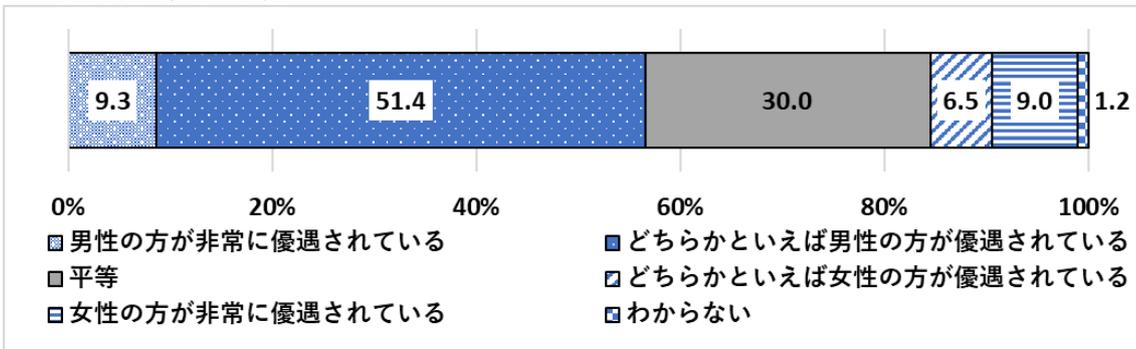
◆年代別



◆県調査(令和6年度)



◆内閣府調査(令和6年度)

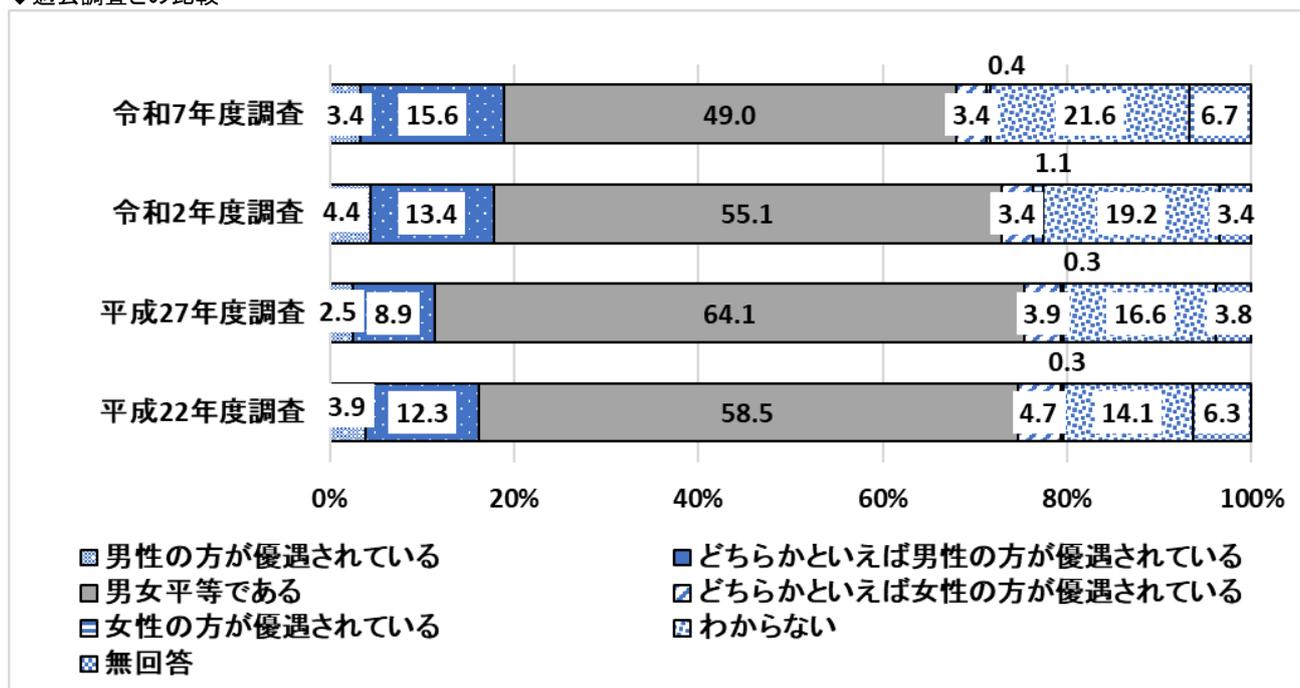


問2 男女は平等になっていると思いますか。次のA～Gそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

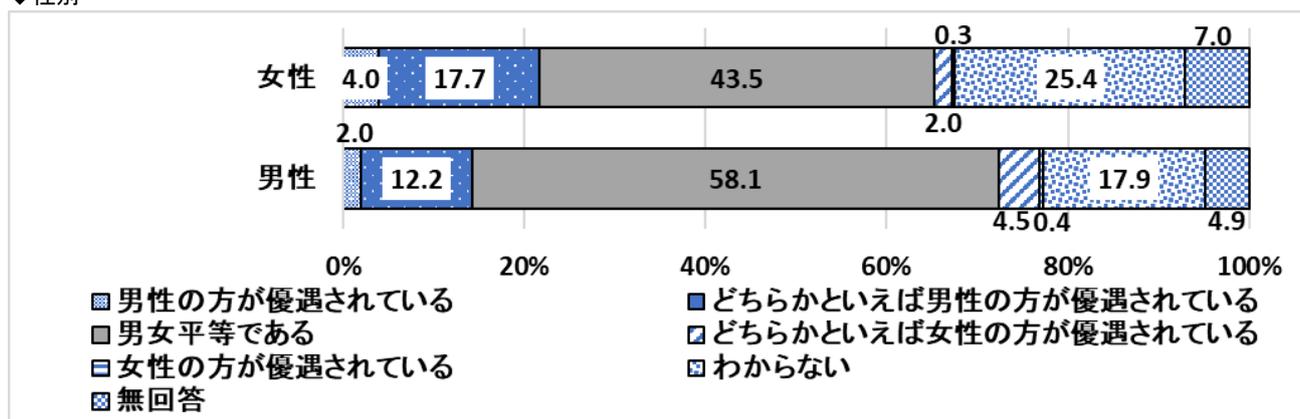
**B 学校教育の場**

- 「男女平等である」割合が49.0%を占め、他の分野に比べ高くなっているが、前回調査より6.1ポイント減少している。
- 性別では、「男女平等である」割合は女性43.5%、男性58.1%で14.6ポイントの差となっている。

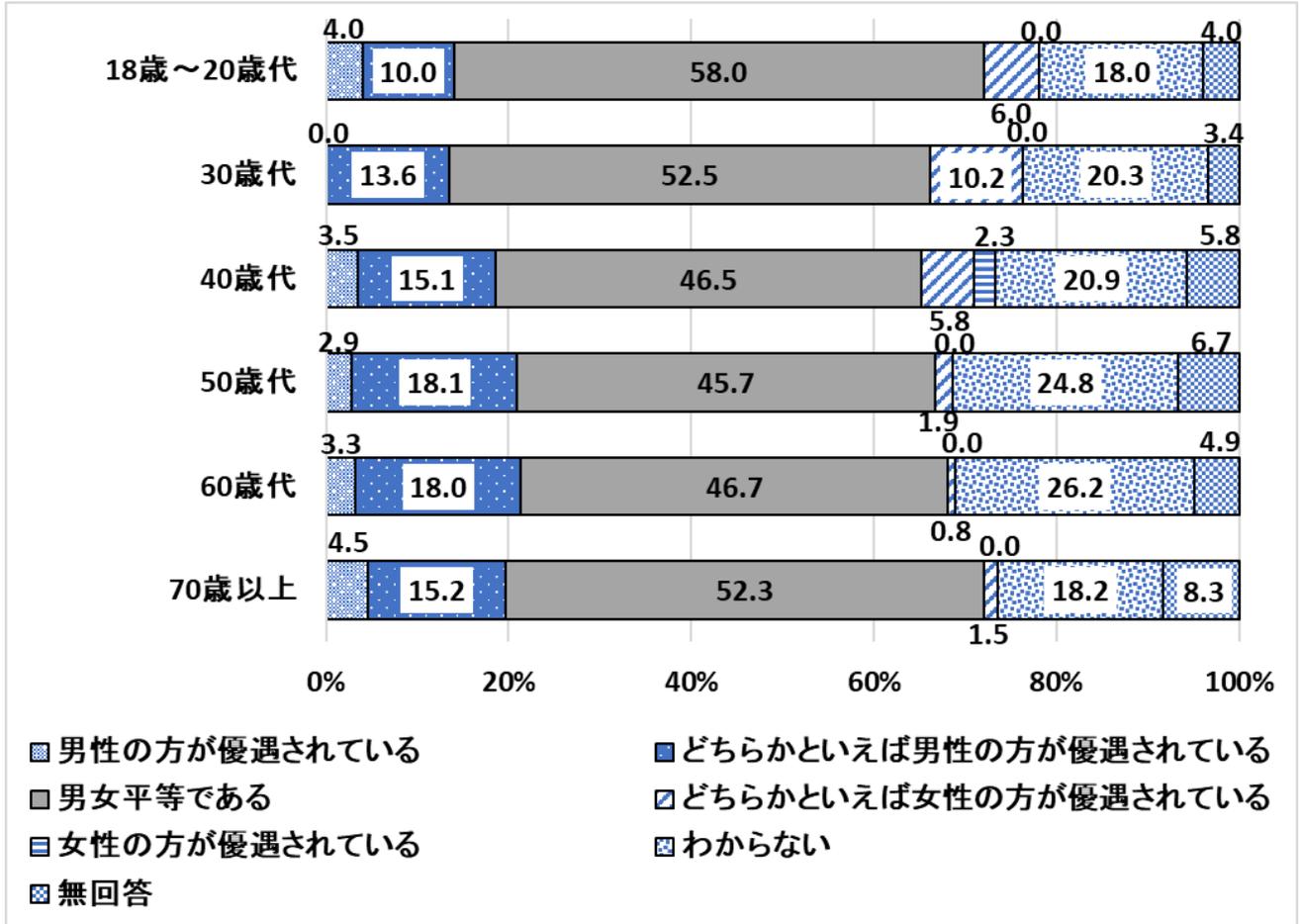
◆過去調査との比較



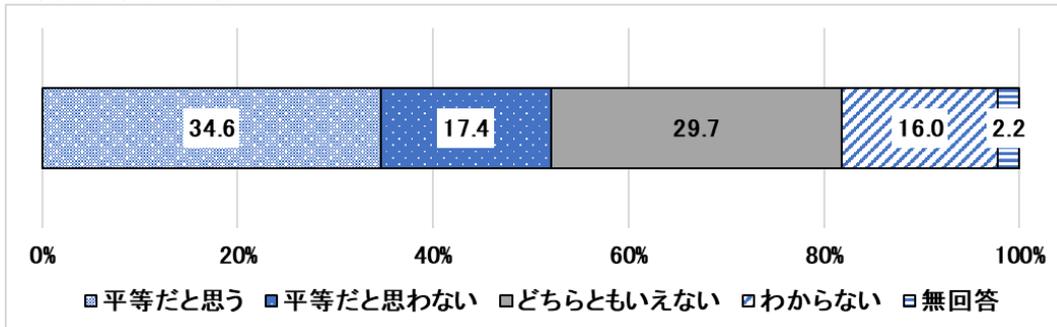
◆性別



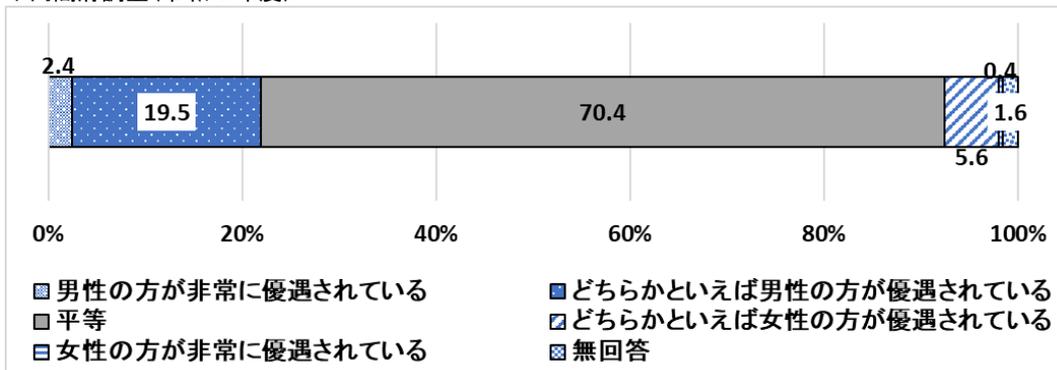
◆年代別



◆県調査(令和6年度)



◆内閣府調査(令和6年度)



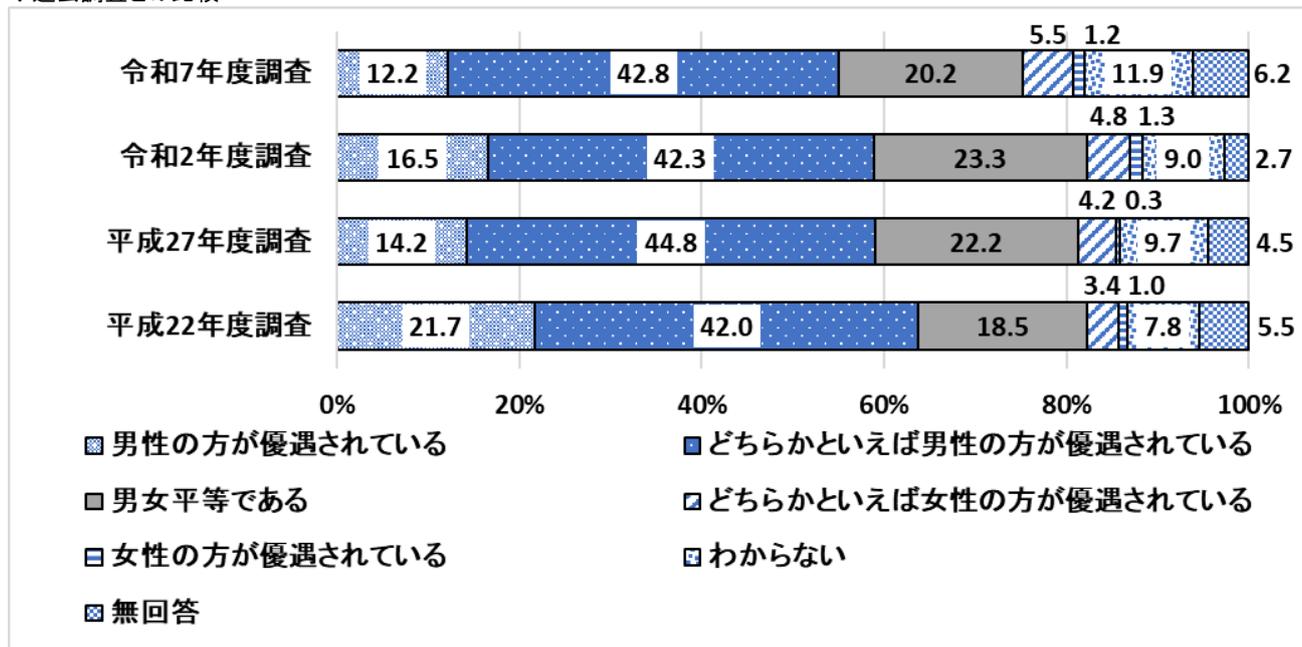
問2 男女は平等になっていると思いますか。次のA～Gそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

### C 職場

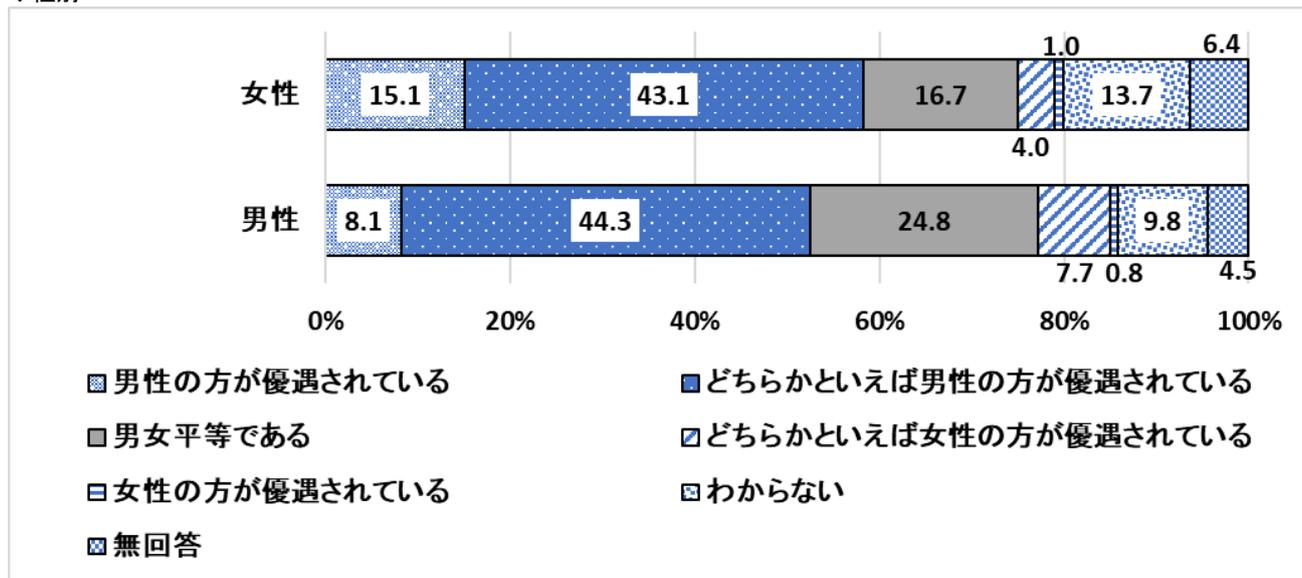
●「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は55.0%となっている。

●性別では、「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は女性58.2%、男性52.4%で5.8ポイントの差となっている。

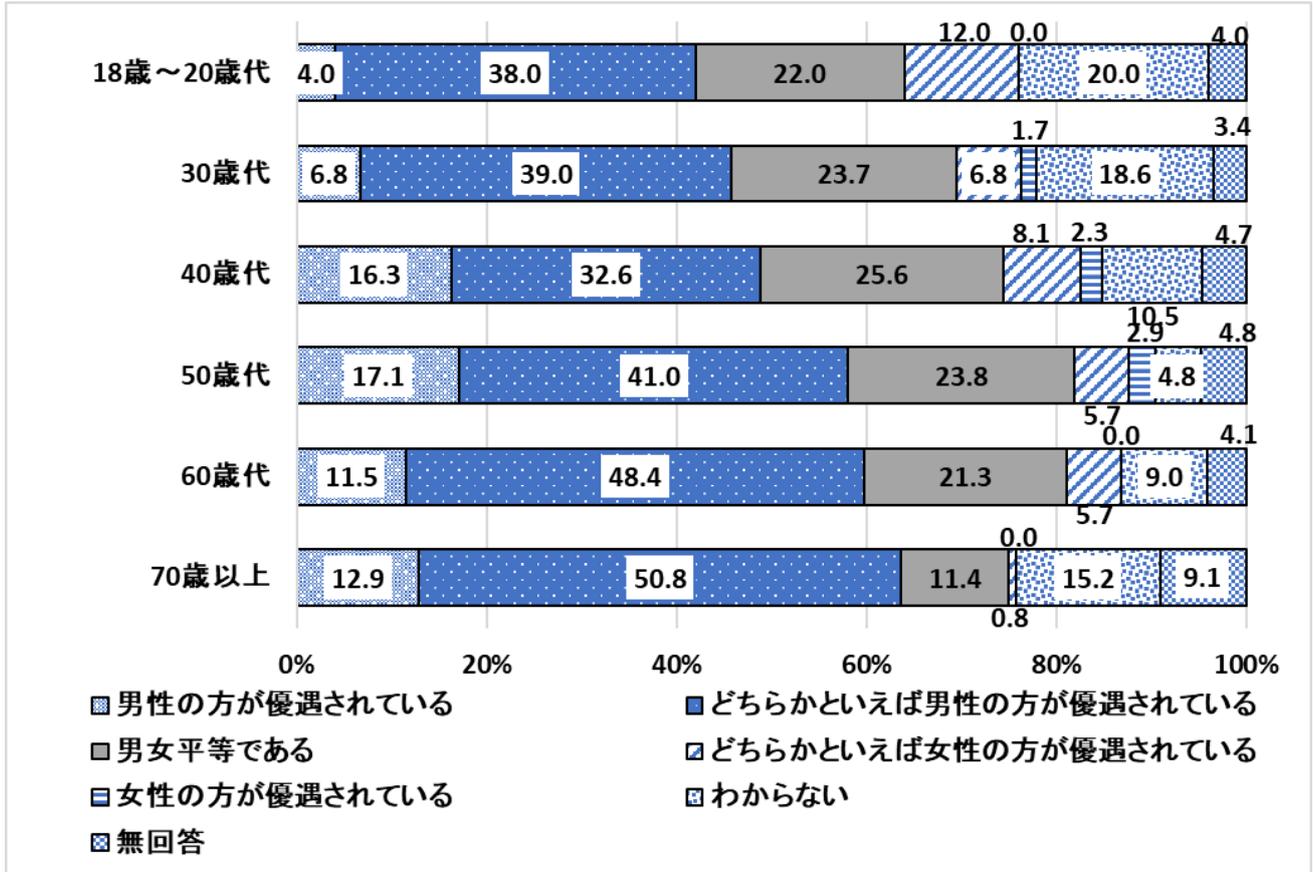
#### ◆過去調査との比較



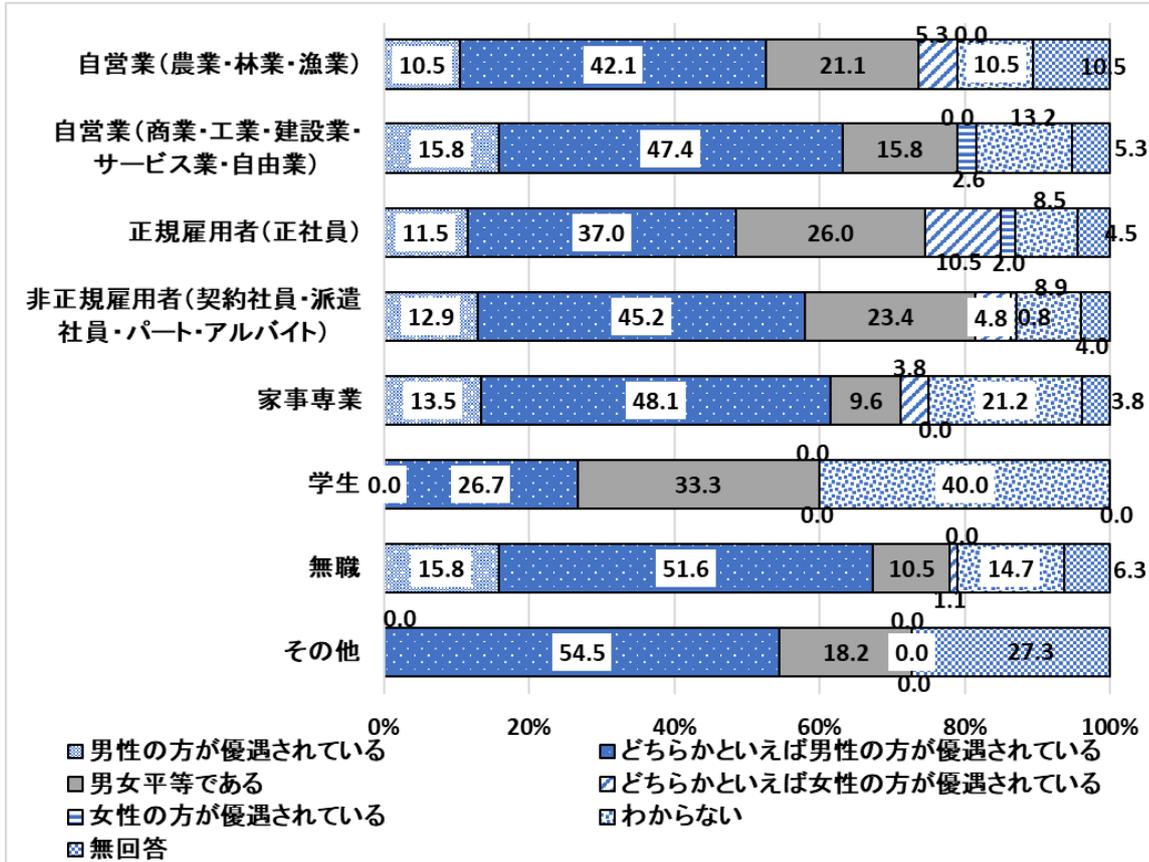
#### ◆性別



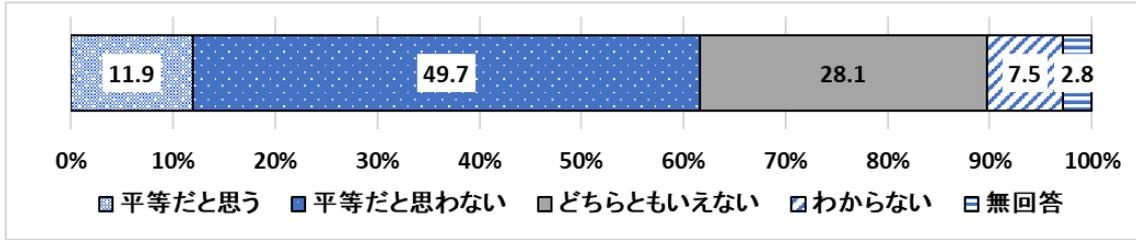
◆年代別



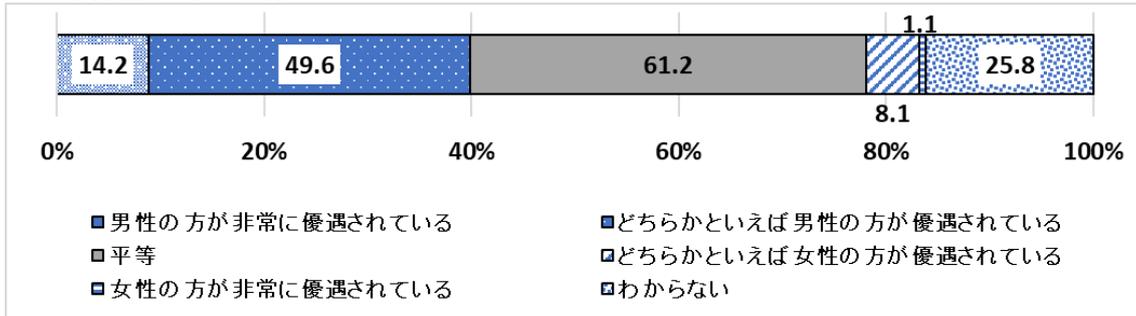
◆職業別



◆県調査(令和6年度)



◆内閣府調査(令和6年度)

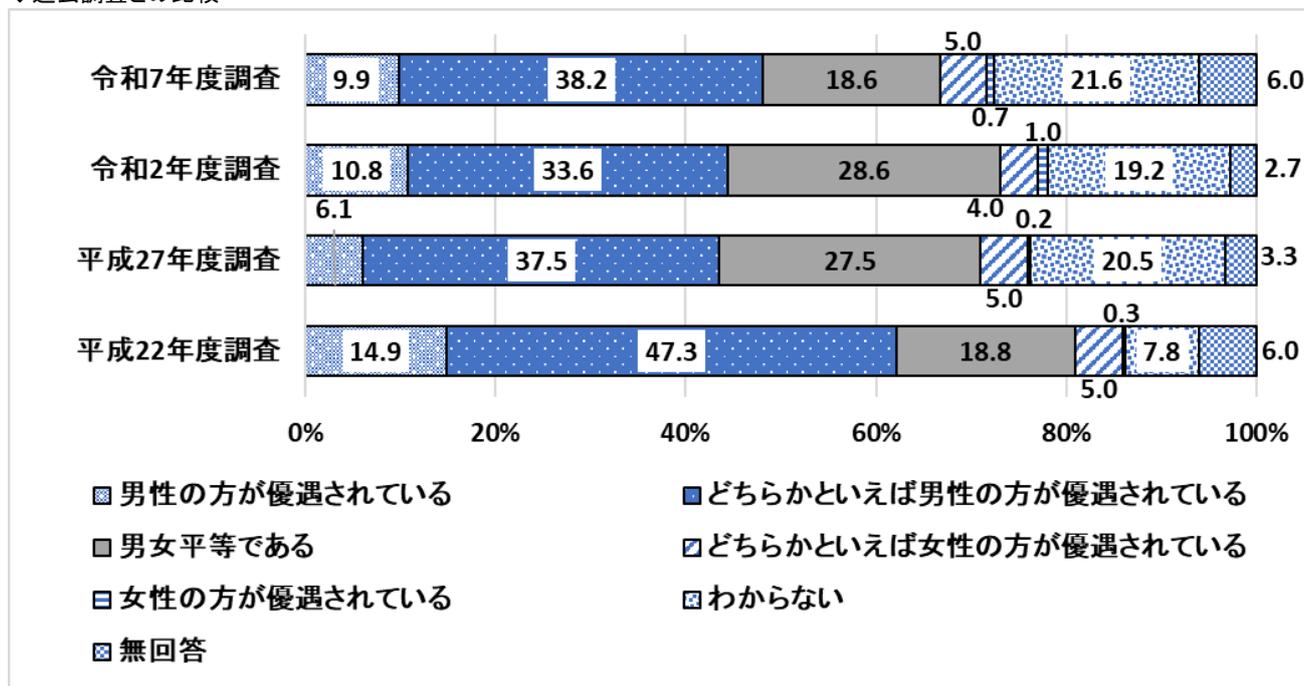


問2 男女は平等になっていると思いますか。次のA～Gそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

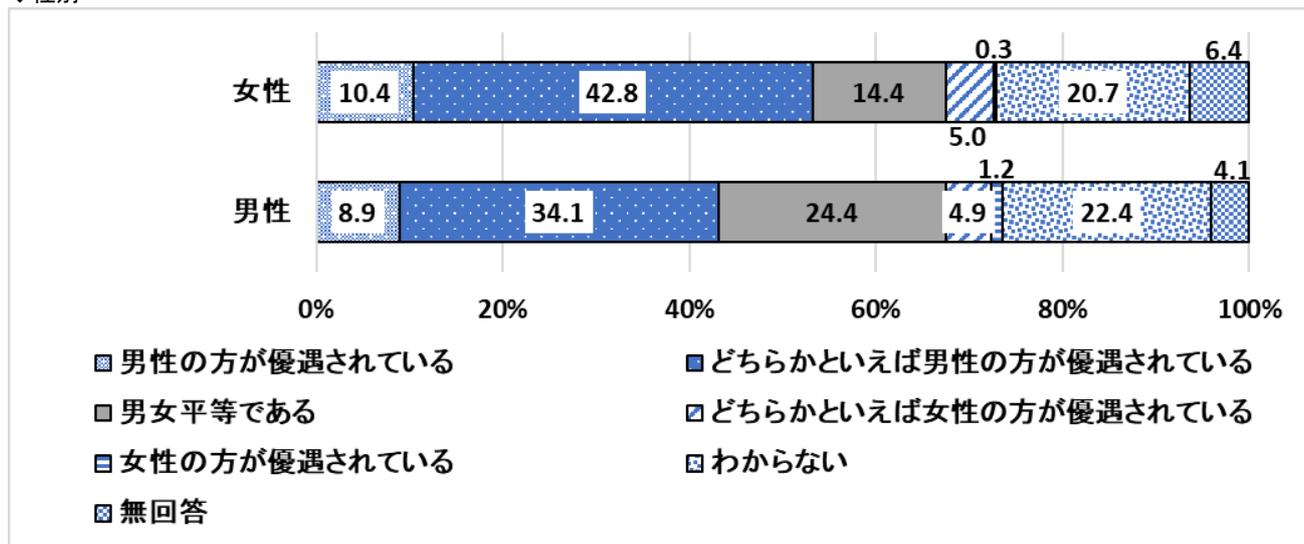
D 地域活動の場(自治会やNPOなど)

- 「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は48.1%となっている。
- 性別では、「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は女性53.2%、男性43.0%で10.2ポイントの差となっている。
- 年代別では、40歳代以下の年代で「わからない」と回答した割合が高くなっている。

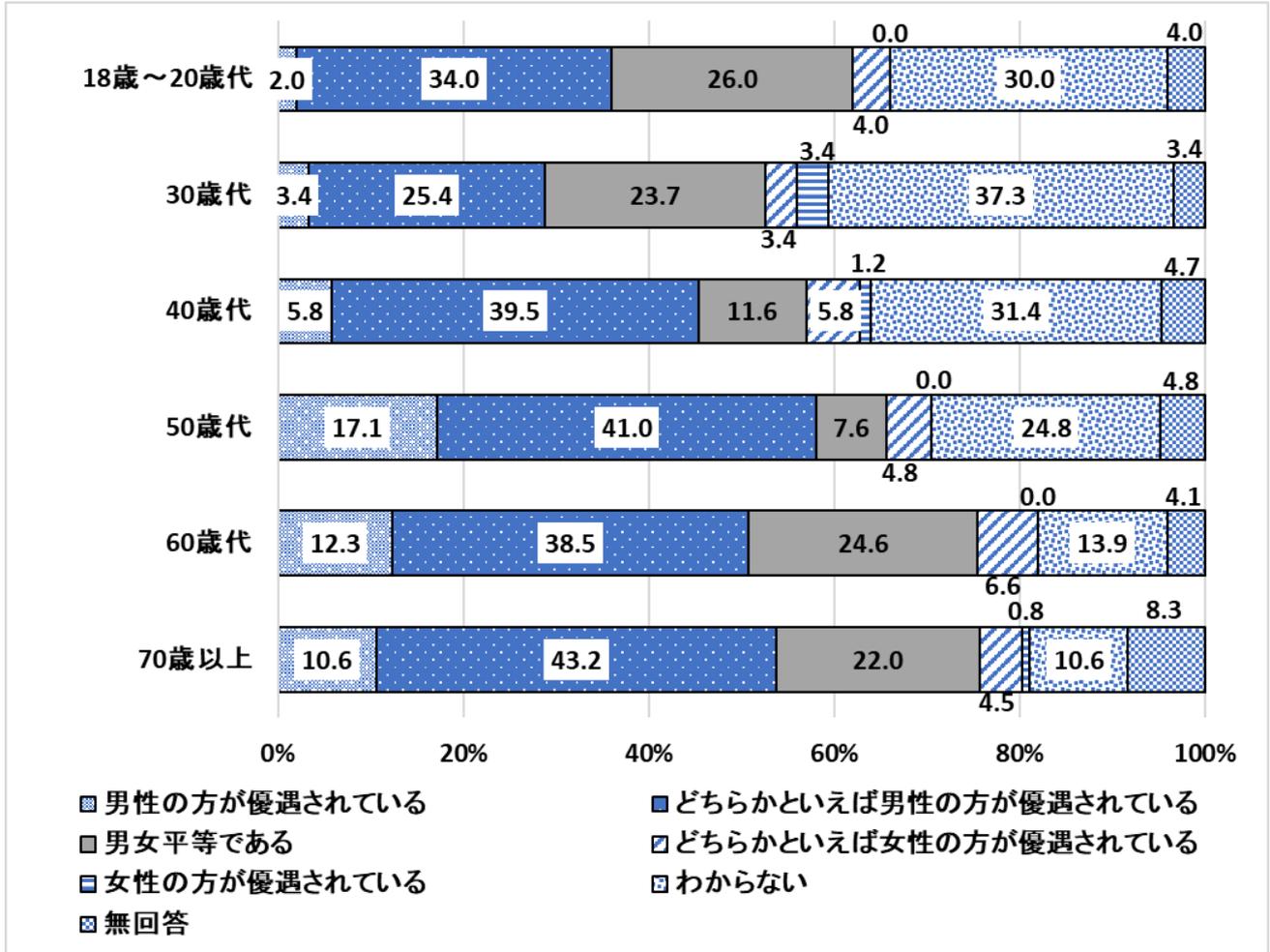
◆過去調査との比較



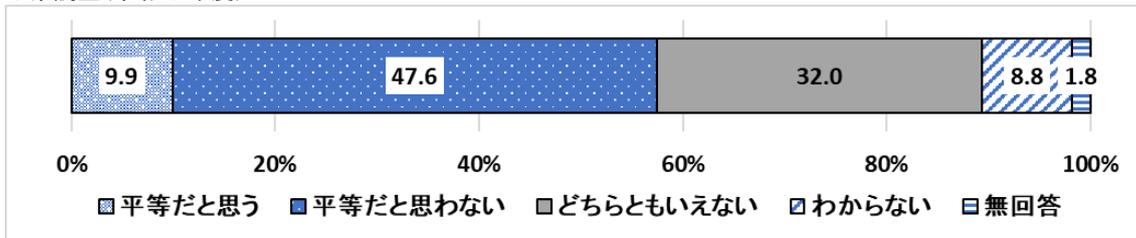
◆性別



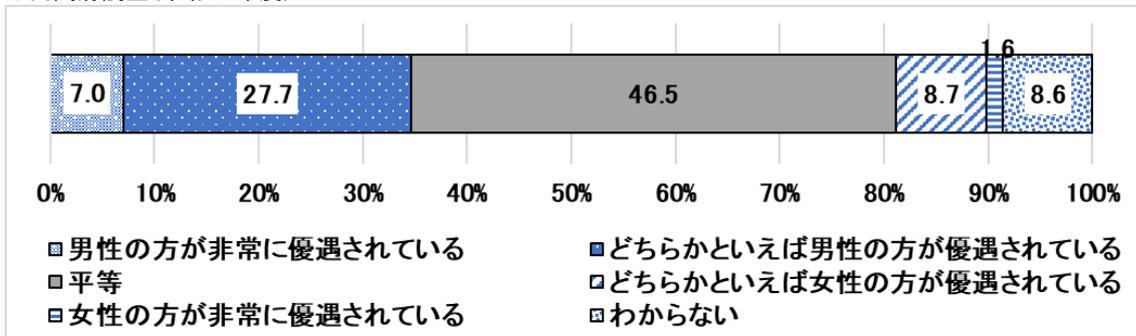
◆年代別



◆県調査(令和6年度)



◆内閣府調査(令和6年度)



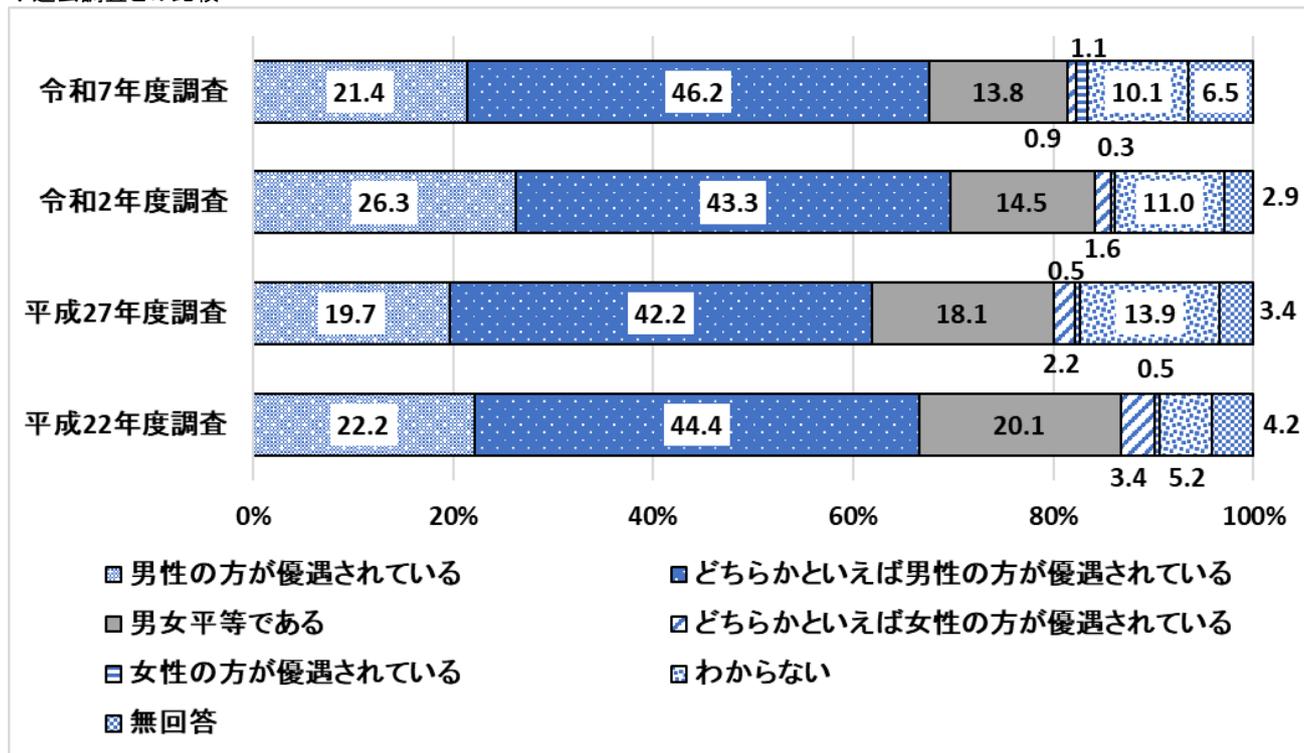
問2 男女は平等になっていると思いますか。次のA～Gそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

### E 政治の場、法律や制度の上

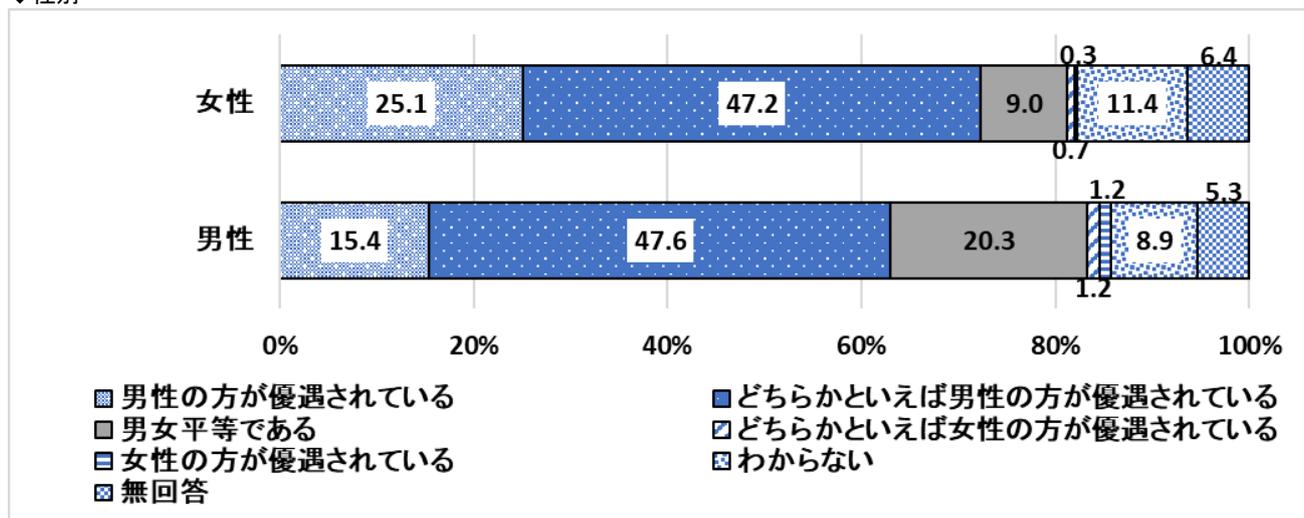
●「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は67.6%となっている。

●性別では、「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は女性72.3%、男性63.0%で9.3ポイントの差となっている。

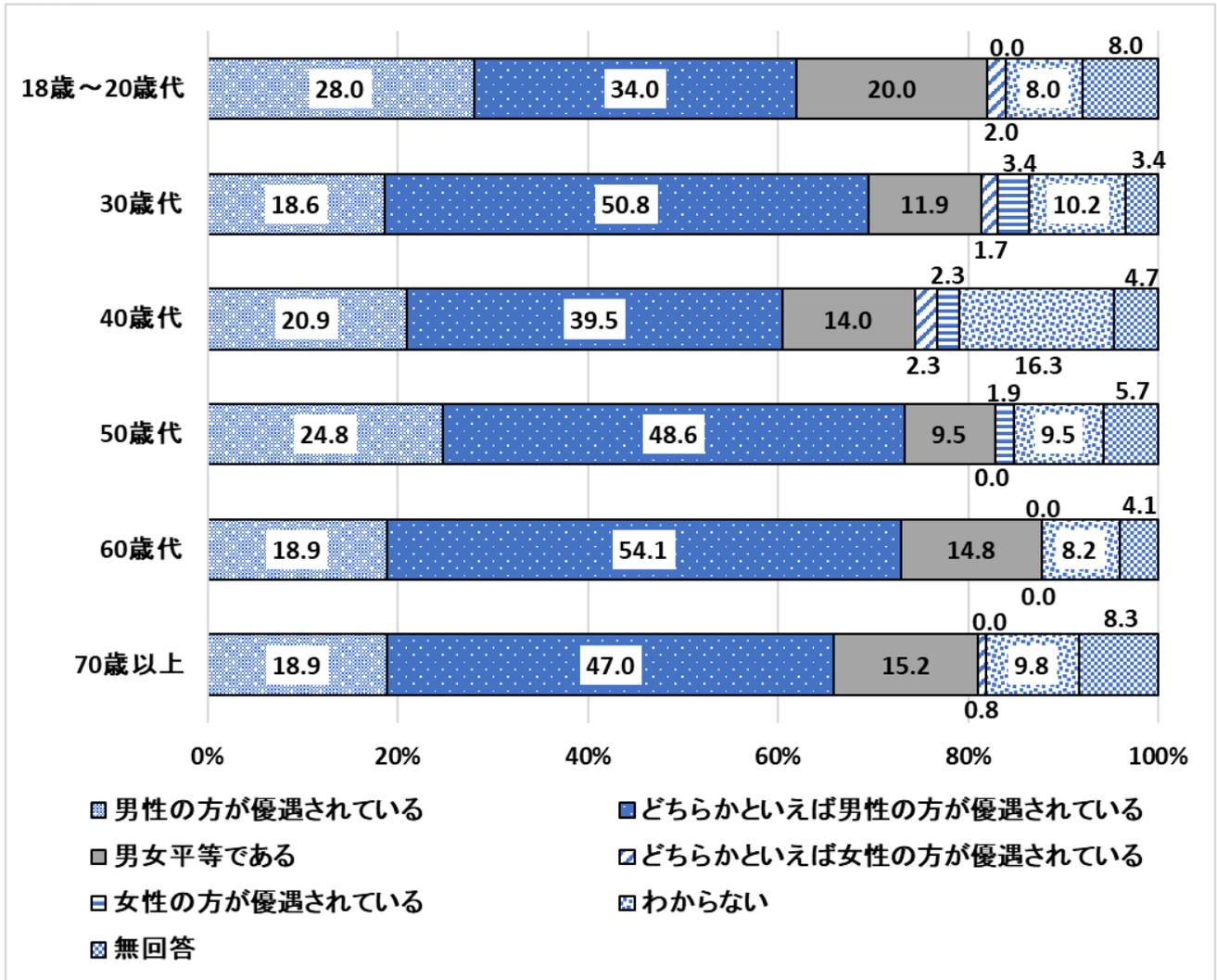
#### ◆過去調査との比較



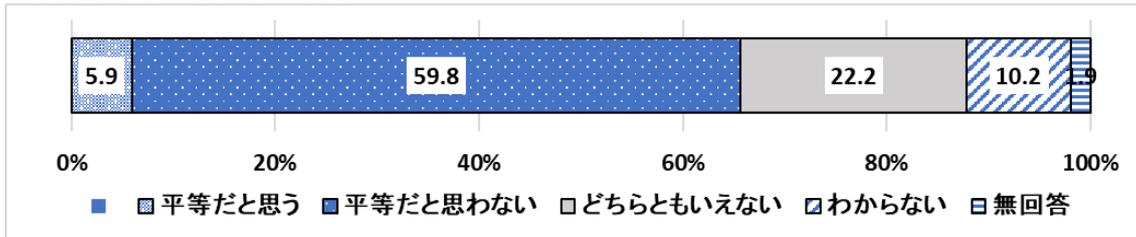
#### ◆性別



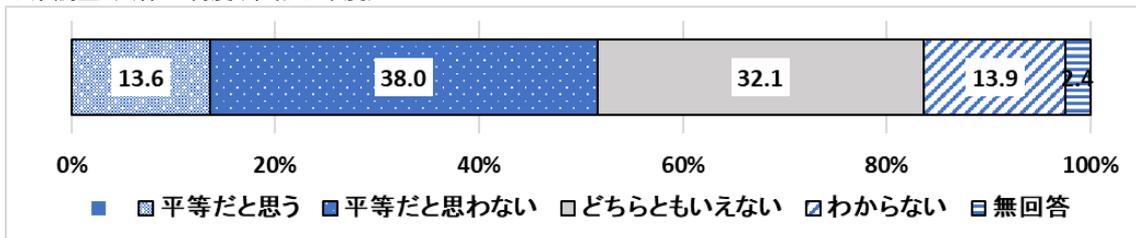
◆年代別



◆県調査:政治の場(令和6年度)



◆県調査:法律や制度(令和6年度)

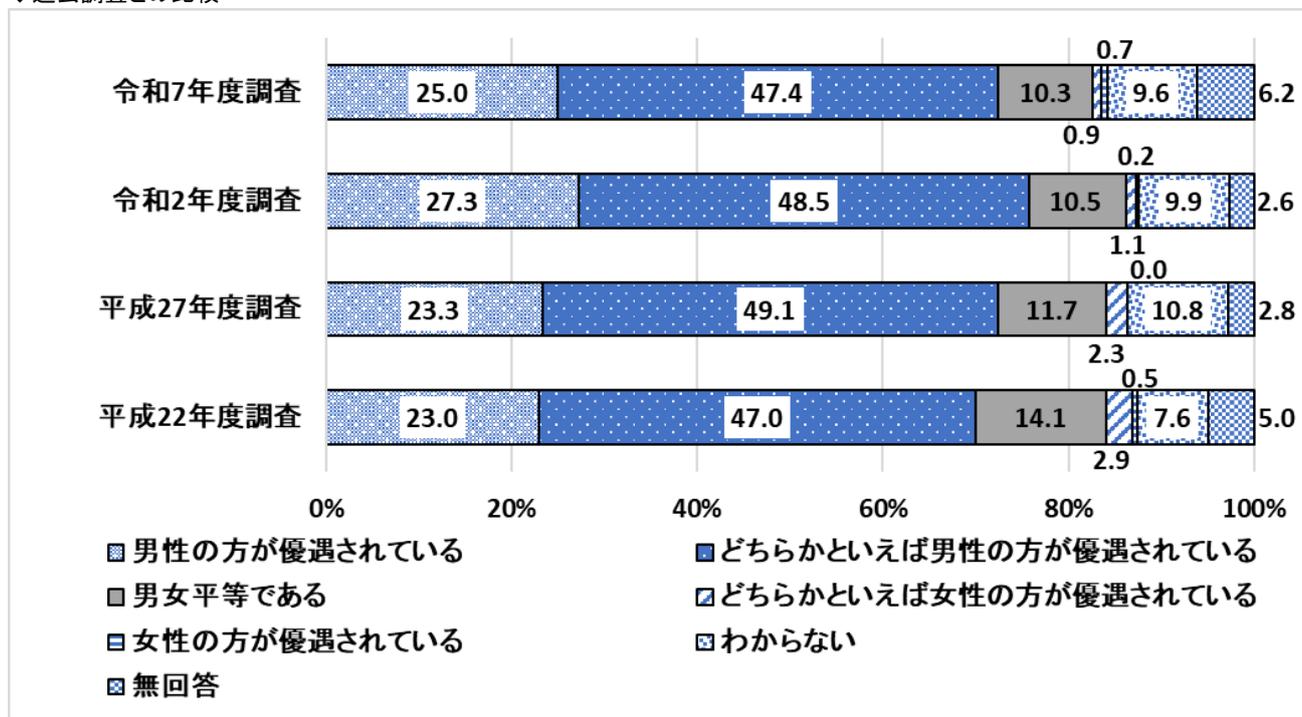


問2 男女は平等になっていると思いますか。次のA～Gそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

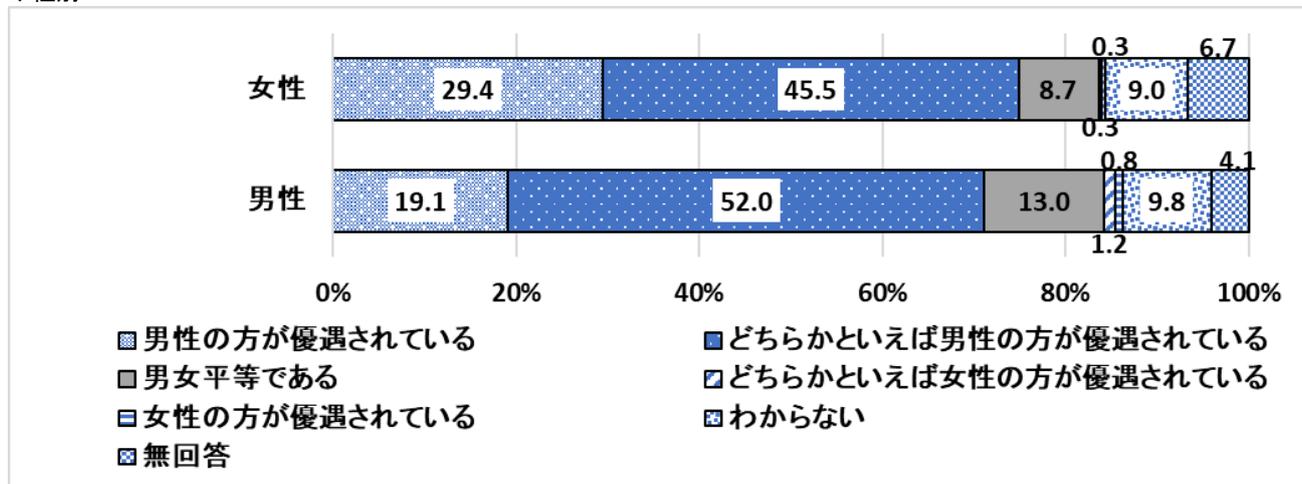
### F 社会通念・慣習・しきたり

- 「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は72.4%となっており、全分野の中で一番高い割合となっている。
- 性別では、「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は女性74.9%、男性71.1%で、3.8ポイントの差となっている。
- 年代別では、「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は18歳～20歳代で54.0%と各年代の中で一番低くなっている。

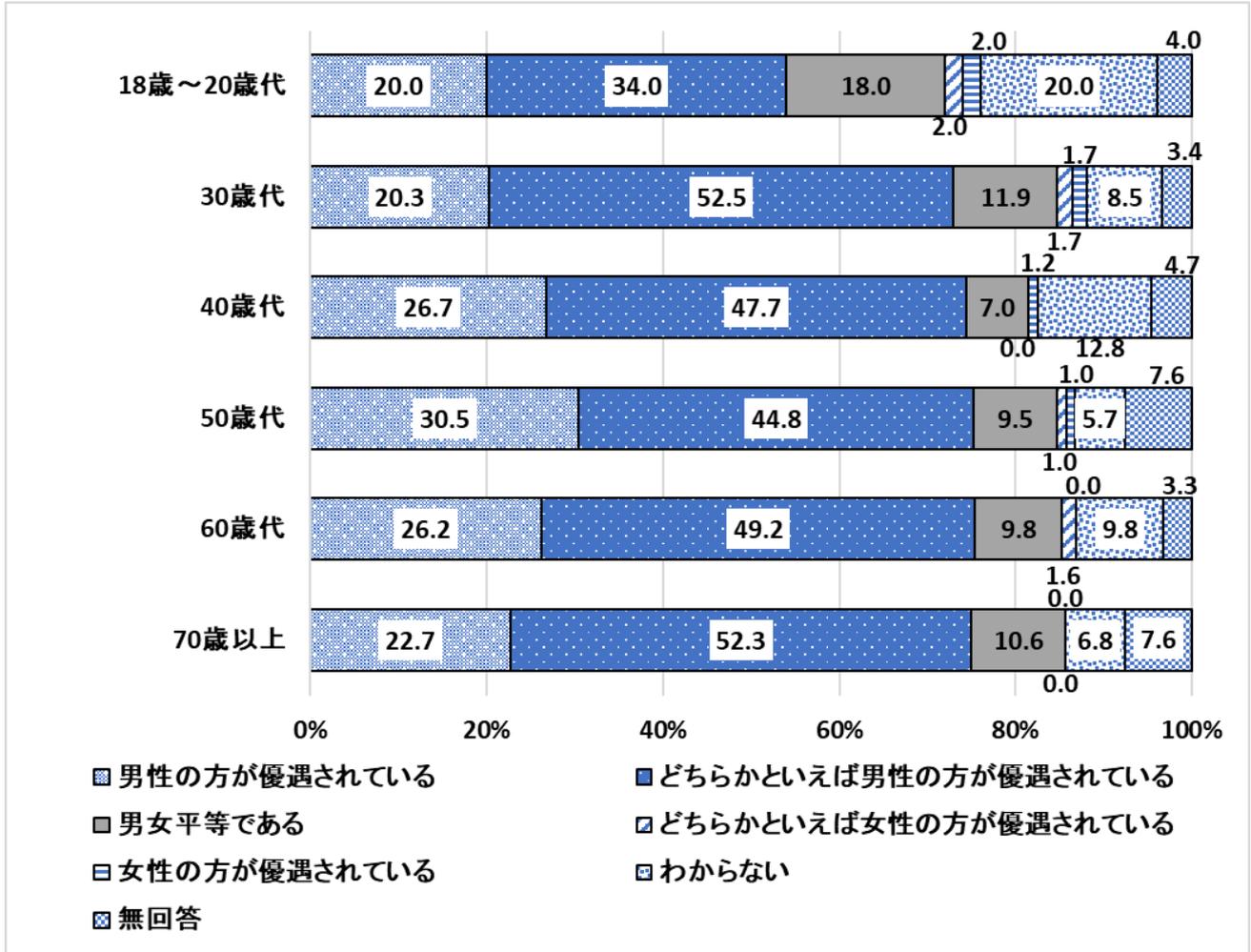
#### ◆過去調査との比較



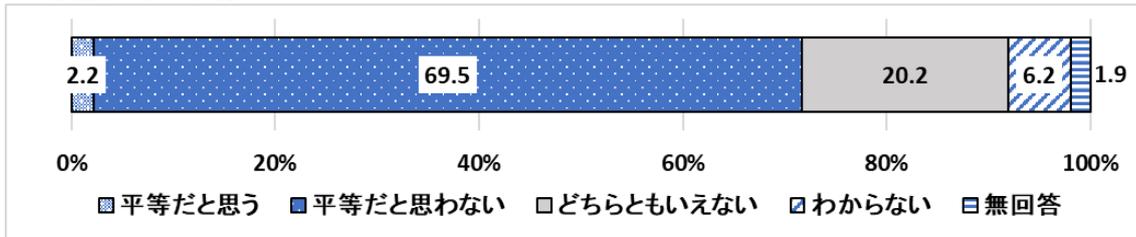
#### ◆性別



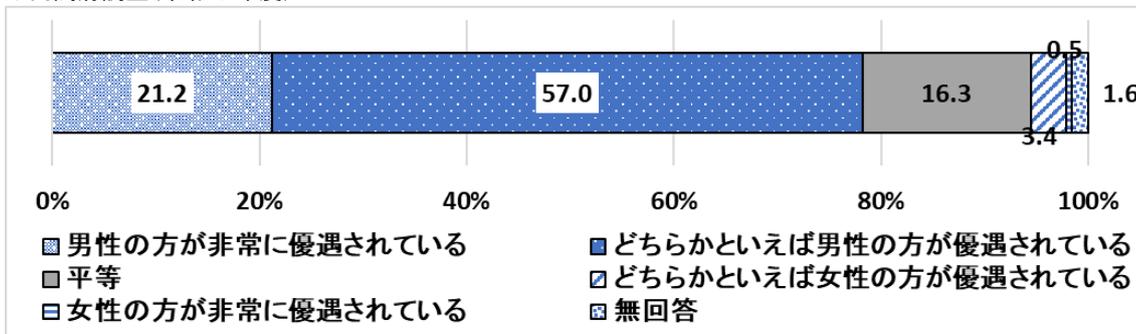
◆年代別



◆県調査(令和6年度)



◆内閣府調査(令和6年度)

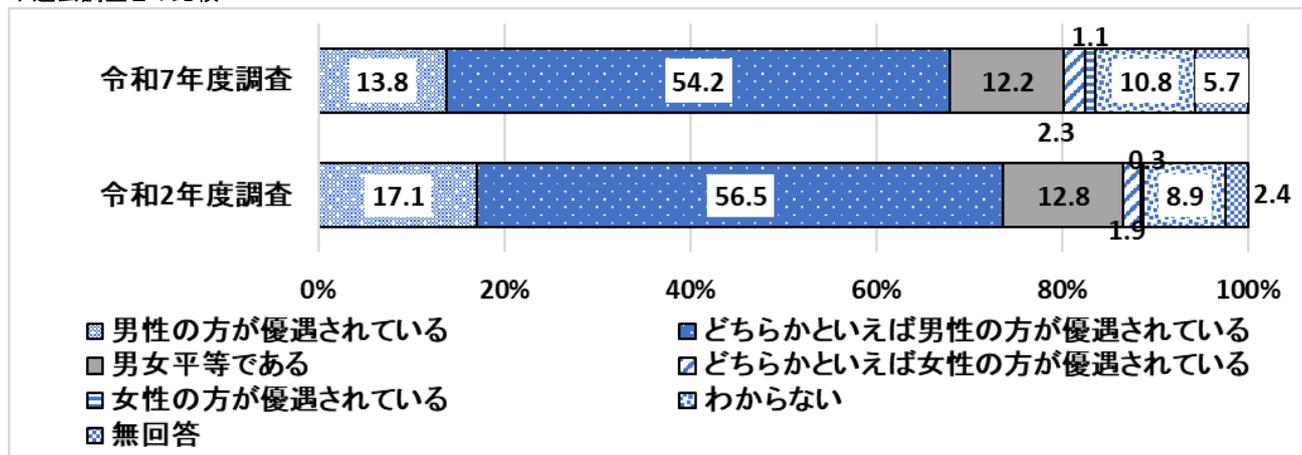


問2 男女は平等になっていると思いますか。次のA～Gそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

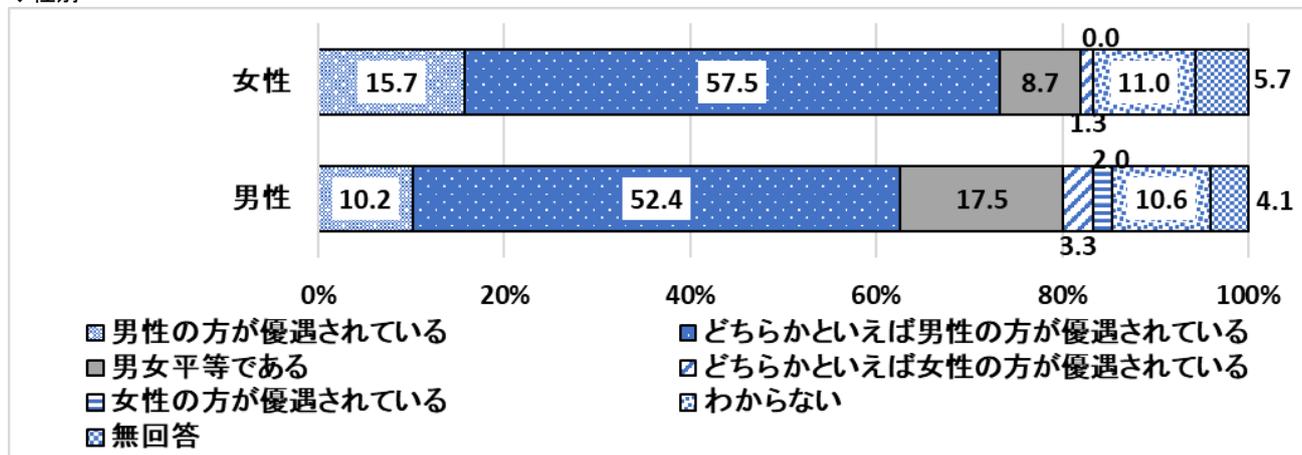
### G 社会全体として

- 「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は68.0%となっている。
- 性別では、「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は女性73.2%、男性62.6%で、10.6ポイントの差となっている。
- 年代別では、「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は年代が上がるにつれ、増加傾向が見てとれる。

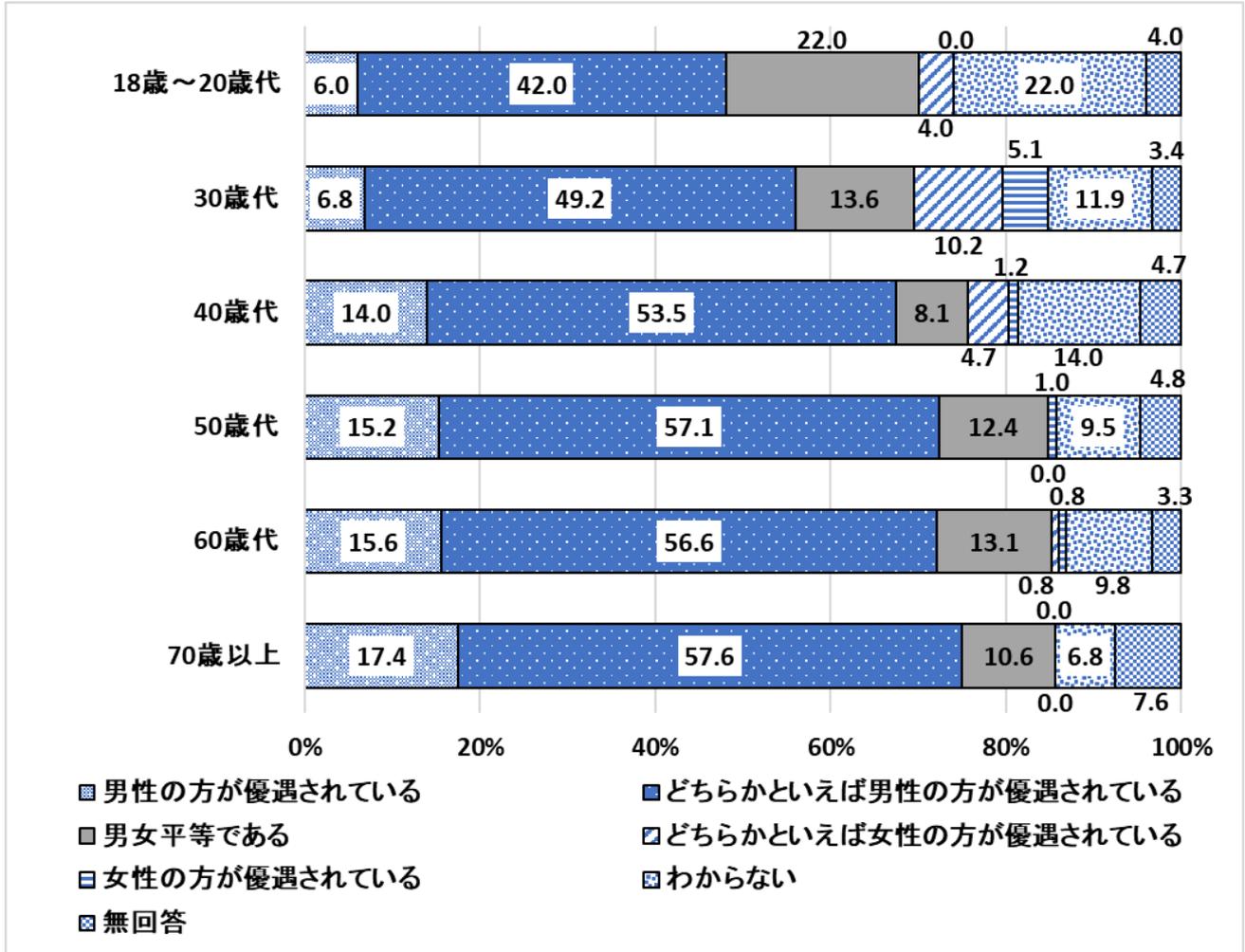
#### ◆過去調査との比較



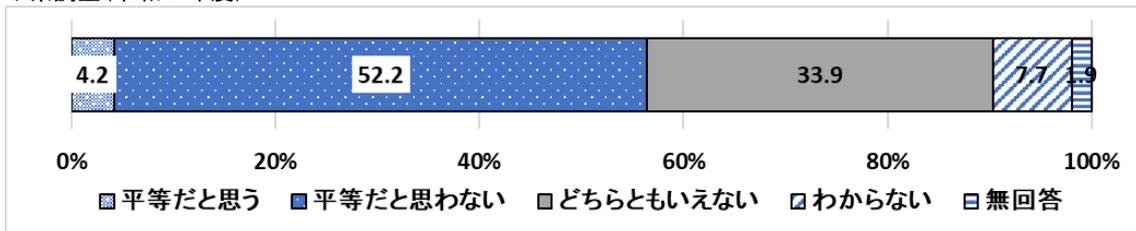
#### ◆性別



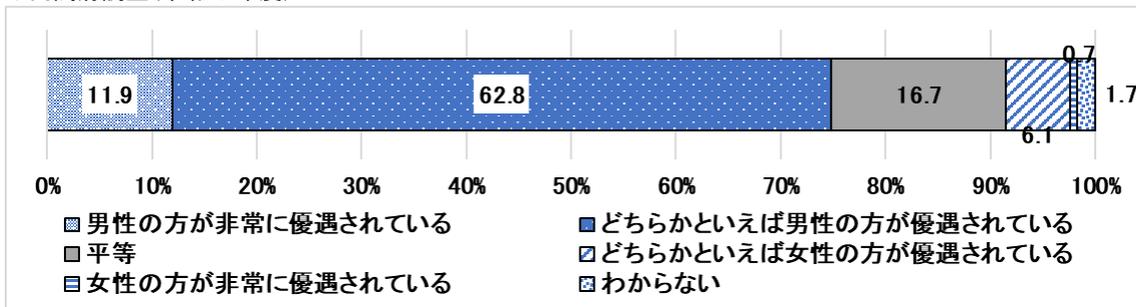
◆年代別



◆県調査(令和6年度)



◆内閣府調査(令和6年度)



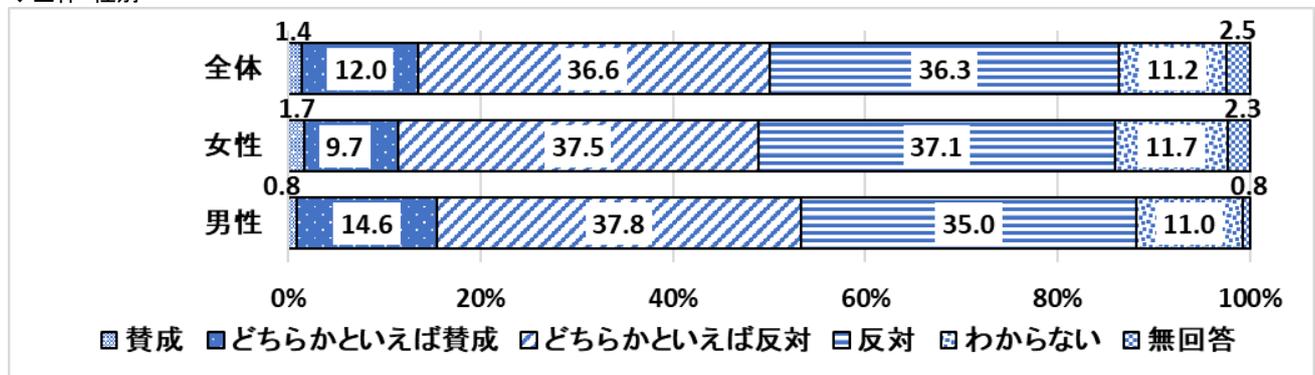
### 3 性別役割分担意識について

#### 性別役割分担意識 「反対」「どちらかといえば反対」が7割超

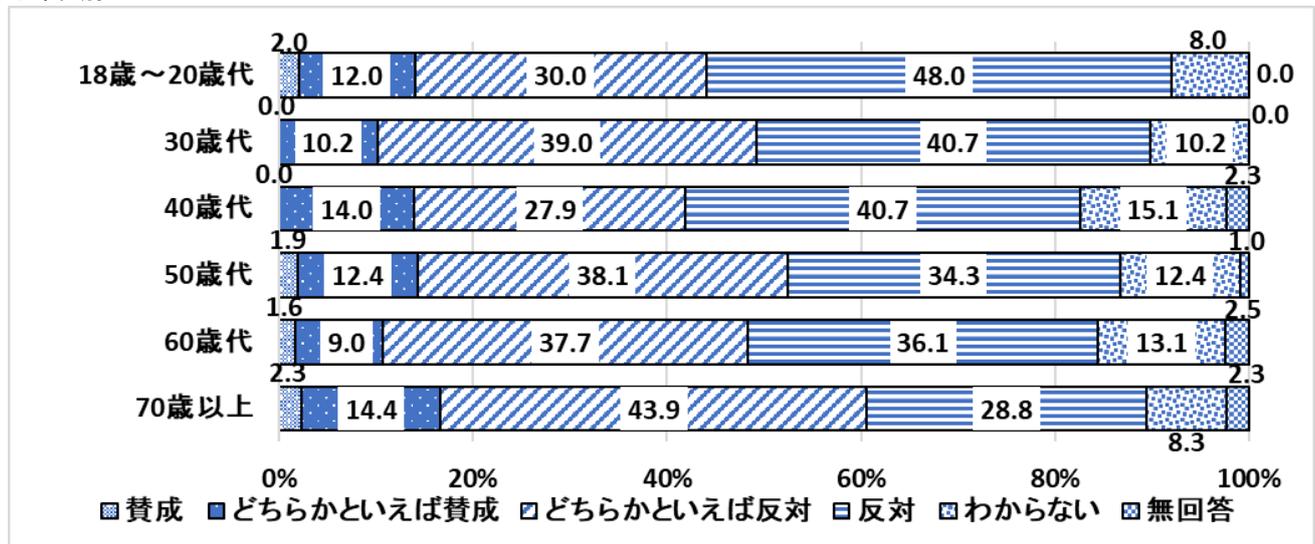
問3 「男は仕事、女は家庭」というような、性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。

- 「反対」または「どちらかといえば反対」とする割合は、72.9%となっている。
- 性別では、「反対」または「どちらかといえば反対」とする割合は、女性 74.6%、男性 72.8%となっている。
- 年代別では、18歳～20歳代の「反対」または「どちらかといえば反対」とする割合が86.0%と高くなっている。
- 性・年代別では、「賛成」または「どちらかといえば賛成」とする割合は、男性の50歳代と70歳以上で比較的高くなっている。

#### ◆全体・性別



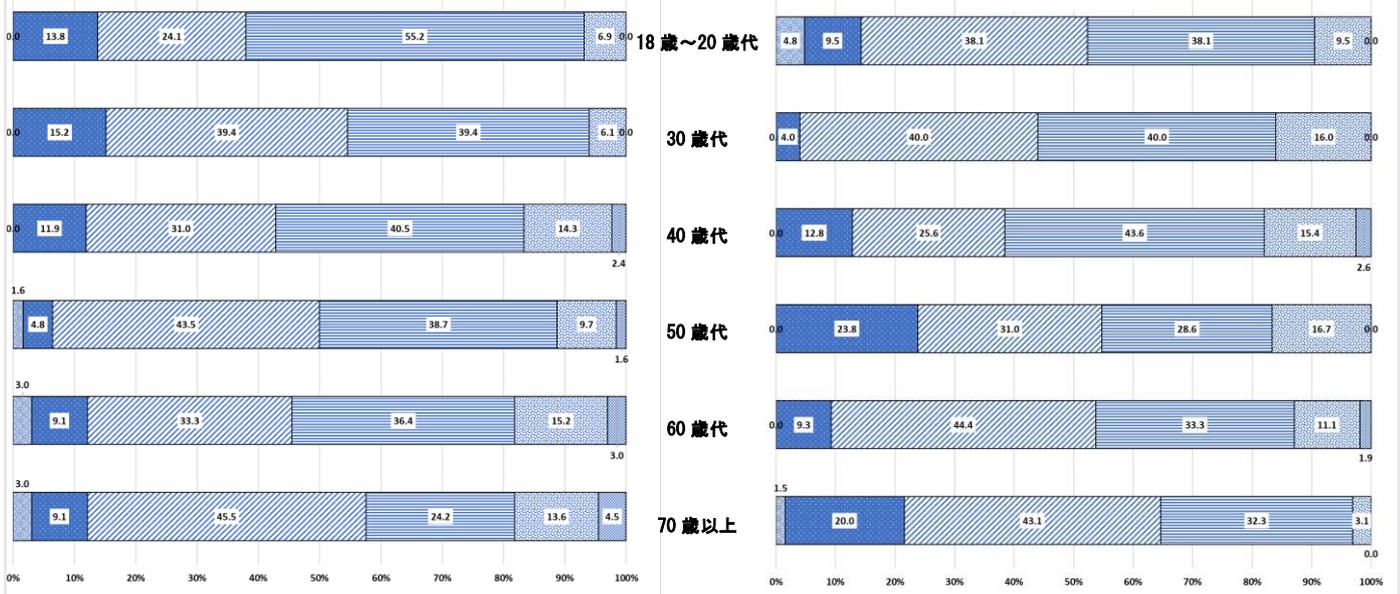
#### ◆年代別



◆性・年代別

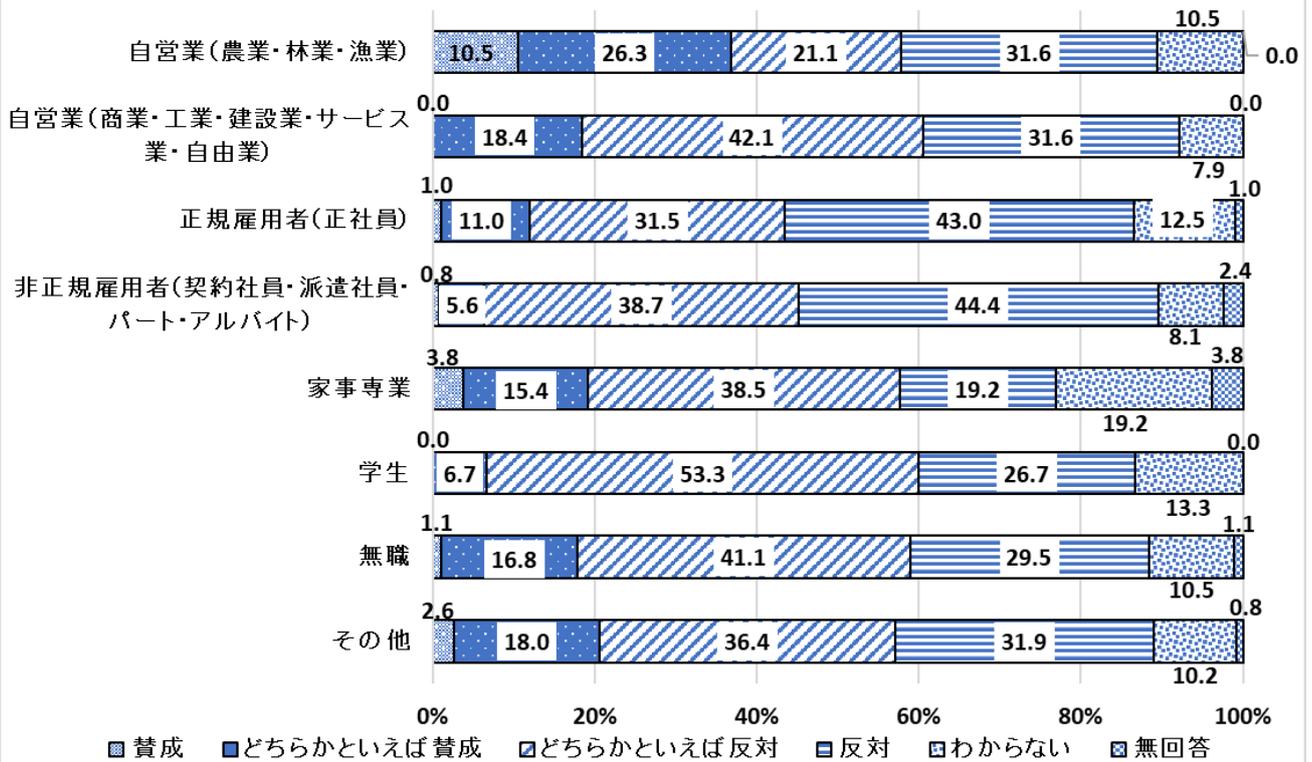
【女性】

【男性】



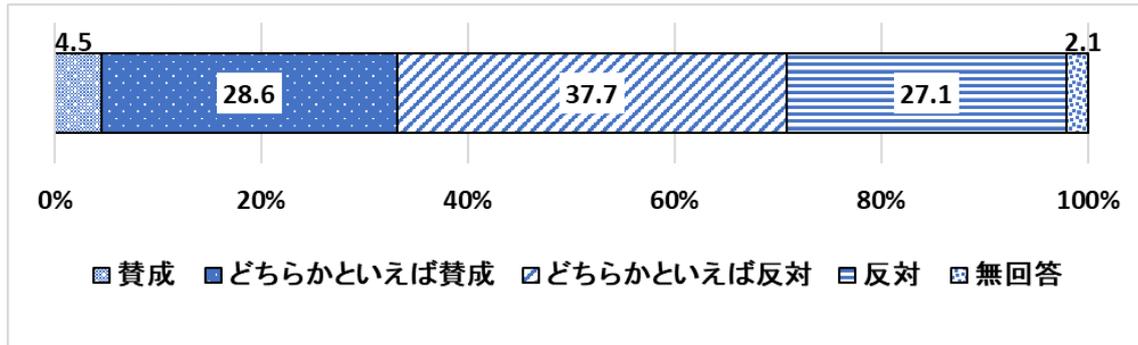
■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ■ どちらかといえば反対 ■ 反対 ■ わからない ■ 無回答

◆職業別



■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ■ どちらかといえば反対 ■ 反対 ■ わからない ■ 無回答

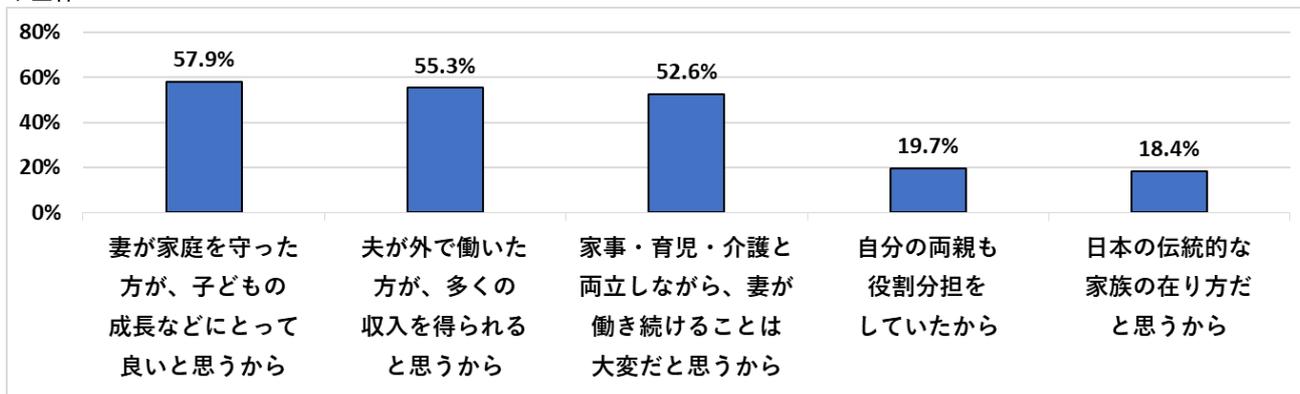
◆内閣府調査(令和6年度)



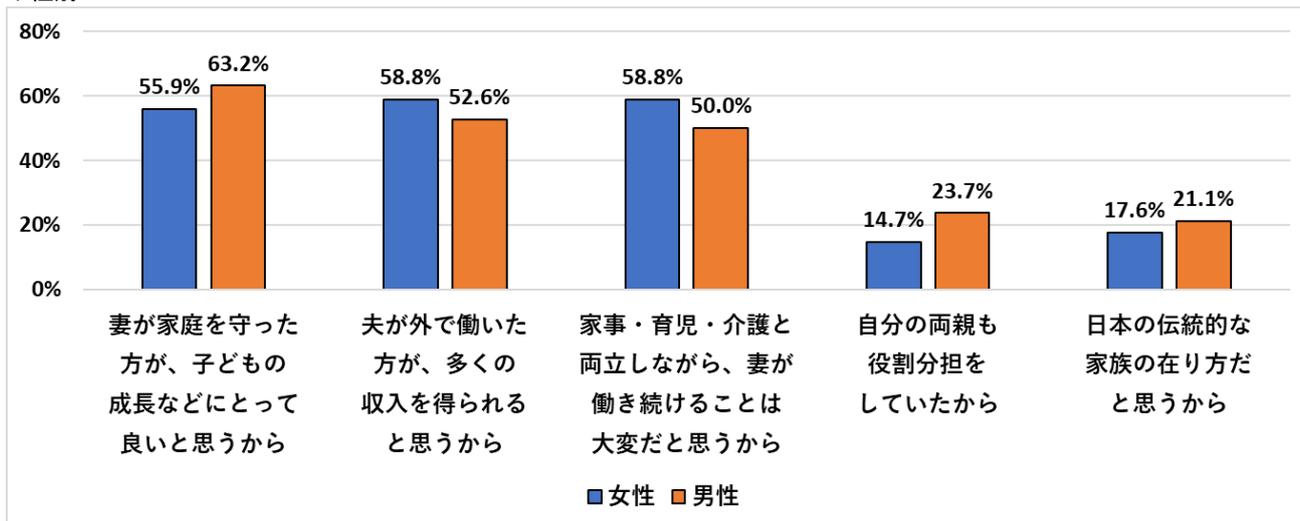
問3-1 問3で「①賛成」または「②どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。そう思う理由は何ですか。次の中から、あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

●「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が 57.9%と最も高く、以下、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(55.3%)、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」(52.6%)の順となっている。

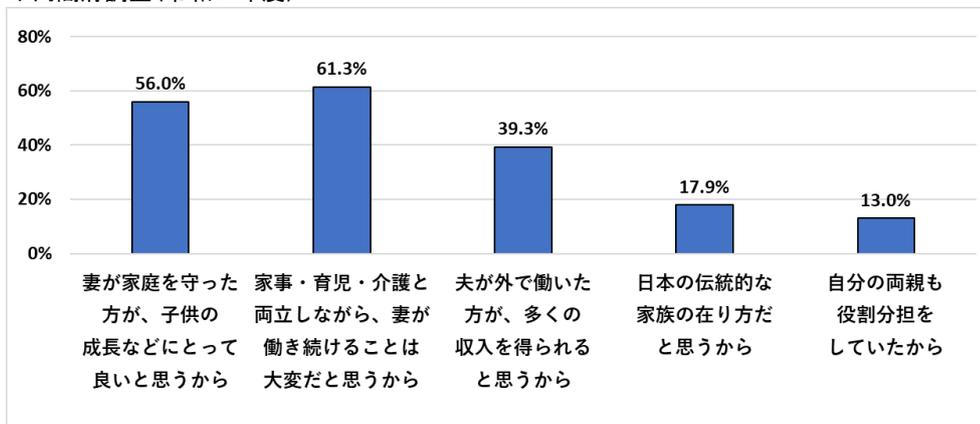
◆全体



◆性別



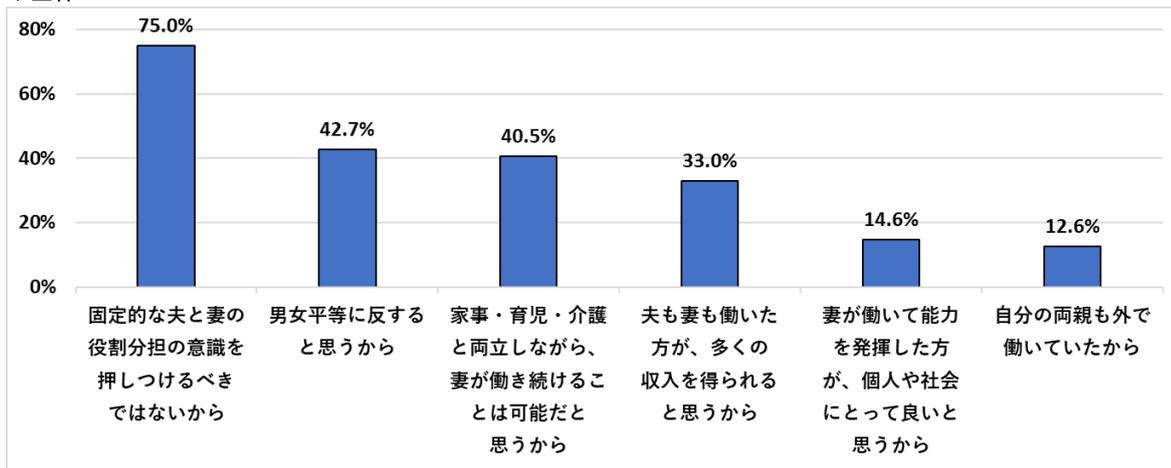
◆内閣府調査(令和6年度)



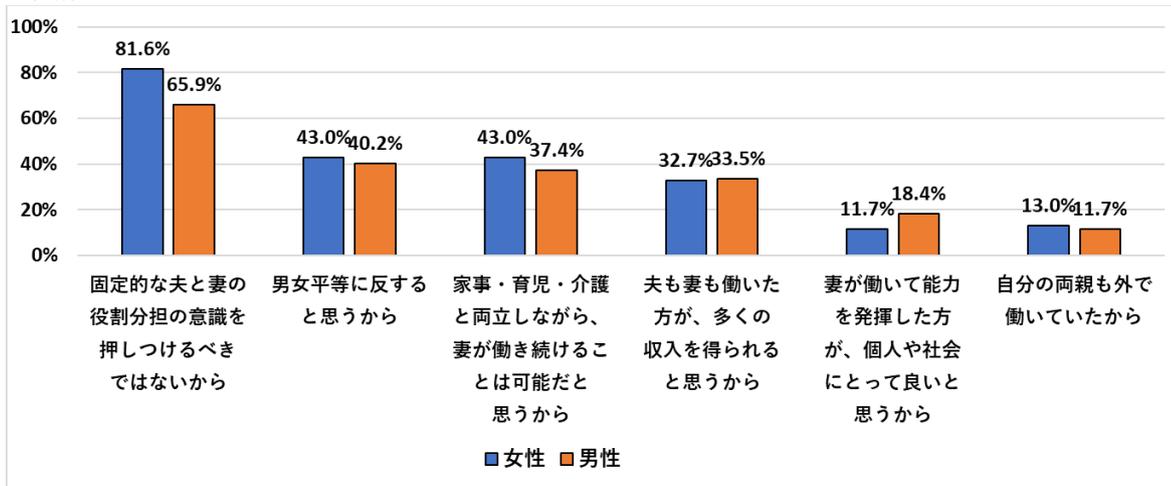
問3-2 問3で「③どちらかといえば反対」または「④反対」と答えた方におたずねします。そう思う理由は何ですか。次の中から、あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

●「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が75.0%と最も高く、以下、「男女平等に反すると思うから」(42.7%)、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから」(40.5%)、「夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(33.0%)の順となっている。

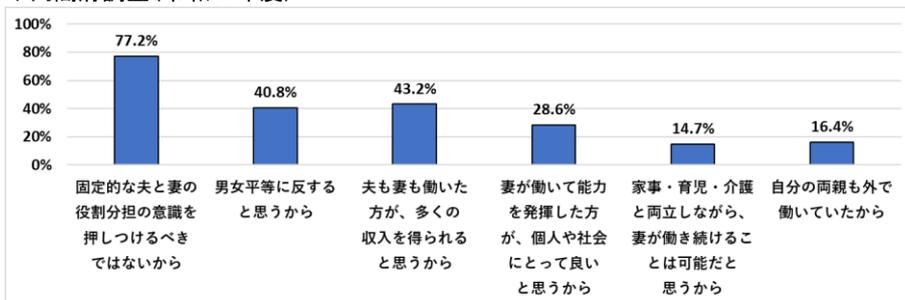
◆全体



◆性別



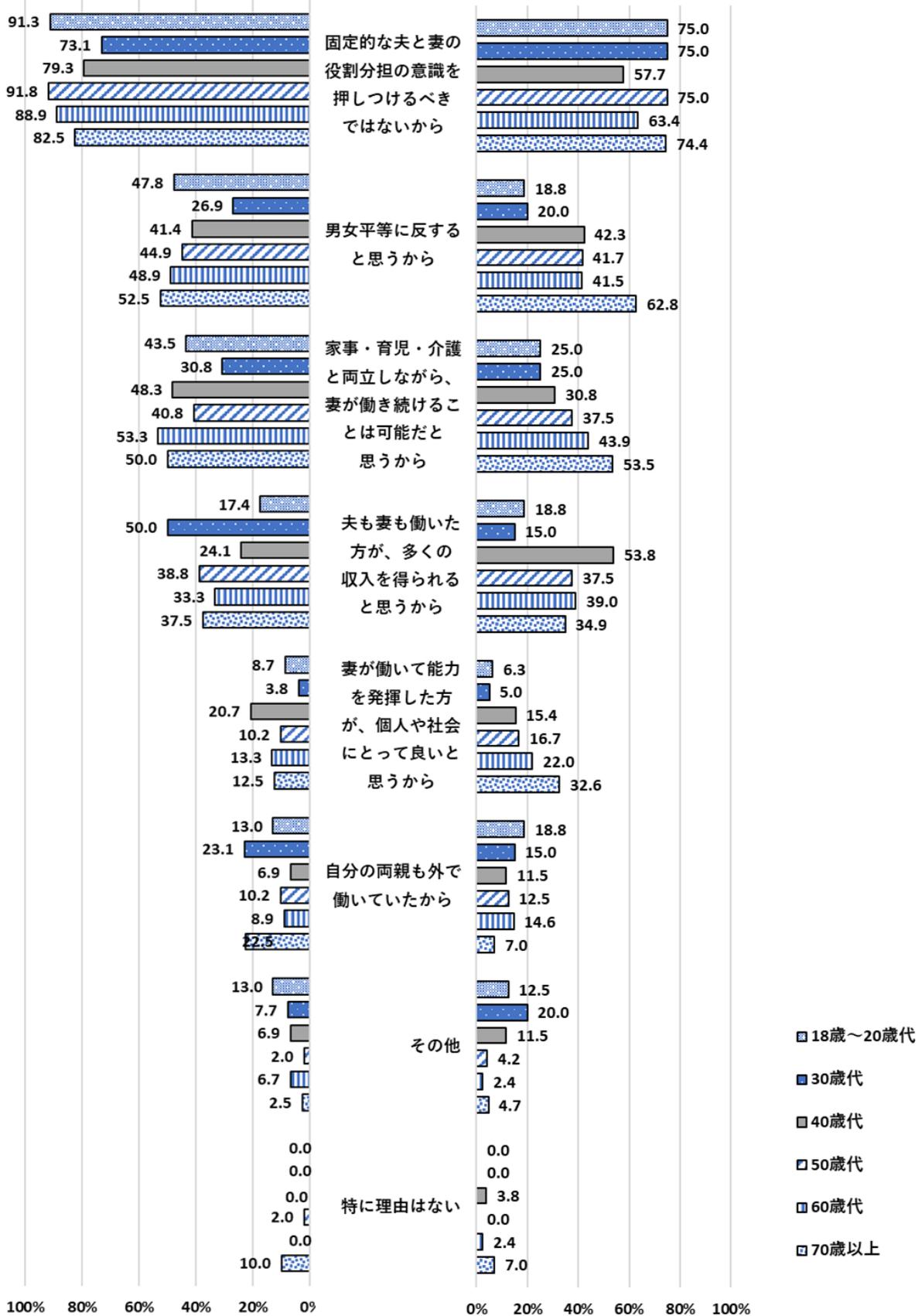
◆内閣府調査(令和6年度)



◆性・年代別

【女性】

【男性】



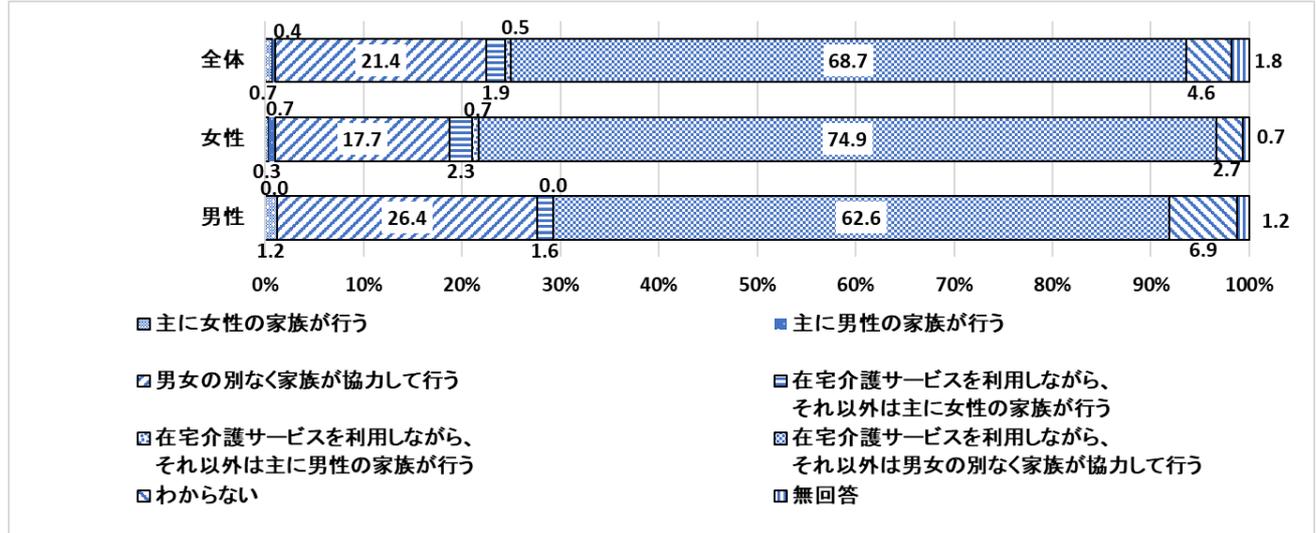
## 在宅介護を誰が行うか 「サービスを利用しながら、家族が協力して行う」68.7%

### 問4 在宅介護の場合、誰が行うのが良いと思いますか。

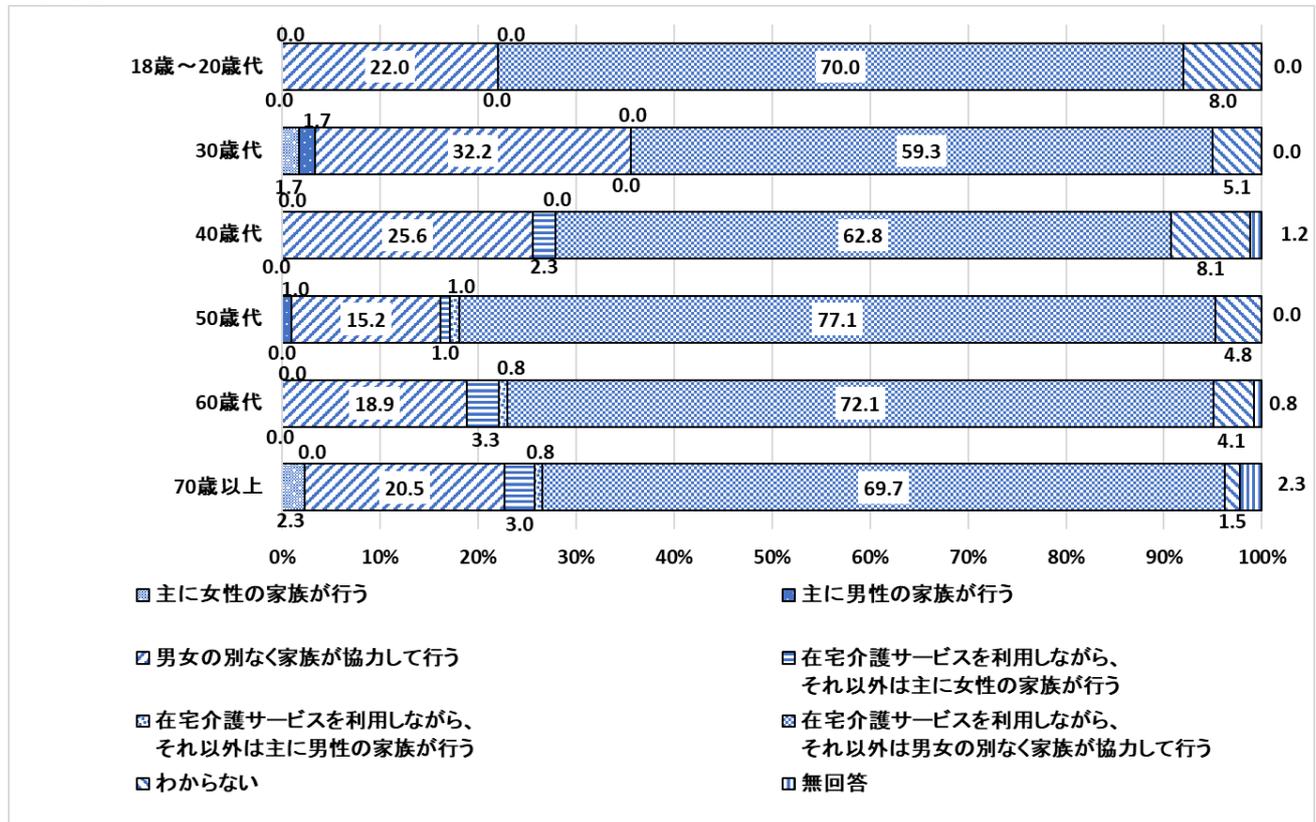
●「在宅介護サービスを利用しながら、それ以外は男女の別なく家族が協力して行う」割合が68.7%と高く、「男女の別なく家族が協力して行う」割合が21.4%となっている。

●年代別でも、「在宅介護サービスを利用しながら、それ以外は男女の別なく家族が協力して行う」割合が全ての年代で6～7割と高くなっている。

#### ◆全体・性別



#### ◆年代別



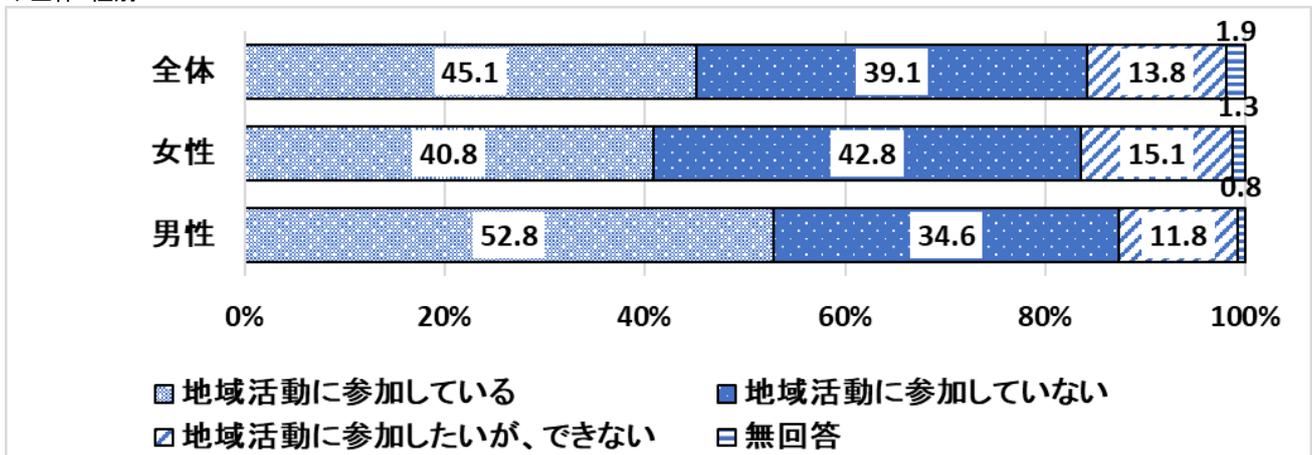
## 4 地域社会における活動について

### 地域活動の参加状況 「地域活動に参加している」45.1%

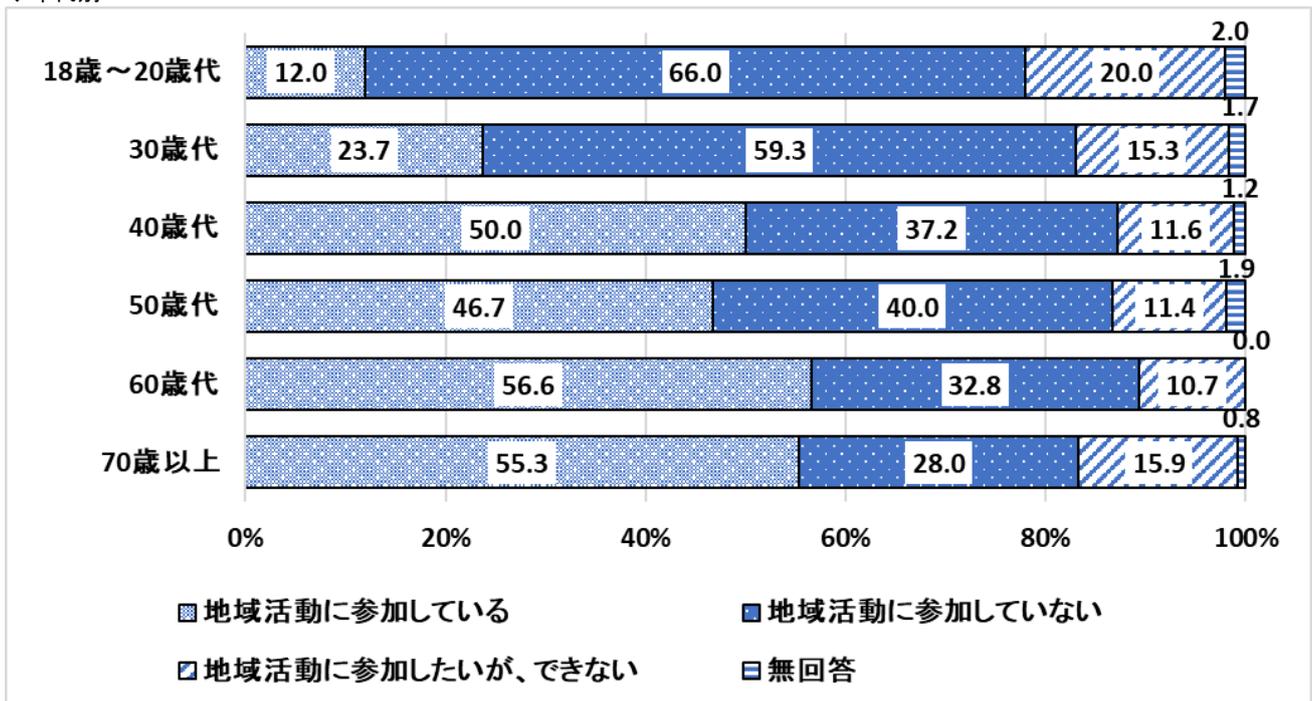
問5 地域活動の参加状況についておたずねします。あなたはどれにあてはまりますか。

- 「地域活動に参加している」割合が 45.1%となっており、性別では、女性が 40.8%、男性が 52.8%で 12.0 ポイントの差となっている。
- 年代別では、「地域活動に参加している」割合が 40 歳代以上で半数程度だが、30 歳代では 23.7%と下がり、18 歳～20 歳代では 12.0%と大幅に下がる。
- 職業別では、学生が「地域活動に参加している」割合が 20.0%、「地域活動に参加していない」割合が 60.0%となっている。
- 家族構成別では、「地域活動に参加している」割合が一世代世帯(夫婦のみ)で 51.9%と最も高く、単身世帯(含単身赴任)で 26.7%と最も低くなっている(その他除く)。

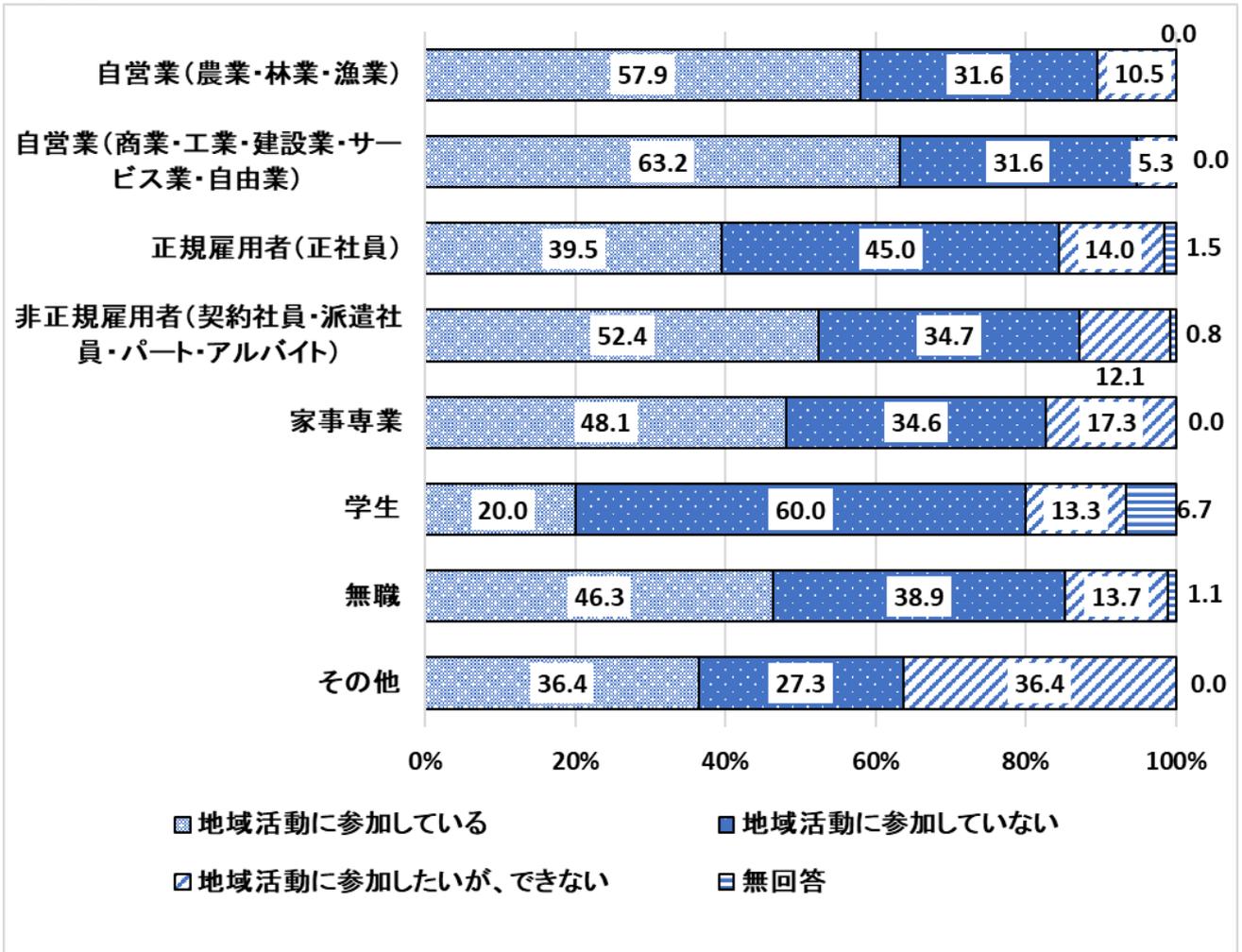
#### ◆全体・性別



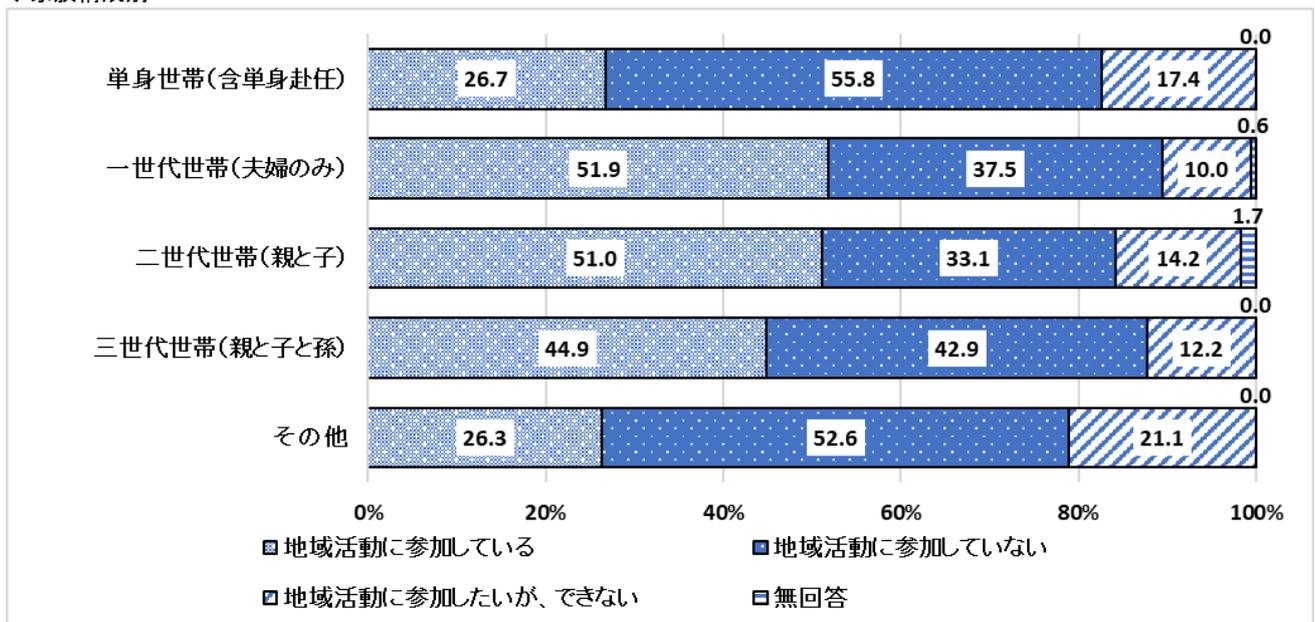
#### ◆年代別



◆職業別



◆家族構成別

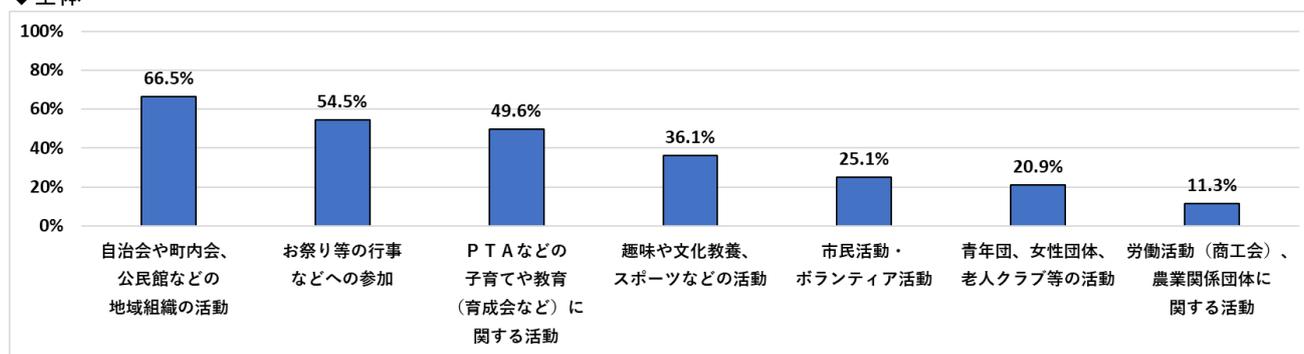


問5-1 あなたは次のような活動に参加したことはありますか。また、今後参加してみたいと思う活動はありますか。(それぞれあてはまるものの番号全てに○をお付けください)

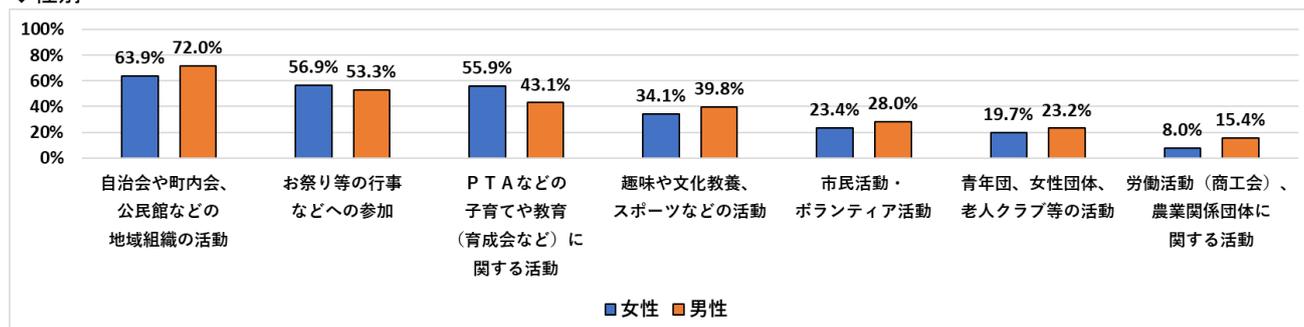
《参加したことのある活動》

●「自治会や町内会、公民館などの地域組織の活動」が 66.5%と最も高く、以下、「お祭り等の行事などへの参加」(54.5%)、「PTAなどの子育てや教育(育成会など)に関する活動」(49.6%)の順となっている。

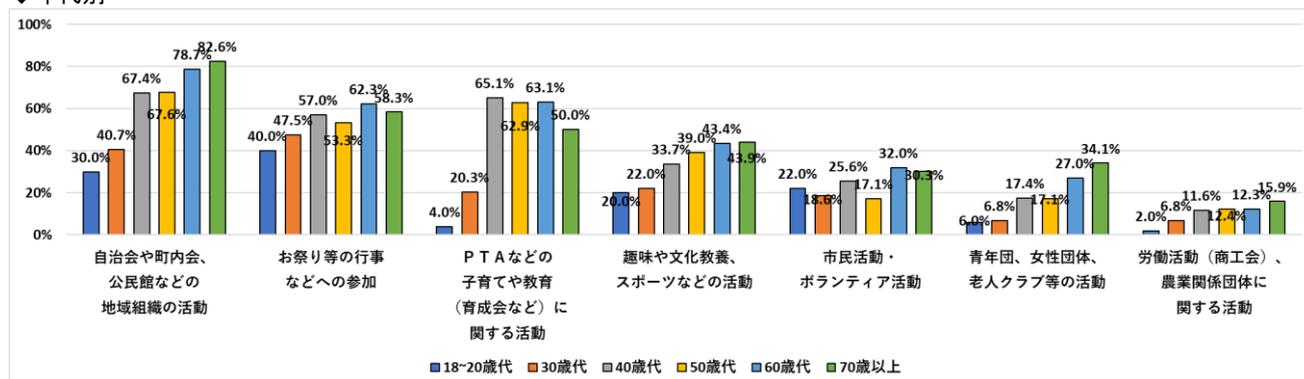
◆全体



◆性別



◆年代別

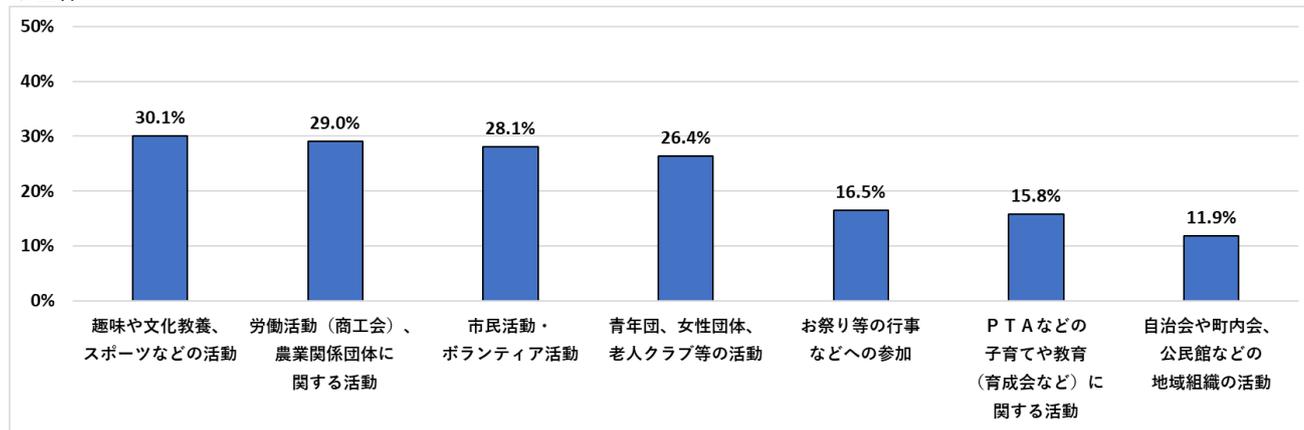


問5-1 あなたは次のような活動に参加したことはありますか。また、今後参加してみたいと思う活動はありますか。(それぞれあてはまるものの番号全てに○をお付けください)

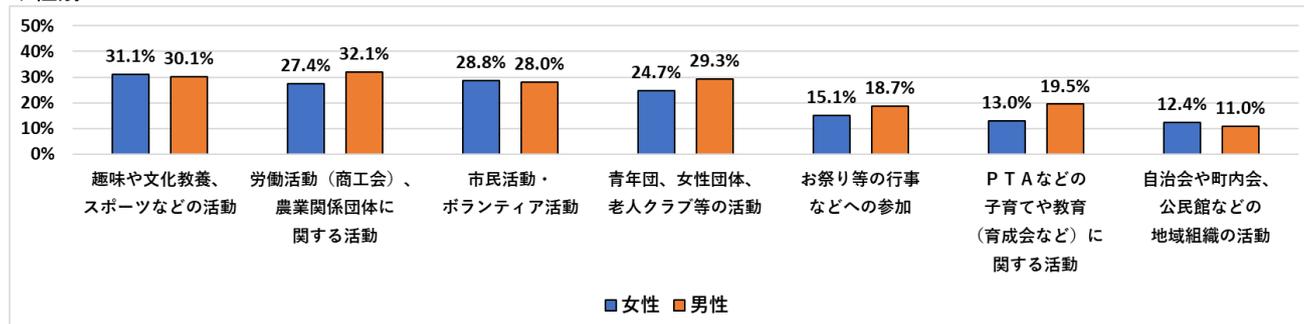
《今後参加してみたい活動》

●「趣味や文化教養、スポーツなどの活動」が 30.1%で最も高く、以下、「労働活動(商工会)、農業関係団体に関する活動」(29.0%)、「市民活動・ボランティア活動」(28.1%)の順となっている。

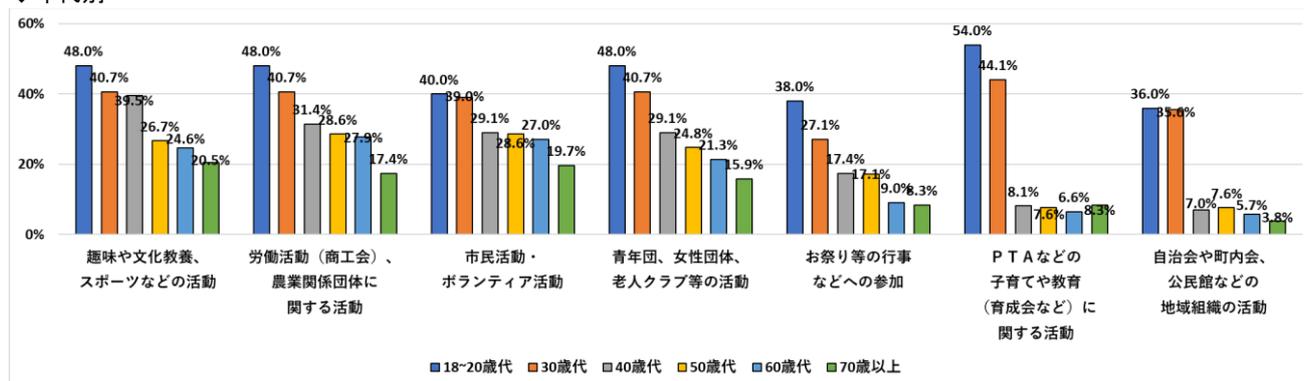
◆全体



◆性別



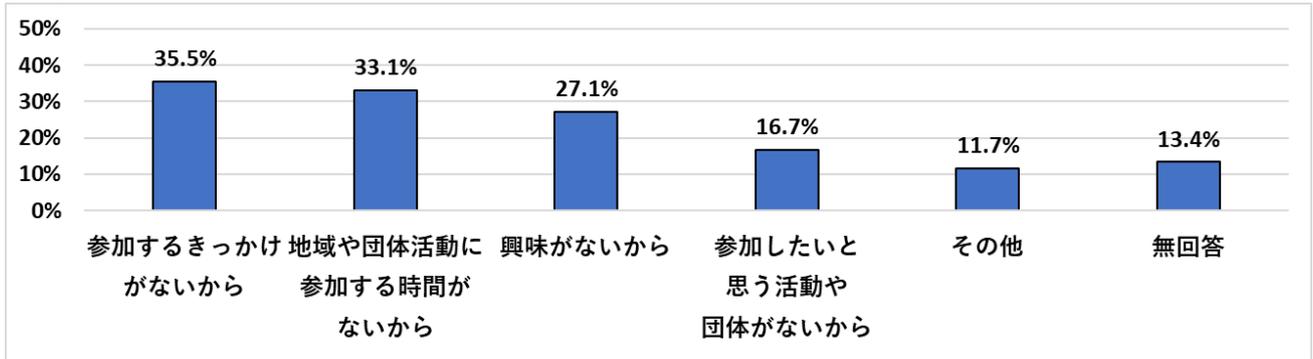
◆年代別



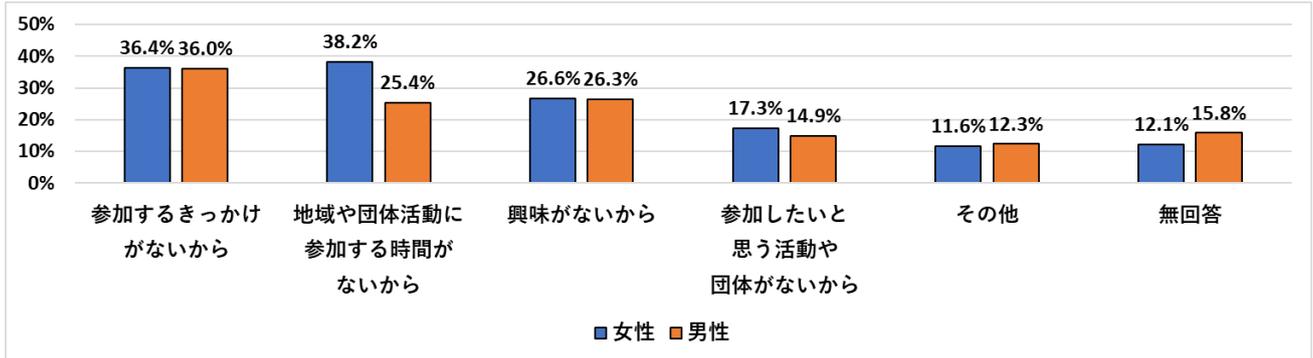
問5-2 問5で「②地域活動に参加していない」「③地域活動に参加したいが、できない」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。次の中から、2つまでお選びください。

- 「参加するきっかけがないから」が35.5%と最も高く、「地域や団体活動に参加する時間がないから」が33.1%となっている。
- 性別では、女性で「地域や団体活動に参加する時間がないから」が38.2%と最も高くなっている。
- 年代別では、40歳代で「興味がないから」が最も高くなっている。

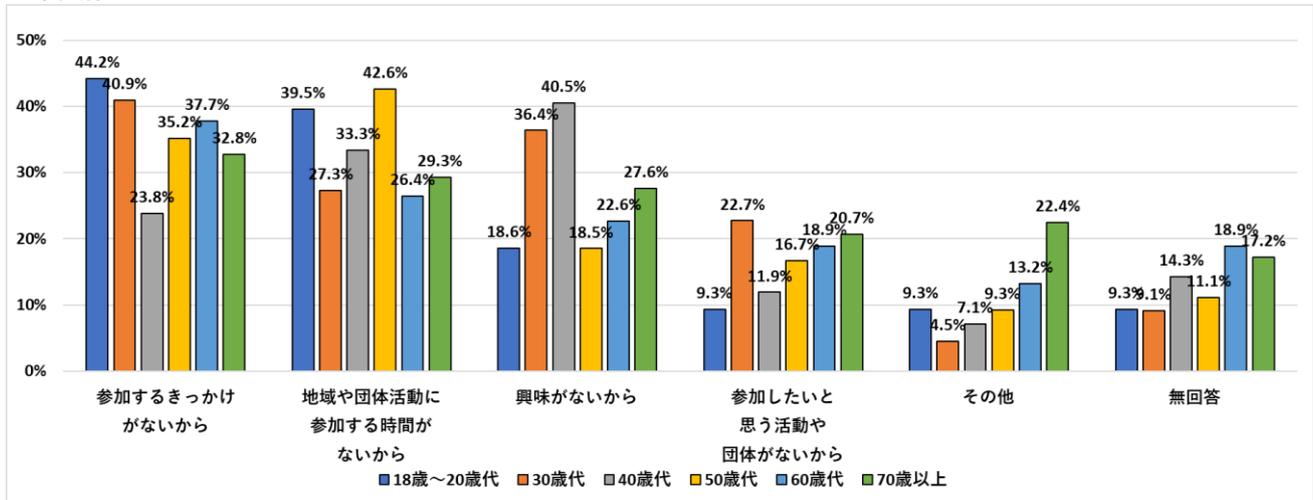
◆全体



◆性別



◆年代別

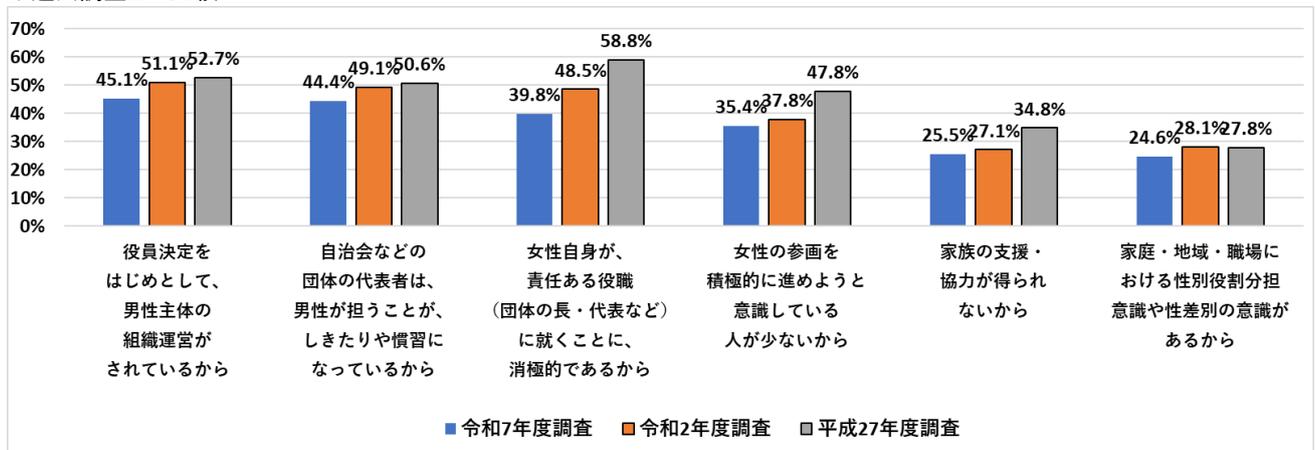


## 女性の参画が少ない理由 「男性主体の組織運営がされているから」45.1%

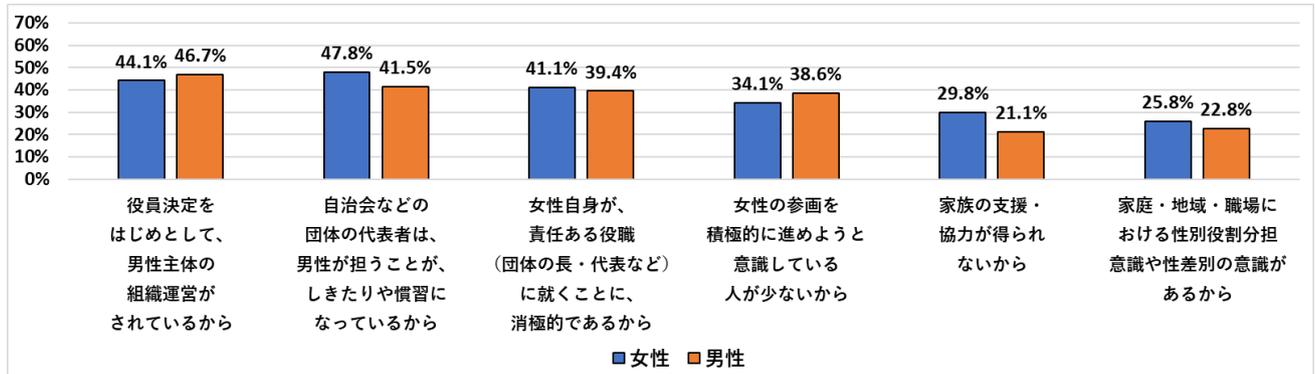
問6 女性の社会参画は進みつつありますが、自治会(区や公民館)の長、PTA会長などには、まだ、女性が少ないのが現状です。このような方針決定の過程に女性の参画が少ないのはなぜだと思いますか。次の中から、3つまでお選びください。

- 「役員決定をはじめとして、男性主体の組織運営がされているから」が 45.1%と最も高く、以下、「自治会などの団体の代表者は、男性が担うことが、しきたりや慣習になっているから」(44.4%)、「女性自身が、責任ある役職に就くことに、消極的であるから」(39.8%)の順になっている。
- 過去調査との比較ではいずれの回答割合も減少していることが見てとれる。
- 県調査では、「自治会などの団体の代表者は、男性が担うことが、しきたりや慣習になっているから」が 55.4%で最も高くなっている。

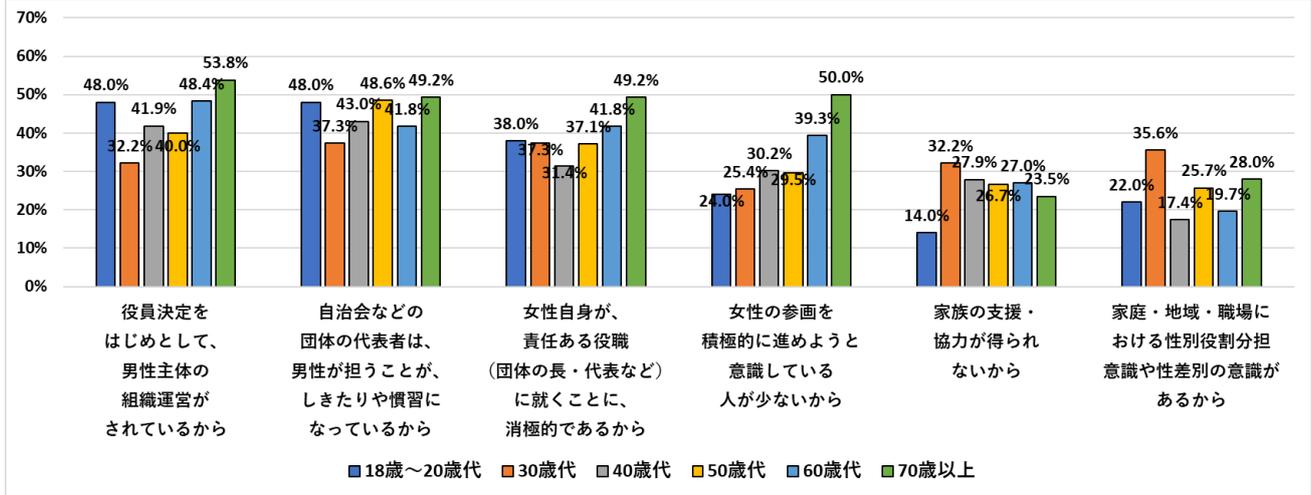
### ◆過去調査との比較



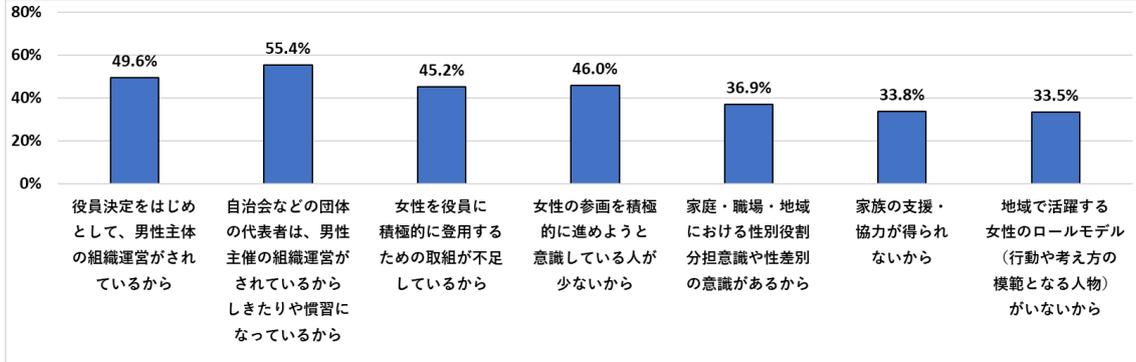
### ◆性別



◆年代別



◆県調査(令和6年度)



## 5 政策・方針決定について

### 女性議員・委員等の割合 「現在より増えた方がよい」69.6%

問7 政策・方針決定の場における女性の関与について、佐久市では、以下【参考】のような状況です。この数値について、あなたはどのように思いますか。

#### 【参考】

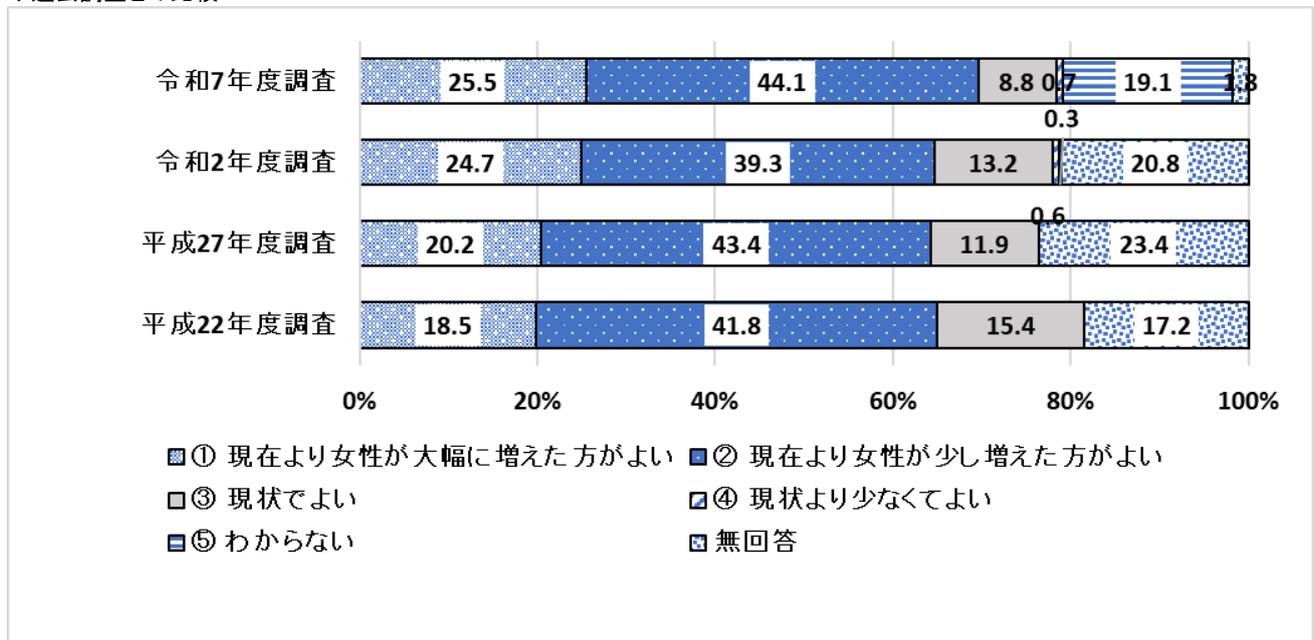
佐久市	総数	うち女性委員数	女性の割合
審議会等の委員	630人	248人	39.4%
議会議員	26人	5人	19.2%
小・中PTA会長	21人	7人	33.3%
自治会長（区長）数	238人	4人	1.7%
管理職に占める女性の割合（市職員）	97人	13人	13.4%

（内閣府：令和6年度地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況調査より）

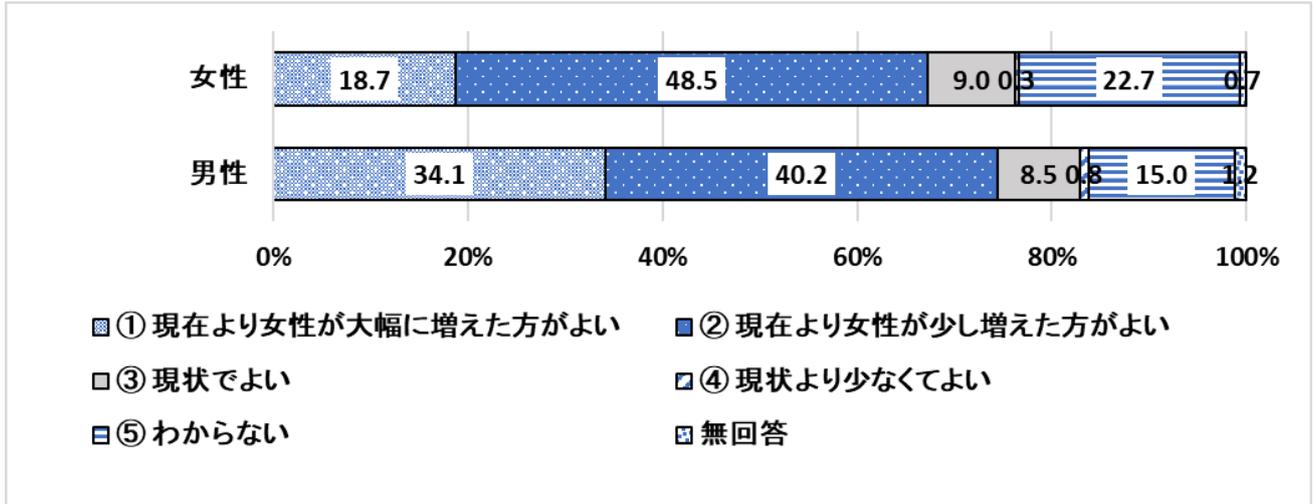
●「現在より女性が大幅に増えた方がよい」または「現在より女性が少し増えた方がよい」割合は69.6%となっている。

●前回調査と比較では、「現在より女性が大幅に増えた方がよい」「現在より女性が少し増えた方がよい」割合はともに微増している。

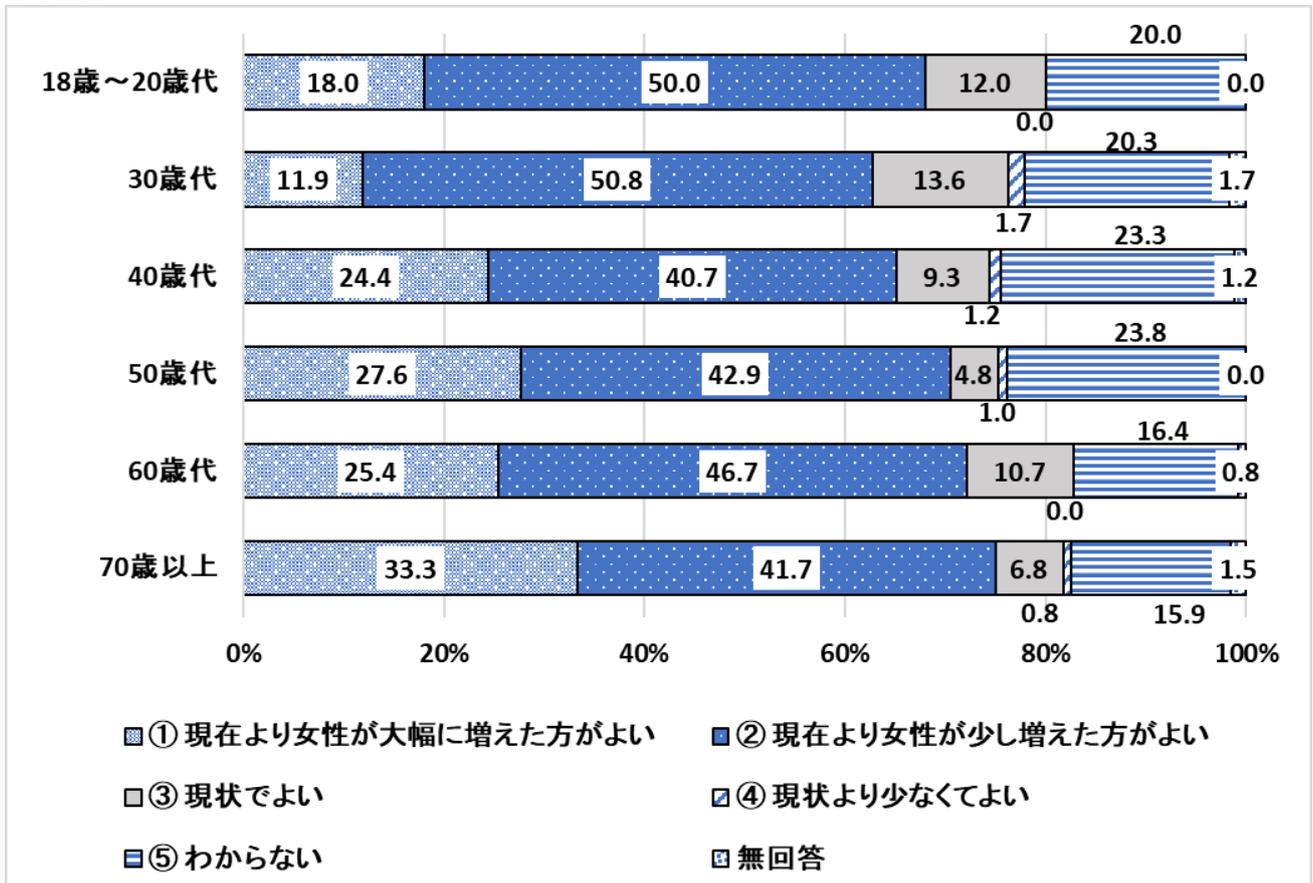
#### ◆過去調査との比較



◆性別



◆年代別

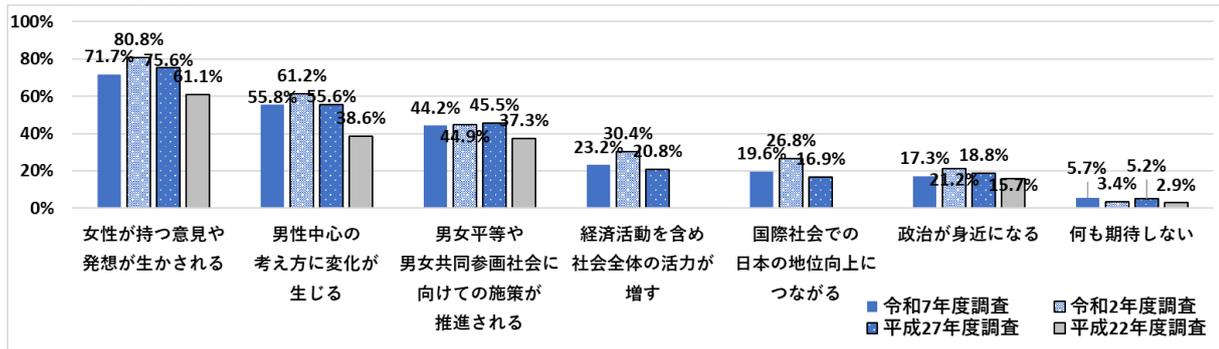


## 政策・方針決定の場 「女性が持つ意見や発想が活かされる」71.7%

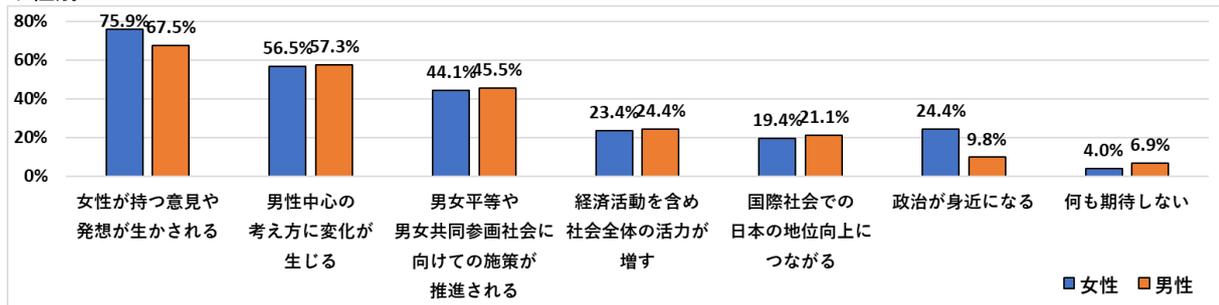
問8 政策・方針決定の場に、女性が増えることで何を期待しますか。あてはまるものを全てお答えください。  
(該当する番号の左側に○をお付けください)

- 「女性が持つ意見や発想が活かされる」が 71.7%と最も高く、以下、「男性中心の考え方に変化が生じる」(55.8%)、「男女平等や男女共同参画社会に向けての施策が推進される」(44.2%)、「経済活動を含め社会全体の活力が増す」(23.2%)の順となっている。
- 過去調査と比較してみると、順位に変動は見られない。

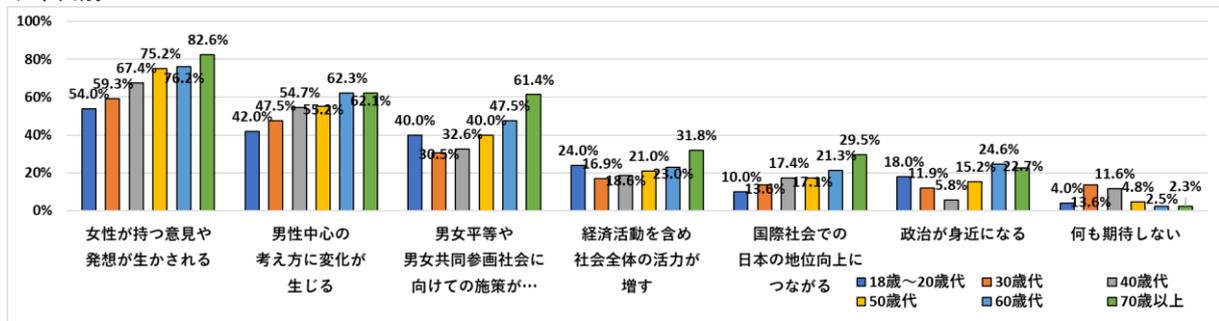
### ◆過去調査との比較



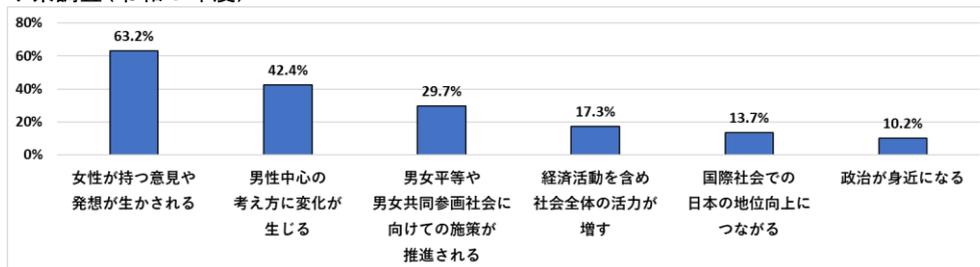
### ◆性別



### ◆年代別



### ◆県調査(令和6年度)



## 6 防災・災害復興について

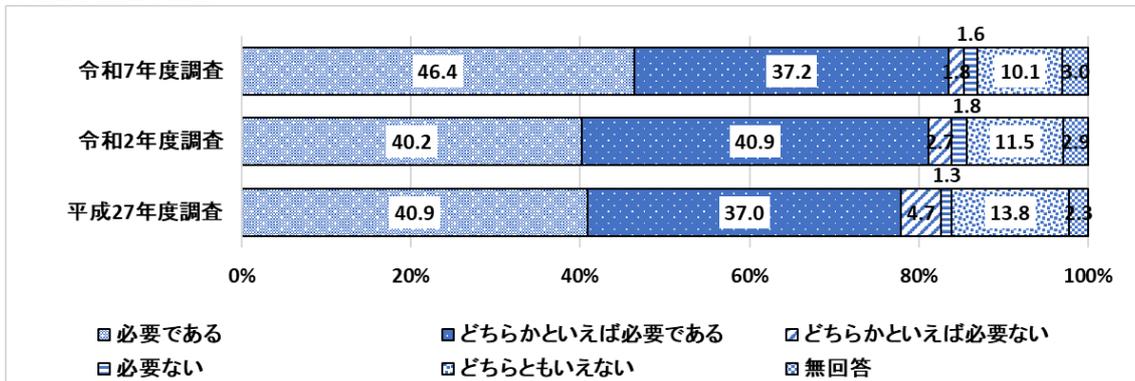
### 防災・災害復興対策に必要な取組 女性の参画「必要である」全体で8割超え

問9 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取り組みが必要であると思いますか。次のA～Hそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

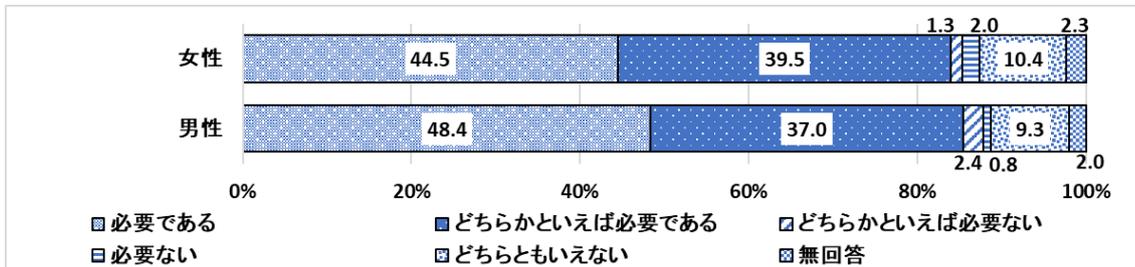
#### A 防災会議や対策本部の女性委員を増やしたり、防災計画や復興計画策定に女性が参画すること

- 「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は 83.6%で、「必要」は全体の 8 割以上を占める。
- 性別では、「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は女性 84.0%、男性 85.4%となっている。

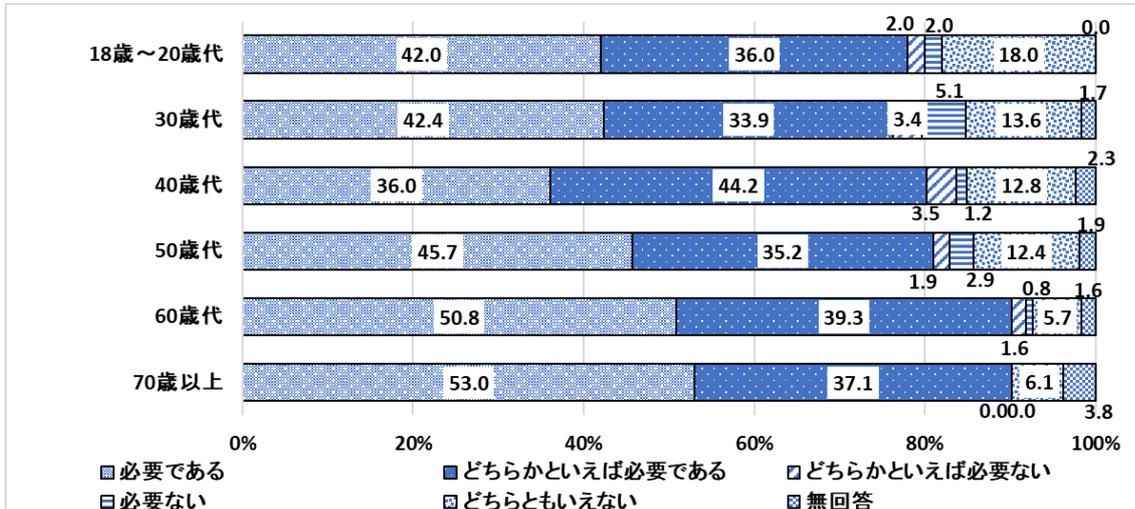
#### ◆過去調査との比較



#### ◆性別



#### ◆年代別

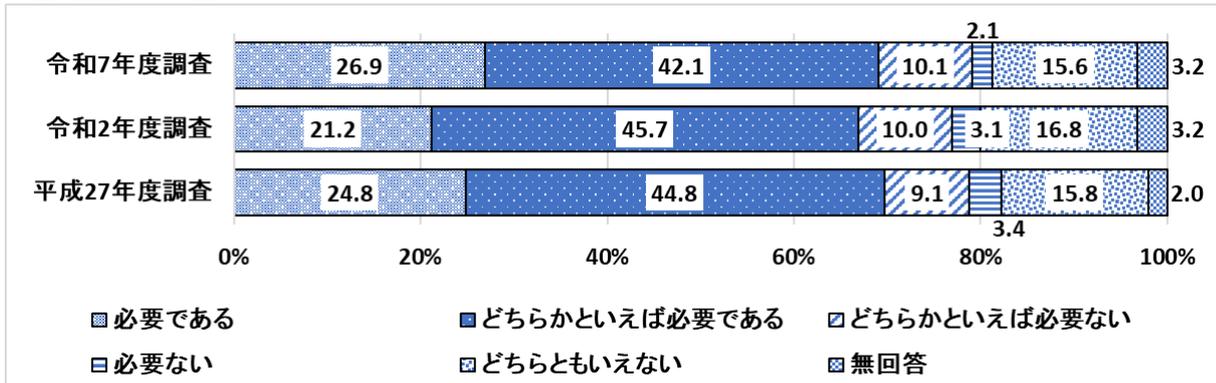


問9 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取り組みが必要であると思いますか。次のA～Hそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

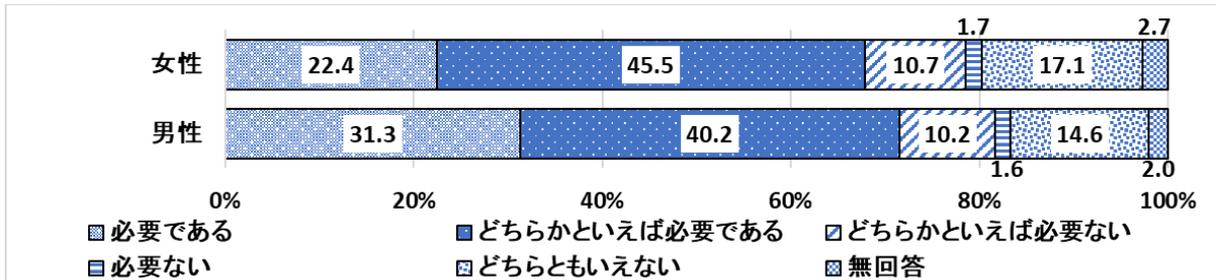
**B 消防団員、消防署員、警察官や県・市町村の防災担当職員に女性を増員すること**

- 「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は 69.0%となっている。
- 性別では、「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は女性 67.9%、男性 71.5%となっている。

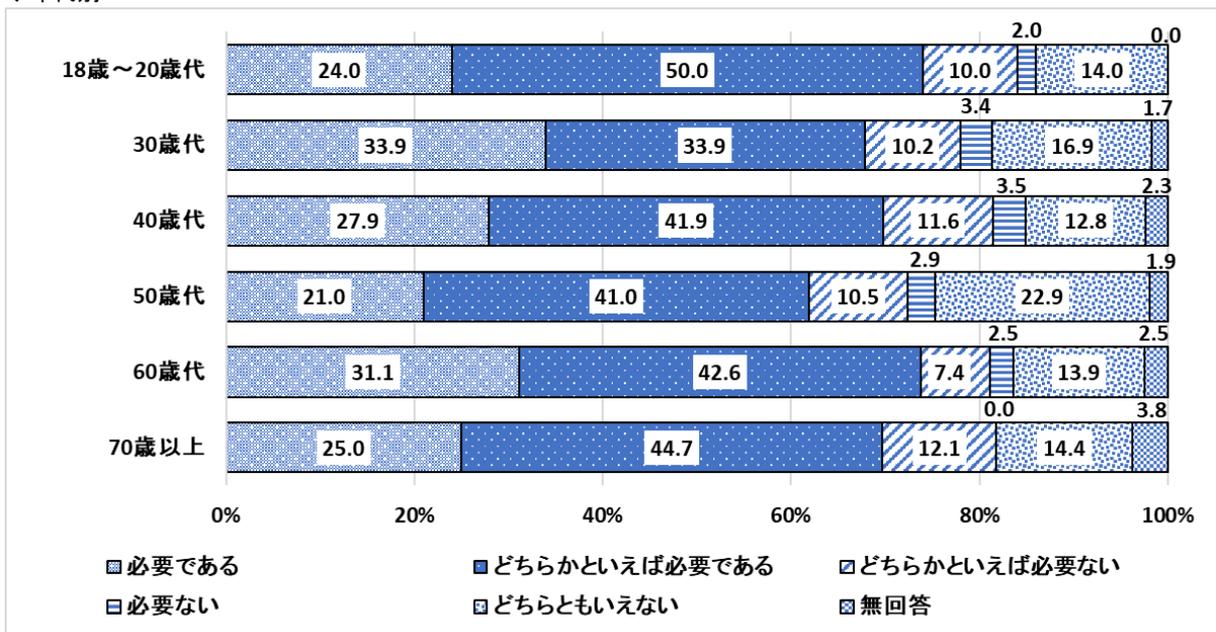
◆過去調査との比較



◆性別



◆年代別

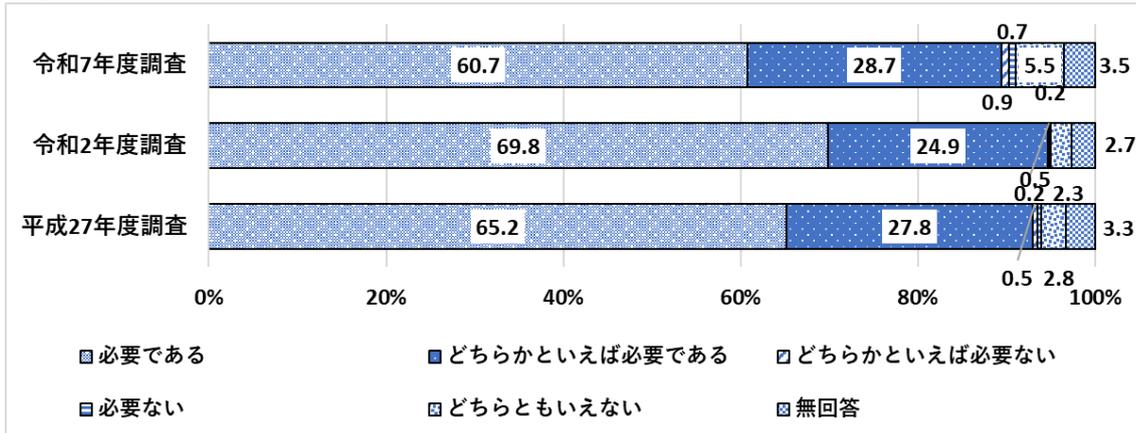


問9 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取り組みが必要であると思いますか。次のA～Hそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

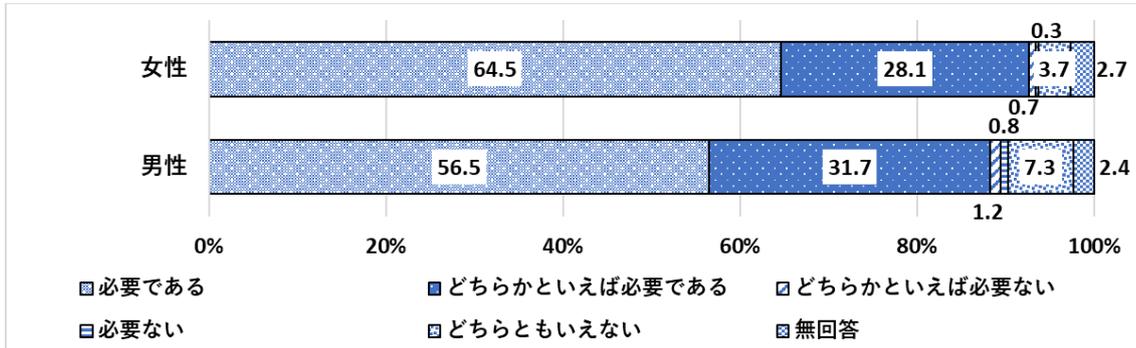
C 災害時の救援医療体制づくり(診察・治療体制、妊産婦への支援体制など)

- 「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は 89.4%となっている。
- 性別では、「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は女性 92.6%、男性 88.2%となっている。

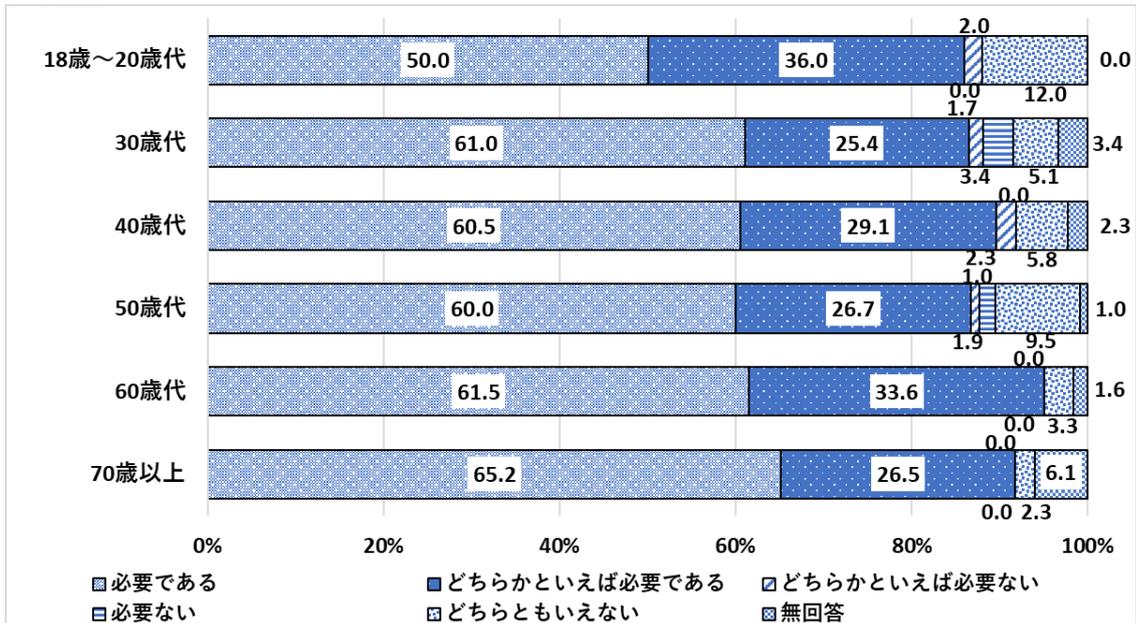
◆過去調査との比較



◆性別



◆年代別

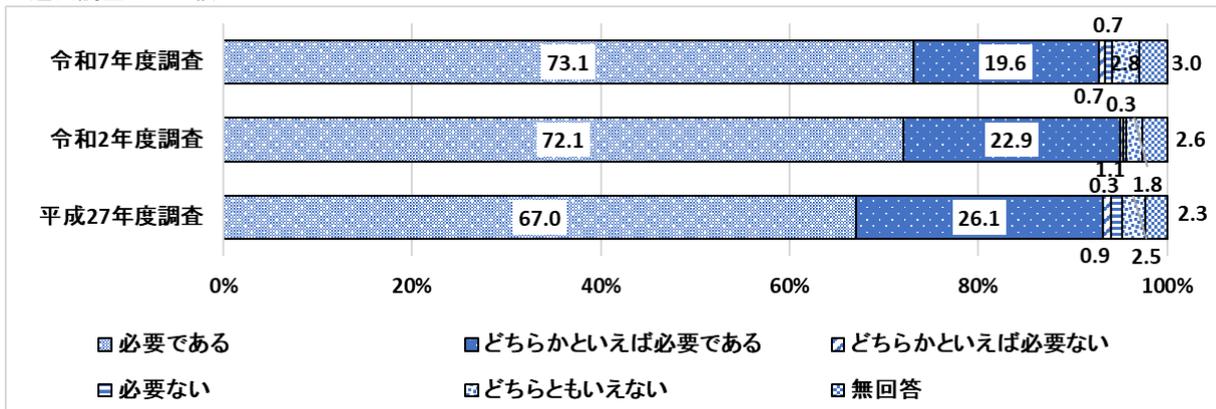


問9 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取り組みが必要であると思いますか。次のA～Hそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

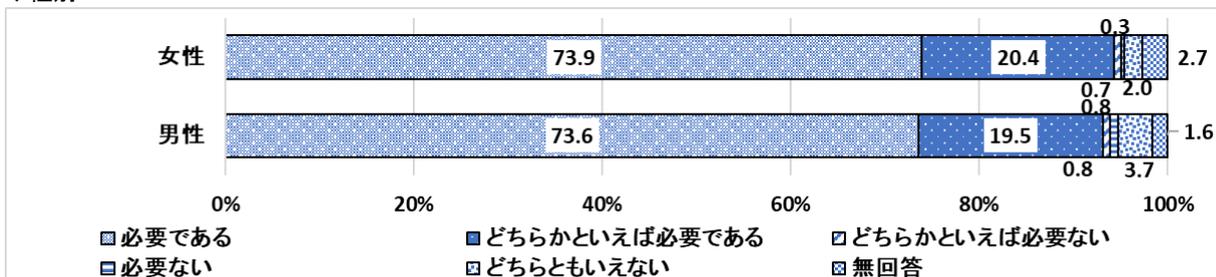
D 避難所の設備に関すること(男女別トイレ・更衣室・物干し場・防犯対策など)

- 「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は 92.7%となっており、必要度はかなり高い。
- 性別では、「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は女性 94.3%、男性 93.1%となっている。

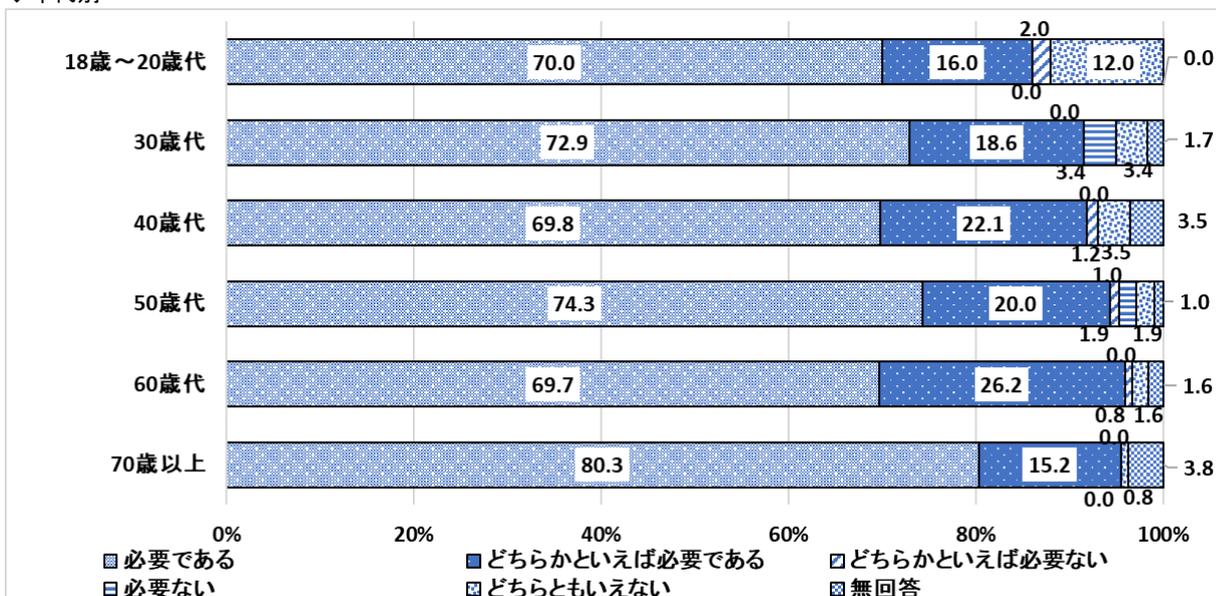
◆過去調査との比較



◆性別



◆年代別

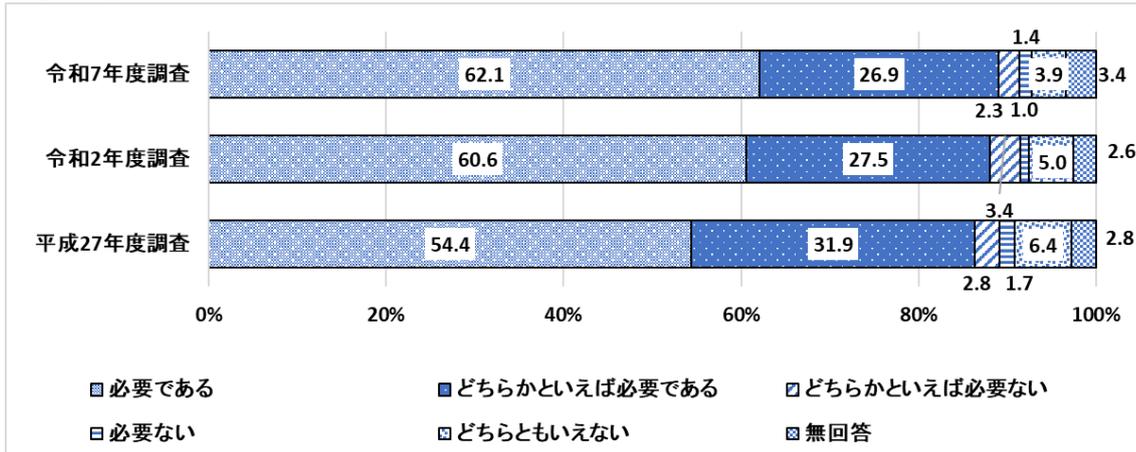


問9 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取り組みが必要であると思いますか。次のA～Hそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

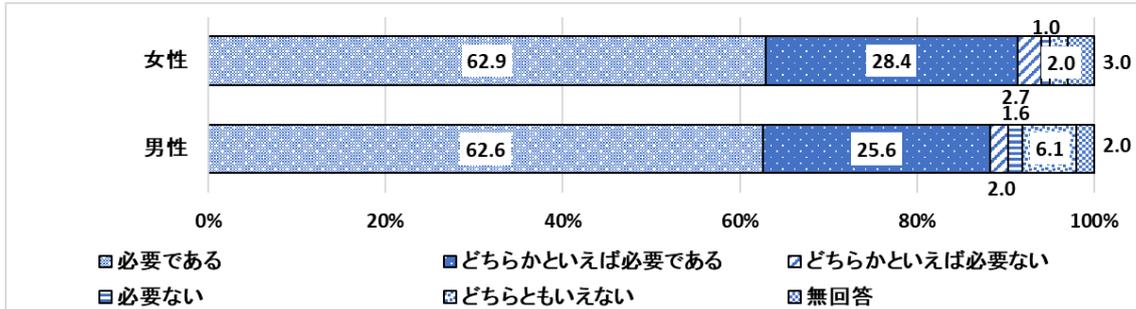
E 避難所運営責任者に男女がともに配置されること

- 「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は 89.0%となっている。
- 性別では、「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は女性 91.3%、男性 88.2%となっている。

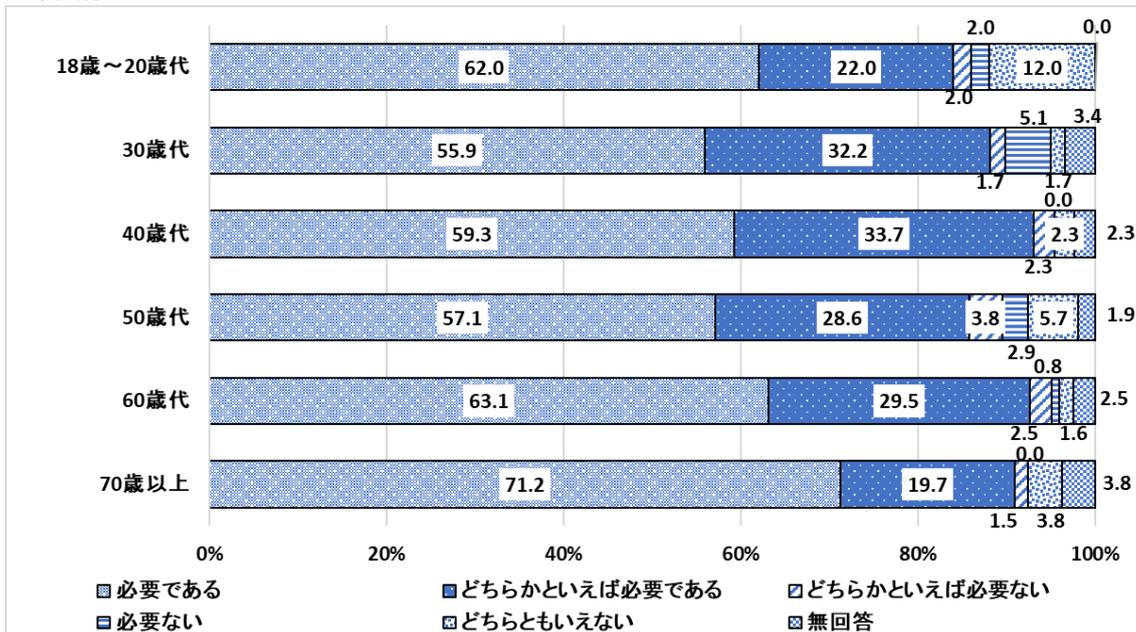
◆過去調査との比較



◆性別



◆年代別

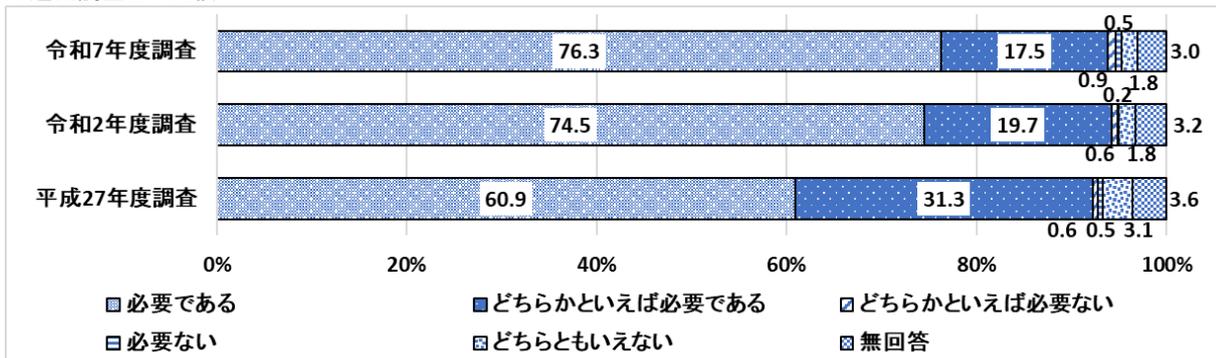


問9 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取り組みが必要であると思いますか。次のA～Hそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

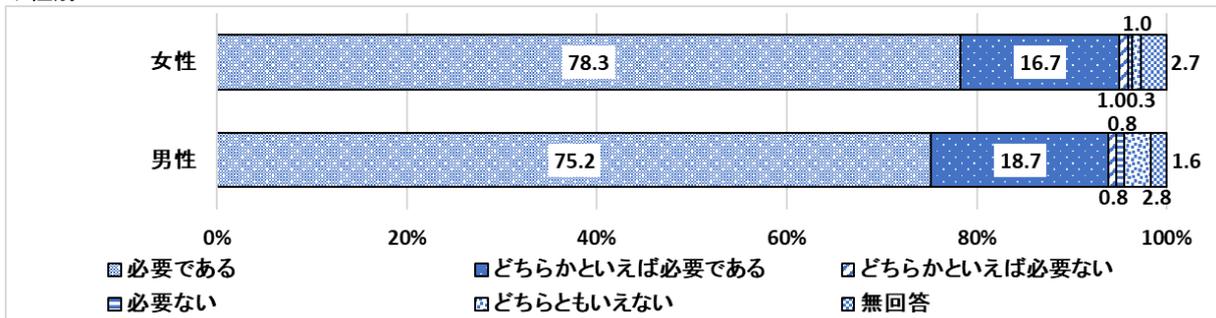
F 必要な備蓄品や支給に関する配慮(生理ナプキンの配布等)

- 「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は 93.8%となっており、必要度はかなり高い。
- 性別では、「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は女性 95.0%、男性 93.4%となっている。

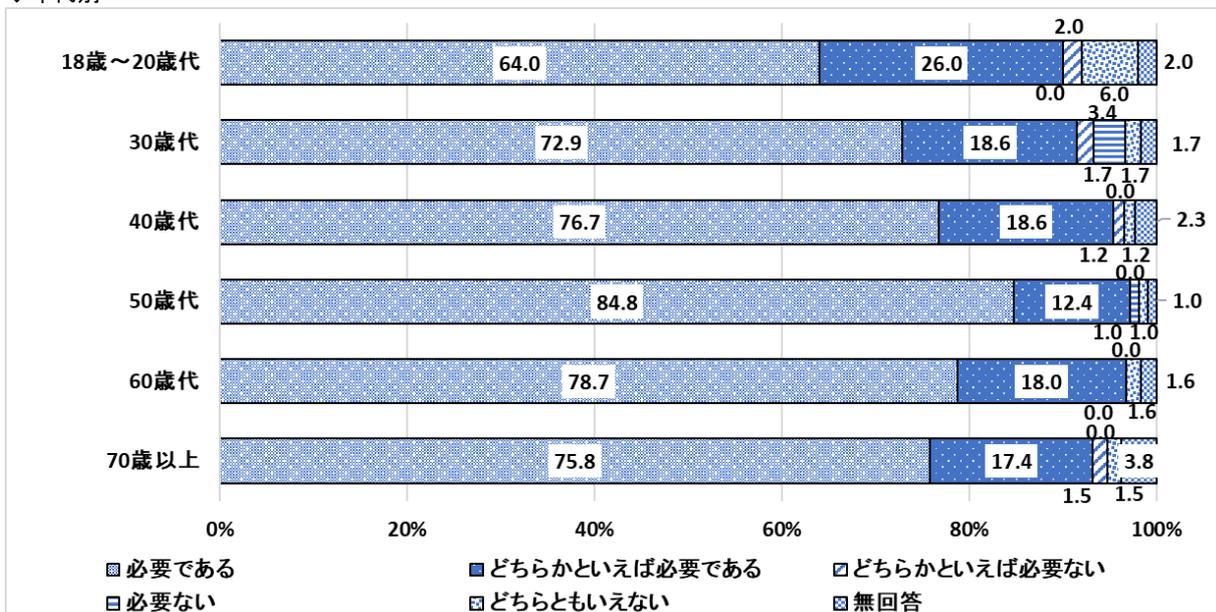
◆過去調査との比較



◆性別



◆年代別

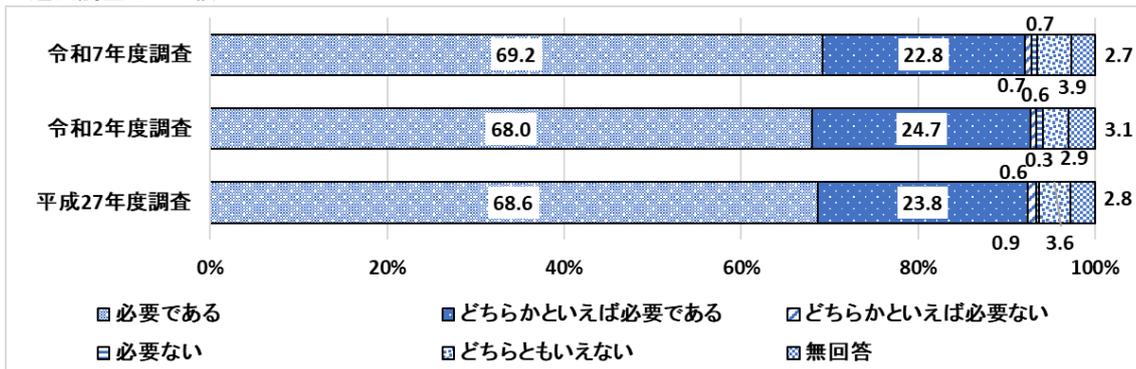


問9 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取り組みが必要であると思いますか。次のA～Hそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

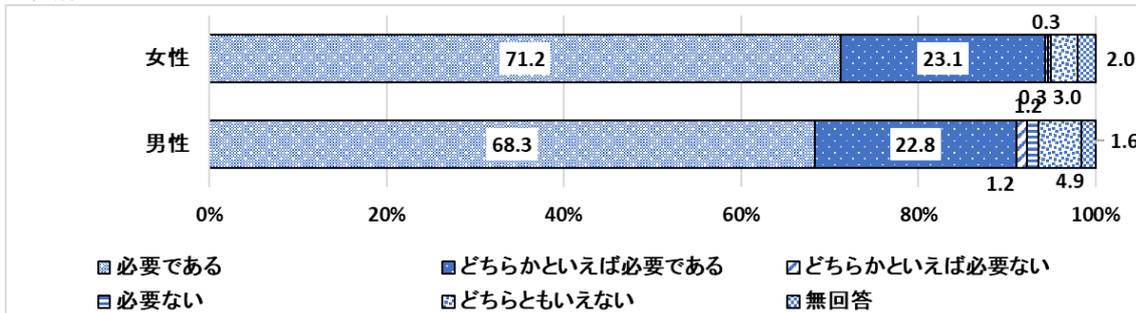
G 被災者向けの相談体制の充実(女性相談・男性相談)

- 「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は 92.0%となっており、必要度はかなり高い。
- 性別では、「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は女性 94.3%、男性 91.1%となっている。

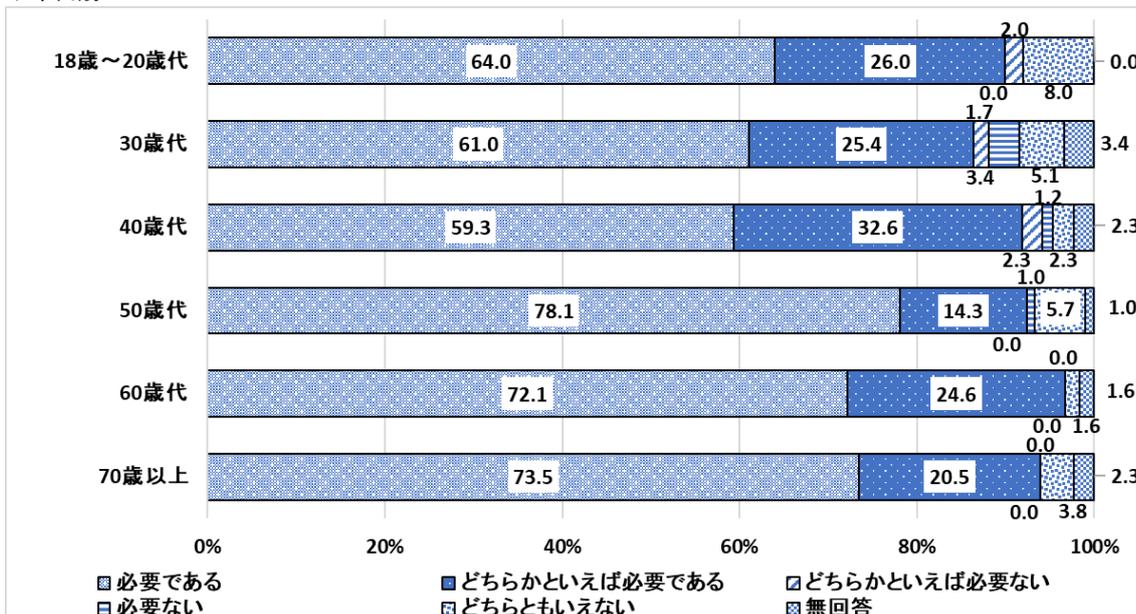
◆過去調査との比較



◆性別



◆年代別

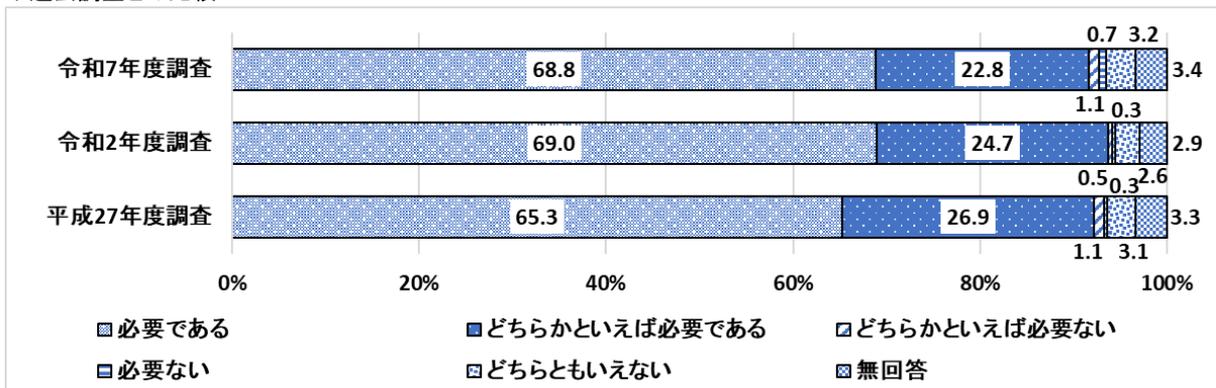


問9 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取り組みが必要であると思いますか。次のA～Hそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

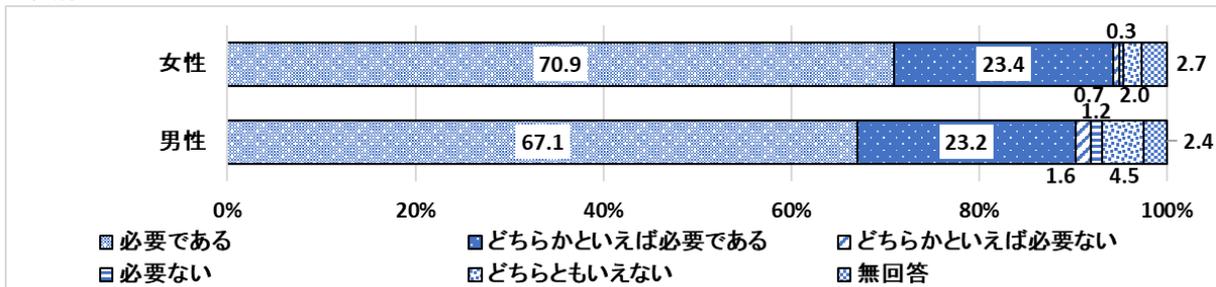
H 仮設住宅設置や生活再建支援における配慮(設計への意見反映や乳幼児の一時預かりなど)

- 「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は 91.6%となっており、必要度はかなり高い。
- 性別では、「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は女性 94.3%、男性 90.3%となっている。

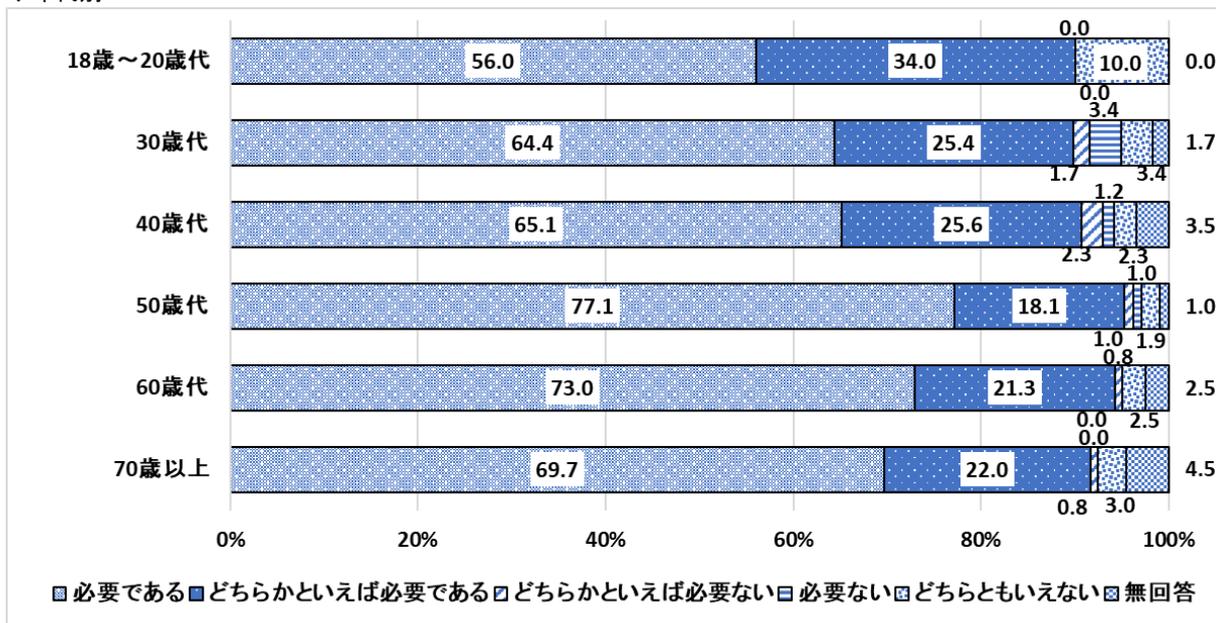
◆過去調査との比較



◆性別



◆年代別



## 7 ワーク・ライフ・バランスについて

**生活の優先度** 「仕事(学業)、家庭生活をともに優先」が【理想】【現実】ともに最多

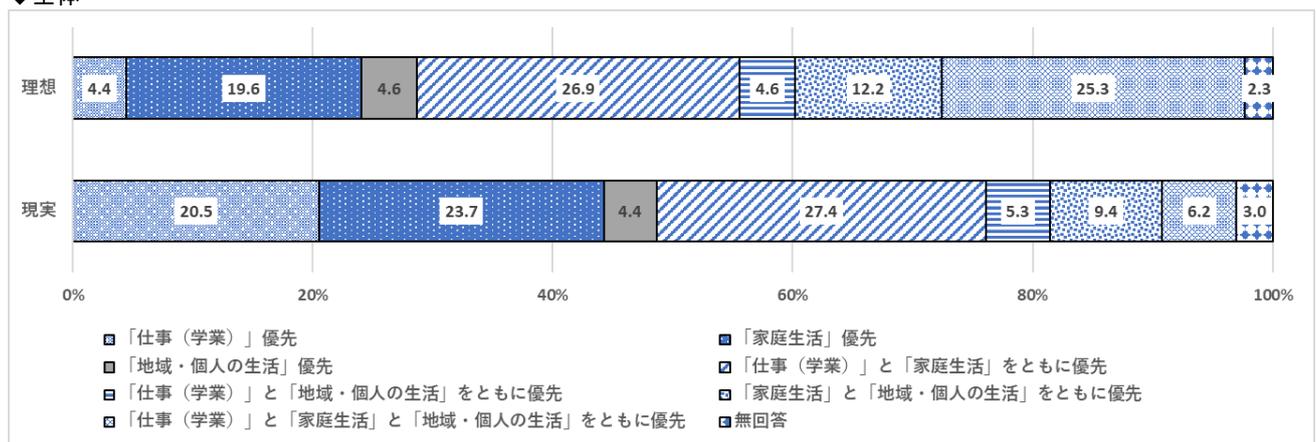
問 10 「仕事(学業)」「家庭生活」「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)」の優先度についておたずねします。

問 10-1 まず、あなたの理想(希望)に最も近いものを一つだけお答えください。

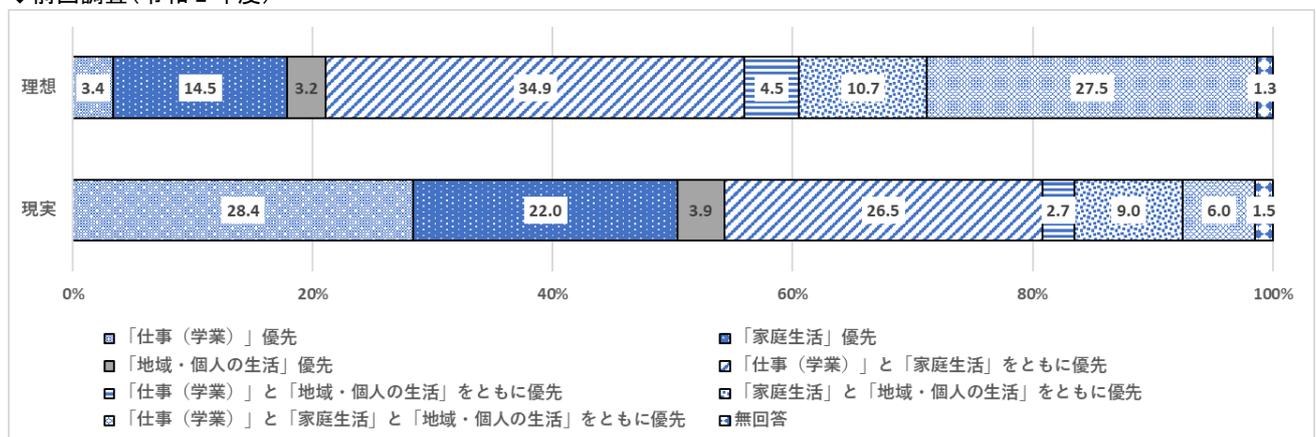
問 10-2 次に、あなたの現実(現状)に最も近いものを一つだけお答えください。

- 生活の優先度として、「仕事(学業)」と「家庭生活」をともに優先するを希望する割合は 26.9%で最も高くなっており、現実でも 27.4%と最も高くなっている。
- 「仕事(学業)優先」を希望する割合は 4.4%であるが、現実には 20.5%が「仕事(学業)優先」となっており、理想と現実の乖離が見られる。
- 年代別では、年代が上がるにつれ、現実の生活の優先度として、「仕事(学業)」優先の割合が低くなる傾向が見てとれる。
- 前回調査では、「仕事」と「家庭生活」をともに優先を希望する割合が最も高く(34.9%)、現実には「仕事」優先が 28.4%で最も高い割合であった。

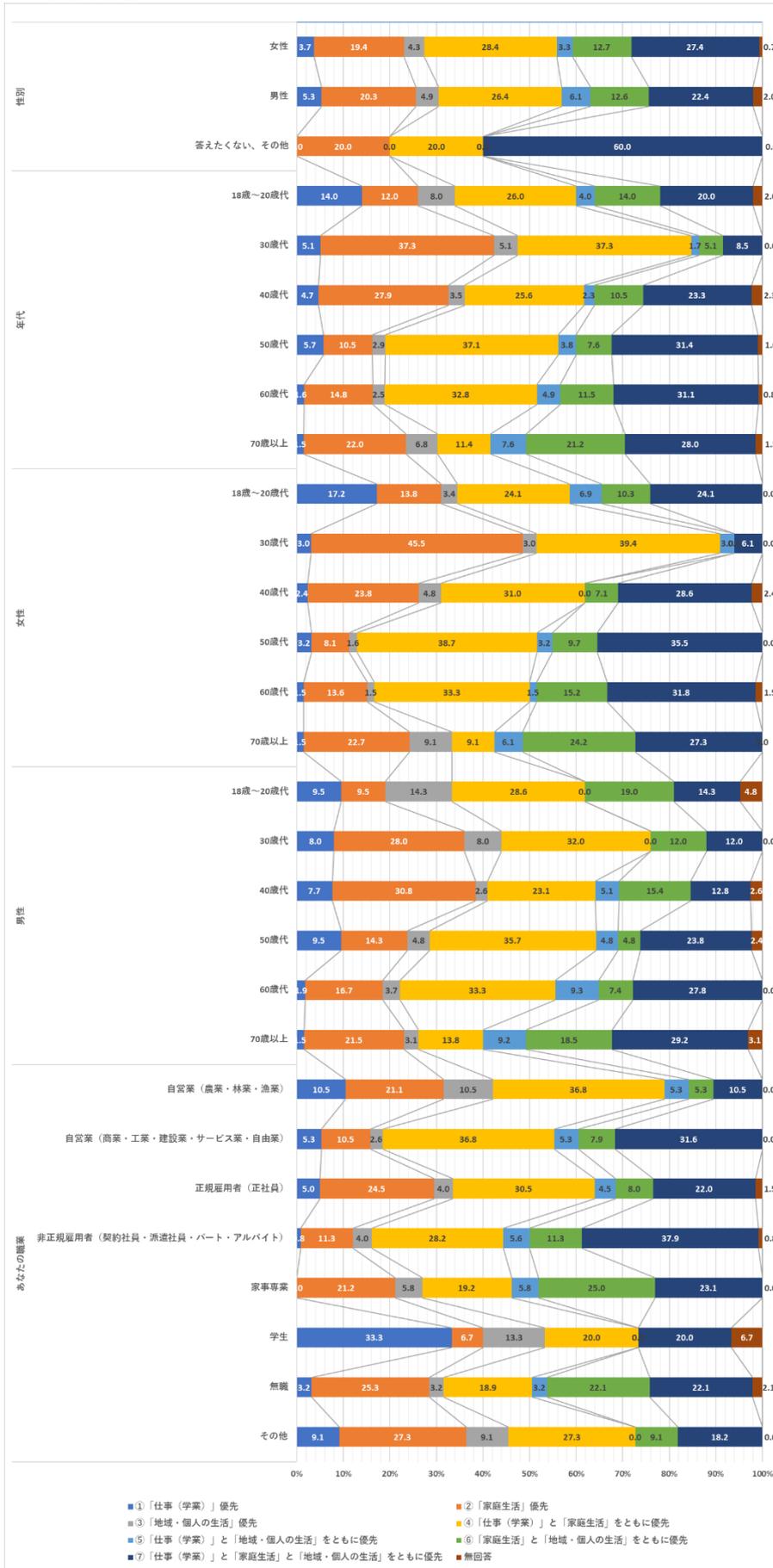
◆全体



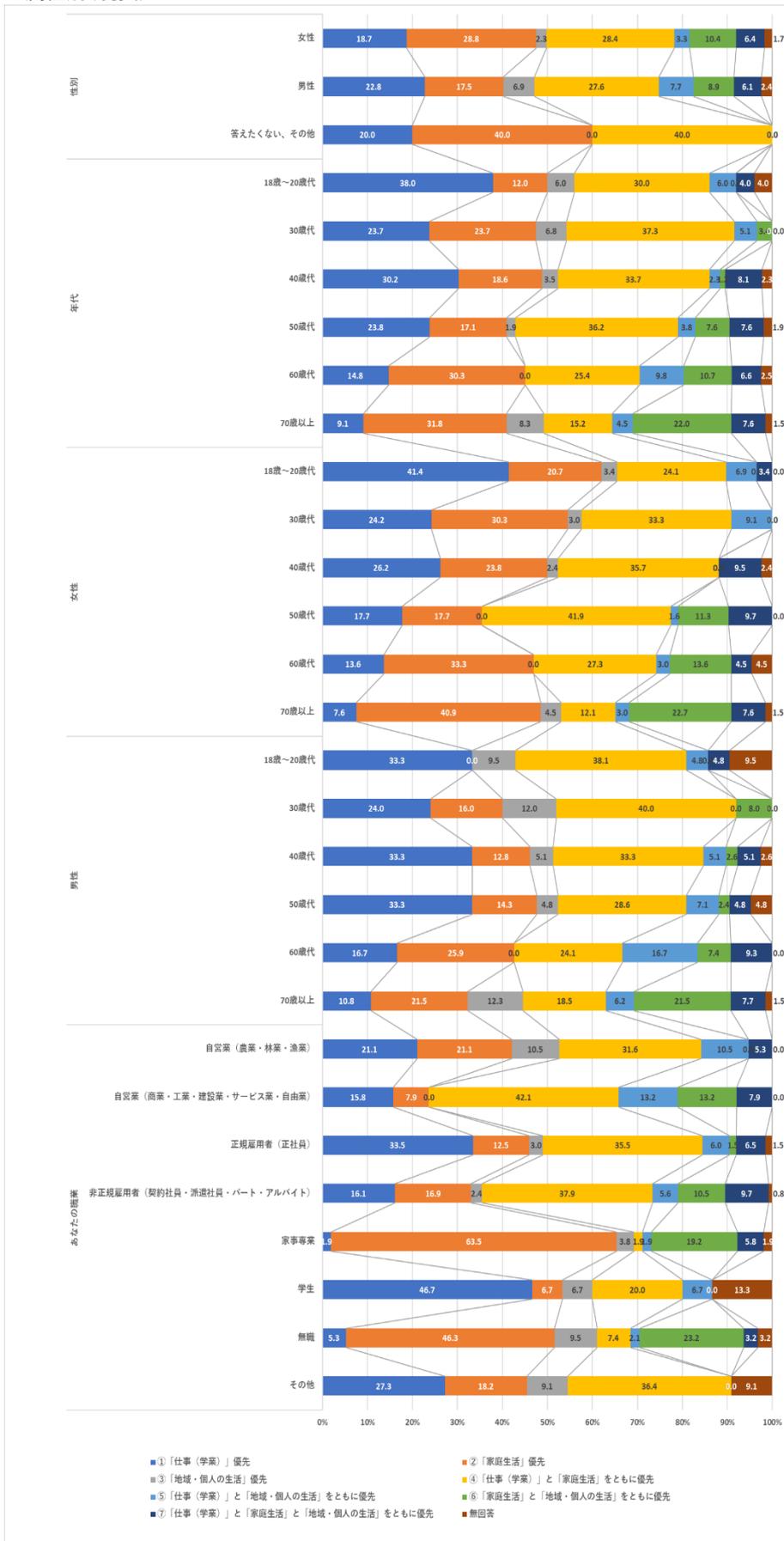
◆前回調査(令和2年度)



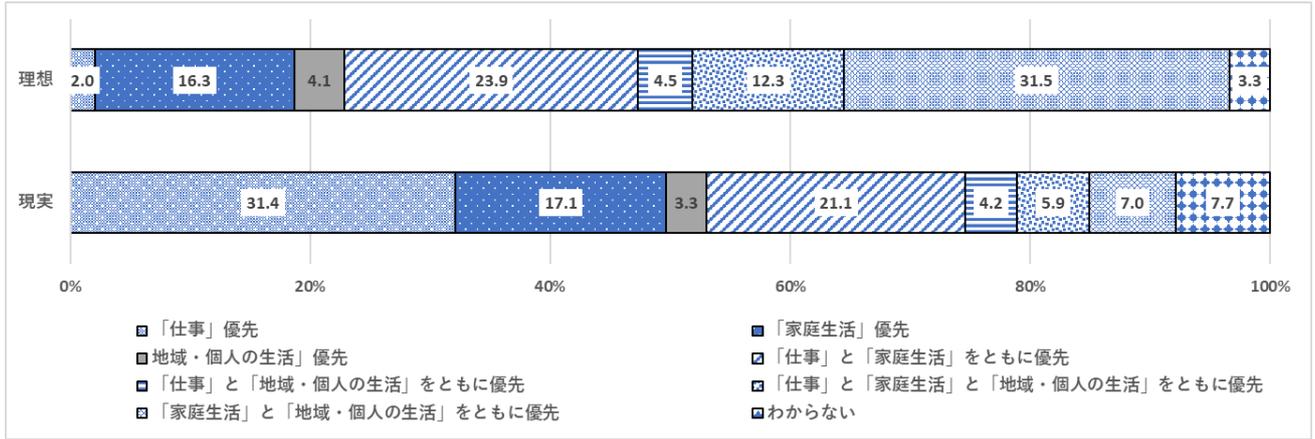
◆属性別(理想)



◆属性別(現実)



◆県調査(令和6年度)



## 育児休業取得 「男女ともに取得するのは当然だ」65.0%

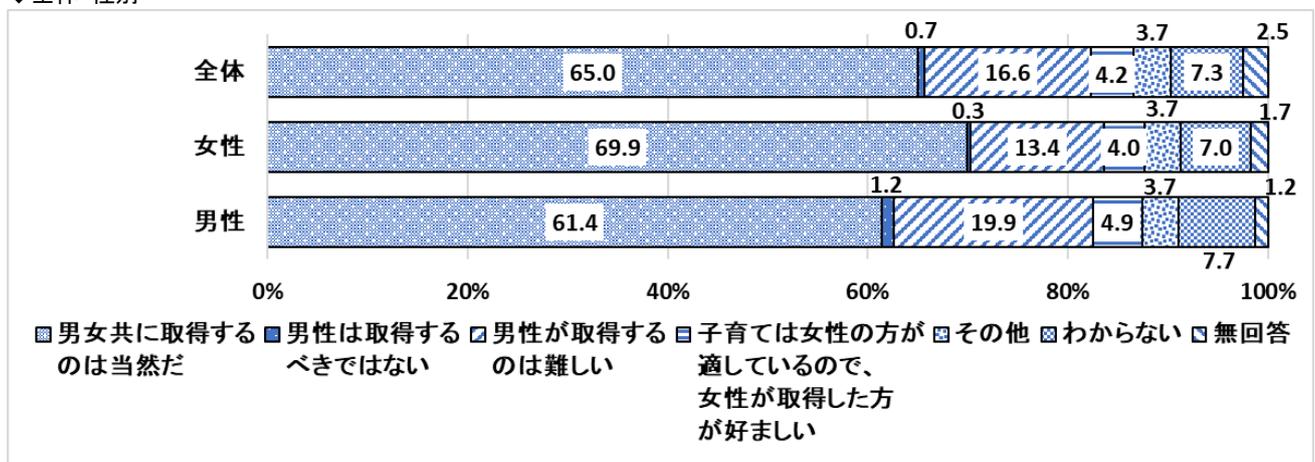
問 11 現在、男女共に育児休業を取得できる制度がありますが、あなたは、どのように思いますか。あなたのお考えに最も近いものを一つだけお答えください。

●「男女共に取得するのは当然だ」の割合は65.0%と最も高く、「男性が取得するのは難しい」の割合が16.6%となっている。

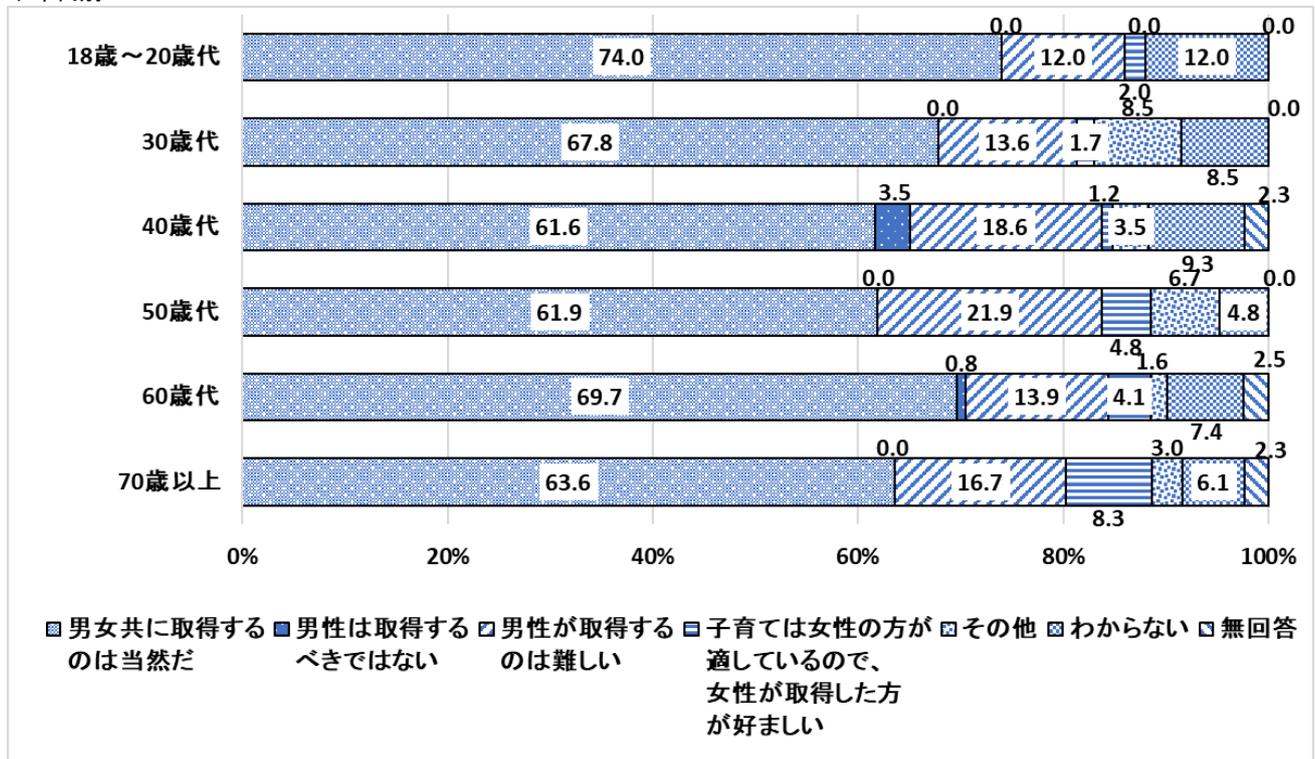
●「男女共に取得するのは当然だ」の割合を年代別に見ると、18歳～20歳代が74.0%で最も高くなっている。職業別に見ると、非正規雇用者(契約社員・派遣社員・パート・アルバイト)が76.6%で最も高くなっている。

●「男性が取得するのは難しい」の割合を年代別に見ると、50歳代が21.9%で唯一2割を超えている。職業別に見ると、正規雇用者(正社員)が22.0%で最も高くなっている。

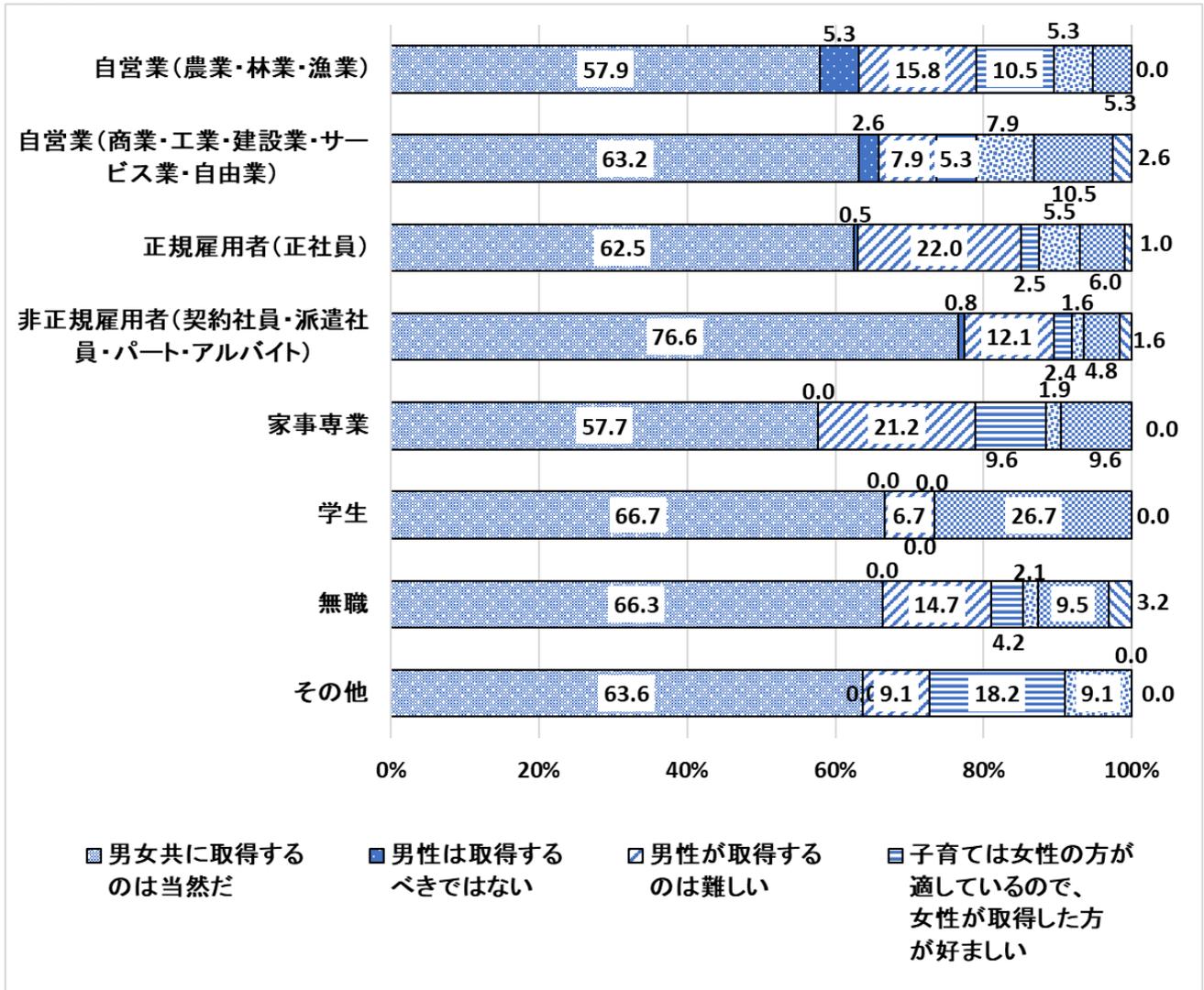
### ◆全体・性別



### ◆年代別



◆職業別



## 女性の参加に重要なこと 「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」47.8%

問 12 今後、女性と男性がともに仕事、家庭、子育て、介護、地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から、3つまでお選びください。

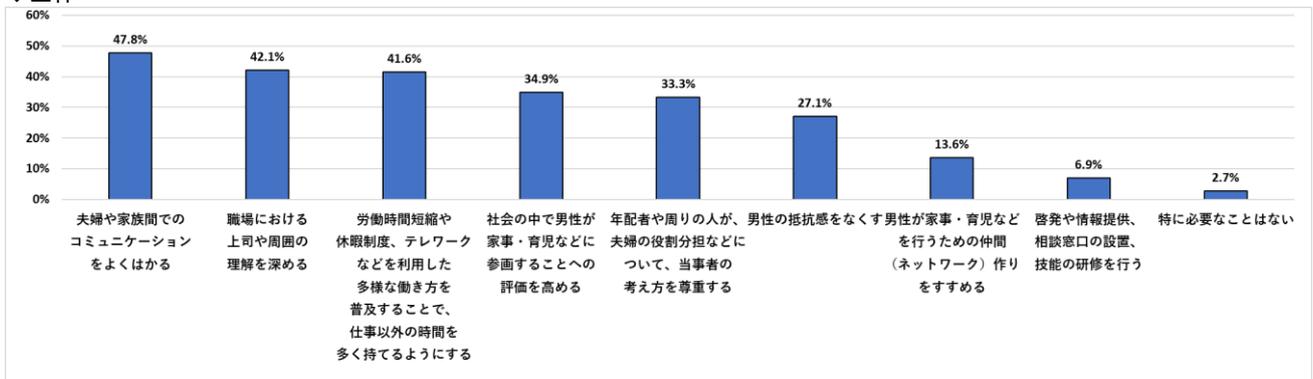
●「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が47.8%と最も高く、以下、「職場における上司や周囲の理解を深める」(42.1%)、「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにする」(41.6%)の順となっている。

●性別では、女性で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が50.2%と最も高くなっている。

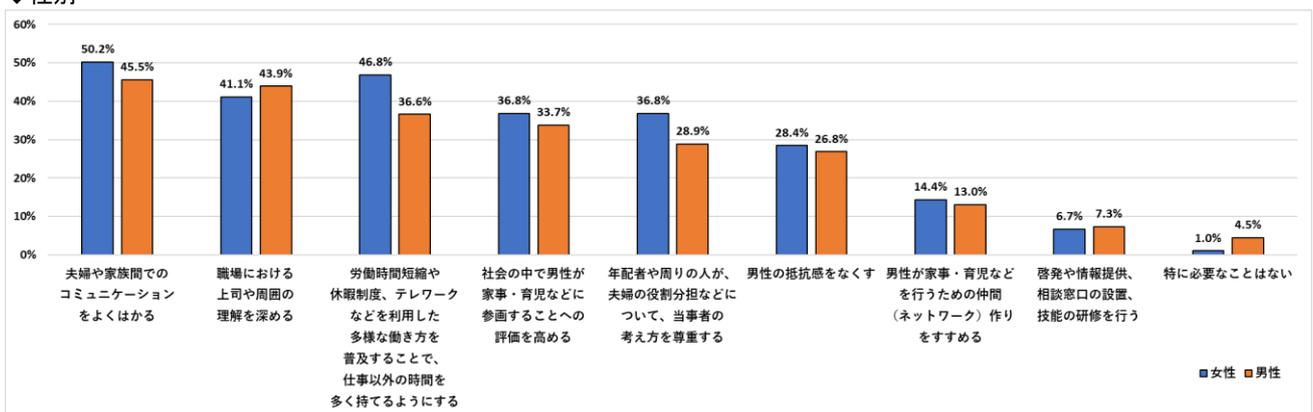
●年代別では、70歳以上で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が57.6%と高くなっている。

●県調査では、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や同僚の理解を進めること」(49.8%)、「男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(43.3%)の順となっている。

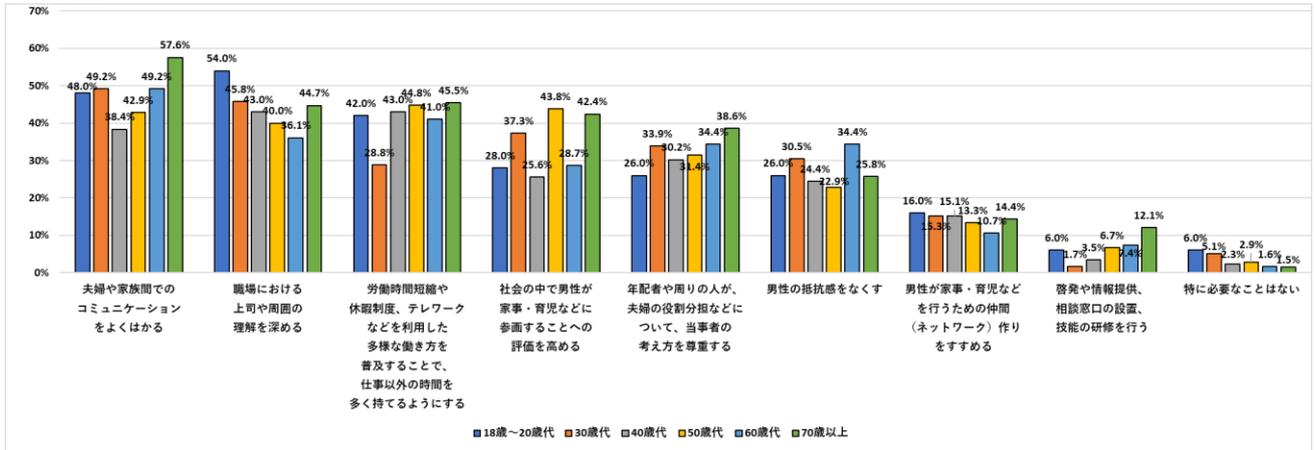
### ◆全体



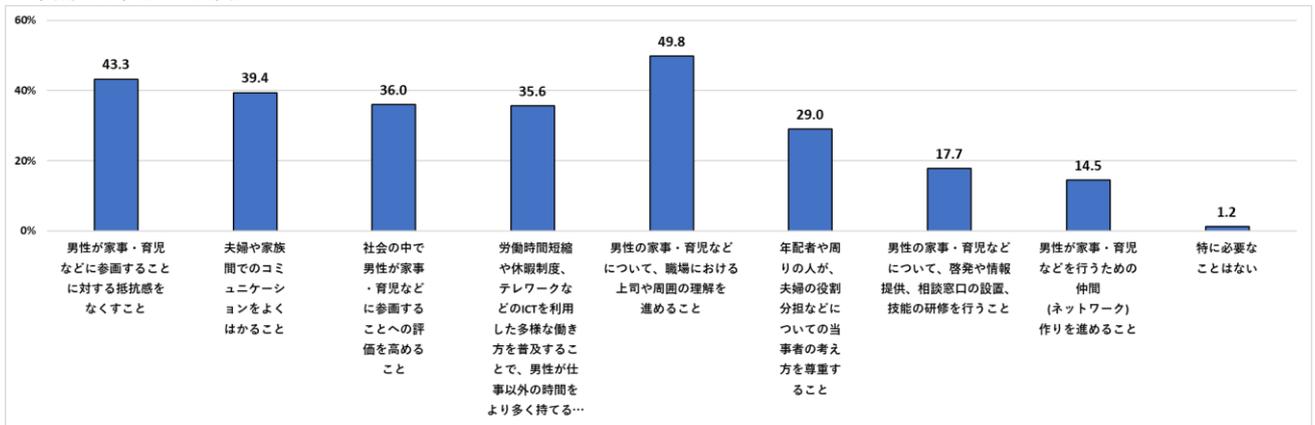
### ◆性別



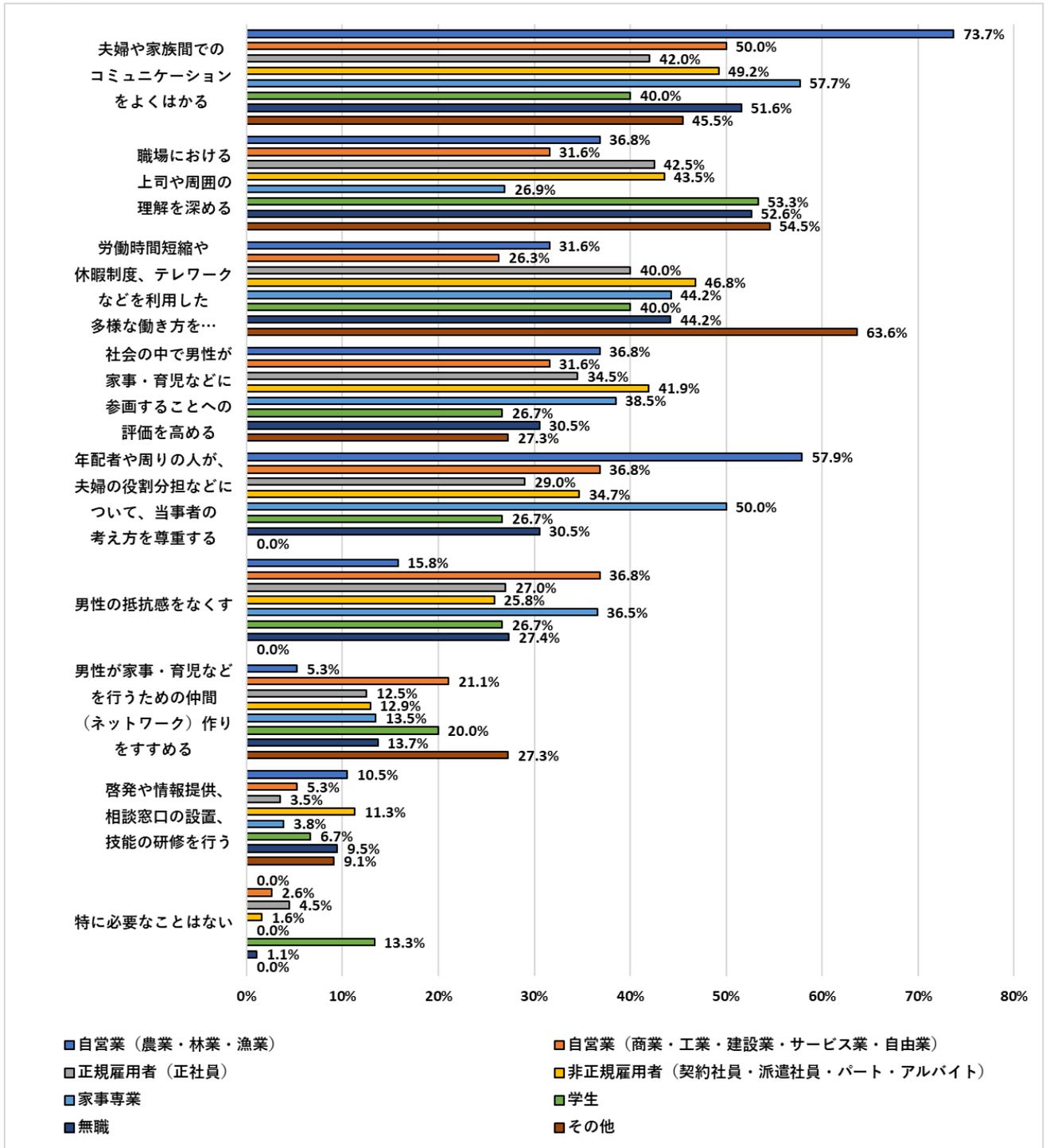
◆年代別



◆県調査(令和6年度)



◆職業別



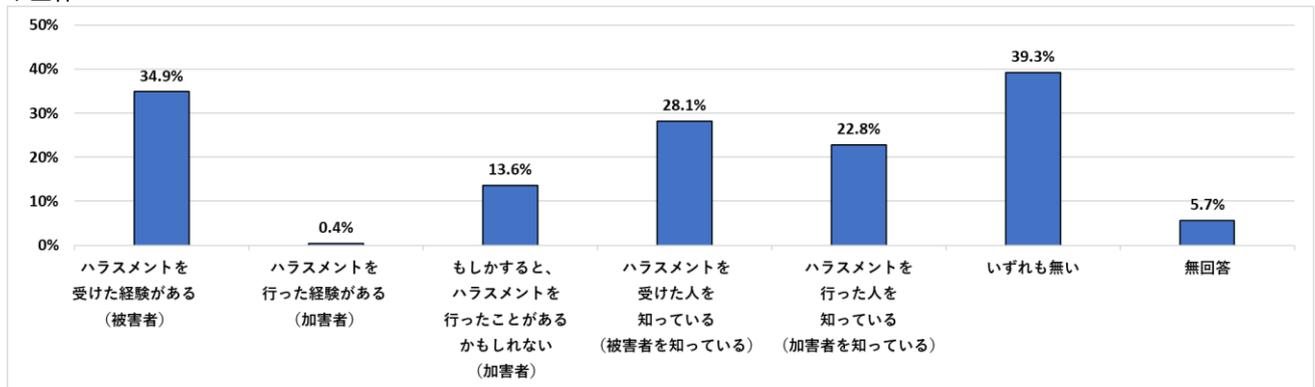
## 8 ハラスメント・様々な暴力への対策について

### ハラスメントについて 「受けた経験がある」女性の約3割

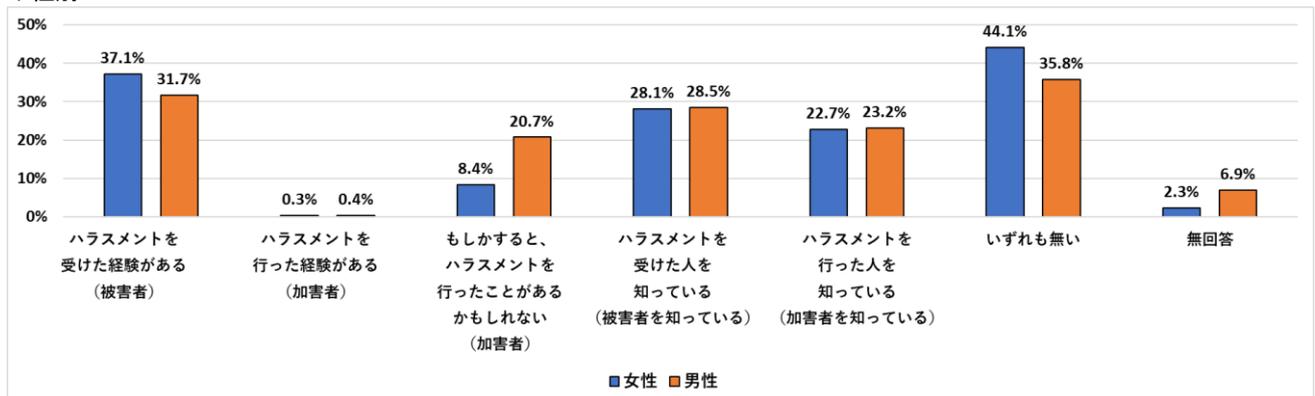
問 13 あなたは、地域や職場などで、ハラスメントを受けた又はしたことがありますか。もしくは、そのようなことをされた人、した人をご存知ですか。あてはまるものをすべてお答えください。(該当する番号の左側に○をお付けください)

- 「受けた経験がある」とした人は 34.9%で、「受けた人を知っている」は 28.1%、「行った人を知っている」は 22.8%となっている。
- 性別では、「受けた経験がある」とした人は、女性で 37.1%、男性で 31.7%となっている。
- 年代別に見ると、50 歳代で「受けた経験がある」とした人は 48.6%と半数近く、各年代の中で一番高くなっている。
- 職業別に見ると、非正規雇用者(契約社員・派遣社員・パート・アルバイト)で「受けた経験がある」とした人は 39.5%で、職業別の中で最も高くなっている。

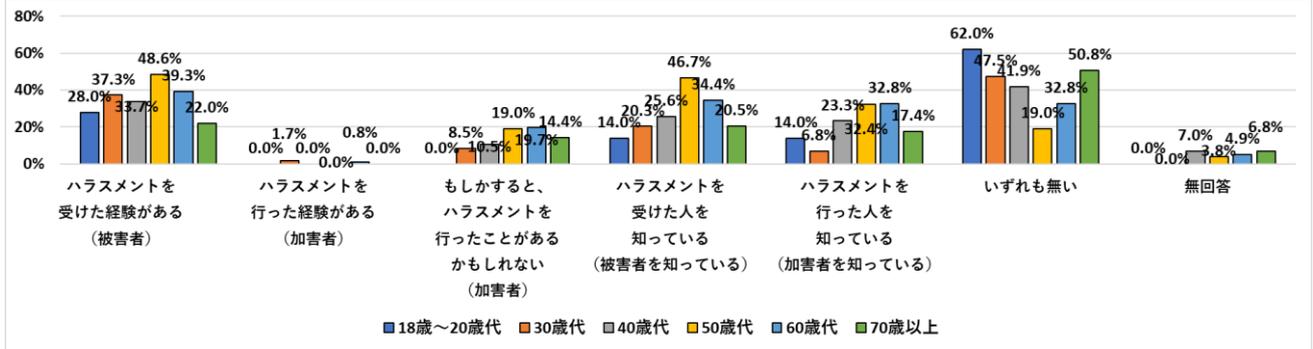
#### ◆全体



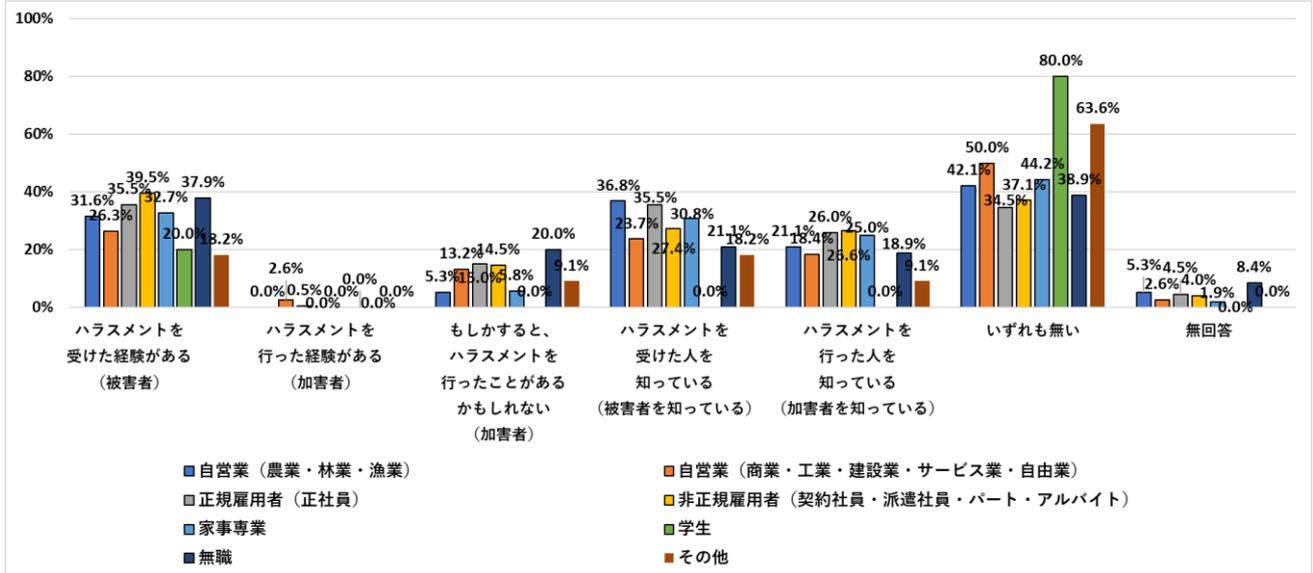
#### ◆性別



◆年代別



◆職業別

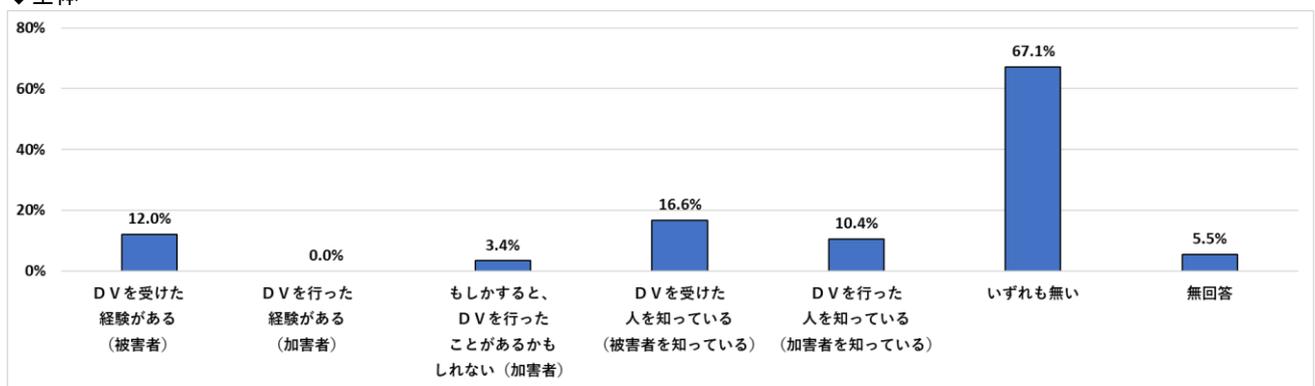


## 暴力被害について 「受けた経験がある」女性の 15.7%

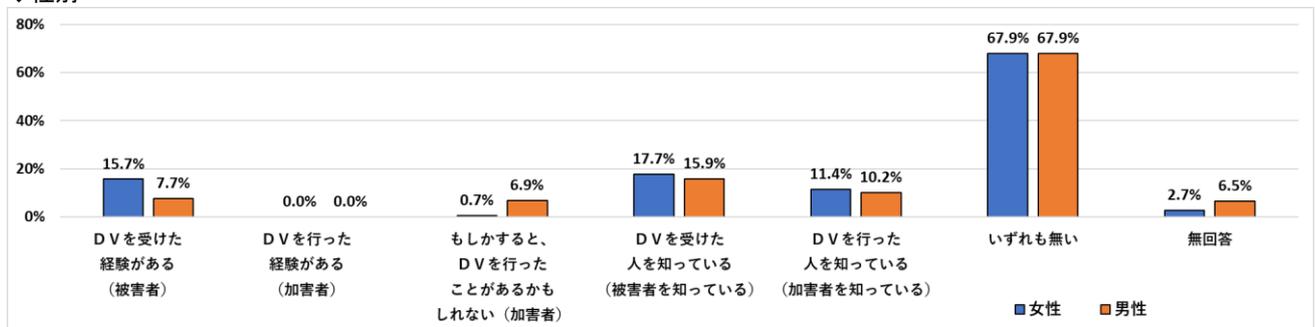
問 14 あなたは、身体的、精神的、性的な暴力(DV)を受けた又はしたことがありますか。もしくはそのようなことをされた人、した人をご存知ですか。あてはまるものをすべてお答えください。(該当する番号の左側に○をお付けください)

- 「受けた経験がある」とした人は 12.0%で、「受けた人を知っている」は 16.6%、「行った人を知っている」は 10.4%となっている。
- 性別では、「受けた経験がある」と回答した人は、女性で 15.7%、男性で 7.7%となっている。
- 年代別に見ると、50 歳代で「受けた経験がある」とした人は 17.1%で、各年代の中で一番高くなっている。

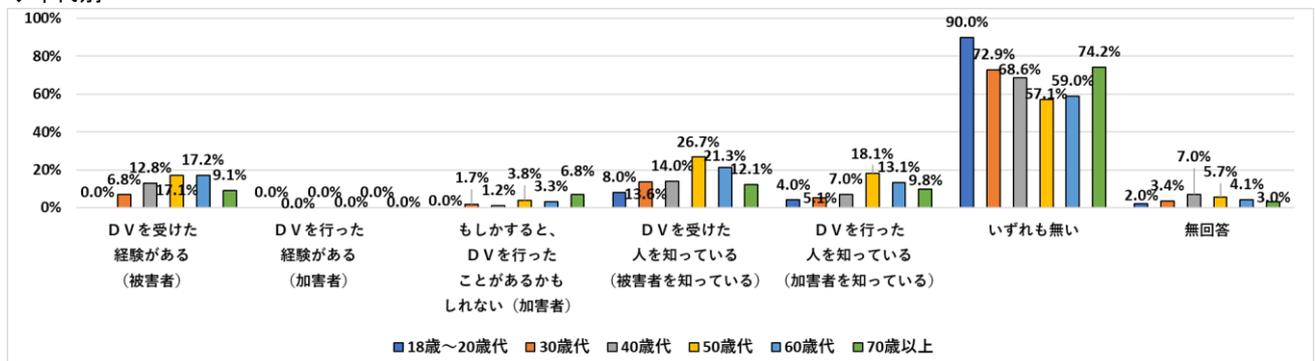
### ◆全体



### ◆性別



### ◆年代別

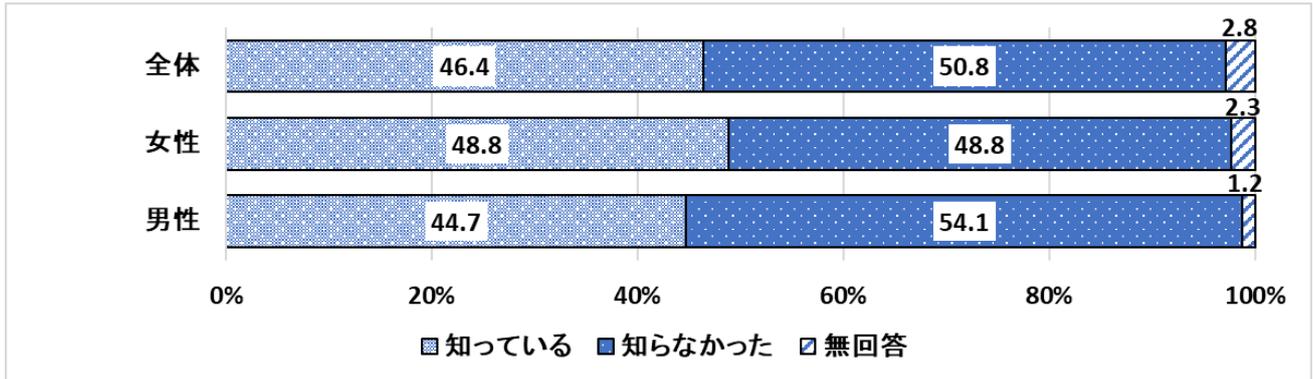


## 市の相談窓口の周知度 「知っている」約半数

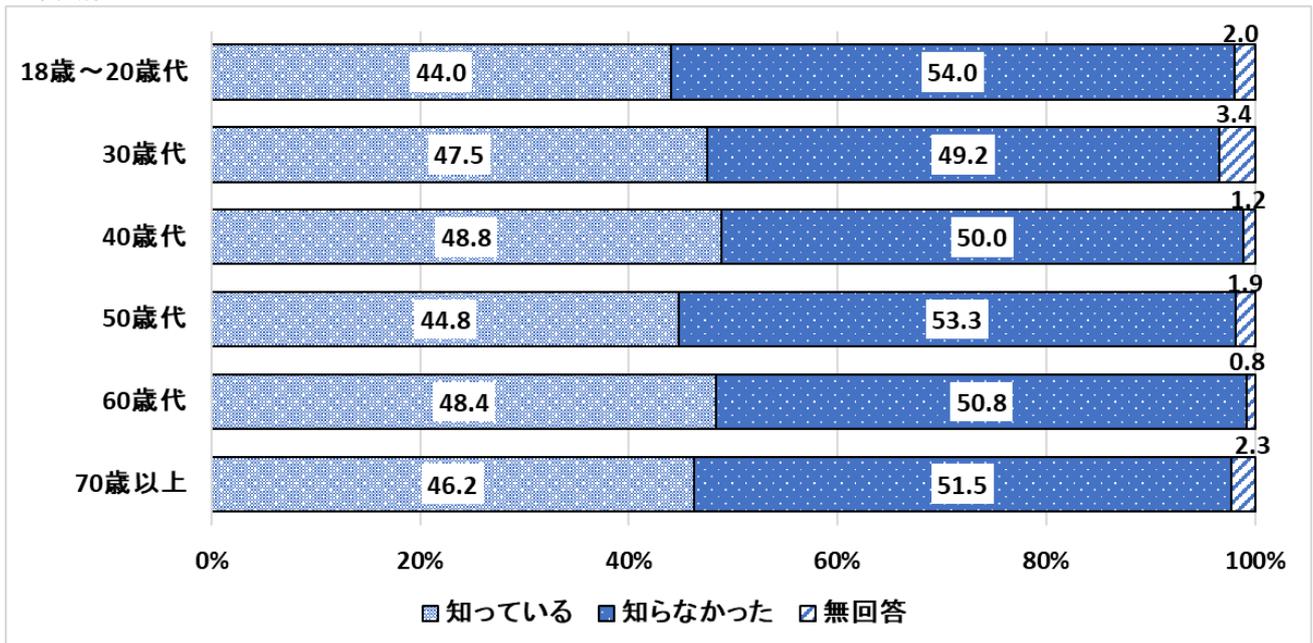
問 15 あなたは、DV被害にあったとき、市に相談窓口があることをご存知ですか。

- 男女ともに「知っている」とする割合は、5割弱となっている。
- 年代別では、どの年代も「知らなかった」割合は5割程度となっている。
- 県調査では、「知っている」とする割合は7割を超えている。（県調査の質問では、「配偶者からの暴力について、相談できる窓口があることをご存知ですか。」となっている。）

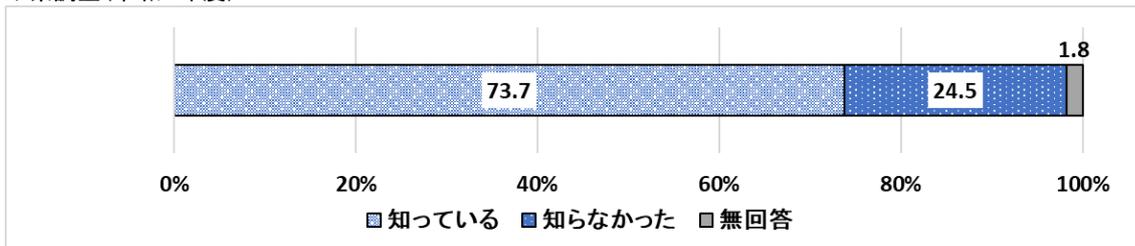
### ◆全体・性別



### ◆年代別



### ◆県調査(令和6年度)



## DV・ハラスメントなどの対策 「相談窓口の設置」64.1%

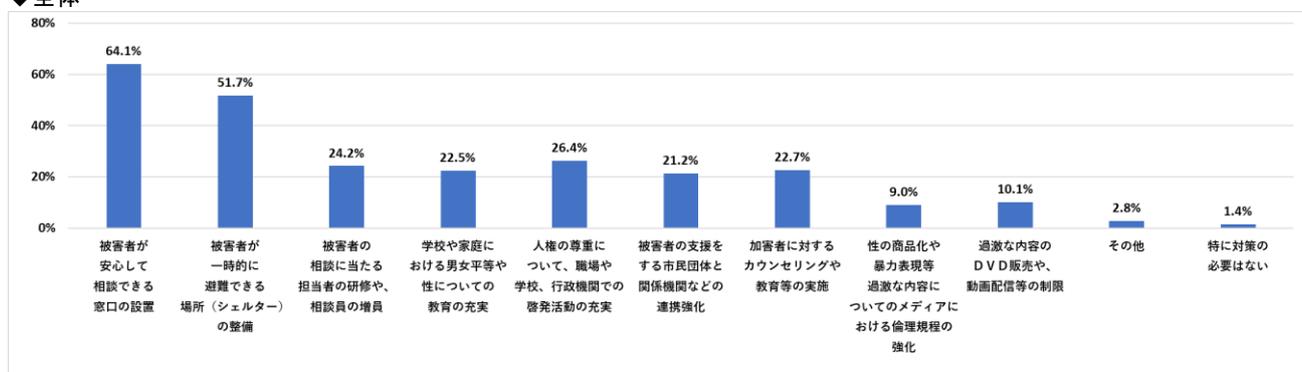
問 16 性犯罪、DV、セクシュアル・ハラスメントなどの対策として、どのようなことをしていって良いと思いますか。次の中から、3つまでお選びください。

●「被害者が安心して相談できる窓口の設置」が 64.1%と最も高く、以下、「被害者が一時的に避難できる場所(シェルター)の整備」(51.7%)が 50%を超えている。

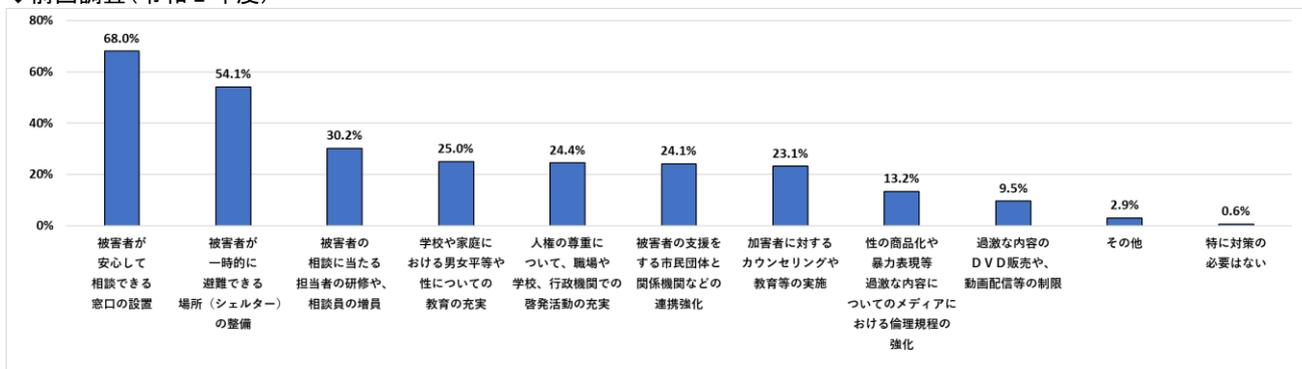
●前回調査においても「被害者が安心して相談できる窓口の設置」、「被害者が一時的に避難できる場所(シェルター)の整備」が半数を超えていた。

●年代別では、「被害者が安心して相談できる窓口の設置」は 70 歳代以上で 75.0%となったほか全年代で 50%を超えており、「被害者が一時的に避難できる場所(シェルター)の整備」は 30 歳代で 74.6%が最も高くなっている。

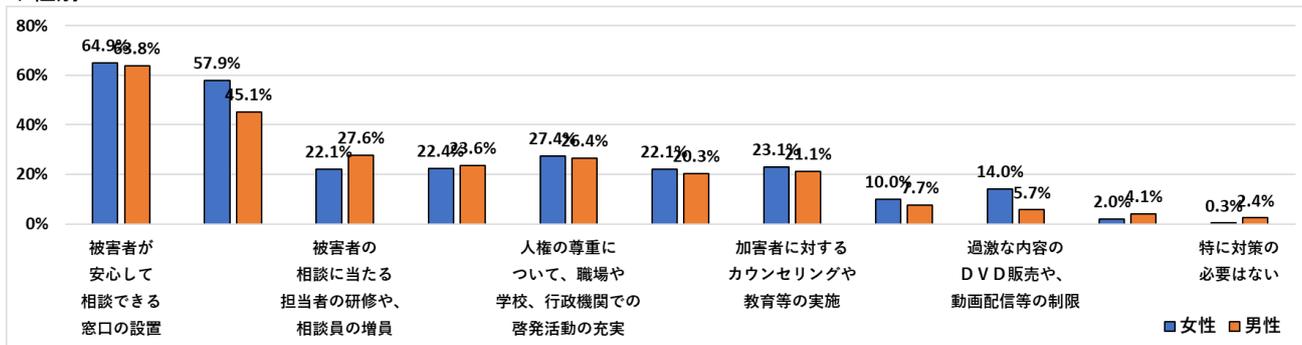
### ◆全体



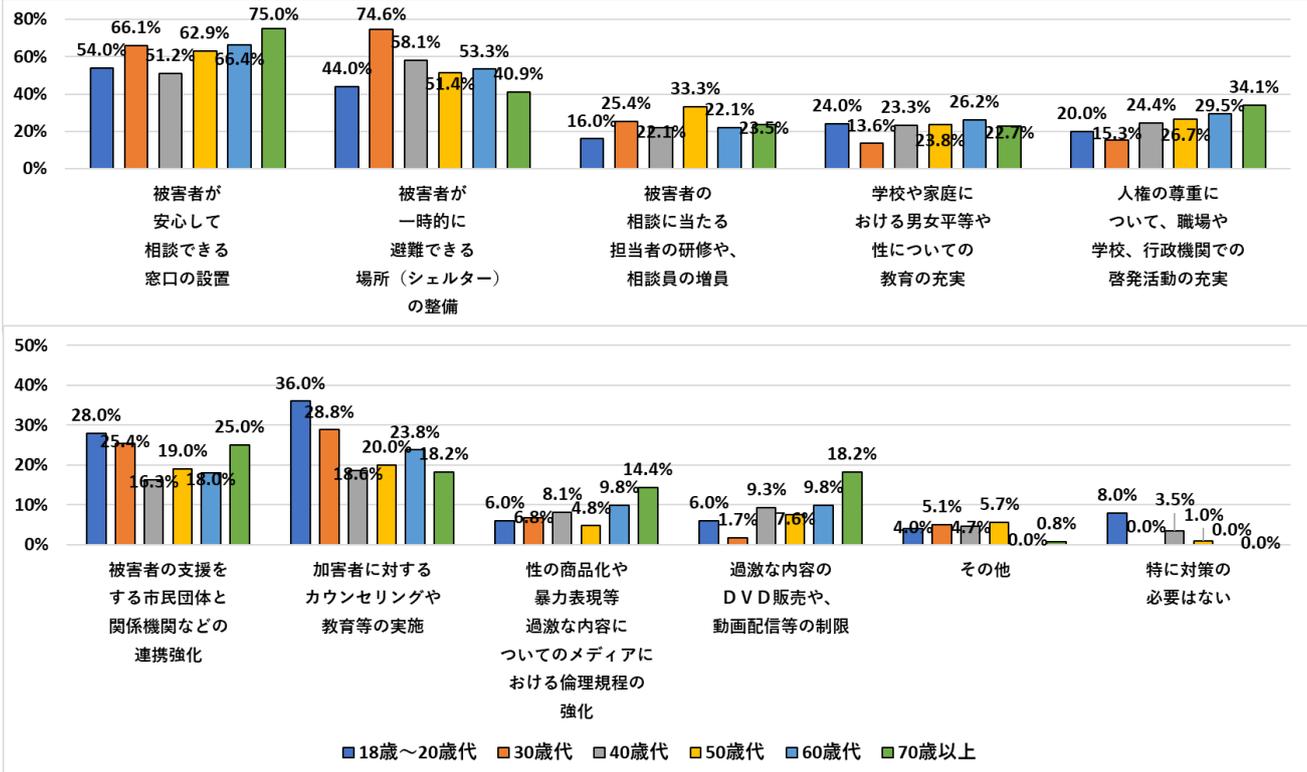
### ◆前回調査(令和2年度)



### ◆性別



◆年代別



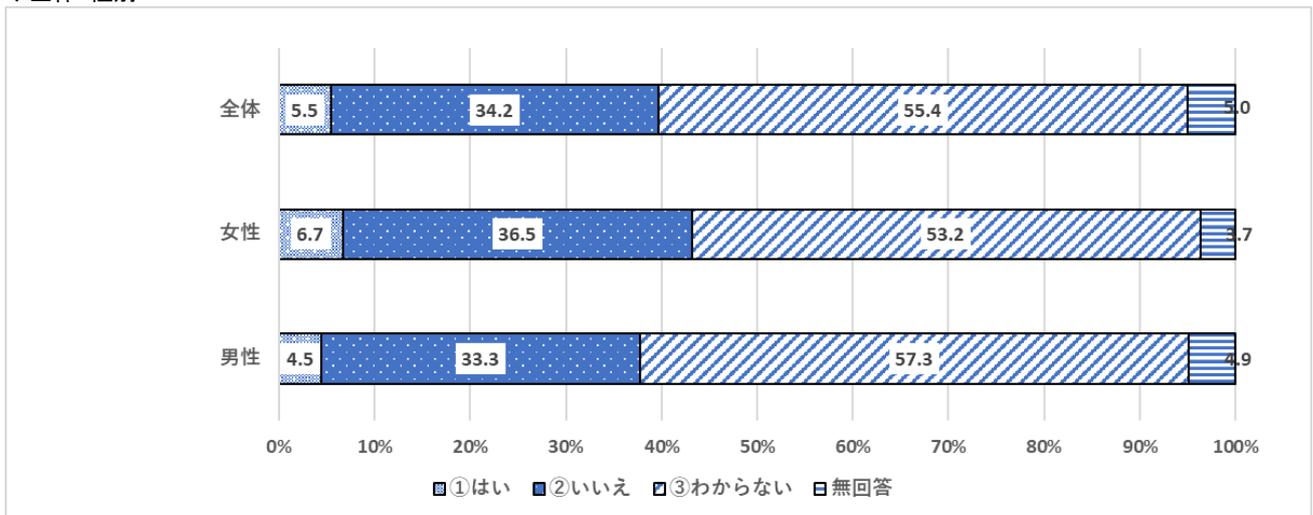
## 9 困難な問題を抱える女性への支援について

身近に困難を抱える女性の有無 「はい」5.5%

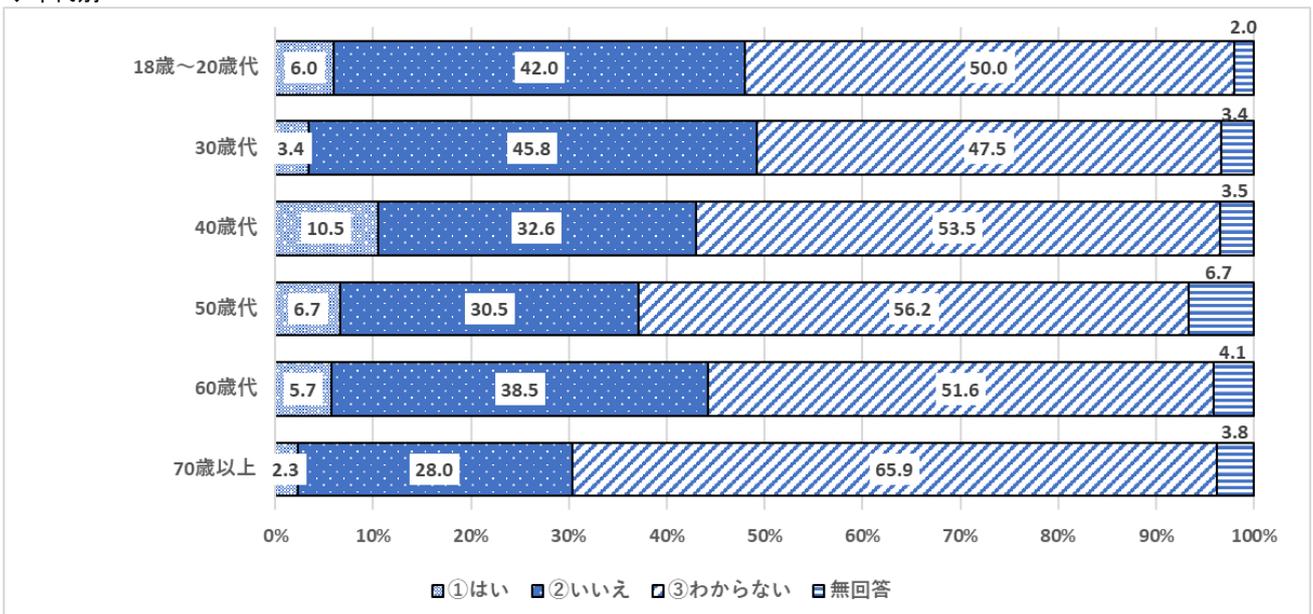
問 17-1 あなたの身近に、困難な問題を抱えている(と思われる)女性はいますか？

- 「はい」が5.5%、「いいえ」が34.2%、「わからない」が55.4%となっている。
- 性別では「はい」が女性6.7%、男性4.5%となっている。
- 年代別では、40歳代で「はい」が10.5%と最も高くなっている。
- いずれも「わからない」とする回答が半数程度を占めている。

◆全体・性別



◆年代別



問 17-2 問 17-1 で①「はい」と答えた方におたずねします。どのようなことに困難を感じていると思いますか？どのようなことにお困りか、自由にご記入ください。

女性	18歳～20歳代	家事や介護の負担
女性	18歳～20歳代	未成年の時に、成人男性に妊娠させられて子どもを産んだが、責任をとって貰えなかった女性
女性	30歳代	出産育児と仕事でのキャリアの両立
女性	40歳代	体を壊し仕事が出来ない
女性	40歳代	配偶者からの暴力(友人)話は聞くが聞くだけで対応ができない
女性	40歳代	経済的困窮、息子のひきこもり
女性	50歳代	経済的困窮
女性	50歳代	税金の支払いに苦勞している(国保)給料面
女性	50歳代	職場でのパワーハラスメントで適応障害になった女性がいて出勤できず療養している。
女性	60歳代	ギャンブル、アルコール依存症の家族とどう向き合うか。介護の負担が嫁に全部かかってくる。
女性	60歳代	一人暮らしの高齢者～買い物や通院、もしもの時の相談等
女性	70歳以上	うつ病があり薬を処方していただき、毎日決められたように服用していますが、気分がしずみがちで外出もあまりできません。
男性	40歳代	金銭問題
男性	50歳代	経済面の不安(困窮)。精神的な孤独(周囲に人はいるが心をくぐりて接しられない)。身体的、精神的な病、障がい。
男性	60歳代	介護
男性	60歳代	・一人暮らしの高齢女性 ・若年性認知症(65歳以下の単身女性)
男性	60歳代	職場でのパワハラ問題
男性	60歳代	母子家庭で経済的に(働く時間が限定される為)

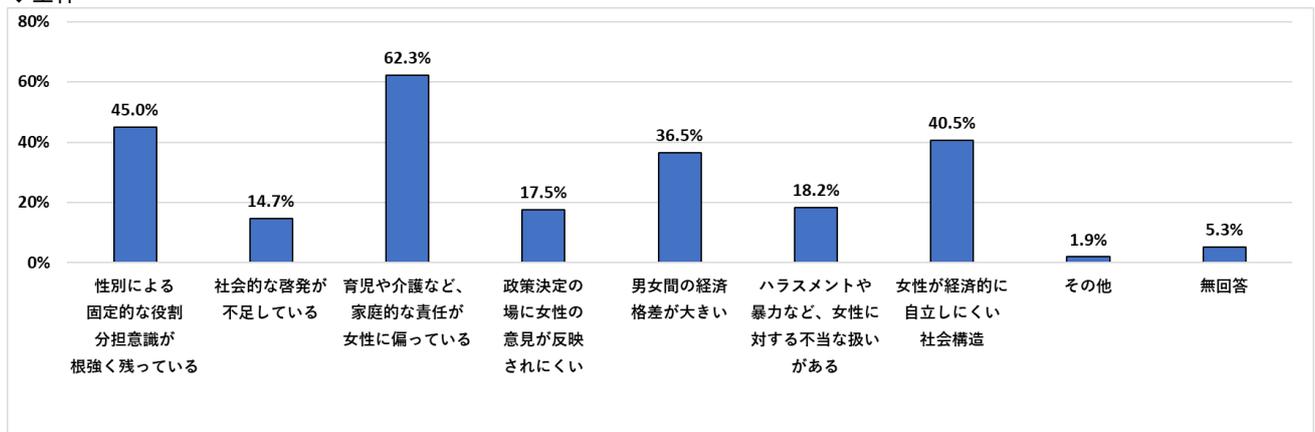
## 女性が困難を抱える背景 「育児や介護など、家庭的な責任が女性に偏っている」62.3%

問 18 女性が困難な問題を抱える背景や原因として、どのようなことが考えられると思いますか。次の中から、3つまでお選びください。

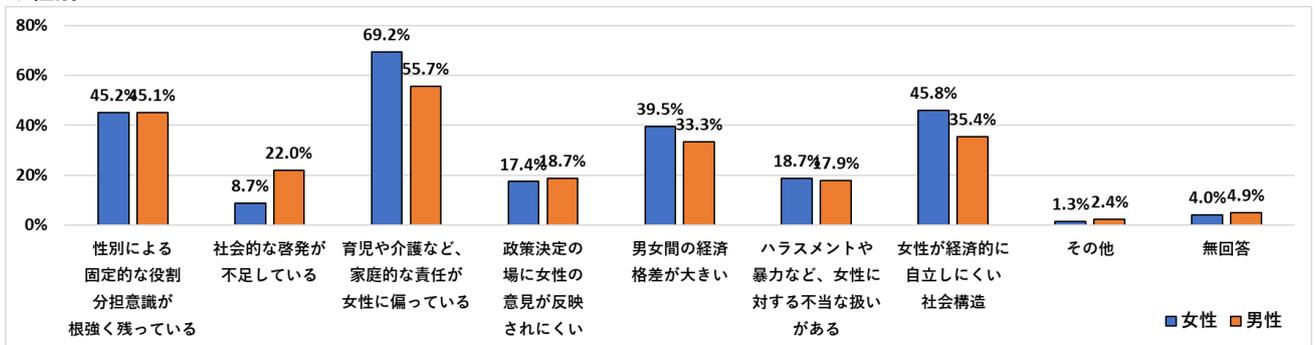
●「育児や介護など、家庭的な責任が女性に偏っている」が 62.3%と最も高く、以下、「性別による固定的な役割分担意識が根強く残っている」(45.0%)、「女性が経済的に自立しにくい社会構造」(40.5%)の順となっている。

●性別では女性の「育児や介護など、家庭的な責任が女性に偏っている」69.2%が最も高くなっている。

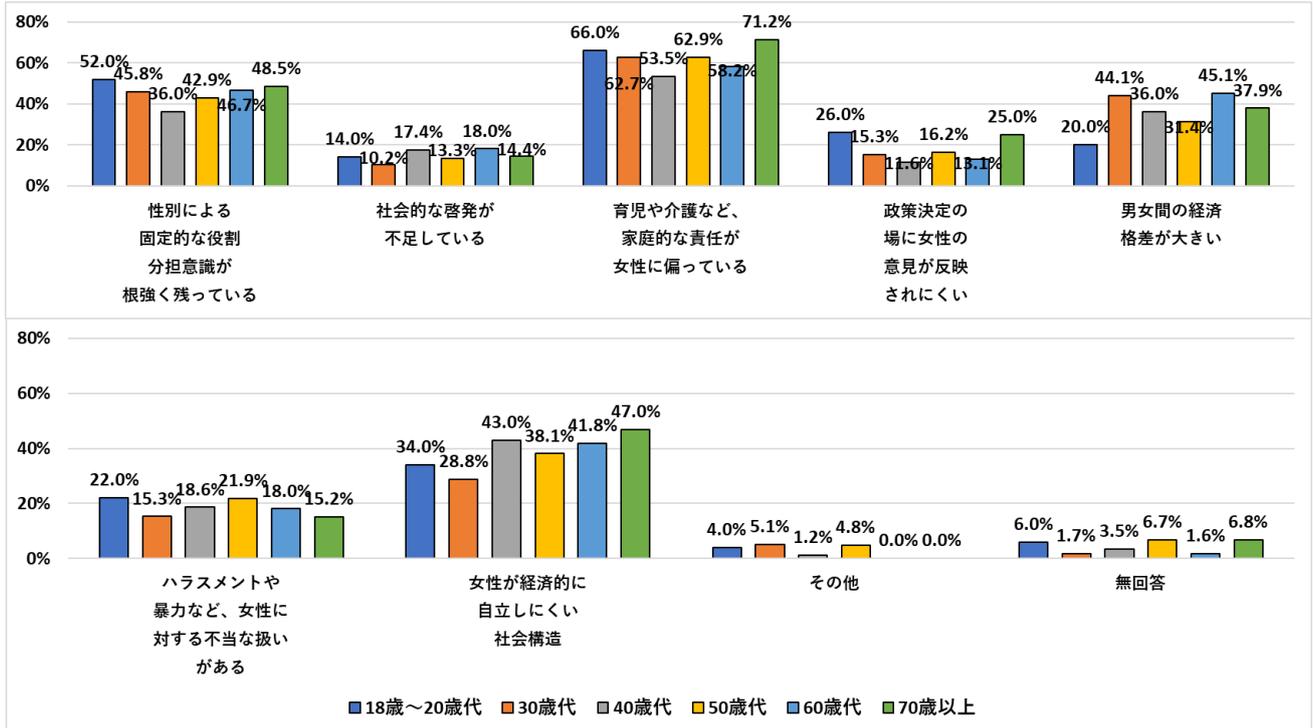
### ◆全体



### ◆性別



◆年代別



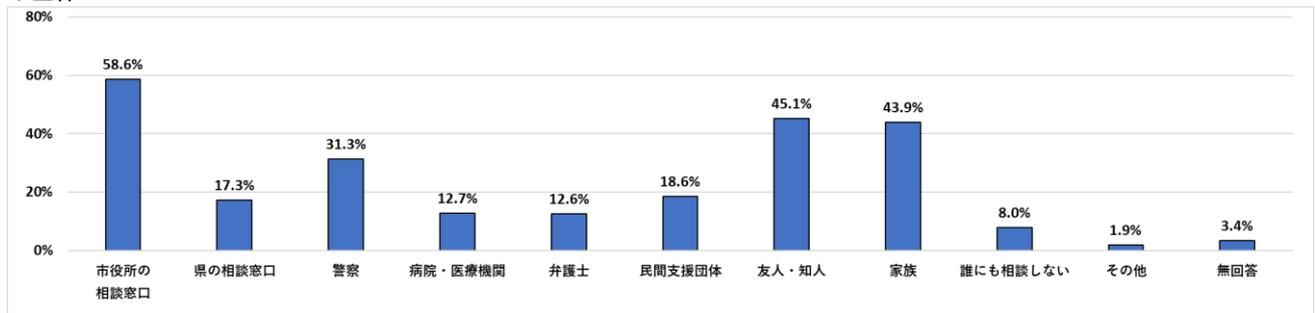
## その場合の相談先 「市役所の相談窓口」58.6%

問 19 もしあなたが、あるいはあなたの周りの女性が、困難な問題を抱えた時に、どこに相談しようと思いますか。次の中から、3つまでお選びください。

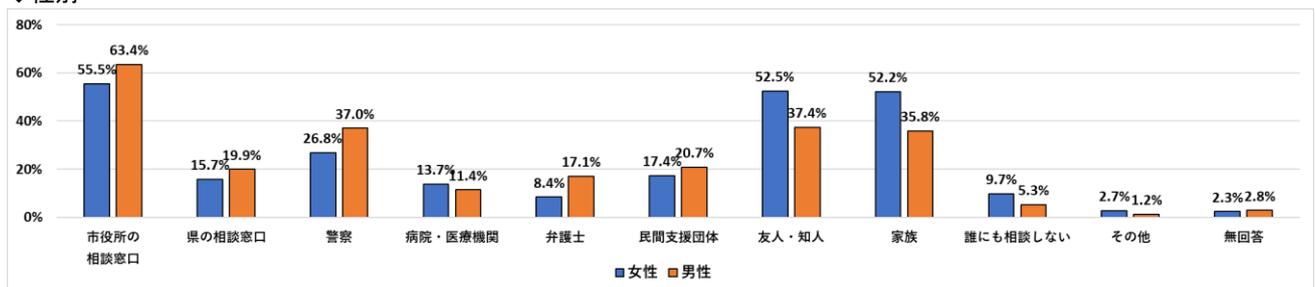
●「市役所の相談窓口」が 58.6%と最も高く、以下、「友人・知人」(45.1%)、「家族」(43.5%)、「警察」(31.3%)の順となっている。

●性別では女性の「友人・知人」が 52.5%であるのに対し、男性 37.4%、「家族」女性 52.2%に対し、男性 35.8%と男女差が見られる。

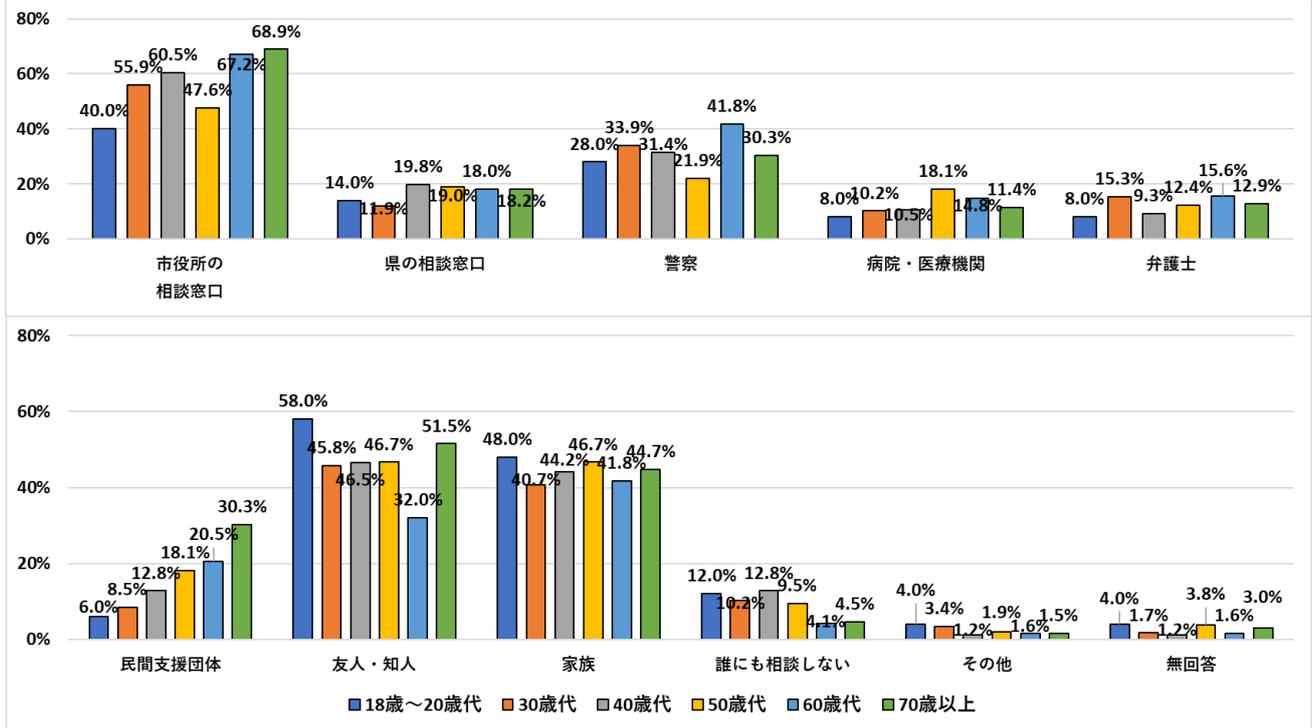
### ◆全体



### ◆性別



◆年代別



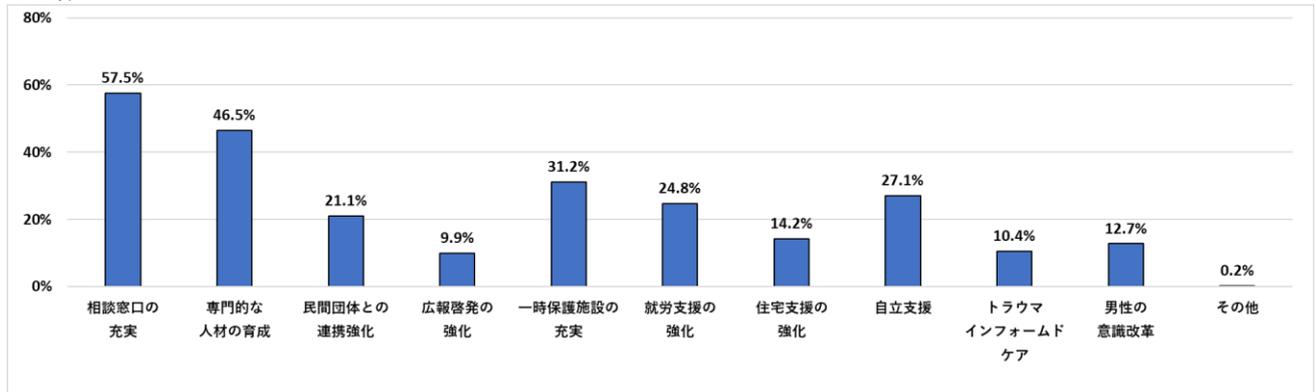
## 市が支援すべきこと 「相談窓口の充実」57.5%

問 20 佐久市が、困難な問題を抱える女性への支援に関して、特に力を入れるべきだと思うことは何ですか。次の中から、3つまでお選びください。

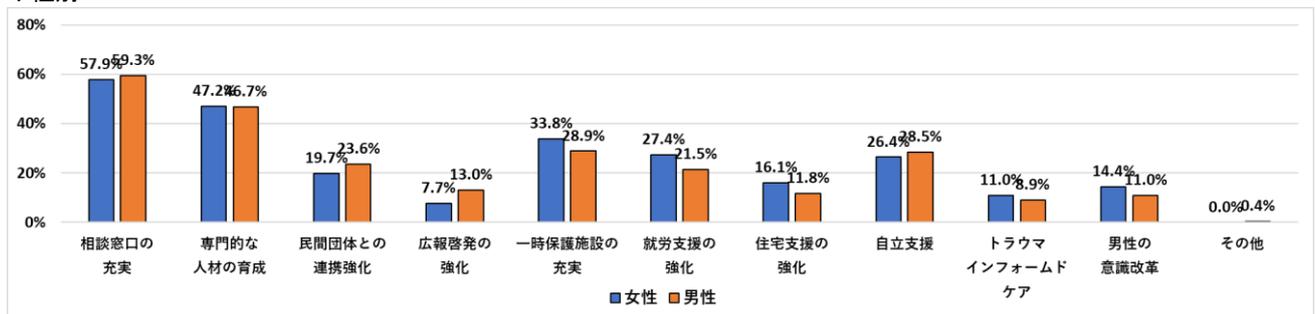
●「相談窓口の充実」が 57.5%と最も高く、以下、「専門的な人材の育成」(46.5%)、「一時保護施設の充実」(31.2%)、「自立支援」(27.1%)の順となっている。

●年代別では、「専門的な人材の育成」で 18 歳～20 歳代の 28.0%に対し、60 歳代では 55.7%と約 2 倍の差が見られる。

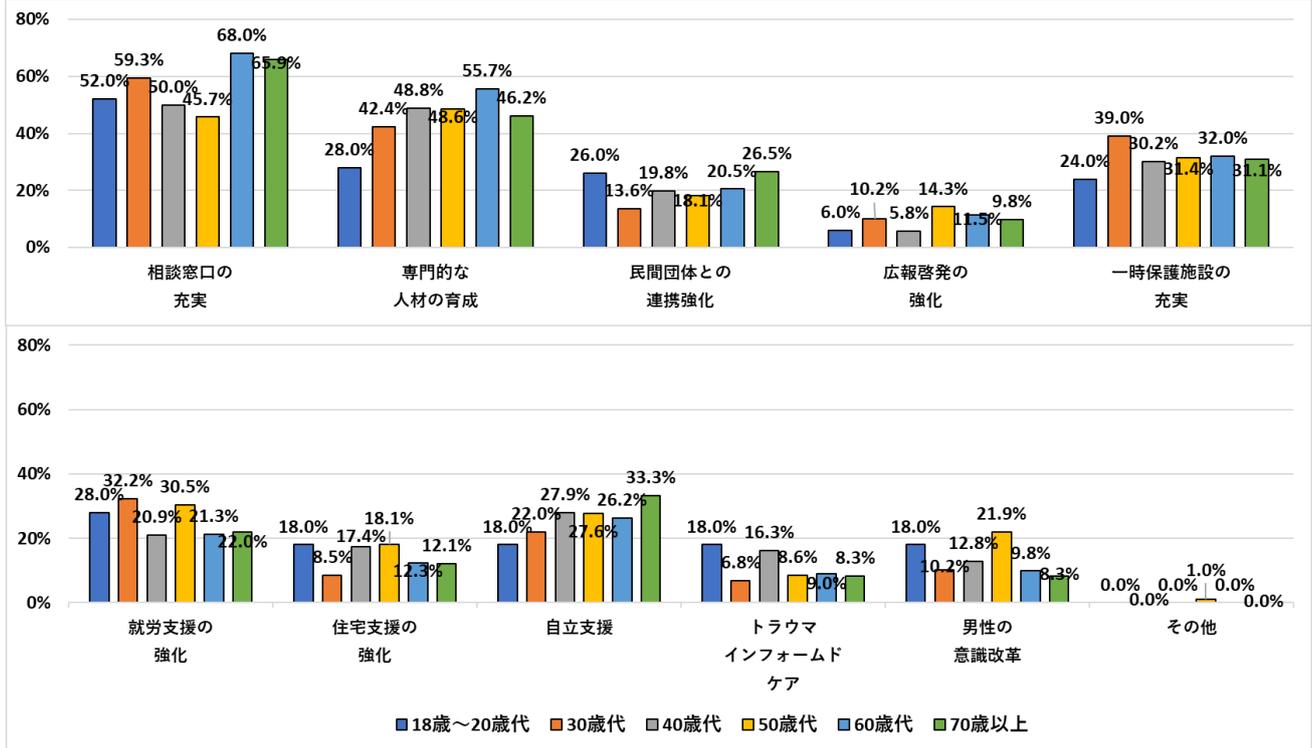
### ◆全体



### ◆性別



◆年代別



## 10 男女共同参画社会の実現について

### 男女共同参画社会の実現 「実現できていない」45.6%

問 21 「男女共同参画社会」とは、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を發揮することができる社会」です。

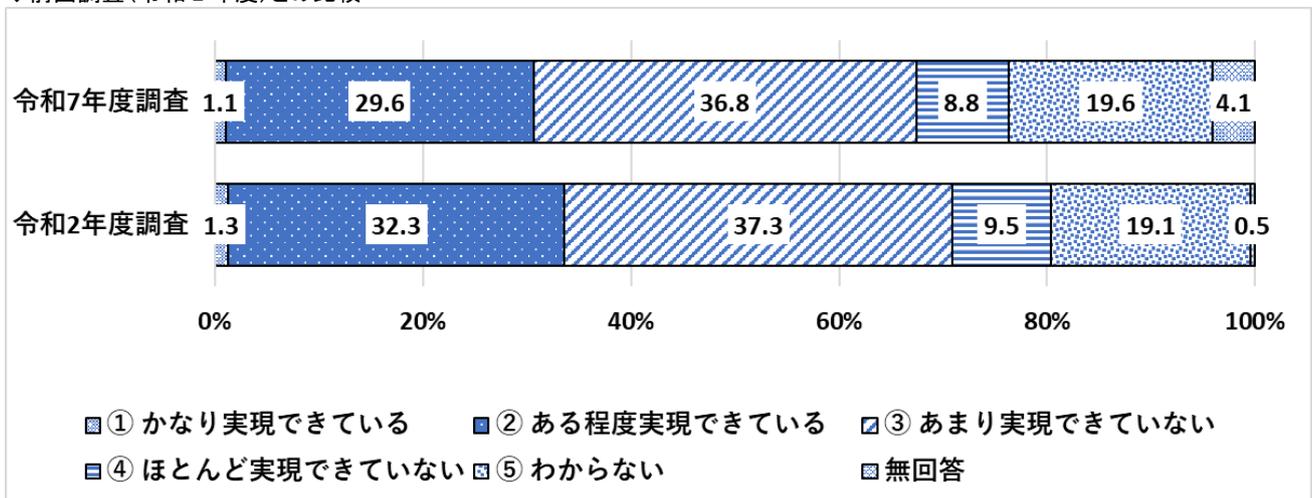
「男女共同参画社会」を実現するための基本理念を定めた「男女共同参画基本法」が平成 11 年に成立して、今年で 26 年目になります。

あなたは、あなた自身の生活や身の回りの環境から判断して、現在、男女共同参画社会は実現できていると思いますか。

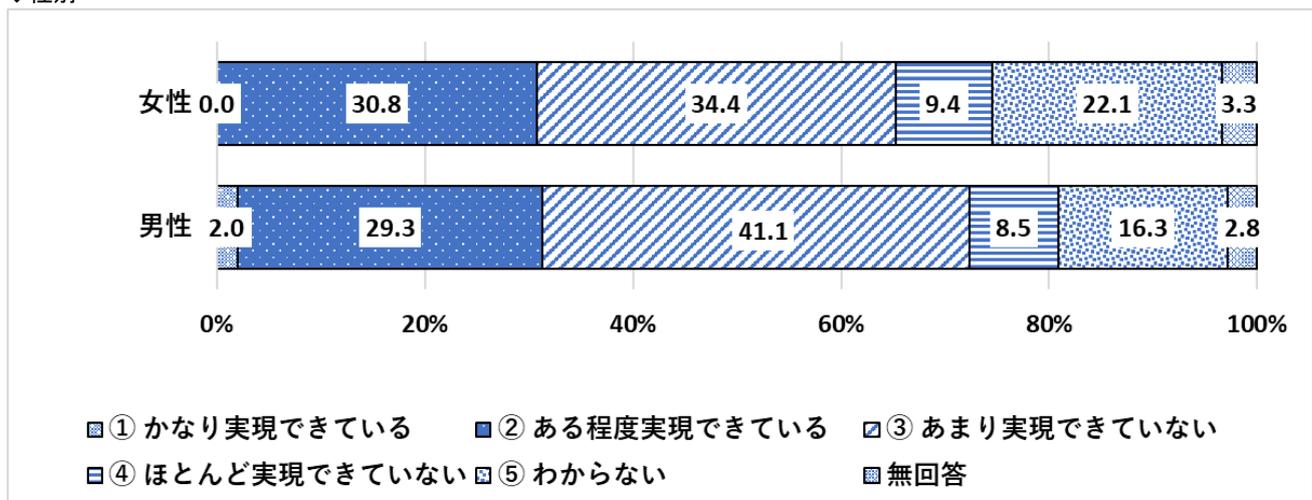
●「あまり実現できていない」または「ほとんど実現できていない」割合は 45.6%となっている。

●年代別では、「かなり実現できている」または「ある程度実現できている」割合は 18 歳～20 歳代で 44.0%、70 歳以上で 25.8%と差が見られる。

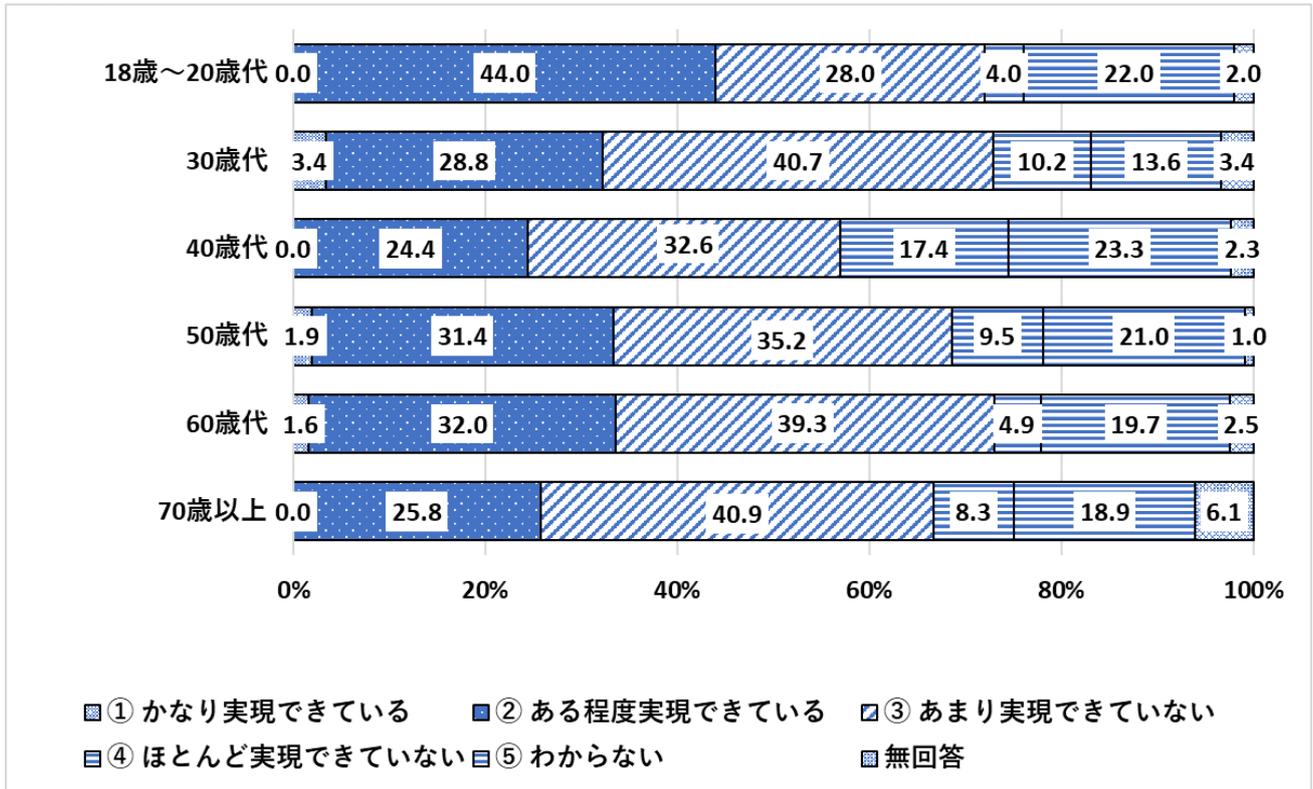
#### ◆前回調査(令和2年度)との比較



#### ◆性別



◆年代別



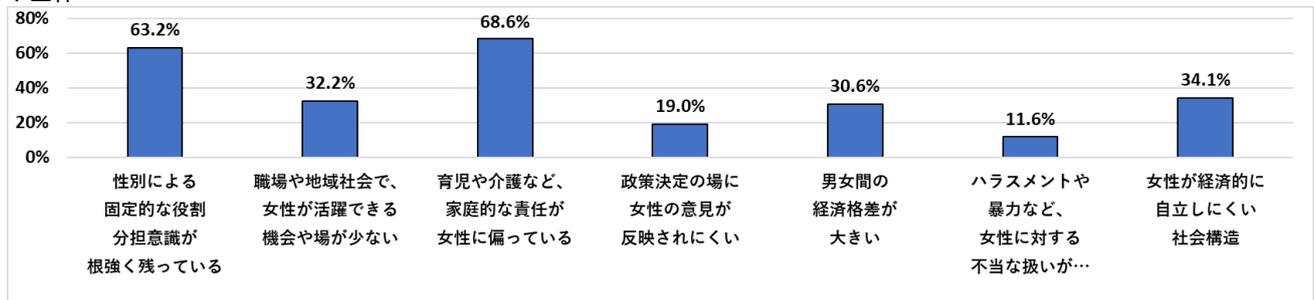
## 実現できていない要因 「家庭的な責任が女性に偏っている」68.6%

問 21-1 問 21 で「③ あまり実現できていない」「④ ほとんど実現できていない」と回答した方におたずねします。男女共同参画社会が実現できていない要因として、どのようなことが考えられますか。次の中から、3つまでお選びください。

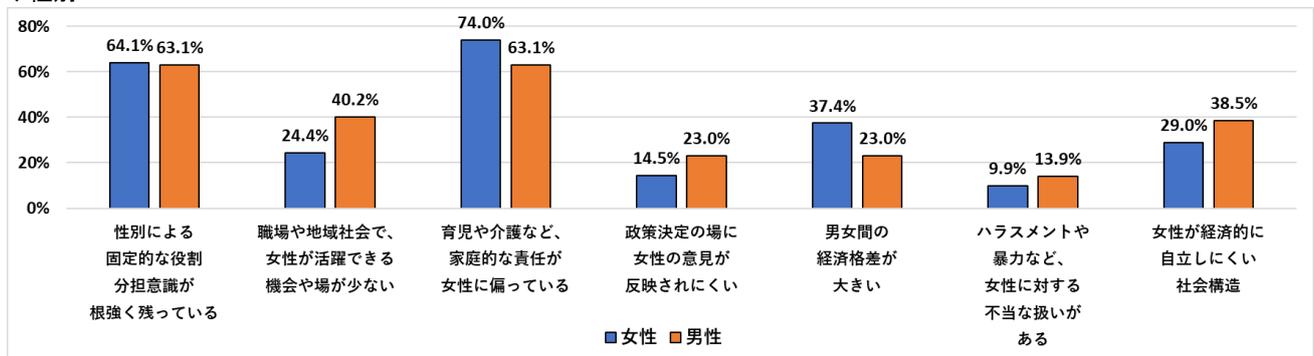
●「育児や介護など、家庭的な責任が女性に偏っている」が 68.6%と最も多く、以下、「性別による固定的な役割分担意識が根強く残っている」(63.2%)、「女性が経済的に自立しにくい社会構造」(34.1%)の順となっている。

●性別では、「育児や介護など、家庭的な責任が女性に偏っている」で女性 74.0%、男性 63.1%と 10.9 ポイントの差が見られる。

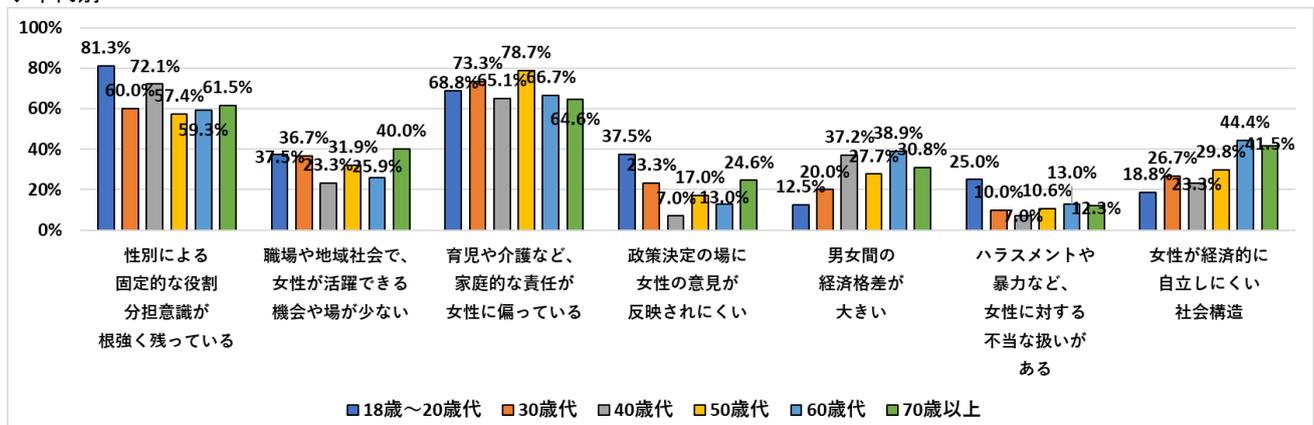
### ◆全体



### ◆性別



### ◆年代別

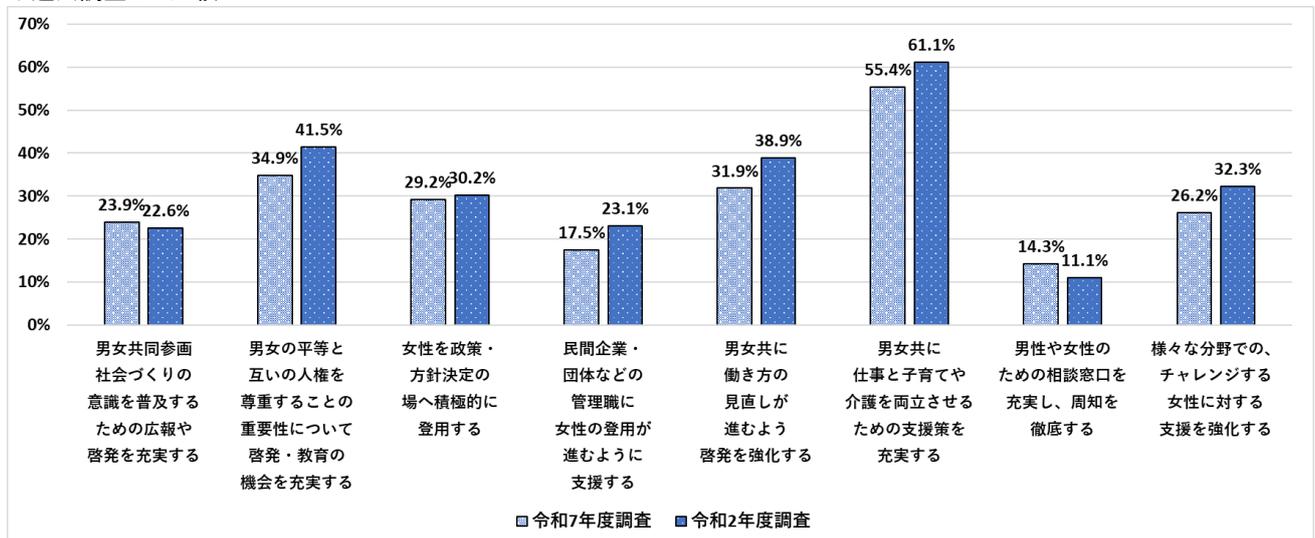


## 佐久市が力を入れていくべき施策 「仕事・子育て・介護両立の支援策」55.4%

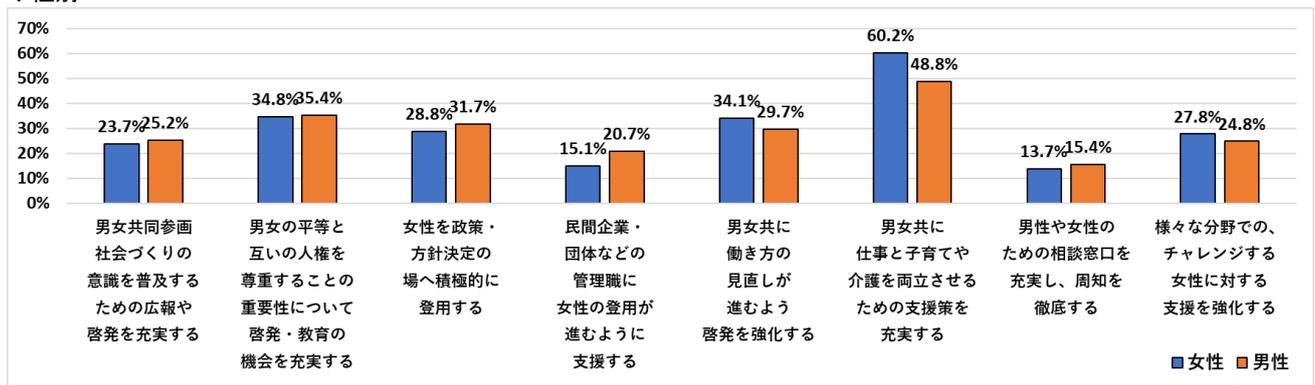
問 22 男女共同参画社会づくりを進めるために、佐久市は、どのような施策に力を入れていくべきだと思いますか。次の中から、3つまでお選びください。

- 「仕事と子育てや介護を両立させるための支援策を充実する」が 55.4%と最も高く、以下、「男女の平等と互いの人権を尊重することの重要性について啓発・教育の機会を充実する」(39.4%)、「男女共に働き方の見直しが進むよう啓発を強化する」(31.9%)の順となっている。
- 過去調査との比較においても、「仕事と子育てや介護を両立させるための支援策を充実する」が割合こそ減少しているが最も高い。
- 性別では、「仕事と子育てや介護を両立させるための支援策を充実する」が女性 60.2%に対し男性 48.8%と 11.4 ポイントの差が見られる。

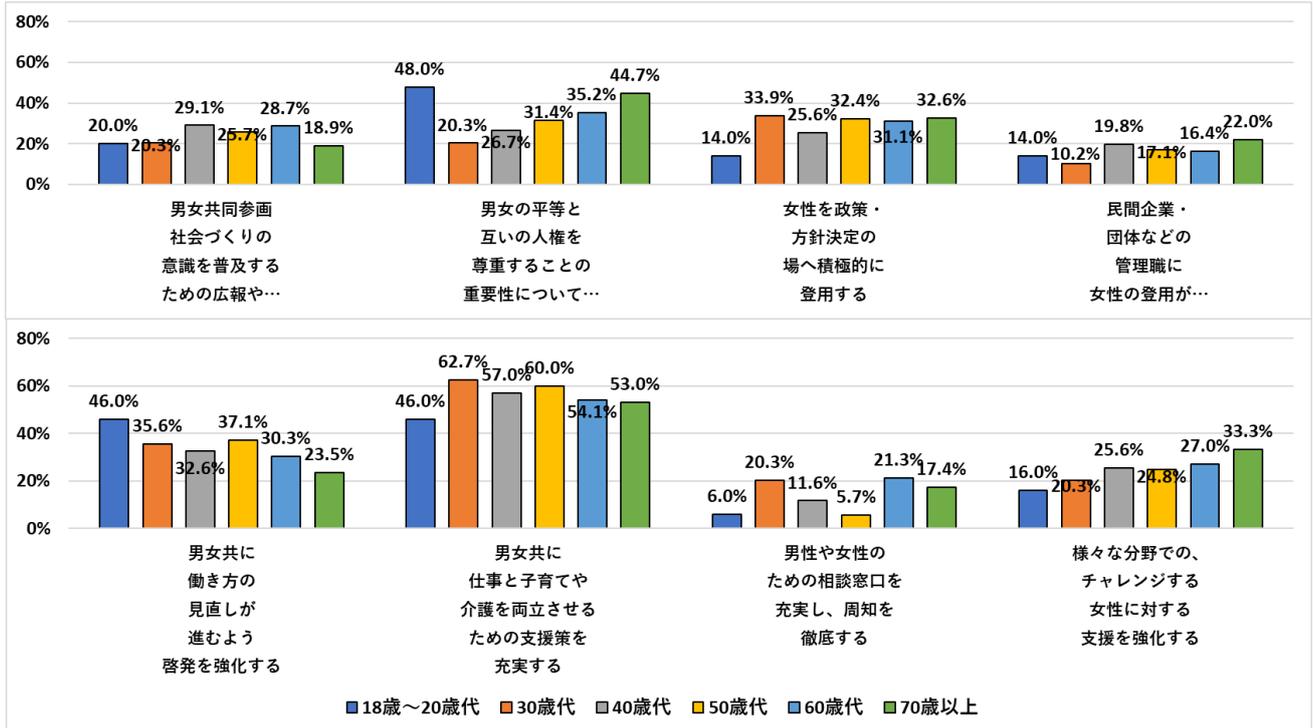
### ◆過去調査との比較



### ◆性別



◆年代別



問 23 男女共同参画について、ご意見がありましたらご自由にお書きください。

女性	18歳～20歳代	正直学生の身分では社会の男女平等が実現できているかどうかはあまり感じられません。私の視点では男女平等に見えてもそうじゃないのかもしれない。私的な想像なのですが何か悩んでいてもすぐには周りに打ち明けられないと思うので、知人や周りの人が何かの異変に気付いてあげられたら、それで救われる人もいるのかなと思います。日本人は控えめな人が多いので勇気をもって打ち明ける大事さを教育の段階で身につけていけばいいのかなと思います。
女性	18歳～20歳代	性別による固定的な考えがなくなれば良いと思います。
女性	18歳～20歳代	平等とはなんでしょうか。その定義づけから曖昧な気がします
女性	30歳代	単に「女性管理職の割合が〇〇%」などと数値だけをあげるのではなく、それは本当に本人が望んでいる役職なのか？が大切かと感じる。他の支援（例えば母が管理者ならお子さんのお迎えに関してや家庭がない場合でも他の男性管理者の排他的意識の改善など）がなされてないまま数字パフォーマンスで登用されると結果的に本人がしんどくなり続けられなければ「やはり役職者は男性でない」という意識になり意味のないものになる気がする。
女性	30歳代	子育て中フルタイムで働いている者ですが、管理職が女性であろうと男性であろうと理解があるかないかは性別では決まらないと思います。女性が子育てをしながら働き続け、キャリアアップをするということは、周りの理解がなければ絶対にできないです。今はまだ職場の理解が足りず家族の時間を犠牲にしている自分に嫌気がさします。もっと子育て中の母親が働きやすい世の中であってほしいです。
女性	30歳代	実際男女共同参画を初めて知りました。それくらい知名度は低く聞こえはよいかもしれないが、男女平等なんて何もなっていない。同じ仕事、同じ時間働いているのになぜ男性のほうが収入が高いのか、そこからして全く平等なんて思えない。
女性	30歳代	私は子どもがいませんがペットの病院などは基本私が行きます。それは私のほうが自由度が高いので、私の中ではそれが平等です。けれど家の仕事となると私がやるのは平等に思えません。共働きのフルタイムだと家事は2人でやりたい。大人の生活を片方がするのがおかしいと思うからです。私の中でも行動一つが平等かどうか違ってきます。日によっても変わるかも、だからそれが平等かどうかは個人で決めて、そのための仕事場での有休をとれるのがもっと自由であってほしい。(夫の会社は有休は取れるけど、火、水、木は取りづらい雰囲気。一日ならいいけど連休はダメとか)
女性	30歳代	佐久はいいところです 更に良くなることを願ってます
女性	30歳代	ない
女性	40歳代	長野県では女性の会社での地位が低いと、一般企業では女性が役職に就くことが難しいのではないのでしょうか。また、女性自身もそれを良しとしている傾向があることも事実だと思います。けれども、女性の活躍と世間では騒がれており「女性」という性別だけで役職を与えなければならない風潮になっているように感じますし、実際に私の勤務する会社でも年々女性の役職者が増加しつつあります。実際に実力のある女性が昇格することはとても喜ばしいことです。しかし、実力のない者に「女性」というだけで役職を与えた場合、それは本来の意味での男女共同参画社会と言えるのか、と疑問でもあります。女性の大学進学率も高まっていますよね。家庭内に実力があるのに何らかの理由で陽の目をみていない女性が佐久市にもいるのではないのでしょうか。「女性だから」ではなく「実力のある女性」が社会でも地域でも活躍できてこそ男女共同参画社会だと思います。
女性	40歳代	私の家では、男は家事をしません 小さい時から女が家事をするのが当たり前の場面しか見ていないからです そういう環境で大人になった男の意識を変えるのは無理です 私の子どもたちがこれから家庭を持つことになったら、世界は男女平等なんだと言うことを知らない人間でないために、家事に興味を持った時にお手伝いという形で、家事を教えました。 それが将来のパートナーの負担を減らすきっかけになったらいいと願っています。

女性	40歳代	私の職場では、表向きの女性活躍についての活動は行われるようになってきました。ですが、実情は全く進んでいません。田舎ならではのかもしれませんが、多くの会社や組織がそのような現状を感じていると思います。移住先で人気の佐久市です。考え方もだんだんと広い視野を…一市民として期待をしております。まずは市政から大きなインパクトがある行動をしていただくと幸いです。中小企業にも働きかけをお願いできればありがたいです。特にまだ昔の考え方が残っています。もともと、女性ばかりに焦点をあてるのも違うとは思いますが、暮らしやすい佐久市でありますように願います。宜しく願い申し上げます。
女性	40歳代	アンケートについての意見になりますが、選択肢の中に該当がないものが多くまた、立場や内容により回答が変わるものもあるので、とても悩み、時間を要しました。そのため回答に迷ったものは「わからない」を選択しました。参考にさせていただきたくない回答です。
女性	40歳代	妊娠を伝えると即日解雇する会社がいまだにあります。 安心して男女共に出産、子育てができるような社会になってほしいです。
女性	40歳代	性教育の充実 地域の自治会がかなり男女差別がある印象です
女性	40歳代	現在の社会では、男女共同参画への取り組みが行われてはいますが家事、育児について女性への負担が大きいのが実情ではないかと思えます。妊娠、出産という空白があっても仕事に復帰しやすく、また子育てと仕事の両立がしやすい体制がもっと広がって欲しいです。働くことも、子どもとの時間、自分の時間も男女ともに大切にできる社会になって欲しいと願っています。
女性	40歳代	普段生活している上では職場でも家庭でも不当な扱いを受けたことはなく、恵まれていると思う。地域の集まりに役員として手伝いに行った時、男性はみな座ってお酒を飲んでいて女性はずっと料理、お酒の追加、準備、片付けだった。男性は皆酔っていい気分です。昭和かと思った。佐久に引っ越してきて一番驚いたことがこれ。地域の集まりで男性は力仕事、女性が台所片づけというのが当たり前に行われていてがっかりした。
女性	50歳代	日々の市政運営にたずさわっていただき、本当にお疲れ様です。頭が下がります。育児休暇が中小企業でもとりやすくまた休暇終了後に戻れる環境が当たり前の世の中になるといいと思います。生意気な意見ですみません。私自身が考えが古くてすみません。これから大人になる子どもどもたちが夢を持って成長していかれる社会になるといいと思います。
女性	50歳代	・子どもの時からの教育が大切(学校・家庭ともに) ・なんとなく分かっているけどあまり自分が変わらなければいけないと思うことがない気がする。冊子などがあってもあまり読まないしね。
女性	50歳代	①中学生の娘がいます。体育の授業で体力測定があり、シャトルランの記録をとりました。最初に男子が測定し100回以上を記録した子がいました。次に女子が測定しましたが時間が終了したとの理由でまだ続けられる子がいたにもかかわらず止められてしまいました。教育現場(特に義務教育の場)でもこのような女子の能力が制限されるような事例があることに問題の根深さを実感します。②私の中にも植え付けられているアンコンシャスバイアスに気づいてゆくことが必要だと思っています。
女性	50歳代	現在大小関わらずどの企業もどんな職種でも男性が育児休暇を取れるようになっているのでしょうか？男性も人によっては取りたいと言えない方もいると思うので子どもが生まれたら本人が言わなくても取れる仕組みが必要だと思えます。
女性	50歳代	田舎の高齢者(特に男性)には家事や台所仕事は女性の仕事という考えが根強くあります。地区行事では女性が料理を作ったりおもてなしをすることが当たり前となり、あまりにも時代の流れに逆らっています。市や県の担当者様にはそのようなところをよく見てほしいと思います。残念ながら女性の負担が多すぎるのが現実です。

女性	50歳代	女性は子どもを産んだら子どもに手がかかりきりになり、社会的に弱い立場になります。平等とは言いますが、両親や姉妹や家族から手助けしてもらわなければ2人だけでは育てられません。社会でも(保育園や幼稚園)手助けしてくれなければ「働き」にも行けません。子育てしながら働きながら家庭で家事をやるのは女性です。生きていくのだから大変なのに毎朝毎晩食事の用意をして洗濯、そうじに家計のやりくりまでやるのです。男性の意識改革が必須です。教育現場で男性に洗濯、掃除、料理をどんどんさせないと大人になったって女性のサポートができない男性ばかりです。
女性	50歳代	男女共同参画について、あまり実感を持ってない人が多いように思えます。自身も佐久平女性大学で学んだことで意識が高まりました。広報などで多くの人に知ってほしいと思います。わが街佐久市もまだまだ古い考え方が横行しているように思います。女性が我慢しなくてよい社会を望みます。
女性	50歳代	主人が発達障害に加えモラハラ気質です。何とかしてください。
女性	50歳代	性別関係なくやりたいことに制限を設けず発言できる環境を作っていくことが大切だと思います。ハラスメントなど線引きされている言葉が多く使われていて、発言がしにくい状況になっています。聞く側も事務的で事なかれ主義と捉えられるような態度は避け、どうしたら皆が幸せになれるのか寄り添う姿勢が必要だと思います。
女性	50歳代	とくに有りません
女性	50歳代	男性の育児協力が進んできていると思いますが職場によっては休みが取りづらいなどあると思います。 育児は大変です。男性も育児休暇が遠慮なく取れるよう全ての企業の協力、金銭的支援が必要だと思います。 病院勤務していると患者様からの暴言暴力など昔に比べると増えていると思います。仕方がないと思いますが…
女性	50歳代	日本人は他の国の人より体が小さい為出産が命がけになりやすい。ベビーシッター家政婦もなく質の悪い保育士が多い日本でまだ女性が外で働くべきではない。まず子どもを産み母が仕事をしなくても生活できる環境が先では？
女性	60歳代	(長)と名がつくものは男性にやってもらった方がいい。手を出したら余計な仕事が増えるじゃないの! という女性の考えが女性がトップを務めない理由の一つ。男の人にお願いとけば自分も楽だし、女のくせにとたたかれることもない。 が、最近の公民館活動などは性で役員を決めていない様に思います。
女性	60歳代	選択的夫婦別姓の塩漬状態反対!!
女性	60歳代	男女共同参画についての取り組みご苦労様です。女性の一人として感謝いたします。ですが私はずっと独身で仕事をしてまいりましたが現職時代には産休、育休に入られる女性の方の心配の配慮、また休みに入られてからはその方の仕事の負担を求められてきました。加えて何かトラブルが起きた時には”結婚してない”こと、”子どもがいない”こと、にその理由を決めつけられるということが度々ありました。介護も経験しましたが、今の時代”嫁”に皆、気を使い何一つ手伝ってもらうことはありませんでした。(兄弟間で男女関係なく行いました)今回のアンケートの内容も含め、私の周りの世界とは少し違って正直もやもやします。でもきっと、社会の中では私の知らない世界があるのでしょうね。男女に限らずどんな立場、個性の人も平等で認められていく社会を望んでいます。
女性	60歳代	教育による意識改革長い時間が必要。男女の個性・能力は平等に尊重されるべきだが男女の性別による役割分担は生物としてあるものなのでそこを混同しないよう、それも含めて尊重することの教育を子どもの頃から行っていくことが必要だと思います。将来「男女共同参画」という言葉をあえて使わなくなるような社会が実現されることを望みます。
女性	60歳代	男女の給与を同等にする。女性がもっと大人になる事。女性の自立心を高める。
女性	70歳以上	政策決定の場に女性が少ないのはよくないと思っています。女性ならではの意見が反映されないからその意味で議員など一定数を女性が占めることは大切なことと考えます。古いと一蹴されそうですが、そうはいっても男性でなければできないことがあるのもまた事実です。事実を認めつつ、男女共同参画がすすんでいくと良いなあと思います。
女性	70歳以上	このアンケートが役立つことがあるのか？

女性	70歳以上	昨今の男女平等の意識改革は目覚ましいものがあります。本当に嬉しい事だと思います。ただ男と女どちらか又はそれ以外なのか、その区別をなくしていく方向に行き過ぎることはどうなのか…男も女もその徳分を与えられて生かしながらお互いを認めて助け合い生きていけたらいいと思います。女らしい男性、男まじりの女性、いつの世にもありますが出産は女性の徳分です。
女性	70歳以上	女性も意識改革をし政治、経済等の話に対等に話せるように知識の幅を広く。主婦の会話だけで終わらせないように。
女性	70歳以上	人数で比べるのではなく、男性でも女性でも その能力のある方をお願いできれば良いのではないのでしょうか。
女性	70歳以上	若い女性が家庭での父母の根強い役割分担等を見ていて、県外へ行く(県外での生活を望む)ことを見聞かしています。友人の家庭での夫と妻の立場について、びっくりすることがあります。昭和かな?と思うこと。市長は夫婦別姓に反対とか?本当にこの企画望んでいるのでしょうか?
女性	70歳以上	よくわからない事もあり、回答が正しくない事もありますがすみません。
女性	70歳以上	最近の世の中の風潮についてゆけないのが本音です。男同士、女同士仲良く暮らすのは構わないが、それを夫婦として認めるようにデモをしたり、生まれながらの性に逆行するのは個人の勝手だが、それを世の中に認めさせよう、又は整形までして…TVなどでもドラマ化したりそれを当然のこととしている社会に疑問を抱いている。男女共にそれぞれ男脳、女脳があり、又筋肉や脂肪の付き方も違うが、ホルモン剤を打ってまで体の構造を変えようとするのは変である。特に TV 業界でそういう人を珍重して世の中に出すのは無垢の子どもたちを洗脳する一助になりはしないかと不安を感じている。結婚するのは姓を変えたくないから事実婚をし、それも国として認めるようかなり強力に要請している。事実婚はいろんな面で保護されないと知っていて選んでいるのだから強要するのは変である。又、今後男女共同参画というのも男が先に来るのは差別であるなどの訳の分からない言い分が出てくるかもしれない。男がネイルしたり化粧したりしている時代、いずれにしても男脳、女脳は変わらないのに…と思います。
女性	無回答	正直なところ、この言葉だけですとピンと来ない人がとても多いのではないかと思います。せつかくこのようなアンケートに回答した時間を無駄にしないためにも、有効に活用いただきたいと思います。
男性	30歳代	男女住み分けはあるが性差での制度や法律こそ差別かと思います。
男性	30歳代	人々の意識が抜本的に変わらない限り、実現は不可能だと思います。
男性	30歳代	歴史的に全ての決定は100%男性がし、そこに女性が参加する形で政治は進んできたことを考えると、一度女性100%で全ての決定をする社会にならないと真の平等は訪れないと思う。それは流石に無理なので、せめて管理職や政治に参加する女性の割合を半分にすることを目指すべき。女性がやりたがらないから、ではなく、なぜやりたがらないのか、その構造を変えるべきかと。
男性	30歳代	女性を登用しただけで満足してはダメだと思います。そんな自治体は成長できません。現に経歴詐称やホテル不倫なども目立っています。(女性市長)「性別」ではなく、「能力」で判断してください。たとえ男性でも優秀であればその方がいいです。
男性	40歳代	ない、佐久市がんばれ!
男性	40歳代	市政の旧態依然とした部分を変化させなければならない。市長、市議も保守的になりすぎず、変革、よりよい佐久市のために市政を運営してほしい。加えて市役所幹部も職員も変革意識を持ったうえで、次世代の佐久市のために業務に従事してほしい。それこそが…男女共同参画への第一歩となると信じています。期待しています。先進モデルを作りましょう!
男性	50歳代	前述の理由により、回答を飛ばした問が多々あります。用語や制度について、「メディア等で、概略程度は聞いたことがある」のは「知っている」なのか「聞いたことある」なのか選択に困ります。ワーク・ライフ・バランスについて、「地域」と「個人の生活」が一括りにされているのが、回答に困ります。
男性	50歳代	女性参加の目標(学識経験者の審議会委員割合など)については、対象となる女性が少ない実情も鑑みて適切な対応をすべきではないかと思慮します

男性	50歳代	共同参画について考えることは大いに良いと考えますが、市内に「共同参画」する、あるいはして欲しい「個」がいなくなるとは考えたことが無駄になってしまいます。まずは一旦故郷を離れた若者が「戻ってきたい」と思う、もっというとここで「結婚し出産したい」と思う環境(イメージ)を作る事が必要と考えます。問 21-1 で回答させて頂きましたが、共同参画の一丁目一番地は夫婦がともに「ここで子どもを産み育てよう」と思う気持ちを持たせることと私は考えます。
男性	50歳代	あまり意味がないような気がする。
男性	50歳代	男女は、身体的な差があり、考え方も様々。積極的な人は行動し、無理してまで、男女平等でなくても良い。
男性	50歳代	なかなか共同参画について情報や内容が入ってくる機会がないのもっと広報するとアンケートにしっかり答えられるかもしれない。
男性	50歳代	昔からの風習とはいえ、女性軽視に至るのは現代だと考えが古すぎる。初の女性総理誕生の今、女性に対する考えが良い方向に向かう事祈ってます。アメリカにおける黒人差別の根深いものとは違い運動や働き掛けを促進していけば男女平等の社会に近づいていけるのではと思っています。
男性	50歳代	男女共同参画は求められるべきことであると思う。しかし、問 7 のように数字を追う「数合わせ」が先行するのであれば疑問を感じる。管理職や団体職員などの登用はあくまでもその人の能力を重視すべきで、女性を積極的、優先的に考えることは違うのではないかと思う。男女に関わらず適した人選をしていけば、良いだけのことではないか。また問 22 の⑧のようなことはチャレンジしようとしている男性については無視するのかと思ってしまう。長く続いてきた男性優位からの脱却を図ろうとしているのだから強引な部分はいたし方ないと思うが、性急さを求めるより時間をかけてもよいからしっかりと男女共同参画の考え方を根付かせてほしい。
男性	50歳代	行っていることの内容やその実績も含めて市民にアピールをもっとされては？
男性	50歳代	男尊女卑がはびこり蔓延している現実。昔も今もあいかわらず。差別が根深く存在しています。
男性	60歳代	何でも人任せにするのではなく、身近なところから各自が、性別関係なく能力評価で取り組む事が大事だと思う。
男性	60歳代	特になし
男性	60歳代	この様なアンケートは大事だと思いますが、項目が多すぎて回答に時間がかかります。
男性	60歳代	家庭での男女参画社会は進んでいると思う。職場では遅れが目立つ、仕事の内容では女性の参画が厳しい部分も多い。共同参画社会には子育て・育児の環境が「共同」に向くことが重要。
男性	60歳代	佐久地域は昔ながらの集落が多く、高齢者も多い。考え方がどうしても男性優位になっていると感じる。いろいろな役の選出の場面でもこれは男性、これは女性がやってくださいなどとすでに決められていることが多い。一度決まった事はなかなか変更することが難しく良い慣習ではないと思っている人も意見が言えないでいる状況。新しい商業施設の周囲に人が増え活性化されているが、古い集落には新しい住人が来ることは少なく活性化されない。→学校、保育園など子育てするのに必要な環境が整っていない。市の方で空き家の活用など力を入れてくだされば古くからの地区にも人の流入があり住みやすくなるのでは。せっかく子育て世代の方が来てくださっても住環境が悪ければ引っ越しせざるをえない。→限界集落から消滅の危機に。※設問から外れるとは思いますが一つの意見としてみていただけると幸いです。
男性	60歳代	子育て条例があるにもかかわらず市長をはじめとした市役所職員の意識の低さが障害となっていないでしょうか。子どもの人権が守られるようになる事も女性に過度な負担を負わすことのない健全な社会への第一歩となるのではないのでしょうか。子育てへの男性の参画を促す事も女性活躍社会への大きな要素であるという意識が大きく欠如しているように思えてなりません。
男性	60歳代	男女共同参画の男性向けの講演が必要だと思います。
男性	70歳以上	法律を制定し男女共同参画を前に進める
男性	70歳以上	特になし
男性	70歳以上	少し方向が違ってきているという意見もあるようです。

男性	70歳以上	男女問わず意識の改革
男性	70歳以上	個々人の自由な発想、柔軟な参画対応そして人権能力を尊重できる、現実に合致した”共同参画社会”の実現を望みます。
男性	70歳以上	佐久市として方針、目標、施策等の進歩状況等々を含め広報等に分かりやすく市民に身近に感じて考え参加できればと思う。
男性	70歳以上	1、男女共同参画の推進はそう簡単ではなく、急には変革できないと考えている。課題となる多面的な要素(年齢、性差、しきたり、職場環境、慣習 etc)が極めて多い。 2、職場、学校、地域などの社会のあらゆる分野の各人に理解、納得、実行を求めていかなければならない。 3、短期的にはある程度の強制力も必要か。長期的には地道な教育、啓蒙活動が重要と考える。
答えたくない、その他	40歳代	わかりません
無回答	無回答	今回の設問が多すぎる。それに答えを並べるなら聞く必要がないはず。男、女を別けてものを問うことがおかしい。今は全て分断の社会、子どもは地域から小学生からすべて別の問として生じている。今高市早苗が日本を代表する程の人間がすでに結果はでている。私は女が根性の悪い人間が多すぎると思う。社会が良くならない発展しない大きな原因。子どもが母親につくのが当たり前、そこに男がまるで同じように係る社会はおかしいし、生命を知らないやり方、生命の減少は止められない。

## その他記述回答

問3-1 問3で「①賛成」または「②どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。そう思う理由はなんですか

女性	18歳～20歳代	男と女の遺伝子や脳の仕組みなどに、古代からそもそも組み込まれていると感じるから。
女性	30歳代	適材適所の役割だと思うから
女性	40歳代	現状、差が発生している事を職場でもよく感じている為
女性	70歳以上	女性の社会進出は賛成です。ただそのリスクとして女性の不倫も増えてきている気がします。いつも犠牲になるのは子ども達です。
男性	18歳～20歳代	男女の体格や性質には生物学的な差があるから
無回答	40歳代	その家庭で全員が納得している形ならなんでもよい、人が口を出すことではない。
無回答	無回答	産んだ母親に近づくのは生命自然

問3-2 問3で「③どちらかといえば反対」または「④反対」と答えた方におたずねします。そう思う理由はなんですか

女性	18歳～20歳代	家庭での役割は性別によって決められるものではなく、それぞれの家庭で個々人間で決められるものであるため、性別による固定的な考え方には反対である。
女性	18歳～20歳代	多様性を大切にし、男性が家庭、女性が仕事などそれぞれ夫婦の自由であるから。
女性	18歳～20歳代	働きたい人が働けばいい 仕事にやりがいがある人は男性でも女性でもいる
女性	30歳代	自分の能力にあった生活、働き方があると思う。
女性	30歳代	女性のほうがやるが多すぎる
女性	40歳代	夫婦二人で働いても、結局家事が女性の方が多い
女性	50歳代	家庭において男がムダにいばるから
女性	60歳代	各々の自由だから。
女性	60歳代	働いてきてから家事、育児、介護などはつらい。女性の仕事のほうが多くなってしまう。
女性	70歳以上	出来る人がやる。
男性	18歳～20歳代	人それぞれの形があるから
男性	30歳代	性別で分担するのではなく、向き不向きや仕事量で分担するのがいいと思う
男性	30歳代	生物学的な差で得手不得手あるから
男性	30歳代	全ての人が社会進出や活躍の場を望んでいるわけではないため、一概に役割を押し付けるべきではない。
男性	30歳代	家事や育児は夫婦で行うものに対し、働くということは個人で行うことなので、③や④の選択肢はそもそも性別役割を固定している考え方でないと出てこないと思うから。
男性	40歳代	共働きでないと生活できない
男性	40歳代	時代に即した在り方が良いと感じる
男性	40歳代	個人の持つ能力で判断すべきだから
男性	60歳代	女性だけに子育ての負担が偏っているのは不健全
男性	70歳以上	お互いに得意なことをすればよい
男性	70歳以上	男は男の、女は女の得意分野や能力を社会に生かす方向へ

問5-2 問5で「②地域活動に参加していない」「③地域活動に参加したいが、できない」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。

女性	18歳～20歳代	転勤族で、地縁がないから
女性	18歳～20歳代	どんなものがあるか知らないから
女性	18歳～20歳代	県外に住んでいるから
女性	40歳代	親が主に参加しているのでまだ参加していない
女性	40歳代	する機会がない 仕切ってるひとがいるから
女性	40歳代	自治会は男性が出席するような風潮がある。一度夫の代わりに出席したら奇異の目で見られた
女性	50歳代	身体的な問題で自信がないから
女性	50歳代	どう行動を起こしていいかわからない。

女性	60歳代	この地区で家を見て、ママさんバレーのお誘いを断ってから、地域の人からは避けられて必要とはされていないので。
女性	60歳代	佐久市にどんな団体があるかわからない
女性	60歳代	3月に佐久市へ移転したので
女性	60歳代	体を壊しているので参加できない
女性	70歳以上	ブルーマリンで充分なので
女性	70歳以上	体の不調のため
女性	70歳以上	長年両親の介護により自分の体を壊してしまったため
女性	70歳以上	体力的に無理
女性	70歳以上	病気があるため
女性	70歳以上	体力的に無理がある
女性	70歳以上	身体が不自由
女性	70歳以上	病気治療中につき出来ない
男性	18歳～20歳代	引っ越したばかりだから
男性	30歳代	参加する必要性を感じないから。そもそも強制的に参加させようとする姿勢が疑問
男性	40歳代	地域活動の把握が出来ていないから
男性	50歳代	体の具合が悪く参加しても思うように働けない
男性	50歳代	回覧もこない、区から連絡もない
男性	60歳代	体調不良の為
男性	60歳代	ボランティア活動に有用と思われる資格取得中
男性	60歳代	勤務形態が違う
男性	70歳以上	年齢的に無理があるから
男性	70歳以上	車いす生活だから
男性	70歳以上	病気、体力の低下
男性	70歳以上	活動が半強制的になり自由度がなくなる由
無回答	無回答	病気である

問6 女性の社会参画は進みつつありますが、自治会(区や公民館)の長、PTA会長などには、まだ、女性が少ないが現状です。このような方針決定の過程に女性の参画が少ないのは、なぜだと思いますか。

女性	40歳代	負担が大きいと感じる
女性	40歳代	やらなくてもいいと思う
女性	40歳代	男性の方がリーダーシップがあると思う
女性	50歳代	日本文化しきたりに縛られているから。それに義務教育(学校教育)で男尊女卑の風習がうえつけられているから。
女性	50歳代	会議、役員会等に出るために子どもの世話、家事を行ってくれる人が(男性)が少ないから
女性	60歳代	個人の力量の問題もあるから
女性	60歳代	わからない
女性	70歳以上	家庭での役割、仕事が多く社会参画ができない。
男性	18歳～20歳代	そもそもとしてやりたくない
男性	30歳代	能力がないから
男性	30歳代	男性たちからすれば大変な仕事、役職を女性に任すことに気が引けてしまう人もいます。気遣いから生まれるものもあると思ってください。
男性	30歳代	そもそもやりたがらないのが現状
男性	30歳代	そういう場に女性が少ないから

男性	40歳代	<p>意識の問題や性別は一旦置いておきまして、「現実」として家事を担当している人間が地域の役員になるのは他の家族の負担増大を招き不和の元となり得ます。これは老若男女を問いません。</p> <p>家庭内で助け合っているのが現状、働き盛りの父親が消防団に駆り出され収入減少となった場合、地域社会がどれだけ感謝してくれたとしても家庭内での父親としては？台風などで地域に避難指示があった際も消防団員は自分の家庭より地域の安全を優先するよう同調圧力を強いられます。</p> <p>というか実際に当家のエピソードとしては、私の父親が区長で区の災害本部として働き詰めになり、私自身は消防団幹部として東奔西走、幼い赤子を抱いた母親が寄る辺もなく涙ながらに電話をかけてきました。</p> <p>これが地域活動ですか？</p> <p>私には父親として自分の子どもを守る義務があります。しかし同時に地域社会での一定の役割を担う立場となった場合、それらへの義務感・使命感から自分の子どもを守れないこともあり得るのが事実です。</p> <p>事実として我が母は誰にも頼れない恐怖と闘いながら赤子を抱いて一晩を寝ずに過ごしました。</p> <p>これでも地域活動しないといけませんか？消防団なんか不要です。自分の家族を守れなかったら提訴します。地域貢献など、やりがい搾取の典型に他ならない。義務感や使命感を盾に個人の家庭に負担を強いるなど愚の骨頂！</p>
男性	50歳代	男性優越主義が蔓延っているから
男性	50歳代	必要な団体、組織とは限らないから
男性	50歳代	女性を夜遅くまで時間を束縛するのは防犯に悪い。
男性	50歳代	PTA は今時合わない、廃止
答えたくない、その他	50歳代	多くの女性は参画を望んでいないのでは

問 11 現在、男女共に育児休業を取得できる制度がありますが、あなたは、どのように思いますか。

女性	30歳代	男性が取得してもけっきょく女性が準備したりしていたら意味がないからそれなら仕事をしてほしい。男性の意識改革が先にしたほうがいい。
女性	40歳代	男性が育休を取得しても家事育児をしなければ妻の負担がかえって増えるだけなので大切なのは「取得すること」ではなくその後の意識や協力が大切。
女性	40歳代	人による思う
女性	50歳代	サポート体制が少ないので男性のうつ病が多くなっている
女性	50歳代	男性取得して本当に育児しているのかな？できるなら大賛成
女性	60歳代	男性が育児休業しても女性の育児は大変なようなので。
女性	70歳以上	男女共に育児をしてほしいが、夫婦で話し合うことだと思う
女性	70歳以上	男性は続けて毎日でなく、必要な時に手伝ってほしいので有給のように何日までは取って良い事にしてほしい。
男性	30歳代	好きにすればいい
男性	30歳代	男女で考えるのではなく、必要な人が取得できるといいと思う。
男性	40歳代	希望するなら抵抗なく取得できるのが望ましい
男性	50歳代	男女と言うより、家庭での考え方や金銭含む職場環境、職場の責任等にも踏まえお互いが考えれば良いと思う。
男性	50歳代	「男女共に育児休業を取得できる」で、構わない。それが「当然だ」は、言い過ぎ。
男性	60歳代	個別の家の考え方がある。相互に協力し合えるなら夫婦あるいは祖父母など役割を分担して行えばいいと思う。
男性	70歳以上	ケースバイケース

問 12 今後、女性と男性がともに仕事、家庭、子育て、介護、地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。

女性	40歳代	どのような場合でも、実際的には会社や社会で変わっても、それぞれは変わらないと思う。会社で家庭への取り組みをした人を評価しても、全社員がやる訳でもなく、全会社がそんな取り組みをするのは難しいから。
女性	40歳代	男性に家事育児を学んでもらう場をつくる
女性	50歳代	ベビーシッター、家政婦、保育士を国家資格にし人財育成が先。今の日本ではまだ早い。
男性	18歳～20歳代	そもそも、男女がどうかってより人間性の問題なのでどの場面でも男女関係なく人間性で選ぶべきだと思う、仕事も生活も。
男性	40歳代	女性が積極的になるようにする
男性	50歳代	大幅な減税を行い、支出が減ることによって、収入活動にゆとりが出来、時間が増える。
男性	50歳代	「今後、女性と男性がともに仕事、家庭、子育て、介護、地域活動等に積極的に参加していく」ということは、「現状、佐久市はそうではない」という前提でしょうか。そもそも現状がその前提の状態なのかが、わかりません。

問 16 性犯罪、DV、セクシュアル・ハラスメントなどの対策として、どのようなことをしていって良いと思いますか。

女性	18歳～20歳代	周りの人が気づいてあげる観察眼を鍛える
女性	30歳代	相談するにもそこが特別じゃなくて公園にいくくらいの気楽さがあるといいのかも。被害者の人がコソコソしないといけないのは変だと思う。
女性	50歳代	育った環境にもよると思う。加害者がどのように育ったかがわからないと対策が難しい。
女性	50歳代	職場や学校などでどのようなものがセクハラなどにあたるのかなど、研修を行う、そのような言動を慎んでもらう意識づけ。
女性	70歳以上	すべての要因は家庭から始まると思うので起こったことに対応していく間はイタチゴッコだと思う。皆が助け合い明るい家庭を作れるよう行政の細かい支援が必要では…(経済面でも)
男性	18歳～20歳代	資格とかより経験があり理解のある人が被害者の人に合わせてカウンセリングできる場が必要
男性	30歳代	自分でどうにかすればいい
男性	30歳代	加害者に対する厳罰化
男性	40歳代	加害者・被害者が自ら名乗り出る、自発的に行政を頼るということは稀かと思えます。むしろ多くの人が行政の窓口について知識が無いと思えます。
男性	40歳代	対策だけでなく予防策が必要
男性	40歳代	厳罰化の推進
男性	40歳代	積極的な警察の介入
男性	50歳代	加害者を作らない社会づくり、または未然に防ぐ強化づくり
男性	50歳代	児相職員の増員
男性	70歳以上	名前の公表

問 18 女性が困難な問題を抱える背景や原因として、どのようなことが考えられると思いますか？

女性	18歳～20歳代	自分で自分の人生を潜在意識的に選んでいると思うから
女性	40歳代	わからない
女性	50歳代	人材育成できる人がいない(日本国全体に)
女性	50歳代	どこに助けを求めたらよいかも分からない。
男性	18歳～20歳代	特になし
男性	30歳代	全てが考えられる①～⑦
男性	30歳代	能力不足
男性	30歳代	男性も困難あるし女性だからと特別扱いする必要ない
男性	40歳代	意識の問題ではなく、本能としてお腹の中に胎動を感じながら育児用品揃えたりしていたら、男なんか蚊帳の外で女の方が育児の主役になるのは必然かつ真理でしょ。

男性	50歳代	選択的夫婦別姓について法制化が未だされていない事。現状婚姻時「どちらかの性を名のる」となっているが殆どの場合が夫側の氏である。
男性	50歳代	子の養育の負担
男性	50歳代	男尊女卑
男性	60歳代	子ども条例に対する市役所職員の認知度合いの低さが女性への無用な負担増を招いている
答えたくない、その他	50歳代	社会構造がよくないから女性が経済的に自立しにくいのか？

問 19 もしあなたが、あるいはあなたの周りの女性が、困難な問題を抱えた時に、どこに相談しようと思いますか？

女性	18歳～20歳代	SNS
女性	50歳代	人に相談したところで解決しない
女性	50歳代	職場の人事課
女性	60歳代	問題の中身にもよりますが、人に話すのはみっともないとか、どうせ何も解決しないとか、考えると思います。
女性	60歳代	抱えた問題により異なります。
女性	70歳以上	世間の判断ばかりでは解決しないこともあるので信仰的な考え(お寺等含む)も必要だと考えます。
女性	70歳以上	本当に追い詰められたら内にこもってしまい何も言えなくなると思う
男性	30歳代	困難な問題がどんなことかによるが、内容によってはどこに相談をしてもいいのかわからないので、相談先のリストがあったり、検索できるサイトの存在、またそういうものがある事を周知していく事が必要かと思っています。
男性	30歳代	ai その後適した場所
男性	40歳代	労基署

問 20 佐久市が、困難な問題を抱える女性への支援に関して、特に力を入れるべきだと思うことは何ですか？

女性	40歳代	養育費の保障制度の利用
男性	30歳代	何もしなくていい
男性	30歳代	必要ない
男性	40歳代	育児
男性	50歳代	担当者の増員

問 21-1 問 21 で「③ あまり実現できていない」「④ ほとんど実現できていない」と回答した方におたずねします。男女共同参画社会が実現できていない要因として、どのようなことが考えられますか。

女性	60歳代	孫の面倒、田、畑、パート忙しくて手が回らない
女性	60歳代	相談窓口に伝えても「これはここでは…」とながされてしまう為
男性	30歳代	そもそも政策を指導している側の人間が既に差別意識を持っている。
男性	30歳代	男女間の意識の問題も大きいと思う
男性	50歳代	共同参画社会に「子育て」を共同参画するという考え方を加味するならば、結婚→出産→育児・労働を夫婦2人で考え、まずは安心して出産できる環境を整える事が必要と考えます。
男性	60歳代	結婚による退社
答えたくない、その他	30歳代	女性だけでなく逆もまたしかり。

問 22 男女共同参画社会づくりを進めるために、佐久市は、どのような施策に力を入れていくべきだと思いますか。

女性	18歳～20歳代	男女と謳うほどに意識すると、そういった事実は起きると思う
女性	50歳代	必要？

女性	50歳代	男性だから、女性だからという考え方をあえて強要するのではなく、適任者、適正者という見方になってほしいです。責任者の中に女性がいないからあえて女性を入れるのではなく適任者が誰なのかです。
男性	30歳代	法的に決める必要ない
男性	30歳代	力をいれなくていい
男性	40歳代	女性の活躍フィールドを広げるための施策
男性	50歳代	職員の意識改革。 そもそも今までの間で「女性の委員等を増やす」「困難な問題を抱える女性への支援について」等といった、「女性が弱者・被害者」といった決めつけの傾向が感じられる。「女性だから」委員にするのではなく、「その役職に適した人材ならば男女問わず任命する」、「男女で分けて困難な問題を抱えている人を支援する」、との考え方が男女共同参画ではないでしょうか。
男性	60歳代	女性が3万円稼げる事業が市内で展開されていましたが、そういう取組自体が、女性に働く場所が用意されていない証左なのではないでしょうか？
答えたくない、その他	50歳代	チャレンジしない女性(マジョリティ)への意識改革の啓発活動が必要

### Ⅲ 調査様式

## 男女共同参画社会に関する市民意識調査のお願い

令和7年10月

佐久市長 柳田 清二

市民の皆様には、日頃から市政運営につきましてもご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

佐久市では、「佐久市男女共同参画推進条例」に基づき、男女共同参画社会の実現に向け、様々な施策を推進してきました。

本調査は、令和9年度に予定している「佐久市男女共同参画プラン」の改訂にあたり、市民の皆様の男女共同参画社会についてのお考えをお聞きするために実施するものです。

今回、市内にお住いの18歳以上の方から1,000人を無作為に選ばせていただいたところ、あなた様に調査をお願いすることになりました。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、是非ともご協力をお願いいたします。

ご記入後は、同封の返信用封筒に入れて11月30日（日）までに、切手を貼らず、郵便ポストに投函していただきますようお願いいたします。

調査は無記名で、統計的に集計を行いますので、個人が特定されることはございません。

ご安心の上、率直なお意見をお書きください。

#### <ご記入にあたってのお願い>

- 1 封筒の宛名に書かれたご本人様がお答えください。ただし、ご高齢、ご病気、障がいがあるなどの理由により、ご本人様がお答えになれない場合は、ご家族の方が代筆してお答えください。
- 2 「その他」に該当する場合は、( ) のなかに具体的な内容をご記入ください。

#### <調査についてのお問い合わせ先>

佐久市役所 人権同和課 人権教育男女共生係

電話 : 0267-62-3135 (直通)

## <インターネットによる回答のご案内>

ご自宅のパソコンやスマートフォンから、インターネットを使って回答することができます。

※インターネットで回答した方は、この調査票で回答する必要はありません。

### 【手順】

- スマートフォンから、右の QR コードを読み取ってください。  
(ID 入力画面、アンケート回答の入力画面に移ります)
- パソコンから回答される方は、下記の URL からご回答ください。



⇒ <https://research.ukemo.jp/index.php?Id=49>

- 下記の「あなたの ID」「パスワード」を入力してください（半角数字で入力してください）。

あなたの ID :

パスワード :

- ID とパスワードを入力後、ログインをクリックすると 1 問目が表示されます。
- 回答後「次へ」ボタンをクリックすると次の設問に進みます。回答は自動で保存されます。

### 【注意】

- インターネットで回答した方は、この用紙(紙)で回答する必要はありません。
- この ID 番号は、住民基本台帳やマイナンバーカードなどの番号とは一切関係ないものです。
- なりすまし回答を防ぐため、他の人にあなたの ID を教えないでください。
- インターネットによる回答は、1 回のみです。

恐れ入りますが、11 月 30 日 (日) までにご回答をお願いいたします。

# 「男女共同参画社会に関する市民意識調査」調査票

(回答方法に指定のない設問は、該当する番号を□内に記入してください)

(はじめに、あなた様自身について、お伺いします)

F 1 あなたの性別 ① 女性 ② 男性 ③ 答えたくない、その他

F 2 あなたの年代 ① 18歳～20歳代 ④ 50歳代  
② 30歳代 ⑤ 60歳代  
③ 40歳代 ⑥ 70歳以上

F 3 あなたの職業 ① 自営業(農業・林業・漁業)  
② 自営業(商業・工業・建設業・サービス業・自由業)  
③ 正規雇用者(正社員)  
④ 非正規雇用者(契約社員・派遣社員・パート・アルバイト)  
⑤ 家事専業  
⑥ 学生  
⑦ 無職  
⑧ その他(具体的に )

F 4 配偶者(パートナー)の職業

① 自営業(農業・林業・漁業)  
② 自営業(商業・工業・建設業・サービス業・自由業)  
③ 正規雇用者(正社員)  
④ 非正規雇用者(契約社員・派遣社員・パート・アルバイト)  
⑤ 家事専業  
⑥ 学生  
⑦ 無職  
⑧ その他(具体的に )  
⑨ 配偶者(パートナー)はいない

F 5 あなたの家族構成 ① 単身世帯(含単身赴任)  
② 一世代世帯(夫婦のみ)  
③ 二世帯世帯(親と子)  
④ 三世帯世帯(親と子と孫)  
⑤ その他( )

## 用語や制度などについて

問1 次にあげる男女共同参画に関することがらや言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～Iそれぞれについて、お答えください。

A 佐久市では「佐久市男女共同参画推進条例」を制定し施行していることをご存知ですか。

- ① 知っている    ② 聞いたことがある    ③ 知らない

B 男女共同参画社会（\*1）

- ① 知っている    ② 聞いたことがある    ③ 知らない

C ジェンダー（\*2）（社会的、文化的に形成された性差）

- ① 知っている    ② 聞いたことがある    ③ 知らない

D ワーク・ライフ・バランス（\*3）（仕事と生活の調和）

- ① 知っている    ② 聞いたことがある    ③ 知らない

E 女性活躍推進法（\*4）

- ① 知っている    ② 聞いたことがある    ③ 知らない

F DV（配偶者（パートナー）への暴力）（\*5）

- ① 知っている    ② 聞いたことがある    ③ 知らない

G ポジティブ・アクション（積極的改善措置）（\*6）

- ① 知っている    ② 聞いたことがある    ③ 知らない

H ダイバーシティ（多様性）（\*7）

- ① 知っている    ② 聞いたことがある    ③ 知らない

I アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）（\*8）

- ① 知っている    ② 聞いたことがある    ③ 知らない

#### (\*1) 男女共同参画社会

男女の人権が共に尊重され、責任も分かち合い、それぞれの個性と能力を十分に発揮することができる社会をいいます。

#### (\*2) ジェンダー（社会的、文化的に形成された性差）

人間には生まれつきの生物学的性差がありますが、一方で社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」「女性像」があり、このような男性、女性の差を、「社会的性差」＝ジェンダーといいます。

#### (\*3) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

仕事、家庭生活、地域活動、個人の自己啓発など、様々な活動を自分の希望するバランスで実現できる状態です。

#### (\*4) 女性活躍推進法

「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」平成 27 年制定。

女性の個性と能力が十分に発揮され、女性の職業生活における活躍を推進し、豊かで活力ある社会の実現を図ることを目指している法律です。

#### (\*5) DV（ドメスティック・バイオレンス）（配偶者（パートナー）への暴力）

配偶者や恋人など、親密な関係にある相手に対し、身体的または精神的な暴力をふるい、相手を支配（コントロール）しようとする行為です。これは重大な人権侵害であり、犯罪です。

#### (\*6) ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

男女が、社会の対等な構成員として、自身の意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会に係る男女間の格差を改善するため必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいいます。たとえば、審議会について、女性委員の登用を計画的に進めていくことなどもその一つです。

#### (\*7) ダイバーシティ（多様性）

性別や国籍、年齢などに関わりなく、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことをダイバーシティ社会といいます。

#### (\*8) アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）

誰の心にもある、知らず知らずのうちに持っている思い込みのことで、「無意識の偏見」という意味の言葉です。男女格差が解消しない原因の一つに、「無意識の偏見」がもたらす影響があります。

## 世の中の男女平等感について

問2 男女は平等になっていると思いますか。次のA～Gそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

		優遇されている 男性の方が	どちらかといえば 優遇されている 男性の方が	男女平等である	どちらかといえば 優遇されている 女性の方が	優遇されている 女性の方が	わからない
A	家庭生活	①	②	③	④	⑤	⑥
B	学校教育の場	①	②	③	④	⑤	⑥
C	職場	①	②	③	④	⑤	⑥
D	地域活動の場（自治会やNPOなど）	①	②	③	④	⑤	⑥
E	政治の場、法律や制度の上	①	②	③	④	⑤	⑥
F	社会通念・慣習・しきたり	①	②	③	④	⑤	⑥
G	社会全体として	①	②	③	④	⑤	⑥

## 性別役割分担意識について

問3 「男は仕事、女は家庭」というような、性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。

- ① 賛成
- ② どちらかといえば賛成
- ③ どちらかといえば反対
- ④ 反対
- ⑤ わからない

問3-1 問3で「①賛成」または「②どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。そう思う理由はなんですか。次の中から、あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

- ① 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
- ② 自分の両親も役割分担をしていたから
- ③ 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
- ④ 妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
- ⑤ 家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから
- ⑥ その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）
- ⑦ 特に理由はない

問3-2 問3で「③どちらかといえば反対」または「④反対」と答えた方におたずねします。そう思う理由は何ですか。次の中から、あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

- ① 男女平等に反すると思うから
- ② 自分の両親も外で働いていたから
- ③ 夫婦で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
- ④ 妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから
- ⑤ 家事・育児・介護と両立しながら、夫婦が働き続けることは可能だと思うから
- ⑥ 固定的な夫婦の役割分担の意識を押しつけるべきではないから
- ⑦ その他（具体的に )
- ⑧ 特に理由はない


問4 在宅介護の場合、誰が行うのが良いと思いますか。

- ① 主に女性の家族が行う
- ② 主に男性の家族が行う
- ③ 男女の別なく家族が協力して行う
- ④ 在宅介護サービスを利用しながら、それ以外は主に女性の家族が行う
- ⑤ 在宅介護サービスを利用しながら、それ以外は主に男性の家族が行う
- ⑥ 在宅介護サービスを利用しながら、それ以外は男女の別なく家族が協力して行う
- ⑦ わからない

--

## 地域社会における活動について

問5 地域活動の参加状況についておたずねします。あなたはどれにあてはまりますか。

- ① 地域活動に参加している
- ② 地域活動に参加していない
- ③ 地域活動に参加したいが、できない

--

問5-1 あなたは次のような活動に参加したことはありますか。また、今後参加してみたいと思う活動はありますか。（それぞれあてはまるものの番号全てに○をつけてください）

	参加したことのある活動	今後参加してみたい活動
自治会や町内会、公民館などの地域組織の活動	①	①
P T Aなどの子育てや教育（育成会など）に関する活動	②	②
青年団、女性団体、老人クラブ等の活動	③	③
市民活動・ボランティア活動	④	④
労働活動（商工会）、農業関係団体に関する活動	⑤	⑤
趣味や文化教養、スポーツなどの活動	⑥	⑥
お祭り等の行事などへの参加	⑦	⑦
その他の活動（具体的に )	⑧	⑧

問5-2 問5で「②地域活動に参加していない」「③地域活動に参加したいが、できない」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。次の中から、2つまでお選びください。

- ① 地域や団体活動に参加する時間がないから
- ② 参加したいと思う活動や団体がないから
- ③ 参加するきっかけがないから
- ④ 興味がないから
- ⑤ その他（具体的に


問6 女性の社会参画は進みつつありますが、自治会（区や公民館）の長、PTA会長などには、まだ、女性が少ないのが現状です。このような方針決定の過程に女性の参画が少ないのは、なぜだと思いますか。次の中から、3つまでお選びください。

- ① 役員決定をはじめとして、男性主体の組織運営がされているから
- ② 自治会などの団体の代表者は、男性が担うことが、しきたりや慣習になっているから
- ③ 家族の支援・協力が得られないから
- ④ 家庭・地域・職場における性別役割分担意識や性差別の意識があるから
- ⑤ 女性自身が、責任ある役職（団体の長・代表など）に就くことに、消極的であるから
- ⑥ 女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから
- ⑦ その他（具体的に


## 政策・方針決定について

問7 政策・方針決定の場における女性の関与について、佐久市では、以下【参考】のような状況です。この数値について、あなたはどのように思いますか。

- ① 現在より女性が大幅に増えた方がよい
- ② 現在より女性が少し増えた方がよい
- ③ 現状でよい
- ④ 現状より少なくてよい
- ⑤ わからない

--

**【参考】**

佐 久 市	総 数	うち女性委員数	女性の割合
審議会等の委員	630 人	248 人	39.4%
議会議員	26 人	5 人	19.2%
小・中 PTA会長	21 人	7 人	33.3%
自治会長（区長）数	238 人	4 人	1.7%
管理職に占める女性の割合（市職員）	97 人	13 人	13.4%

（内閣府：令和6年度地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況調査より）

問8 政策・方針決定の場に、女性が増えることで何を期待しますか。あてはまるものを全てお答えください。（該当する番号の左側に○をお付けください）

- |                          |                              |
|--------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | ① 政治が身近になる                   |
| <input type="checkbox"/> | ② 男性中心の考え方に変化が生じる            |
| <input type="checkbox"/> | ③ 男女平等や男女共同参画社会に向けての施策が推進される |
| <input type="checkbox"/> | ④ 女性が持つ意見や発想が活かされる           |
| <input type="checkbox"/> | ⑤ 経済活動を含め社会全体の活力が増す          |
| <input type="checkbox"/> | ⑥ 国際社会での日本の地位向上につながる         |
| <input type="checkbox"/> | ⑦ 何も期待しない                    |
| <input type="checkbox"/> | ⑧ わからない                      |

### 防災・災害復興について

問9 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取り組みが必要であると思いますか。次のA～Hそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

		必要である	どちらかといえば必要である	どちらかといえば必要ない	必要ない	どちらともいえない
A	防災会議や対策本部の女性委員を増やしたり、防災計画や復興計画策定に女性が参画すること	①	②	③	④	⑤
B	消防団員、消防署員、警察官や県・市町村の防災担当職員に女性を増員すること	①	②	③	④	⑤
C	災害時の救援医療体制づくり（診察・治療体制、妊産婦への支援体制など）	①	②	③	④	⑤
D	避難所の設備に関すること（男女別トイレ・更衣室・物干し場・防犯対策など）	①	②	③	④	⑤
E	避難所運営責任者に男女がともに配置されること	①	②	③	④	⑤
F	必要な備蓄品や支給に関する配慮（生理ナプキンの配布等）	①	②	③	④	⑤
G	被災者向けの相談体制の充実（女性相談・男性相談）	①	②	③	④	⑤
H	仮設住宅設置や生活再建支援における配慮（設計への意見反映や乳幼児の一時預かりなど）	①	②	③	④	⑤

## ワーク・ライフ・バランスについて

問 10 「仕事（学業）」「家庭生活」「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の優先度についておたずねします。

問 10-1 まず、あなたの理想（希望）に最も近いものをこの中から一つだけお答えください。

- ① 「仕事（学業）」優先
- ② 「家庭生活」優先
- ③ 「地域・個人の生活」優先
- ④ 「仕事（学業）」と「家庭生活」をともに優先
- ⑤ 「仕事（学業）」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ⑥ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ⑦ 「仕事（学業）」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先

問 10-2 次に、あなたの現実（現状）に最も近いものをこの中から一つだけお答えください。

- ① 「仕事（学業）」優先
- ② 「家庭生活」優先
- ③ 「地域・個人の生活」優先
- ④ 「仕事（学業）」と「家庭生活」をともに優先
- ⑤ 「仕事（学業）」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ⑥ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ⑦ 「仕事（学業）」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先

問 11 現在、男女共に育児休業を取得できる制度がありますが、あなたは、どのように思いますか。あなたのお考えに最も近いものを一つだけお答えください。

- ① 男女共に取得するのは当然だ
- ② 男性は取得するべきではない
- ③ 男性が取得するのは難しい
- ④ 子育ては女性の方が適しているので、女性が取得した方が好ましい
- ⑤ その他（具体的に )
- ⑥ わからない

問 12 今後、女性と男性がともに仕事、家庭、子育て、介護、地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思えますか。次の中から、3つまでお選びください。

- ① 男性の抵抗感をなくす
- ② 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
- ③ 年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについて、当事者の考え方を尊重する
- ④ 社会の中で男性が家事・育児などに参画することへの評価を高める
- ⑤ 職場における上司や周囲の理解を深める
- ⑥ 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにする
- ⑦ 啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行う
- ⑧ 男性が家事・育児などを行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめる
- ⑨ その他（具体的に )
- ⑩ 特に必要なことはない

## ハラスメント・様々な暴力への対策について

問 13 あなたは、地域や職場などで、ハラスメントを受けた又はしたことがありますか。もしくは、そのようなことをされた人、した人をご存知ですか。あてはまるものをすべてお答えください。（該当する番号の左側に○をお付けください）

- |                          |                                     |
|--------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | ① ハラスメントを受けた経験がある（被害者）              |
| <input type="checkbox"/> | ② ハラスメントを行った経験がある（加害者）              |
| <input type="checkbox"/> | ③ もしかすると、ハラスメントを行ったことがあるかもしれない（加害者） |
| <input type="checkbox"/> | ④ ハラスメントを受けた人を知っている（被害者を知っている）      |
| <input type="checkbox"/> | ⑤ ハラスメントを行った人を知っている（加害者を知っている）      |
| <input type="checkbox"/> | ⑥ いずれも無い                            |

### 【ハラスメント】

いろいろな場面での『嫌がらせ、いじめ』をいう。その種類は様々ですが、他者に対する発言・行動等が本人の意図には関係なく相手を不快にさせたり、尊厳を傷つけたり、不利益を与えたり、脅威を与えることをさします。

ハラスメントは様々な種類があり、主なものとして以下が挙げられます。

#### ○モラルハラスメント

言葉や態度などによって人の心を傷つける、精神的な暴力や嫌がらせのこと。

#### ○パワーハラスメント

同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与えたり、職場環境を悪化させたりする行為のこと。

#### ○セクシュアルハラスメント

相手の意に反して性的な経験や好みについて尋ねたり、体に不必要に触れたり、性別役割を押しついたりするなど、相手を不快にさせる性的な言動や行動。

#### ○マタニティーハラスメント

働く女性が妊娠・出産に関連し職場において受ける精神的・肉体的な嫌がらせのこと。

問 14 あなたは、身体的、精神的、性的、経済的な暴力（DV）を受けた又はしたことがありますか。もしくはあなたの身近な人で、そのようなことをされた人、した人、をご存知ですか。あてはまるものをすべてお答えください。（該当する番号の左側に○をお付けください）

- |                          |                                 |
|--------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | ① DVを受けた経験がある（被害者）              |
| <input type="checkbox"/> | ② DVを行った経験がある（加害者）              |
| <input type="checkbox"/> | ③ もしかすると、DVを行ったことがあるかもしれない（加害者） |
| <input type="checkbox"/> | ④ DVを受けた人を知っている（被害者を知っている）      |
| <input type="checkbox"/> | ⑤ DVを行った人を知っている（加害者を知っている）      |
| <input type="checkbox"/> | ⑥ いずれも無い                        |

問 15 あなたは、DV被害にあったとき、市に相談窓口があることをご存知ですか。

- ① 知っている  
② 知らなかった

### 【佐久市の相談窓口】

福祉課 地域福祉係 電話：0267-62-2111（内線 205）

【その他の相談窓口】

- 長野県の相談窓口（女性相談支援センター、男女共同参画センターなど）
- 長野県児童虐待・DV24 時間ホットライン
- 最寄りの警察署（警察安全相談窓口）
- 法務局（女性の人権ホットライン）
- 県警性犯罪被害ダイヤルサポート 110
- 長野犯罪被害者支援センター

など

問 16 性犯罪、DV、セクシュアル・ハラスメントなどの対策として、どのようなことをしていってら良いと思いますか。次の中から、3つまでお選びください。

- ① 被害者が安心して相談できる窓口の設置
- ② 被害者が一時的に避難できる場所（シェルター）の整備
- ③ 被害者の相談に当たる担当者の研修や、相談員の増員
- ④ 学校や家庭における男女平等や性についての教育の充実
- ⑤ 人権の尊重について、職場や学校、行政機関での啓発活動の充実
- ⑥ 被害者の支援をする市民団体と関係機関などの連携強化
- ⑦ 加害者に対するカウンセリングや教育等の実施
- ⑧ 性の商品化や暴力表現等過激な内容についてのメディアにおける倫理規定の強化
- ⑨ 過激な内容のDVD販売や、動画配信等の制限
- ⑩ その他（具体的に \_\_\_\_\_ )
- ⑪ 特に対策の必要はない


## 困難な問題を抱える女性への支援について

「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」令和6年施行

目的：女性が日常生活または社会生活を営むにあたり、女性であることにより様々な困難な問題に直面することが多いことから、困難な問題を抱える女性の福祉の増進を図るため、困難な問題を抱える女性への支援のための施策を推進する。

→人権が尊重され、女性が安心して、かつ、自立して暮らせる社会の実現に寄与する。

\*「困難な問題を抱える女性」とは、性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性その他の様々な事情により日常生活又は社会生活を円滑に営む上で困難な問題を抱える女性（そのおそれのある女性を含む）をいいます。女性が抱える困難な問題は多岐にわたりますが、以下のようなものが挙げられます。

- ・ 性的な被害に関すること（性暴力・性犯罪被害、性的虐待など）
- ・ 家庭の状況に関すること（配偶者や親族からの暴力）
- ・ 経済的困窮に関すること（生活困窮、雇用不安定など）
- ・ 地域社会との関係性に関すること（孤独・孤立など）
- ・ 心身の健康に関すること（精神疾患、疾病など）
- ・ その他

「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」について、佐久市のホームページに掲載しています。詳しくはこちらをご覧ください。



問 17-1 あなたの身近に、困難な問題を抱えている（と思われる）女性はいますか？

- ① はい
- ② いいえ
- ③ 分からない

問 17-2 問 17-1 で①「はい」と答えた方におたずねします。どのようなことに困難を感じていると思いますか？どのようなことにお困りか、自由にご記入ください。

問 18 女性が困難な問題を抱える背景や原因として、どのようなことが考えられると思いますか？

次の中から、3つまでお選びください。

- ① 性別による固定的な役割分担意識が根強く残っている
- ② 社会的な啓発が不足している
- ③ 育児や介護など、家庭的な責任が女性に偏っている
- ④ 政策決定の場に女性の意見が反映されにくい
- ⑤ 男女間の経済格差が大きい
- ⑥ ハラスメントや暴力など、女性に対する不当な扱いがある
- ⑦ 女性が経済的に自立しにくい社会構造
- ⑧ その他（具体的に


問 19 もしあなたが、あるいはあなたの周りの女性が、困難な問題を抱えた時に、どこに相談しようと思えますか？次の中から、3つまでお選びください。

次の中から、3つまでお選びください。

- ① 市役所の相談窓口
- ② 県の相談窓口
- ③ 警察
- ④ 病院・医療機関
- ⑤ 弁護士
- ⑥ 民間支援団体
- ⑦ 友人・知人
- ⑧ 家族
- ⑨ 誰にも相談しない
- ⑩ その他（具体的に


問 20 佐久市が、困難な問題を抱える女性への支援に関して、特に力を入れるべきだと思うことは何ですか？次の中から、3つまでお選びください。

- ① 相談窓口の充実
- ② 専門的な人材の育成
- ③ 民間団体との連携強化
- ④ 広報啓発の強化
- ⑤ 一時保護施設の充実
- ⑥ 就労支援の強化
- ⑦ 住宅支援の強化
- ⑧ 自立支援
- ⑨ トラウマインフォームドケア（※）
- ⑩ 男性の意識改革
- ⑪ その他（具体的に


※【トラウマインフォームドケア】

トラウマとその影響について理解しながら関わること。（トラウマとは、個人で対処できないほどの圧倒されるような体験によって、もたらされる心の傷をいいます。）

## 男女共同参画社会の実現について

問 21 「男女共同参画社会」とは、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を發揮することができる社会」です。

「男女共同参画社会」を実現するための基本理念を定めた「男女共同参画基本法」が平成 11 年に制定されて、今年で 26 年目になります。

あなたは、あなた自身の生活や身の回りの環境から判断して、現在、男女共同参画社会は実現できていると思いますか。この中から一つだけお答えください。

- ① かなり実現できている
- ② ある程度実現できている
- ③ あまり実現できていない
- ④ ほとんど実現できていない
- ⑤ わからない

--

問 21-1 問 21 で「③ あまり実現できていない」「④ ほとんど実現できていない」と回答した方におたずねします。男女共同参画社会が実現できていない要因として、どのようなことが考えられますか。次の中から、3つまでお選びください。

- ① 性別による固定的な役割分担意識が根強く残っている
- ② 職場や地域社会で、女性が活躍できる機会や場が少ない
- ③ 育児や介護など、家庭的な責任が女性に偏っている
- ④ 政策決定の場に女性の意見が反映されにくい
- ⑤ 男女間の経済格差が大きい
- ⑥ ハラスメントや暴力など、女性に対する不当な扱いがある
- ⑦ 女性が経済的に自立しにくい社会構造
- ⑧ その他（具体的に
- ⑨ 特にない


問 22 男女共同参画社会づくりを進めるために、佐久市は、どのような施策に力を入れていくべきだと思いますか。次の中から、3つまでお選びください。

- ① 男女共同参画社会づくりの意識を普及するための広報や啓発を充実する
- ② 男女の平等と互いの人権を尊重することの重要性について啓発・教育の機会を充実する
- ③ 女性を政策・方針決定の場へ積極的に登用する
- ④ 民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むように支援する
- ⑤ 男女共に働き方の見直しが進むよう啓発を強化する
- ⑥ 男女共に仕事と子育てや介護を両立させるための支援策を充実する
- ⑦ 男性や女性のための相談窓口を充実し、周知を徹底する
- ⑧ 様々な分野での、チャレンジする女性に対する支援を強化する
- ⑨ その他（具体的に )
- ⑩ わからない


問 23 男女共同参画について、ご意見がありましたらご自由にお書きください。

☞ アンケートは以上で終了です。誠にありがとうございました ☜

令和7年度  
佐久市男女共同参画社会に関する  
市民意識調査報告書

発行年月 令和8年3月

佐久市 市民健康部 人権同和課

〒385-8501  
長野県佐久市中込3056番地  
TEL(0267)62-3135  
FAX(0267)64-1157